

千葉県外来種（植物）の現状等に関する報告書

平成 22 年 3 月

千葉県外来種対策（植物）検討委員会

はじめに

近年、外来生物が我が国の生物多様性に大きな脅威となっており、環境省は平成 17 年 6 月に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」を施行しました。さらに、平成 19 年に閣議決定された第三次生物多様性国家戦略においても、生物多様性に及ぼす「第 3 の危機」として、「外来種などの持ち込みによる生態系の攪乱」が上げられています。

千葉県においても、アカゲザルやカミツキガメ、アライグマ、キョンといった人や生態系への影響が大きい外来生物に対して、個別に対策が実施されています。また、平成 21 年度には新たに特定外来生物ウチダザリガニやミズヒマワリの県内での新たな確認地点が発見されるなど、問題は継続的に発生している状況にあります。

このような外来生物の総合的な防除対策を講じるため、外来動物に関して、平成 16 年度から千葉県外来種対策（動物）検討委員会が開催され、平成 18 年度に「外来種（動物）の現状等に関する報告書」として外来動物リストと今後の取組の基本的方向性などについて報告がされました。

そこで、千葉県が県内の外来植物について、生育状況を把握し、防除対策に供する基礎資料とするため、平成 20 年度から 21 年度にかけて本委員会が組織され、外来植物リストやそれぞれのランク付け、防除のための基本的方針などに関して、議論を行ってきました。本報告書は、これらの成果をとりまとめたものです。

千葉県外来種対策（植物）検討委員会
会 長 宮田 昌彦

目 次

1	作成の経緯	1
2	作成の目的および外来種の定義	1
3	外来種（植物）対策の基本的方針	2
4	生物多様性保全の枠組みでの議論の必要性	4
5	外来植物の侵入経路	5
6	外来種（植物）による生態系や人への影響	6
7	外来種（植物）のランク付けの方法	8
8	千葉県外来植物 - 2009 年度版（初版） -	9
9	要検討種リスト（2009 年度版）	202
10	引用文献	203
	索引	207

1 作成の経緯

千葉県環境生活部自然保護課は平成21年度から2ヵ年をかけて、千葉県における外来植物リストおよび外来植物対策に関する基本的な考え方を取りまとめることとした。取りまとめにあたって、千葉県外来種対策（植物）検討委員会を設置して、県内における外来植物の対象範囲、生態系等への影響度、防除の緊急度および容易性、防除対策などについて検討を行った。

千葉県外来種対策（植物）検討委員会の構成 所属と役職は平成22年度現在
委員長 宮田昌彦（千葉県立中央博物館 分館海の博物館分館長）
委員 谷城勝弘（千葉県立佐原高等学校 教諭）
古木達郎（千葉県立中央博物館 植物学研究科長）
天野 誠（千葉県立中央博物館 植物学研究科上席研究員）
木村陽子（千葉県生物学会）
協力 岩瀬徹、岩槻秀明、大場達之、原田浩、吹春俊光
事務局 千葉県環境生活部自然保護課生物多様性センター

委員会開催状況

第1回	平成20年7月18日開催	第5回	平成21年6月19日開催
第2回	平成20年8月15日開催	第6回	平成22年2月19日開催
第3回	平成20年10月3日開催	第7回	平成22年3月25日開催
第4回	平成21年2月20日開催		

2 作成の目的および外来種の定義

本委員会では、県内の外来植物対策を促進させるため、外来種（植物）対策の基本的方針について検討し、「千葉県の外来植物」リストを作成した。さらに各種について、生態系または人への影響度や防除の緊急度、防除の容易性についてランク付けをおこなった。

外来種とは、「意図、非意図を問わず人為によって、過去あるいは現在の自然分布域外に導入された種、亜種、変種、品種、雑種であり、生存し、繁殖することができる種子、胞子、配偶子、むかご、その他の繁殖可能な植物の部分を含むもの」である。

「千葉県の外来植物」リストが取り扱う対象は、国内の別の地域から持ち込まれた種（国内外来種）や、在来種であっても遺伝子レベルで在来のものとは異質なものの、野外での繁殖が確認されていない未定着種を含み、導入時期としては明治時代以降とし、それ以前では史実がしっかりしているものも含める。野外であっても、圃場や庭園、植林地などにおいて、生育が管理されている個体および個体群は除外する。

3 外来種（植物）対策の基本的方針

外来種（植物）の対策は、次の防除目標を達成するために、下記の進め方に沿って、導入・逸出の防止と、すでに定着している種への対応、情報収集と防除体制の確立を行うこととする。

1) 防除の目標

外来植物の防除目標は、基本的には種レベルでの「完全除去」とするが、防除の可能性や在来種への影響などを勘案し、重要な地域を対象とした「部分除去」もしくは「群落・生態系の復元」とする。

2) 外来種（植物）対策の進め方

・本外来種（植物）リストに掲載されている外来種について、とくに評価ランクが高い種（AAAなど）について優先的に防除対策を講じること。また、千葉県が選定した「千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック植物・菌類編」掲載種の存続に重大な影響を及ぼすと判断される外来種については、種の評価ランクにかかわらず、地域的に防除対策を優先するものとする。

・具体的対策に関しては、防除主体や防除目標、そしてどのような施策に成算があるのかを検討し、それに資源を集中的に投入する。

・外来種対策は、科学的知見に基づいた早期発見・早期駆除、継続的モニタリング調査を伴う順応的管理が必要である。このため、生物多様性や人間活動への影響に関する情報が不足していることを理由に、外来種対策を遅らせるべきではない。

・外来種であっても、社会的に認知された固有の価値を持っている種や、在来種の動物の生息場所を提供する場合もあるので、防除にあたっては、総合的に判断して、対応する。

3) 導入・逸出の防止に対する対応

- ・持ち込まない

野外逸出の可能性を考慮し、むやみに新たな外来植物を県内に持ち込まないことが重要である。

- ・野外逸出を防止する

a) 公共事業（河川改修・法面緑化・ピオトープ整備・水質浄化のための外来植物導入など）における逸出防止方針策定。すでに野外逸出してしまった例として、侵入経路分類番号140および150（p.7参照）

b) 産業利用（園芸栽培など）における規制など

すでに野外逸出してしまって例として、侵入経路分類番号110および120、130（p.7参照）

- ・人の管理下にある外来種が野外逸出しない管理の仕組みを作り出す。

対象は侵入経路分類番号100（p.7参照）

栽培植物の管理ガイドライン作り

事故などでの逸出の防止策の実施

4) すでに定着している種への対応

- ・生態系または人への影響度、防除の緊急度、防除の容易性についてランク付けを行い、基本的に高ランクの種から対策を講じる。

- ・生態系や人間の活動に与える影響が大きく、保全上重要な地域から優先的に対策を講じる。

- ・速やかな状況把握のための資料収集や調査、将来予測の実施とそれによる完全排除・軽減方法の発見と方針の確立。

- ・完全排除あるいは軽減策の実施とその後のモニタリング調査の実施。

5) 情報収集と防除体制の確立

- ・外来種の状況を含む県内の自然の状況を判断するため、千葉県生物多様性センターは、生育状況などの最新情報を収集し、各関係機関や民間との双方向の情報交流を推進させ、防除主体への情報提供と、一般への情報公開を通じて、効果的な対策の速やかな実施を促す。さらに、本委員会が作成した「千葉県の外来植物」について、情報更新を行う常設委員会の設置など、システムを構築する。

- ・千葉県生物多様性センターに、情報収集・分析・提供のため、外来種の専門知識を有する専門職員を配置する。

- ・県民が外来種などの生育・生息情報を容易に連絡するために、千葉県生物多様性センターに「生きもの110番」のような窓口を作ることを検討する。

- ・実効的な外来種対策が講じられるように、適切な組織、体制づくりを促進させる。その際、外来種対策の主体について、役割と予算分担を明確にする（市町村や住民による防除について、県などが資金的支援を行うなど）。

- ・千葉県は外来種対策を、県内の自然についての「生物多様性保全」の一部として位置付ける条例化等による外来種対策も検討する。

- ・外来種の影響が顕著な保全上重要な地域を抽出するための検討の場を設ける。

- ・千葉県版レッドデータブック掲載種の維持・管理を主目的とした外来種対策を実施している地域、組織等に対しては、その活動状況の情報を収集するとともに、活動を助成し、継続を奨励する。

- ・誰もが外来種に関する情報を容易に入手できるような環境を整える。

- ・生物多様性と外来種に関する適切な広報・教育活動をおこなう。

4 生物多様性保全の枠組みでの議論の必要性

本委員会で検討を行いリスト化したものは、種（一部、遺伝子レベルも含む）単位での外来植物種リストである。しかし、生物種は種だけで単独に存在するものではなく、先述したように他の在来種などとの直接、間接を含む種間競争などを通じて、生態系全体の一部として生育するものである。よって、今回のような種レベルの議論だけでは、適切な対応策の検討に限界がある。このため、外来生物の問題は希少種保全や生態系保全の議論の場でどのような自然環境を守っていくのかという議論の中で取り扱い、適切な施策を展開していく必要がある。

5 外来植物の侵入経路

侵入経路には、いくつかの異なる道筋があり、下記のように分類した。各項目に該当する種名と事例を示した。数字は8「千葉県外来植物(2009年度版)」における千葉県における侵入経路の分類番号を示す。

100	栽培種などの個体の逸出
110	農林作物の拡散 オランダガラシ
120	園芸植物の拡散 トキワツユクサ、オオキンケイギク、ナガエモウセンゴケ、ツルニチニチソウ
130	観賞用水生植物(アクアリウムプラント)の拡散 ナガエツルノゲイトウ、オオフサモ、オオカナダモ、ミズヒマワリ
140	水質浄化目的などによる水生植物の拡散 手賀沼浄化事業連絡会議による湖沼水質保全計画(手賀沼) ホテイアオイの植栽、回収
150	環境緑化植物の拡散
151	法面・空き地緑化植物の拡散 オオキンケイギク、チャボウシノシッペイ、シナダレスズメガヤ、イタチハギ、ハリエンジュなど
152	公園・街路に植樹された個体の拡散 鳥による散布、トウネズミモチ、ピラカンサ類など
153	砂防・防風のために植栽された個体の拡散 オオハマガヤ、ハマニンニク
160	牧草地の導入牧草の拡散 カモガヤ、ハルガヤなど
200	産業や人の移動に伴った個体の拡散
210	栽培植物に伴った個体の拡散 ナガバギシギシ、シバムギ
220	環境緑化植物に伴った個体の拡散 イワヨモギ、ナルトサワギク
230	人の移動に伴った個体の拡散 ミカツキゼニゴケ、メリケントキンソウ、オオオナモミ
240	産業原料またはその製品に伴った個体の拡散 マメアサガオ(大豆畑から)イチビ、アナアオサの一種など
250	農業・園芸資材に伴った個体の拡散 コケ植物ギボウシゴケ科、タマザキフタバムグラなど
300	気候変動などの自然環境の変動に伴う分布拡大による拡散
	ノアサガオ

6 外来種（植物）による生態系や人への影響

外来種（植物）による生態系や人への影響は、下記のように分類した。各項目に該当する種名と事例を示した。数字は8「千葉県の外来植物（2009年度版）」における分類番号を示す。

100 種内のゲノム多様性への影響
在来種の地域的固有性を持つゲノム多様性への遺伝的汚染 タブノキ（県内には在来系統も生育する） 注）本分類に該当する種については、遺伝学の発展とともに今後、情報が更新されていく。
200 種間関係への影響
210 植物の他種に対する影響 211 近縁種への影響（在来種との交雑） ソメイヨシノ、オオムラサキ、キク、オオカワヂシャ 212 植物群落内での生活空間をめぐる競合 オオブタクサ（絶滅危惧種を含む群落の種の多様性を低下） セイタカアワダチソウ（絶滅危惧種の生息湿地への侵入） アレチウリ、ツルニチニチソウ、トキワツユクサなど 213 植物群落内での毒性による他種排除（アレロパシー） シバムギ、セイタカアワダチソウ、ナルトサワギク、ハリエンジュ
220 動物相への影響 221 植物 - 動物の相互関係への影響 アメリカオオアカウキクサ（水面を覆い尽くすことによる影響） 222 食樹・食草の衰退 ミズヒマワリ（訪花昆虫を奪うことによる在来水生植物の送粉阻害）

300 人への影響

310 人体への生物学的・医学的影響

311 強毒をもち致死性がある

ドクニンジン、ドクムギ

312 健康被害をもたらす

花粉症を引き起こすイネ科外来牧草（カモガヤ）、ブタクサ類、ヒガンバナ、ヨウシュチョウセンアサガオ、メリケントキンソウ

313 物理的被害がある（トゲなど）

ワルナスビ、アメリカオニアザミ、メリケントキンソウ、セイヨウトゲアザミ

314 臭気がある

アリタソウ、ゴウシュウアリタソウ

320 農林水産業に対する被害

321 栽培植物に対する影響（耕作地の強害草）

ホソミキンガヤツリ（畦畔雑草）

ハルジオン（薬剤抵抗性獲得、防除困難）

ホソアオゲイトウ、ヤセウツボ、イチビ

飼料混入種子（糞経路で飼料畑やその他の畑に蔓延）

322 舟運・水利への影響

ナガエツルノゲイトウ、オオフサモ、ミズヒマワリ、オオカナダモ

400 生態系・景観への影響

410 生態系の構造への影響

411 生物的影響（被陰による日光不足など）

ツルニチニチソウ、アレチウリ、シナダレスズメガヤ

412 物理的破壊（土壌の変質など）

モウソウチク、ツルニチニチソウ

420 景観に対する影響

アレチウリ、アツバキミガヨラン（海浜景観への侵入）

7 外来種（植物）のランク付けの方法

千葉県外来種（植物）については、下記の3つの評価観点でランク付けを行った。防除の緊急度は対策の優先性を表し、影響度と容易性をもとに、具体的対策方法や効果を勘案してランク付けした。

1) 生態系又は人に対する影響度

A：生態系又は人に対し、回復が困難となる深刻な影響が認められる、あるいは予測される。

（生態系の回復が困難となる深刻な影響は、競争、交雑等による在来種の絶滅）

B：生態系又は人に対し、深刻な影響が認められる、あるいは予測される。

C：生態系に対し、明らかな影響が認められる、あるいは予測される。

D：生態系に対し、明らかな影響はあまり認められない、あるいは予測されない。

情報不足：現時点では、上記A～Dの影響度ランクを判定する情報が得られていない。

2) 根絶の可能性を考慮した防除の緊急度

A：非常に高い。

B：高い。

C：低い。

3) 防除の容易性

生育メッシュ数をもとに分類し、繁殖の形態（種子繁殖か栄養繁殖か）や除草しやすさ、在来種の回復の可能性をもとに調整する。

生育メッシュ数：A：10メッシュ未満

B：10メッシュ～99メッシュ

C：100メッシュ以上

4) 外来種リストに追加するか検討を要する種のリスト（9「要検討種リスト」参照）

野外の植物種の生育状況について、必ずしも正確な情報が得られているとは限らない。そこで、外来種リストに追加するかどうかの検討を要する種について、将来、情報が集積し、外来種として取り扱うべき段階になるまで、未判定種や外来植物候補種として注意喚起する。なお、要検討種については、取り扱いが未定なので、ランク付けは行わない。

8 千葉県外来植物

- 2009 年度版（初版） -

項目の凡例と解説

【生育状況】

千葉県内の生育状況について、ひとつの生育場所内での量的評価を行った。侵入初期には量がすくないと思われるので、県内で現在みられる平均～最大規模の表記をするように努め、右記の目安基準に基づいた。

極多:数百本以上
多い:百数十本
中程度:数十本
少ない:十数本
極少:10本以下

【生活形】【繁殖形態】【散布形態】

各種の基本的な生態情報を記載するため、生活形、花粉の媒介様式や栄養繁殖の状況などについての繁殖形態、種子などの散布形態と、季節を示した。分類は下記のように、千葉県植物誌(千葉県史料研究財団 2003)に準拠した。

【生活形】

常緑:1年中緑の葉をもち、葉の寿命が1年以上

半常緑:1年のある時期、緑葉の数や面積が著しく減るが、通年緑葉をもつ

夏緑:春から夏を経て秋までの間、葉が緑

春緑:早春から春の終わりまで葉が緑

冬緑:秋から冬を経て春の終わりまで葉が緑

連緑:1年中緑の葉をもつが、個々の葉の寿命は1年未満

高木:10m以上

亜高木:5～10m

低木:5m未満

藤本:つる性の木本

1年草:個体の寿命が1年未満の草本

2年草:個体の寿命が1～2(3)年の草本

多年草:個体の寿命が3年以上の草本

【繁殖形態】花粉媒介型の記載

虫媒:昆虫によって受粉

鳥媒:鳥類によって受粉

風媒:風によって受粉

水媒:水流によって受粉

自媒:同花受粉、閉鎖花を含む

無融合:受精せずに結実

複数の受粉方法を伴う場合は併記、2型の花をつける場合は「+」を介して連記

【散布形態】果実または種子の散布型

自散: 自力で種子を飛ばすもの

重散: 重力による落下

風散: 風による散布で、翼や毛によって風に乗るものや、きわめて微細な種子、親個体が風に揺れて種子が放出するものを含む。

食散: 種実が動物に食べられることによる散布で、食べ残された貯食による散布を含む。

水散: 淡水による散布

海散: 海流による散布

雨滴散: 雨粒にはじかれて飛び散る

アリ散: アリによる散布

虫散: 昆虫による散布

着散: 動物に付着して散布

2つの散布様式が複合している場合は「+」を介して連記、複数の散布様式が考えられる場合は併記した。

【日本への侵入】【県内への侵入】

侵入経路と侵入年を示した。経路は下記の分類番号を記入した。経路について詳細不明な場合は、より上位の分類番号を記入した。

100 栽培種などの個体の逸出

110 農林作物の拡散

120 園芸植物の拡散

130 観賞用水生植物(アクアリウムプラント)の拡散

140 水質浄化目的などによる水生植物の拡散

150 環境緑化植物の拡散

151 法面・空き地緑化植物の拡散

152 公園・街路に植樹された個体の拡散

153 砂防・防風のために植栽された個体の拡散

160 牧草地の導入牧草の拡散

200 産業や人の移動に伴った個体の拡散

210 栽培植物に伴った個体の拡散

220 環境緑化植物に伴った個体の拡散

230 人の移動に伴った個体の拡散

240 産業原料またはその製品に伴った個体の拡散

250 農業・園芸資材に伴った個体の拡散

300 気候変動などの自然環境の変動に伴う分布拡大による拡散

【侵入の影響】

侵入による影響を下記の分類番号で記した。詳細不明な場合は、より上位の番号を記入した。

- 100 種内のゲノム多様性への影響
- 200 種間関係への影響
 - 210 植物の他種に対する影響
 - 211 近似種への影響
 - 212 植物群落内での生活空間をめぐる競合
 - 213 植物群落内での毒性による他種排除
 - 220 動物相への影響
 - 221 植物 - 動物の相互関係への影響
 - 222 食樹・食草の衰退
- 300 人への影響
 - 310 人体への生物学的・医学的影響
 - 311 強毒をもち致死性がある
 - 312 健康被害をもたらす
 - 313 物理的被害がある
 - 314 臭気がある
 - 320 農林水産業に対する被害
 - 321 栽培植物に対する影響
 - 322 舟運・水利への影響
- 400 生態系・景観への影響
 - 410 生態系の構造への影響
 - 411 生物的影響
 - 412 物理的影響
 - 420 景観に対する影響

【備考】

「特定外来生物」は、外来生物法による特定外来生物に指定されている種を示し、「要注意外来生物」は、同法による下記の外来生物を示す。

要注意外来生物(適否検討)：被害に係る一定の知見はあり、引き続き指定の適否について検討する外来生物

要注意外来生物(情報不足)：被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物

要注意外来生物(緑化植物)：別途総合的な取組みを進める緑化植物

「影響度」および「緊急度」、「容易性」がともにAランクの23種

種番号	【和名】	【県内分布】
7	アメリカオオアカウキクサ	分布不確定
8	アイオオアカウキクサ	市原市、大多喜町、習志野市
118	ナガエツルノゲイトウ	印旛沼周辺
164	ハカマオニゲシ	芝山町
170	アツミゲシ	船橋
597	オオキンケイギク	全県に散在
623	ミスヒマワリ	市川、佐原、栗山川など
645	オオハンゴンソウ	北総に散在
161	ナガエモウセンゴケ	長生村
185	オニハマダイコン	銚子市、いすみ市
334	アカボシツリフネ	野田市
364	アレチウリ	全県に分布
382	オオフサモ	全県に散在
391	ドクニンジン	船橋市
414	シラホシムグラ	江戸川流域
558	オオブタクサ	全県に分布、河原・造成地
648	ナルトサワギク	館山市
657	メリケントキンソウ	江戸川河川敷、木更津市
704	アツバキミガヨラン	主として全県の水辺（海岸）
716	ホテイアオイ	全県に散在
735	トキワツユクサ	全県に分布
752	オオハマガヤ（アメリカハマニンニク）	館山市 横芝光町
890	ボタンウキクサ	各地に散在

	シダ植物	イワヒバ科	影響度	緊急度	容易性
No.1	イヌカタヒバ		D	C	B
	Selaginella moellendorffii Hieron.				

【原産地】中国～東南アジア【国内分布】石垣、西表（園芸逸出）【県内分布】北部【生育状況】少ない
 【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】孢子【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：大正【県内への侵入】120：大正【侵入の影響】栽培植物、侵入性は低い【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24【文献県内】66

	シダ植物	イワヒバ科	影響度	緊急度	容易性
No.2	コンテリクラマゴケ		D	C	A
	Selaginella uncinata (Desv.) Spring				

【原産地】中国南部【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】各地で栽培、西船駅構内【生育状況】少ない
 【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】孢子、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：明治【侵入の影響】栽培植物、侵入性なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】ヨーロッパ経由で観賞用に導入【文献全般】21,24,46,62,88,92【文献県内】66

	シダ植物	イノモトソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.3	ハウライシダ		D	C	B
	Adiantum capillus-veneris L.				

【原産地】熱帯・暖帯（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に散在【生育状況】少ない
 【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】孢子【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】120：江戸から観賞用に栽培【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】栽培植物、侵入性なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】46,62,77,88【文献県内】66

	シダ植物	イノモトソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.4	コバハウライシダ		D	C	A
	Adiantum raddianum C.Presl				

【原産地】熱帯アメリカ【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】非常にまれ（千葉市、船橋市）【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】孢子【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：昭和以前（栽培）【県内への侵入】120：平成以前【侵入の影響】-【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】-【文献県内】66

	シダ植物	オンダ科	影響度	緊急度	容易性
No.5	イヌケホシダ		D	C	A
	Christella dentata (Forssk.) Brownsey et Jermy				

【原産地】世界の暖帯～熱帯【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】非常にまれ（船橋市）【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】孢子、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】風散：夏【日本への侵入】300：-【県内への侵入】300：昭和【侵入の影響】なし【侵入対策】温室効果ガスの排出抑制。生育状況モニタリング。【備考】国内帰化【文献全般】-【文献県内】66

シダ植物 ツルシダ科		影響度	緊急度	容易性
No.6	タマシダ	D	C	A
Nephrolepis cordifolia (L.) C.Presl				

【原産地】世界の熱帯【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】各地に散在(生垣)【生育状況】少ない【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】孢子、地下茎で栄養繁殖【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：-【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】栽培植物、侵入性なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】-【文献県内】-

シダ植物 サンショウモ科		影響度	緊急度	容易性
No.7	アメリカオオアカウキクサ	A	A	A
Azolla cristata Kaulf.				

【原産地】南北アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オセアニア、アフリカ【国内分布】西日本を中心に(宮城県～福岡県)【県内分布】分布不確定【生育状況】極多【生活形】水生シダ植物【繁殖形態】孢子、茎葉体が分裂して栄養繁殖【散布形態】水散：一年中【日本への侵入】110：2000年前後【県内への侵入】110：2005年?【侵入の影響】212,221(水中の酸欠、光量不足。静岡県、岡山県ではため池のフナが死んだ)【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】特定外来生物【文献全般】-【文献県内】鈴木武 2007. 千葉県のオオアカウキクサ類について. In 平成19年度佐倉市植物調査業務(畔田沢流域 春・夏)報告書.p.19-24. 佐倉市環境政策課., 鈴木武 2010. 特定外来生物アメリカオオアカウキクサを含む外来アゾラの現状. In 外来生物の生態学. pp.181-194. 文一総合出版.

シダ植物 サンショウモ科		影響度	緊急度	容易性
No.8	アイオオアカウキクサ	A	A	A
Azolla cristata × A. filiculoides				

【原産地】雑種なので原産地無し【国内分布】本州、四国、九州、西日本を中心に【県内分布】市原市、大多喜町、習志野市谷津干潟(2009.9～)【生育状況】極多【生活形】水生シダ植物【繁殖形態】正常な孢子は生産できないと考えられている。茎葉体が分裂して栄養繁殖【散布形態】-：なし【日本への侵入】110：2000年前後【県内への侵入】110：2005年?【侵入の影響】212,221(水中の酸欠、光量不足。静岡県、岡山県ではため池のフナが死んだ)【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】特定外来生物のA. cristata(アメリカオオアカウキクサ)とオオアカウキクサ大和型(ニシノオオアカウキクサ)の人工雑種。合鴨農法で管理されているものは除外。千葉県立中央博物館収蔵標本(CBM-BS-277201)【文献全般】-【文献県内】鈴木武 2007. 千葉県のオオアカウキクサ類について. In 平成19年度佐倉市植物調査業務(畔田沢流域 春・夏)報告書.p.19-24. 佐倉市環境政策課., 鈴木武 2007. 千葉県のオオアカウキクサ類について. 坂月川だより(坂月川愛好会)(16):4-5., 鈴木武 2010. 特定外来生物アメリカオオアカウキクサを含む外来アゾラの現状. In 外来生物の生態学. pp.181-194. 文一総合出版.

種子植物 ヒノキ科		影響度	緊急度	容易性
No.9	ヒノキ	D	C	C
Chamaecyparis obtusa (Sieb. et Zucc.) Siebold et Zucc.				

【原産地】日本【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】各地に植林から逸出【生育状況】少ない【生活形】常緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：日本原産【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】312、花粉アレルギー【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,14,24,43,73,88【文献県内】66,68

種子植物 ヒノキ科		影響度	緊急度	容易性
No.10	サワラ	D	C	C
Chamaecyparis pisifera (Sieb. et Zucc.) Endlicher				

【原産地】日本【国内分布】本州、九州【県内分布】各地に植林から逸出【生育状況】少ない【生活形】常緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：日本原産【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】312、花粉アレルギー【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,14,24,43,73,88【文献県内】66,68

種子植物	ヒノキ科	影響度	緊急度	容易性
No.11	アスナロ	D	C	B
Thujaopsis dolabrata (L. fil.) Siebold et Zucc.				

【原産地】日本【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に植林から逸出【生育状況】極小
 【生活形】常緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】110：日本原産【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,14,24,43,73,88【文献県内】66,68

種子植物	イチョウ科	影響度	緊急度	容易性
No.12	イチョウ	D	C	B
Ginkgo biloba L.				

【原産地】中国【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に植林から逸出【生育状況】少ない【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：鎌倉【県内への侵入】110：鎌倉～室町【侵入の影響】312、外種皮によるかぶれ【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,14,24,43,73,88【文献県内】66,68

種子植物	ソテツ科	影響度	緊急度	容易性
No.13	ソテツ	D	C	B
Cycas revoluta Thunb.				

【原産地】日本【国内分布】九州南部以南【県内分布】各地に植栽、館山で逸出【生育状況】中程度【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：-【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,70,88【文献県内】66,68

種子植物	クルミ科	影響度	緊急度	容易性
No.14	ペカン	D	C	A
Carya illinooides Koch				

【原産地】北米南東部【国内分布】本州、各地で単木植栽【県内分布】各地で単木植栽【生育状況】極小
 【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：明治【県内への侵入】110：明治【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,10,43,63,70,75,88【文献県内】66

種子植物	クルミ科	影響度	緊急度	容易性
No.15	シナサワグルミ	D	C	A
Pterocarya stenocarpa DC.				

【原産地】中国【国内分布】各地に街路樹等で植栽【県内分布】公園等に植栽【生育状況】少ない【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】110：明治初期【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】-【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,9,43,54,70,74,88【文献県内】66

種子植物	ヤナギ科	影響度	緊急度	容易性
No.16	ウラジロハコヤナギ	D	C	A
	<i>Populus alba</i> L.			

【原産地】欧州・西アジア・ロシア・ヒマラヤ・コーカサス【国内分布】北海道、本州【県内分布】各地の公園等に単木植栽【生育状況】極小【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】種毛による風散：夏【日本への侵入】110：明治【県内への侵入】110：明治？【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,24,43,54,59,62,63,70,73,74【文献県内】66

種子植物	ヤナギ科	影響度	緊急度	容易性
No.17	カロリナポプラ	C	C	A
	<i>Populus angulata</i> Aiton			

【原産地】北米東部（改良品種）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に並木又は単木植栽【生育状況】市川市で種子散布してやや増えている【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】種毛による風散：夏【日本への侵入】110：明治【県内への侵入】110：明治？【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,24,54,63,70,74【文献県内】66

種子植物	ヤナギ科	影響度	緊急度	容易性
No.18	ナミキドロ	D	C	A
	<i>Populus deltoides</i> Bartr. ex Marshall			

【原産地】北米東部【国内分布】各地に街路樹・単木植栽【県内分布】各地に植栽【生育状況】少ない【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】種毛による風散：夏【日本への侵入】110：明治【県内への侵入】110：明治？【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,24,54,63,70,74【文献県内】66

種子植物	ヤナギ科	影響度	緊急度	容易性
No.19	シダレヤナギ	D	C	B
	<i>Salix babylonica</i> L.			

【原産地】中国【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に植栽【生育状況】極小【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】110：平安？【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,24,43,54,63,70,73,74,88【文献県内】12,66,68

種子植物	ヤナギ科	影響度	緊急度	容易性
No.20	セイコヤナギ	D	C	A
	<i>Salix babylonica</i> L. form. <i>seiko</i> Kimura			

【原産地】中国【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に植栽【生育状況】極小【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】110：江戸？【県内への侵入】110：明治？【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,9,24,43,54,63,70【文献県内】66

種子植物	ヤナギ科	影響度	緊急度	容易性
No.21	ネコヤナギ	D	C	C
	<i>Salix gracilistyla</i> Miq.			

【原産地】日本【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に植栽【生育状況】極小【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】-：日本原産【県内への侵入】110：明治？【侵入の影響】100【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,70,88【文献県内】66,68

種子植物	ヤナギ科	影響度	緊急度	容易性
No.22	クロヤナギ	D	C	A
	<i>Salix gracilistyla</i> Miq. var. <i>melanostachys</i> (Makino) C.K.Schneider			

【原産地】日本【国内分布】本州【県内分布】花材として各地で植栽【生育状況】極小【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】110：江戸に作出【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,70【文献県内】66

種子植物	ヤナギ科	影響度	緊急度	容易性
No.23	キヌヤナギ	D	C	B
	<i>Salix kinuyanagi</i> Kimura			

【原産地】朝鮮半島【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】各地に逸出【生育状況】極小【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】110：江戸【県内への侵入】110：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,70,88【文献県内】66,68

種子植物	ヤナギ科	影響度	緊急度	容易性
No.24	コリヤナギ	D	C	B
	<i>Salix koriyanagi</i> Kimura ex Grz.			

【原産地】朝鮮半島【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】各地に植栽【生育状況】極小【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】110：江戸？【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,70,88【文献県内】66

種子植物	ヤナギ科	影響度	緊急度	容易性
No.25	ウンリュウヤナギ	D	C	A
	<i>Salix matsudana</i> Koidz. var. <i>tortuosa</i> Vilm.			

【原産地】中国【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に花材として栽培【生育状況】極小【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】110：江戸？【県内への侵入】110：明治？【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,8,9,24,54,59,63,70,73,74【文献県内】66

種子植物	ヤナギ科	影響度	緊急度	容易性
No.26	シグレヤナギ	D	C	A
Salix x eriocataphylla Kimura				

【原産地】日本（雑種）【国内分布】本州【県内分布】泉自然公園【生育状況】極小【生活形】夏緑・低木
 【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】 - ：日本原産【県内への侵入】 - ：
 昭和【侵入の影響】なし【侵入対策】 - 【備考】 - 【文献全般】8,54,63【文献県内】66

種子植物	ヤナギ科	影響度	緊急度	容易性
No.27	フリソデヤナギ	D	C	A
Salix x leucopithecia Kimura				

【原産地】日本（雑種）【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】各地で花材として栽培【生育状況】極
 小【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】110：江戸
 【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラ
 インづくり【備考】 - 【文献全般】8,54,70【文献県内】66

種子植物	カバノキ科	影響度	緊急度	容易性
No.28	ヒメヤシャブシ	D	C	A
Alnus pendula Matsum.				

【原産地】北海道、本州北部【国内分布】北海道、本州北部【県内分布】東京大学演習林見本林に植栽【生
 育状況】極小【生活形】夏緑・中高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵
 入】日本原産： - 【県内への侵入】110：明治？【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防
 止、栽培時のガイドラインづくり【備考】 - 【文献全般】8,43,54,70,88【文献県内】66,68

種子植物	ブナ科	影響度	緊急度	容易性
No.29	マテバシイ	B	B	C
Lithocarpus edulis (Makino) Nakai				

【原産地】九州【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】公園に植栽、主に県南部に植林【生育状況】中
 程度（植林地では極多）【生活形】常緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本
 への侵入】日本原産： - 【県内への侵入】240：江戸【侵入の影響】420【侵入対策】可能なかぎり在来品種
 を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防
 止。【備考】 - 【文献全般】8,43,54,70,88【文献県内】66,68

種子植物	ブナ科	影響度	緊急度	容易性
No.30	アベマキ	D	C	A
Quercus variabilis Blume				

【原産地】日本【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】北総、南総丘陵【生育状況】極小【生活形】夏
 緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】日本原産： - 【県内への侵
 入】152,植栽木から逸出？：明治以降【侵入の影響】なし【侵入対策】 - 【備考】 - 【文献全般】43,54,70,8
 8【文献県内】66,68

種子植物	ニレ科	影響度	緊急度	容易性
No.31	アキニレ	D	C	B
<i>Ulmus parvifolia</i> Jacq.				

【原産地】日本【国内分布】本州（西部）、四国、九州【県内分布】主に北総に逸出【生育状況】少ない
 【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】日本原産： -
 【県内への侵入】110：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】 - 【文献全般】8,43,54,70,88【文献県内】66,68

種子植物	トチュウ科	影響度	緊急度	容易性
No.32	トチュウ	D	C	A
<i>Eucommia ulmoides</i> Oliv.				

【原産地】中国【国内分布】本州【県内分布】薬用植物園に植栽【生育状況】極小【生活形】夏緑・高木
 【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：昭和
 和【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】 - 【文献全般】8,54,70,88【文献県内】66

種子植物	クワ科	影響度	緊急度	容易性
No.33	コウゾ	C	C	C
<i>Broussonetia kazinoki</i> Siebold x <i>B. papyrifera</i> (L.) L. Her. ex Vent.				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】各地に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・中高木
 【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】食散：夏【日本への侵入】110：奈良以前【県内への侵入】110：江戸
 【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】 - 【文献全般】8,43,54,70,88【文献県内】66,68

種子植物	クワ科	影響度	緊急度	容易性
No.34	カジノキ	D	C	A
<i>Broussonetia papyrifera</i> (L.) Vent				

【原産地】インド、中国、太平洋諸島【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】北総散在（船橋、野田）
 【生育状況】極小【生活形】夏緑・中高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】食散：夏【日本への侵入】110：弥生以降
 【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】 - 【文献全般】8,43,54,62,63,70【文献県内】66,68

種子植物	クワ科	影響度	緊急度	容易性
No.35	イチジク	D	C	B
<i>Ficus carina</i> L.				

【原産地】小アジア【国内分布】本州、四国、九州で栽培【県内分布】各地に散在【生育状況】極小【生活形】夏緑・低木
 【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】110：江戸【県内への侵入】110：明治
 【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】 - 【文献全般】8,43,54,63,70,88【文献県内】66,68

種子植物	クワ科	影響度	緊急度	容易性
No.36	マゲワ	D	C	B
	<i>Morus alba</i> L.			

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】各地に散在（かつて桑畑として存在）【生育状況】少ない【生活形】夏緑・中高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】110：弥生以降【県内への侵入】110：弥生～室町【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,70,88【文献県内】66,68

種子植物	アサ科	影響度	緊急度	容易性
No.37	アサ	D	A	A
	<i>Cannabis sativa</i> L.			

【原産地】インド【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総に散在【生育状況】極小【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：弥生【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】312【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】42,56,63,88【文献県内】66,68

種子植物	イラクサ科	影響度	緊急度	容易性
No.38	カラムシ	C	C	C
	<i>Boehmeria nipponivea</i> Koidz.			

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】各地に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：弥生【県内への侵入】110：弥生～室町【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】42,56,63,88【文献県内】66,68

種子植物	イラクサ科	影響度	緊急度	容易性
No.39	ナンバンカラムシ	C	C	B
	<i>Boehmeria nivea</i> (L.) Gaudich.			

【原産地】中国中南部【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】各地に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：江戸【県内への侵入】110：明治～昭和30年代【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,12,14,16,17,21,24,42,46,47,56,62,63,65,75,88,92,99【文献県内】66,68

種子植物	イラクサ科	影響度	緊急度	容易性
No.40	カベイラクサ	D	D	A
	<i>Parietalia judaica</i> L.			

【原産地】南欧【国内分布】兵庫県、神奈川県【県内分布】千葉市千葉港【生育状況】少ない【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒？【散布形態】重散：夏【日本への侵入】230：-【県内への侵入】230：1982年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】侵入確認：千葉県立中央博物館収蔵標本（千葉市千葉港、1982.10.24、CBM-BS-259703）【文献全般】24,47,59,65,74【文献県内】-

種子植物	イラクサ科	影響度	緊急度	容易性
No.41	セイヨウイラクサ	D	C	A
	<i>Urtica dioica</i> L.			

【原産地】欧州【国内分布】岡山県、千葉県【県内分布】勝浦市杉戸で記録【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】230：平成【県内への侵入】230：平成【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】47,61,63,65,74【文献県内】-

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.42	シャクチリソバ	D	C	B
	<i>Fagopyrum cymosum</i> Meissn.			

【原産地】インド北部～中国【国内分布】本州【県内分布】主に北総に散在【生育状況】多い【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】110：明治【県内への侵入】110：昭和【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,14,16,21,24,46,47,54,59,61,62,65,75,88,92,99【文献県内】66,68

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.43	ソバ	D	C	B
	<i>Fagopyrum esculentum</i> Gilib.			

【原産地】東アジアの温帯北部【国内分布】日本各地で栽培【県内分布】各地で栽培、まれに逸出【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：縄文以降【県内への侵入】110：弥生～室町【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】63,70,88【文献県内】66

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.44	ソバカズラ	D	C	B
	<i>Fallopia convolvulus</i> (L.) A.Love			

【原産地】欧州～西アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・つる1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】2300：1910年以前【県内への侵入】230：明治～昭和30年代【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,10,16,17,21,24,42,46,47,59,61,62,63,65,73,74,77,88,92,99【文献県内】66,68

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.45	ツルタデ	D	C	A
	<i>Fallopia dumetora</i> (L.) Holub			

【原産地】欧州～西アジア【国内分布】本州【県内分布】松戸【生育状況】極小【生活形】夏緑・つる1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】240：1950年以前【県内への侵入】240：明治～昭和30年代【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,9,21,24,46,47,62,63,65,73,88,92,99【文献県内】66,68

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.46	ツルドクダミ	C	B	B
Fallopia multiflora (Thunb.) Haraldson				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主に北総に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・つる多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120(薬用植物)：江戸【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】411【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,42,46,47,59,62,63,65,70,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.47	ヒメツルソバ	C	C	B
Persicaria capitata (Hamilt.) H.Gross				

【原産地】ヒマラヤ【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主に北総各地に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：明治中期【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,17,21,24,46,47,59,62,63,64,65,74,92,99【文献県内】66

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.48	オオベニタデ	D	C	C
Persicaria orientalis (L.) Assenov				

【原産地】インド・マレーシア，中国南部【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に栽培【生育状況】中程度【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：明治以降【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,14,24,47,61,70,88,92【文献県内】66

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.49	オオケタデ	D	C	C
Persicaria pilosa (Roxb.) Kitagawa				

【原産地】インド、マレーシア、中国南部【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に栽培【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：明治以降【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,3,4,10,14,16,17,24,46,47,59,61,62,63,65,69,74,75,88【文献県内】66,68

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.50	ニオイタデ	D	C	A
Persicaria viscosa (Hamilt.) H.Gross				

【原産地】東アジア【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】市川【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】230：江戸【県内への侵入】230：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】4,9,16,17,21,42,46,47,62,63,65,74,77,88,92,99【文献県内】66,68

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.51	ハルタデ	C	C	B
Persicaria vulgaris Webb. et Moq.				

【原産地】北半球温帯【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主に北総に分布【生育状況】多
 【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：弥生
 【県内への侵入】210：弥生～室町【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な
 除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,16,17,24,42,46,47,61,63,75,88【文
 献県内】66,68

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.52	オオハルタデ	D	C	B
Persicaria vulgaris Webb. et Moq. var. pubescens Nemoto				

【原産地】北半球温帯【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に分布【生育状況】多【生
 活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：弥生【県内
 への侵入】210：弥生～室町【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の
 徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】国内帰化【文献全般】2,12,24,42,47,56,63【文献県内】66,
 68

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.53	ハイミチヤナギ	D	C	B
Polygonum arenastrum Boreau.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州【県内分布】主として千葉市周辺の湾岸【生育
 状況】市街地の道端や空き地に【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：
 秋【日本への侵入】230：1964年以前【県内への侵入】230：明治～昭和30年代【侵入の影響】420【侵入対
 策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,9,16,17,2
 1,24,46,47,56,59,62,65,74,92,99【文献県内】66,68

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.54	ミチヤナギ	C	C	C
Polygonum aviculare L.				

【原産地】世界中【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】県下全域【生育状況】多【生活形】
 夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：弥生以降【県内へ
 の侵入】210：弥生～室町【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹
 底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】4,14,24,63,73,75,88【文献県内】66,68

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.55	ヤンバルミチヤナギ	D	C	A
Polygonum plebeium R.Br.				

【原産地】熱帯アジア【国内分布】九州【県内分布】野田市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草
 【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：江戸？【県内への侵入】210：
 平成【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイド
 ラインづくり。【備考】-【文献全般】24,47,61,62,63,88【文献県内】66,68

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.56	ホザキニワヤナギ	D	C	A
Polygonum ramosissium Michx.				

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】船橋市、富里市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：1970年以前【県内への侵入】210：昭和【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】9,10,16,24,56,59,62,63,65,92,99【文献県内】36,66,68,96

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.57	ヒメスイバ	C	C	C
Rumex acetosella L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】安房地方を除く全県下【生育状況】中程度【生活形】夏緑・草本【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】210(牧草)：1884年以前【県内への侵入】210：明治【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,4,9,16,17,21,42,46,47,56,59,61,62,65,73,74,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.58	アレチギシギシ	B	B	C
Rumex conglomeratus Murr.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】東京湾側に多く、全県に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】240：1905年【県内への侵入】240：明治～昭和7年【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,4,10,14,16,17,21,24,42,46,47,56,59,61,62,65,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.59	ナガバギシギシ	B	B	C
Rumex crispus L.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】210：1891年以前【県内への侵入】210：明治～昭和10年【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,42,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】66,68

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.60	コガネギシギシ	D	C	A
Rumex maritimus L.				

【原産地】欧州・北米【国内分布】北海道（自生）、本州【県内分布】野田市、佐原市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】230：-【県内への侵入】河川で移動：昭和【侵入の影響】なし【侵入対策】-【備考】-【文献全般】2,4,42,47,61,62,63,65,74,75,88【文献県内】66

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.61	エゾノギシギシ	B	B	C
	<i>Rumex obtusifolius</i> L.			

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】210：1909年以前【県内への侵入】210：明治【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,42,46,47,56,59,61,62,63,65,77,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.62	アレチエゾノギシギシ	C	C	A
	<i>Rumex x abortivus</i> Ruhmer			

【原産地】ユーラシア【国内分布】不明【県内分布】千葉市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散？（不稔？）：夏【日本への侵入】-(日本で交雑)：-【県内への侵入】現地で交雑：-【侵入の影響】なし【侵入対策】-【備考】-【文献全般】63【文献県内】66

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.63	ノハラダイオウ	D	C	A
	<i>Rumex x pratensis</i> Mert. et Koch.			

【原産地】ユーラシア【国内分布】不明【県内分布】千葉市、佐倉市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】-(日本で交雑)：明治～昭和30年代【県内への侵入】現地で交雑：明治～昭和30年代【侵入の影響】なし【侵入対策】-【備考】-【文献全般】2,42,47,56,63,65【文献県内】66,68

種子植物	タデ科	影響度	緊急度	容易性
No.64	アレチナガバギシギシ	C	C	A
	<i>Rumex x schulzei</i> Hausskn.			

【原産地】ユーラシア【国内分布】不明【県内分布】千葉市、船橋市、八日市場【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散？（不稔？）：夏【日本への侵入】-(日本で交雑)：-【県内への侵入】現地で交雑：-【侵入の影響】なし【侵入対策】-【備考】-【文献全般】63【文献県内】66

種子植物	ヤマゴボウ科	影響度	緊急度	容易性
No.65	ヨウシュヤマゴボウ	C	C	C
	<i>Phytolacca americana</i> L.			

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県下【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】230：明治【県内への侵入】230：明治～昭和30年代【侵入の影響】420【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,42,46,47,56,59,62,65,70,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	ヤマゴボウ科	影響度	緊急度	容易性
No.66	ヤマゴボウ	D	C	B
Phytolacca esculenta Van Houtte				

【原産地】中国【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】丘陵地に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120(薬用)：江戸【県内への侵入】120：江戸以降【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,21,42,47,56,59,63,65,73,74,88,92,99【文献県内】66,68

種子植物	オシロイバナ科	影響度	緊急度	容易性
No.67	ナハカノコソウ	D	C	A
Boerhavia diffusa L.				

【原産地】太平洋諸島、中国【国内分布】沖縄県に自生【県内分布】船橋市に一次帰化【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：秋【日本への侵入】不明：-【県内への侵入】250：平成【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】42,74,75【文献県内】66

種子植物	オシロイバナ科	影響度	緊急度	容易性
No.68	オシロイバナ	C	C	C
Mirabilis jalapa L.				

【原産地】南米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県下【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,17,24,42,46,47,56,59,61,62,63,65,69,70,74,77,88,92【文献県内】12,35,68

種子植物	ザクロソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.69	ホソバモンパミミナグサ	D	C	A
Glinus oppositifolius (L.) A.DC.				

【原産地】世界の熱帯～亜熱帯【国内分布】本州【県内分布】船橋市で一時帰化【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】250：平成【県内への侵入】250：平成【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】47,63【文献県内】66

種子植物	ザクロソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.70	ハナビザクロソウ	D	C	A
Mollugo nudicaulis Lam.				

【原産地】アフリカ【国内分布】本州【県内分布】船橋市で一時帰化【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】250：平成【県内への侵入】250：平成【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】47,63【文献県内】66

種子植物	ザクロソウ科	影響度	緊急度	容易性
No. 71	クormaバザクロソウ	D	C	B
	<i>Mollugo verticillata</i> L.			

【原産地】熱帯米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】230：江戸末期【県内への侵入】230：明治～昭和30年代【侵入の影響】321【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,9,17,21,24,42,46,47,56,59,61,62,63,65,74,77,88,92,99【文献県内】35,66,68

種子植物	ツルナ科	影響度	緊急度	容易性
No. 72	ハナツルソウ	D	C	A
	<i>Aptenia cordifolia</i> Schw.			

【原産地】南アフリカ【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】各地に散在【生育状況】少ない【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：江戸末期【県内への侵入】120：昭和【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】70【文献県内】66

種子植物	ツルナ科	影響度	緊急度	容易性
No. 73	バクヤギク	D	C	A
	<i>Carpobrotus chilensis</i> (Molina) N.E.Br.			

【原産地】南アフリカ【国内分布】愛知県渥美半島【県内分布】館山市【生育状況】-【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：？【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】不法投棄と思われる愛知県渥美半島の西の浜に広がっている【文献全般】70【文献県内】-

種子植物	ツルナ科	影響度	緊急度	容易性
No. 74	マツバギク	D	C	A
	<i>Lampranthus spectabilis</i> N.E.Br.			

【原産地】南アフリカ【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県で栽培、時に逸出【生育状況】少ない（一株で一面に広がる）【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：明治（導入）【県内への侵入】120：昭和？【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,56,63,65,70,75【文献県内】66

種子植物	スベリヒコ科	影響度	緊急度	容易性
No. 75	タチスベリヒコ	D	C	A
	<i>Portulaca oleracea</i> L. var. <i>sativa</i> DC.			

【原産地】欧州【国内分布】野菜として稀に栽培【県内分布】松戸？【生育状況】極小【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120？：昭和？【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】56【文献県内】66

種子植物	スベリヒコ科	影響度	緊急度	容易性
No.76	ヒメマツバボタン	D	C	B
Portulaca pilosa L.				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県の平野部【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】230：1963年頃【県内への侵入】230：明治～昭和30年代【侵入の影響】420【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】4,9,10,16,17,21,24,47,56,61,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】12,35,66,68,97

種子植物	スベリヒコ科	影響度	緊急度	容易性
No.77	ハゼラン	C	C	B
Talinum crassifolium Willd.				

【原産地】西インド諸島【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主として北総の平野部【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年～多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：明治初期【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】あると目だつので、景観的に問題【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,24,46,47,56,59,61,63,65,70,74,75,88,92【文献県内】12,66

種子植物	ツルムラサキ科	影響度	緊急度	容易性
No.78	アカザカズラ	D	C	A
Anderera cordifolia (Ten.) Steenis				

【原産地】南米熱帯【国内分布】本州（神奈川県～岡山県）【県内分布】南房総市【生育状況】極小【生活形】つる・夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】むかご：秋【日本への侵入】120：1905年【県内への侵入】120：昭和？【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,16,24,46,47,56,62,65,74,77,92,99【文献県内】66,久内清孝 1971. マディラカズラが房州に逸出している. 植物研究雑誌46(6):192.

種子植物	ツルムラサキ科	影響度	緊急度	容易性
No.79	ツルムラサキ	D	C	A
Basella rubra L. var. alba Makino				

【原産地】熱帯アフリカ～アジア【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】東京湾沿岸の平野に散在【生育状況】極小【生活形】夏緑・つる1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：明治～昭和10年代【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,24,47,56,58,62,63,65,70,74,75,88,92【文献県内】66

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.80	ネバリノミノツヅリ	D	C	B
Arenaria serpyrifolia L. var. viscida (Loisel.) Ascherson				

【原産地】ユーラシア？【国内分布】北海道、本州【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】230：不明【県内への侵入】230：昭和【侵入の影響】212【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,63【文献県内】66

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.81	オランダミミナグサ	C	C	C
	<i>Cerastium glomeratum</i> Thuill.			

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県下【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】230：明治末期【県内への侵入】230：明治～昭和10年代【侵入の影響】-【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,42,46,47,56,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】12,40,66,68

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.82	ノハラナデシコ	D	C	B
	<i>Dianthus armeria</i> L.			

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1966年【県内への侵入】220：昭和30年代【侵入の影響】420【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,59,62,63,65,74,92,99【文献県内】33,38,66,68,斉藤吉永 1971. 千葉県野田に帰化したノハラナデシコ. 植物採集ニュース(57):88-89.

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.83	カスミソウ	D	C	A
	<i>Gypsophila elegans</i> Bieb.			

【原産地】コーカサス【国内分布】全国で栽培【県内分布】各地でワイルドフラワーとして栽培【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：大正【県内への侵入】120：昭和【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,47,56,59,61,62,63,70,74,88【文献県内】66

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.84	ヌカイトナデシコ	D	C	A
	<i>Gypsophila muralis</i> L.			

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州【県内分布】東京湾岸の平野に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】230：1997年以前【県内への侵入】230：1999年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】24,47,56,59,65【文献県内】66

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.85	イヌコモチナデシコ	D	C	B
	<i>Petrorhagia nanteuilli</i> (Burnat) P. W. Ball et Heywood			

【原産地】欧州【国内分布】本州、九州【県内分布】北総の平野部に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】230：1960年【県内への侵入】230：平成以前【侵入の影響】420【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】9,10,16,17,21,24,46,47,59,62,63,65,74,92,99【文献県内】66

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.86	アライトツメクサ	D	C	A
Sagina procumbens L.				

【原産地】欧州、北アメリカ、オーストラリア【国内分布】北海道、本州【県内分布】佐倉市【生育状況】中程度【生活形】冬緑・2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】230：昭和30年代以前【県内への侵入】230：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,24,46,47,56,59,61,65,74,92【文献県内】66

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.87	シバツメクサ	D	C	A
Scleranthus annuus L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州【県内分布】千葉市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】230：戦後【県内への侵入】230：平成【侵入の影響】420【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,17,47,56,61,63,65,74,92,99【文献県内】66

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.88	マツヨイセンノウ	D	C	A
Silene alba (Mill.) E.H. L.Krause				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総の平野部【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：明治～昭和10年代【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,10,24,42,46,47,56,59,61,63,65,70,74,92,99【文献県内】39,66,68

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.89	ムシトリマンテマ	D	C	B
Silene antirrhina L.				

【原産地】中南米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地の平野部に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：1951年以前【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,16,21,24,47,56,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】37,38,66,68

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.90	ムシトリナデシコ	D	C	B
Silene armeria L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県の平野部に逸出【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：明治～昭和10年代【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,21,24,42,46,47,59,61,62,63,65,69,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,70

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.91	オオシラタマソウ	D	C	A
	<i>Silene conoidea</i> L.			

【原産地】欧州～西アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】鴨川市【生育状況】極小
 【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1912
 年以前【県内への侵入】210：昭和20年代以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と
 防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,10,16,17,21,24,46,56,
 61,62,63,65,75,92,99【文献県内】39,66,68

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.92	ホザキマンテマ	D	C	A
	<i>Silene dichotoma</i> Ehrh.			

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国【県内分布】富里市【生育状況】極小【生活形】夏緑・多
 年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1950年【県内への侵入】2
 10：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹
 底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,9,21,24,46,56,59,61,62,63,65,74,92,99【文
 献県内】12,33,37,39,66,68

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.93	シロバナマンテマ	B	C	B
	<i>Silene gallica</i> L.			

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主に北総に分布【生育状況】中程度。
 千葉県では空き地などで割にみかける【生活形】夏緑・2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】
 重散：夏【日本への侵入】210：江戸末期【県内への侵入】210：昭和20年代以前【侵入の影響】420,212
 【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】
 -【文献全般】2,10,14,16,17,21,24,56,61,62,63,65,68,74,77,99【文献県内】12,66,68

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.94	マンテマ	C	C	B
	<i>Silene gallica</i> L. var. <i>quinquevulnera</i> (L.) Koch			

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主に北総に分布【生育状況】中程度
 【生活形】夏緑・2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：江戸末
 期【県内への侵入】120：昭和10年代以前【侵入の影響】420,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、
 販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】元々観賞用・シロバ
 ナマンテマよりずっと少ない【文献全般】4,10,14,16,17,21,24,46,56,59,62,63,65,74,77,88,92,99【文献
 県内】12,66,68

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.95	ツキミセンノウ	D	C	A
	<i>Silene noctiflora</i> L.			

【原産地】欧州【国内分布】本州【県内分布】富里市、印西市【生育状況】極小【生活形】夏緑・2年草
 【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1899年【県内への侵入】210：
 平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガ
 イドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,4,10,16,17,21,24,46,56,59,61,62,65,74,77,92,99【文献県
 内】33,37,39,66,68

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.96	シラタマソウ	D	C	A
	<i>Silene vulgaris</i> (Moench) Garcke			

【原産地】地中海沿岸【国内分布】北海道、本州【県内分布】千葉市、印西市【生育状況】極小【生活形】夏緑・2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：明治【県内への侵入】210：昭和40年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,4,10,16,17,21,24,46,56,61,62,65,74,88,92,99【文献県内】39,66,68

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.97	ノハラツメクサ	D	C	B
	<i>Spergularia arvensis</i> L.			

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】富津市、南房総市、浦安市、印西市（旧本埜村）、千葉市、君津市【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】230：明治【県内への侵入】230：昭和30年代以前【侵入の影響】420【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,16,17,21,24,46,56,61,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】66,68

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.98	ウシオハナツメクサ	B	B	B
	<i>Spergularia bocconii</i> (Scheele) Ascherson et Graebn.			

【原産地】欧州【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主として東京湾岸に分布【生育状況】中程度、塩湿地生の植物【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】水散：夏【日本への侵入】230：1934年以前【県内への侵入】230：1934年以前【侵入の影響】420,212【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】4,24,47,59,63,65,74,75【文献県内】66,木村陽子 1989. 船橋市・海浜公園の帰化植物3種. 千葉生物誌 39(1):32-34.

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.99	ウスベニツメクサ	D	C	A
	<i>Spergularia rubra</i> (L.) J. et C. Presl			

【原産地】北半球温帯【国内分布】北海道、本州、四国【県内分布】勝浦市？（標本未見）【生育状況】極小？【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】230：1932年以前【県内への侵入】230：昭和40年代【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】66,68

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.100	ノミノコブスマ	D	C	A
	<i>Stellaria alsine</i> Grimm Var. <i>alsine</i>			

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、九州【県内分布】八街市【生育状況】極小【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】230：1978年以前【県内への侵入】230：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】9,46,47,56,59,61,63,74,92【文献県内】-

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.101	コハコベ	C	C	C
	<i>Stellaria media</i> (L.) Vill.			

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：春～秋【日本への侵入】210：弥生？【県内への侵入】210：弥生～室町【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】9,10,14,16,21,24,46,61,62,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,59,68

種子植物	ナデシコ科	影響度	緊急度	容易性
No.102	イヌコハコベ	C	B	B
	<i>Stellaria pallida</i> (Dumort.) Crep.			

【原産地】欧州【国内分布】本州【県内分布】砂質生・市川市、船橋市の沿海部では多い【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1978年以前【県内への侵入】210：1978年以前【侵入の影響】420【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,9,24,46,47,59,61,62,63,65,74,92【文献県内】12,66,木村陽子 1998. イヌコハコベとコハコベ. 千葉県植物誌資料 12:81-82. 倉俣武男 1998. イヌコハコベの分布について?八千代市および和田町,富山町?. 千葉県植物誌資料 13:93.

種子植物	アカザ科	影響度	緊急度	容易性
No.103	アメリカビコ	D	C	A
	<i>Amaranthus blitoides</i> S.Watson			

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】袖ヶ浦市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：1948年以前【県内への侵入】210：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】4,10,16,24,47,56,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】66,68

種子植物	アカザ科	影響度	緊急度	容易性
No.104	ホコガタアカザ	B	B	B
	<i>Atriplex prostrata</i> Boucher ex DC. (syn. <i>A. hastata</i> non. L.)			

【原産地】欧州【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県の海岸部に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】230：1940年以前【県内への侵入】230：昭和20年代以前【侵入の影響】212【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,21,24,46,56,59,61,62,63,65,77,88,92,99【文献県内】39,66,68

種子植物	アカザ科	影響度	緊急度	容易性
No.105	アカザ	D	C	B
	<i>Chenopodium album</i> L. var.			

【原産地】中国【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】千葉市、柏市、市原市、鴨川市など【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：弥生？【県内への侵入】110：弥生～室町【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,10,14,46,56,59,61,74,75,88,92,99【文献県内】35,66

種子植物	アカザ科	影響度	緊急度	容易性
No.106	シロザ	C	C	C
Chenopodium album L. var. album				

【原産地】ユーラシア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】極多
 【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：弥生？
 【県内への侵入】210：弥生～室町【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,9,11,14,16,56,59,63,75,88【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	アカザ科	影響度	緊急度	容易性
No.107	ホソバアカザ	D	C	A
Chenopodium album L. var. stenophyllum Makino (syn. C. stenophyllum (Makino) Koidz.)				

【原産地】アジア北部【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】海岸部に散在【生育状況】中程度。海岸，河原にでる。【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：昭和以前【県内への侵入】210：昭和10年代【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】63【文献県内】66

種子植物	アカザ科	影響度	緊急度	容易性
No.108	アリタソウ	C	C	C
Chenopodium ambrosioides L.				

【原産地】南米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：江戸【県内への侵入】110：昭和10年代以前【侵入の影響】314,212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】別名ケアリタソウ【文献全般】2,4,14,16,17,21,24,46,47,59,61,62,63,65,77,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	アカザ科	影響度	緊急度	容易性
No.109	アメリカアリタソウ	C	C	A
Chenopodium anthelminticum L. (syn. Ambrina anthelminticum (L.) Spach)				

【原産地】南米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】富津市、佐倉市、鴨川市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：昭和以前【県内への侵入】110：昭和10年代以前【侵入の影響】314,212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】別名アリタソウ【文献全般】9,10,16,17,21,24,42,47,56,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】63,68

種子植物	アカザ科	影響度	緊急度	容易性
No.110	コアカザ	B	C	C
Chenopodium ficiforium Sm. (syn. C. serotinum non. L.)				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として東京湾岸の平野部に分布【生育状況】極多【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：春～秋【日本への侵入】210：弥生～室町【県内への侵入】210：弥生～室町【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,24,46,47,56,59,61,62,74,75,77,88,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	アカザ科	影響度	緊急度	容易性
No.111	ウラジロアカザ	B	C	B
Chenopodium glaucum L.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総内陸部及び全県海岸に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：1891年以前【県内への侵入】210：昭和初期【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,4,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,75,88,92,99【文献県内】12,39,66,68

種子植物	アカザ科	影響度	緊急度	容易性
No.112	ヒメハマアカザ	D	C	A
Chenopodium leptophyllum Nutt.				

【原産地】北米【国内分布】本州、【県内分布】木更津市【生育状況】極少【生活形】夏緑・一年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1973年以前【県内への侵入】210：1973年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】9,24,47,59,61,62,63,65,68,74,75,92【文献県内】66,68

種子植物	アカザ科	影響度	緊急度	容易性
No.113	ミナトアカザ	D	C	A
Chenopodium murale L.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、【県内分布】富里市、芝山町【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1965年【県内への侵入】240：平成以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,9,10,14,16,24,46,56,61,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】66

種子植物	アカザ科	影響度	緊急度	容易性
No.114	ゴウシュウアリタソウ	B	B	B
Chenopodium pumilio R.Br.				

【原産地】豪州【国内分布】北海道、本州、四国、【県内分布】主として北総西部に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：春【日本への侵入】240：1933年【県内への侵入】240：昭和20年代以前【侵入の影響】321,314【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	アカザ科	影響度	緊急度	容易性
No.115	ハウキギ	D	C	B
Kochia scoparia (L.) Schrad. var. scoparia				

【原産地】ユーラシア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総に散在【生育状況】少ない【生活形】-【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：江戸以前【県内への侵入】120：昭和以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】栽培植物【文献全般】2,2,4,9,10,17,46,47,63,65,68,73,75,88【文献県内】35,66,68

種子植物	ヒコ科	影響度	緊急度	容易性
No.116	ケイノコヅチモドキ (仮称)	D	C	A
Achyranthes sp.				

【原産地】亜熱帯アジア? 【国内分布】千葉県のみ? 【県内分布】富里市両国 【生育状況】少ない 【生活形】夏緑一年草? 【繁殖形態】花粉媒介型: 虫媒 【散布形態】重散: 秋 【日本への侵入】210: 2008年 【県内への侵入】210: 2008年 【侵入の影響】なし 【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。 【備考】- 【文献全般】- 【文献県内】、木村陽子 2009. ケイノコヅチモドキ (仮称) が富里市に一時帰化。 千葉県植物誌資料25:247-248.

種子植物	ヒコ科	影響度	緊急度	容易性
No.117	ホソバツルノゲイトウ	D	C	A
Alternanthera nodiflora R.Br.				

【原産地】熱帯米 【国内分布】本州、四国、九州、 【県内分布】市川市、柏市 【生育状況】少ない 【生活形】夏緑・匍匐1年草 【繁殖形態】花粉媒介型: 虫媒 【散布形態】重散: 秋 【日本への侵入】240: 1897年以前 【県内への侵入】240: 昭和30年代以前 【侵入の影響】なし 【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。 【備考】- 【文献全般】9, 10, 16, 17, 21, 24, 46, 47, 56, 59, 61, 62, 63, 65, 74, 77, 99 【文献県内】66, 68

種子植物	ヒコ科	影響度	緊急度	容易性
No.118	ナガエツルノゲイトウ	A	A	A
Alternanthera philoxeroides (Mart.) Griseb.				

【原産地】中央米 【国内分布】本州、四国、九州、 【県内分布】印旛沼周辺 【生育状況】多い 【生活形】夏緑・多年草 【繁殖形態】花粉媒介型: 虫媒、枝がちぎれて栄養繁殖 【散布形態】重散: 秋 【日本への侵入】130: 1989年 【県内への侵入】130: 1992年以前 【侵入の影響】322, 212 【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり 【備考】特定外来生物 【文献全般】21, 46, 47, 61, 62, 63, 65, 74, 92 【文献県内】12, 66

種子植物	ヒコ科	影響度	緊急度	容易性
No.119	ツルノゲイトウ	B	B	B
Alternanthera sessilis (L.) DC.				

【原産地】南米? 【国内分布】本州、四国、九州、 【県内分布】主として利根川、江戸川流域 【生育状況】多い 【生活形】夏緑・匍匐1年草 【繁殖形態】花粉媒介型: 虫媒、枝がちぎれて栄養繁殖 【散布形態】重散: 秋 【日本への侵入】130: 明治中期以前 【県内への侵入】130: 1984年以前 【侵入の影響】212, 322 【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり 【備考】- 【文献全般】9, 10, 16, 17, 21, 24, 46, 47, 56, 59, 60, 61, 62, 63, 65, 74, 77, 88, 92, 99 【文献県内】66

種子植物	ヒコ科	影響度	緊急度	容易性
No.120	ヒメシロビユ	D	C	A
Amaranthus albus L.				

【原産地】北米 【国内分布】北海道、本州、四国、九州 【県内分布】銚子など各地に散在 【生育状況】少ない 【生活形】夏緑・匍匐1年草 【繁殖形態】花粉媒介型: 虫媒 【散布形態】重散: 秋 【日本への侵入】240: 1941年以前 【県内への侵入】240: 昭和30年代 【侵入の影響】なし 【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。 【備考】- 【文献全般】2, 4, 9, 10, 16, 17, 24, 46, 47, 56, 59, 61, 62, 63, 65, 74, 75, 77, 92, 99 【文献県内】66, 68

種子植物	ヒコ科	影響度	緊急度	容易性
No.121	ヒメアオゲイトウ	D	C	A
Amaranthus arenicola I.M.Johnst.				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】市川市、一宮町【生育状況】少ない【生活形】夏緑・匍匐1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1958年以前【県内への侵入】240：昭和20年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】4,9,10,17,21,24,46,47,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66

種子植物	ヒコ科	影響度	緊急度	容易性
No.122	スギモリゲイトウ	D	C	A
Amaranthus cruentus L.				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、【県内分布】北総に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：明治以降【県内への侵入】120：昭和50年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】10,16,24,47,56,59,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】66

種子植物	ヒコ科	影響度	緊急度	容易性
No.123	ハイビユ	D	C	A
Amaranthus deflexus L.				

【原産地】広域分布【国内分布】本州、【県内分布】各地に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・匍匐1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：1921年【県内への侵入】210：昭和20年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】4,10,16,17,21,24,47,56,59,61,62,63,65,74,77,88,92,99【文献県内】66,68

種子植物	ヒコ科	影響度	緊急度	容易性
No.124	ホソバイヌビユ	D	C	A
Amaranthus graecizanus L.				

【原産地】欧州、アフリカ【国内分布】本州、【県内分布】船橋【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1920年頃【県内への侵入】240：昭和50年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】56,74【文献県内】66,68

種子植物	ヒコ科	影響度	緊急度	容易性
No.125	ホソアオゲイトウ	B	B	C
Amaranthus hybridus L.(syn. Amaranthus patulus Bertol.)				

【原産地】南米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：1937年以前【県内への侵入】210：昭和20年代以前【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,62,65,75,77,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	ヒユ科	影響度	緊急度	容易性
No.126	ヒユ	D	C	A
Amaranthus mangostanus L.				

【原産地】アジア【国内分布】本州、【県内分布】各地に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・匍匐1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：奈良以前【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】古来食用とされた【文献全般】16,56,74【文献県内】66

種子植物	ヒユ科	影響度	緊急度	容易性
No.127	オオホナガアオゲイトウ	D	C	A
Amaranthus palmeri S.Watson				

【原産地】北米【国内分布】本州、九州、【県内分布】船橋【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1964年以前【県内への侵入】240：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】9,10,14,17,21,24,46,47,59,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】66,68

種子植物	ヒユ科	影響度	緊急度	容易性
No.128	イガホヒユ	B	B	B
Amaranthus powellii S.Watson				

【原産地】中央米【国内分布】本州、【県内分布】北総及び東京湾岸に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1937年以前【県内への侵入】240：平成以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】9,10,24,47,56,59,62,63,64,65,74,75,92【文献県内】12,66,68

種子植物	ヒユ科	影響度	緊急度	容易性
No.129	アオゲイトウ	D	C	B
Amaranthus retroflexus L.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総の分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：明治30年代以前【県内への侵入】240：昭和30年代【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,24,46,47,56,59,63,65,74,75,88【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	ヒユ科	影響度	緊急度	容易性
No.130	ハリヒユ	B	B	B
Amaranthus spinosus L.				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】主として北総に分布【生育状況】中程度、畑地の強害草【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：明治【県内への侵入】240：昭和30年代【侵入の影響】312,321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】35,66,68

種子植物	ヒコ科	影響度	緊急度	容易性
No.131	ホナガイヌビユ	B	B	C
Amaranthus viridis L.				

【原産地】熱帯米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】極多【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：大正【県内への侵入】210：昭和10年代後半以降【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,24,47,56,59,62,63,65,74,77,88,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	ヒコ科	影響度	緊急度	容易性
No.132	ノゲイトウ	D	C	A
Celosia argentea L.				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】佐倉、富里、富津【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1856年以前【県内への侵入】120：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,69,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,66

種子植物	ヒコ科	影響度	緊急度	容易性
No.133	ケイトウ	D	C	B
Celosia cristata L.				

【原産地】熱帯アジア【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】主として北総に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：室町以降【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】園芸植物として広く栽培【文献全般】16,47,56,59,65,88【文献県内】66

種子植物	サボテン科	影響度	緊急度	容易性
No.134	ウチワサボテン	B	B	A
Opuntia ficus-indica (L.) Mill.				

【原産地】南米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】銚子、館山など、太平洋岸の海岸【生育状況】少ない【生活形】常緑・半低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、枝がちぎれて栄養繁殖【散布形態】食散：夏～秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：昭和【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】74,88【文献県内】66

種子植物	モクレン科	影響度	緊急度	容易性
No.135	ユリノキ	D	C	A
Liriodendron tulipifera L.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：昭和30年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,54,88【文献県内】66

種子植物	バンレイシ科	影響度	緊急度	容易性
No.136	アケビガキ	D	C	A
	<i>Asimina triloba</i> Dunal			

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】主として東京湾岸の都市に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】110：明治【県内への侵入】110：昭和30年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,24,74【文献県内】12,66

種子植物	クスノキ科	影響度	緊急度	容易性
No.137	クスノキ	C	C	C
	<i>Cinnamomum camphora</i> (L.) Siebold			

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州（自生）、【県内分布】全県に分布【生育状況】極少【生活形】常緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】110：縄文（日本原産？）【県内への侵入】110：弥生～室町【侵入の影響】100,212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,10,24,43,75【文献県内】51,66

種子植物	クスノキ科	影響度	緊急度	容易性
No.138	ニッケイ	D	C	C
	<i>Cinnamomum sieboldii</i> Meissn.			

【原産地】アジア南部【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全県に分布【生育状況】極少【生活形】常緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】110：江戸以前【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,10,24,45,59【文献県内】66

種子植物	クスノキ科	影響度	緊急度	容易性
No.139	ゲッケイジュ	D	C	B
	<i>Laurus nobilis</i> L.			

【原産地】南欧【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】北総に散在、暖地では自然散布する。【生育状況】極少【生活形】常緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】110：江戸【県内への侵入】110：明治【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,24,59【文献県内】12,35,66

種子植物	クスノキ科	影響度	緊急度	容易性
No.140	アオモジ	D	C	B
	<i>Litsea citriodora</i> (Siebold et Zucc.) Hatus.			

【原産地】中国、日本【国内分布】本州（山口）・九州、国内帰化【県内分布】安房地方に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・中高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：日本原産【県内への侵入】120：戦後【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,10,43,63,88【文献県内】66

種子植物	クスノキ科	影響度	緊急度	容易性
No. 141	タブノキ	C	C	C
<i>Machilus thunbergii</i> Siebold et Zucc.				

【原産地】朝鮮半島・日本【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】極少（自生
のものは極多）【生活形】常緑高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】
152：県内原産＋昭和【県内への侵入】152：県内原産＋昭和【侵入の影響】100【侵入対策】他県産の植木
を導入しない【備考】西日本、近畿、中部以東で種内に遺伝的分化がある。県外産の植木が植栽され逸出し
ている遺伝的汚染の可能性はあるが、詳細は不明。【文献全般】4, 8, 12, 13, 20, 24, 42, 59, 70, 75, 54【文献県
内】66, 68

種子植物	キンポウゲ科	影響度	緊急度	容易性
No. 142	シュウメイギク	D	C	B
<i>Anemone hupehensis</i> Lemoine var. <i>japonica</i> (Thunb.) Bowles et Stearn				

【原産地】中国【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に散在【生育状況】極少【生活
形】夏緑・草本【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：室町【県内へ
の侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管
理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2, 4, 9, 10, 16, 17, 21, 24, 46, 59,
61, 62, 63, 65, 69, 74, 88, 92, 99【文献県内】12, 66

種子植物	キンポウゲ科	影響度	緊急度	容易性
No. 143	キクバオウレン	D	C	A
<i>Coptis japonica</i> (Thunb.) Makino var. <i>anemonifolia</i> (Siebold et Zucc.) H. Ohba				

【原産地】日本【国内分布】本州、四国、【県内分布】柏市、富津市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・
多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】110：日本原産【県内への侵
入】110：昭和以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづく
り【備考】-【文献全般】12, 42, 56, 88【文献県内】66

種子植物	キンポウゲ科	影響度	緊急度	容易性
No. 144	セリバヒエンソウ	D	C	A
<i>Delphinium anthriscifolium</i> Hance				

【原産地】中国【国内分布】本州、【県内分布】佐倉市、袖ヶ浦市【生育状況】少ない。薬草園や庭先にも
うえられている【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵
入】230：明治【県内への侵入】230：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺
棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】4, 16, 17, 21, 24, 47, 56, 59, 62, 63, 65, 74, 77, 9
2, 99【文献県内】66

種子植物	キンポウゲ科	影響度	緊急度	容易性
No. 145	トゲミノキツネノボタン	B	B	B
<i>Ranunculus muricatus</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、【県内分布】八街市、館山市、大多喜町【生育状況】中程度【生活形】
冬緑【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：春～夏【日本への侵入】230：1915年【県内への侵
入】230：昭和30年代以前【侵入の影響】321【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる
外来種問題の普及【備考】-【文献全般】10, 14, 16, 17, 21, 24, 46, 47, 56, 59, 61, 62, 63, 65, 74, 77, 88, 92, 99
【文献県内】66, 68

種子植物	キンポウゲ科	影響度	緊急度	容易性
No. 146	ハイキンポウゲ	B	B	A
Ranunculus repens L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、【県内分布】芝山町【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草
 【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：1983年【県内への侵入】120：平成以前【侵入の影響】212，栽培植物であるが，宝塚市にはクレソンと同等に繁殖がみられるところがあり，要注意【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,24,59,61,62,63,65,74,88【文献県内】-

種子植物	メギ科	影響度	緊急度	容易性
No. 147	ホソバヒイラギナンテン	D	C	B
Mahonia fortunei Fedde				

【原産地】中国【国内分布】本州、【県内分布】各地に散在【生育状況】少ない【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：明治初期【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,24,59,63,74,88【文献県内】66

種子植物	メギ科	影響度	緊急度	容易性
No. 148	ヒイラギナンテン	D	C	B
Mahonia japonica (Thunb.) DC.				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】主として北総の丘陵に分布【生育状況】少ない【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,24,59,63,88【文献県内】12,66

種子植物	メギ科	影響度	緊急度	容易性
No. 149	ナンテン	D	C	C
Nandina domestica Thunb.				

【原産地】東アジア、インド【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全県に分布【生育状況】少ない【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：日本原産【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】100(もし千葉県に自生があるなら)【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,9,14,24,43,54,56,59,70,73,88【文献県内】12,66,68

種子植物	スイレン科	影響度	緊急度	容易性
No. 150	フサジュンサイ	A	A	B
Cabomba caroliniana A.Gray				

【原産地】北米東南部【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】北総の水辺に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・浮葉多年水草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】水散：秋【日本への侵入】130：昭和初期【県内への侵入】130：昭和30年代【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,10,17,23,24,46,47,56,59,65,74,88【文献県内】12,35,66,68

種子植物	ハス科	影響度	緊急度	容易性
No.151	ハス	C	C	B
<i>Nelumbo nucifera</i> Gaertn.				

【原産地】アジア【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全県の水辺に散在【生育状況】多い【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】水散：秋【日本への侵入】110：日本原産？【県内への侵入】110：江戸以前【侵入の影響】322,212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,14,24,42,59,69,88【文献県内】66,68

種子植物	マタタビ科	影響度	緊急度	容易性
No.152	シナサルナシ	C	C	B
<i>Actinidia chinensis</i> Planch.				

【原産地】中国南部【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全県に丘陵地に分布【生育状況】極小【生活形】夏緑・つる性【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】110：昭和30年代後半以降【県内への侵入】110：昭和30年代後半以降【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,24,59,63,74【文献県内】12,66

種子植物	ツバキ科	影響度	緊急度	容易性
No.153	チャノキ	D	C	C
<i>Camellia sinensis</i> (L.) Kuntze				

【原産地】中国南部、東南アジア【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全県に分布【生育状況】少ない【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋～冬【日本への侵入】110：鎌倉【県内への侵入】110：鎌倉～室町【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,9,14,24,43,54,63,70,88【文献県内】66,68

種子植物	ツバキ科	影響度	緊急度	容易性
No.154	ハマヒサカキ	D	C	B
<i>Eurya emarginata</i> (Thunb. ex Murray) Makino				

【原産地】日本自生【国内分布】本州西南部、四国、九州（国内帰化）【県内分布】一部半野生化、各地の海岸に分布【生育状況】中程度【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：日本原産【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,14,24,43,63,70,75,88【文献県内】66

種子植物	ツバキ科	影響度	緊急度	容易性
No.155	ナツツバキ	D	C	A
<i>Stuartia pseudo-camellia</i> Maxim.				

【原産地】日本自生（国内帰化）【国内分布】本州（中部以西）、四国、九州、【県内分布】全県の丘陵地に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：日本原産【県内への侵入】120：江戸以降【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,14,43,54,63,70,88【文献県内】66

種子植物	オトギリソウ科	影響度	緊急度	容易性
No. 156	トミサトオトギリ	B	B	B
	<i>Hypericum mutilum</i> L.			

【原産地】北米【国内分布】千葉県【県内分布】富津市【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】230：1998年【県内への侵入】230：1998年【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】63,74【文献県内】66,大場・木村 2000. トミサトオトギリ(新称) *Hypericum mutilum* L.の帰化. 植物研究雑誌75(5):316-318.

種子植物	オトギリソウ科	影響度	緊急度	容易性
No. 157	コゴメバオトギリ	D	C	B
	<i>Hypericum perforatum</i> L. var. <i>angustifolium</i> DC.			

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州、【県内分布】主として北総の丘陵部に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】230：1934年【県内への侵入】230：昭和50年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,62,63,65,74,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	オトギリソウ科	影響度	緊急度	容易性
No. 158	セイヨウオトギリ	D	C	A
	<i>Hypericum perforatum</i> L. var. <i>perforatum</i>			

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州、【県内分布】船橋市【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：昭和以前【県内への侵入】120：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,8,10,16,17,46,47,62,63,65,74,92【文献県内】66

種子植物	オトギリソウ科	影響度	緊急度	容易性
No. 159	ビヨウヤナギ	D	C	A
	<i>Noraysca chinensis</i> (L.) Spach			

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】各地の丘陵地に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：昭和以前【侵入の影響】212,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,17,24,43,54,69,70,88【文献県内】66

種子植物	オトギリソウ科	影響度	緊急度	容易性
No. 160	キンシバイ	C	C	B
	<i>Noraysca patula</i> (Thunb.) Voigt			

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】各地の丘陵地に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：昭和以前【侵入の影響】212,400,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,21,24,43,54,69,70,88,92,99【文献県内】66

種子植物	モウセンゴケ科	影響度	緊急度	容易性
No.161	アフリカナガバモウセンゴケ	C	C	A
Drosera capensis L.				

【原産地】南アフリカ【国内分布】本州、【県内分布】茂原市で、逸出がある。山野草屋で売られている。
 【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：戦後？【県内への侵入】120：昭和以前【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】-【文献県内】-

種子植物	モウセンゴケ科	影響度	緊急度	容易性
No.162	ナガエモウセンゴケ	A	A	A
Drosera intermedia Hayne				

【原産地】欧州・北米【国内分布】本州、【県内分布】長生村【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草
 【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：戦後？【県内への侵入】120：昭和以前【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】-【文献県内】-

種子植物	ケシ科	影響度	緊急度	容易性
No.163	シラユキゲシ	B	B	A
Eomecon chionantha Hance				

【原産地】中国【国内分布】本州、【県内分布】千葉市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒 根茎で暗い林床でも、生育をひろげる【散布形態】自散：夏【日本への侵入】120：平成【県内への侵入】120：平成【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,59,63,65,74【文献県内】66

種子植物	ケシ科	影響度	緊急度	容易性
No.164	ハナビシソウ	D	C	A
Eschscholtzia californica Cham.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】市街地に散在【生育状況】少ない。ワイルドフラワーでまかれたものがある【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：1870年頃【県内への侵入】120：昭和【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,47,59,61,65,69,74,88【文献県内】66

種子植物	ケシ科	影響度	緊急度	容易性
No.165	ハカマオニゲシ	A	A	A
Papaver bracteatum Lindl.				

【原産地】イラン【国内分布】本州、【県内分布】芝山町【生育状況】極少【生活形】冬緑・2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】210：平成以前【県内への侵入】210：平成以前【侵入の影響】312,麻薬及び向精神薬取締法指定種【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】別名：ボタンゲシ【文献全般】63【文献県内】66

種子植物	ケシ科	影響度	緊急度	容易性
No.166	ナガミヒナゲシ	B	B	C
Papaver dubium L.				

【原産地】地中海沿岸・欧州中部【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総の平野部に分布【生育状況】極多【生活形】冬緑・2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1961年【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】420【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,46,47,56,59,61,62,63,92,99【文献県内】12,66

種子植物	ケシ科	影響度	緊急度	容易性
No.167	モンツキナガミヒナゲシ（仮称）	B	B	A
Papaver dubium L. f. prov.				

【原産地】地中海沿岸、欧州中部【国内分布】本州、【県内分布】野田市【生育状況】極少、ナガミヒナゲシのなかに、稀に混じる【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】-：平成以前【県内への侵入】210：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】-【文献県内】、岩槻秀明 2008. モンツキナガミヒナゲシ（仮称）の発見. 千葉県植物誌資料 24:218.

種子植物	ケシ科	影響度	緊急度	容易性
No.168	トゲミゲシ	D	C	A
Papaver hybridum L.				

【原産地】地中海沿岸・欧州中部【国内分布】本州、【県内分布】市川【生育状況】極少【生活形】冬緑・2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】210：1961年【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】9,10,16,17,24,47,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66,68,97

種子植物	ケシ科	影響度	緊急度	容易性
No.169	オニゲシ	D	C	A
Papaver orientale L.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】全国で栽培【県内分布】佐倉【生育状況】極少【生活形】冬緑・2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：昭和以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】10,56,59,61,69,74【文献県内】66

種子植物	ケシ科	影響度	緊急度	容易性
No.170	ヒナゲシ	D	C	A
Papaver rhoeas L.				

【原産地】欧州【国内分布】全国で栽培【県内分布】北総に散在【生育状況】極少【生活形】冬緑・2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,69,74,88,92,99【文献県内】66

種子植物	ケシ科	影響度	緊急度	容易性
No.171	アツミゲシ	A	A	A
Papaver setigerum L.				

【原産地】北アフリカ【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】船橋【生育状況】少ない【生活形】夏緑・2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】210：1964年【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】312、あへん法指定種。麻薬成分がある【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】9,10,17,24,46,47,59,61,62,63,69,74,92,99【文献県内】66,吉川代之助 1974. 千葉の新帰化植物アツミゲシとノスズメノテッポウ. 植物採集ニュース(74):24.

種子植物	ヤブケマン科	影響度	緊急度	容易性
No.172	カラクサケマン	D	C	A
Fumaria officinalis L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、【県内分布】南房総市【生育状況】中程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1981年【県内への侵入】210：平成以前【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,10,17,46,47,56,59,61,62,63,74,92,99【文献県内】-

種子植物	フウチョウソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.173	キバナヒメフウチョウ	D	C	A
Cleome icosandora L.				

【原産地】熱帯アジア【国内分布】本州、【県内分布】船橋市に一時帰化【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏【日本への侵入】250：平成以前【県内への侵入】250：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】47,59,63,64,74【文献県内】66

種子植物	フウチョウソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.174	アフリカフウチョウソウ	C	B	A
Cleome rutidosperma DC.				

【原産地】熱帯アフリカ【国内分布】本州、【県内分布】市川市、船橋市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】250：1999年【県内への侵入】250：平成【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】ヒメムラサキフウチョウとしてあるデータを入れれば、県内でときおりみかける。【文献全般】47,59,63,65【文献県内】66

種子植物	フウチョウソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.175	セイヨウフウチョウソウ	D	C	B
Cleome spinosa L.				

【原産地】熱帯米【国内分布】各地で栽培【県内分布】北総各地に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1870年頃【県内への侵入】120：明治以降【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,10,21,24,46,47,56,59,61,69,74,88,92【文献県内】35,66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.176	アレチナズナ	D	C	A
<i>Alyssum alyssoides</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、【県内分布】船橋など東京湾岸に散在【生育状況】極少【生活形】冬緑・2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏【日本への侵入】210：1961年【県内への侵入】210：1969年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,9,16,17,46,47,56,62,63,65,74,92,99【文献県内】37,39,66,68,95

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.177	シロイヌナズナ	C	C	B
<i>Arabidopsis thaliana</i> (L.) Heynh.				

【原産地】ユーラシア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総の市街地に散在【生育状況】極多【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：不明（日本原産の可能性あり）【県内への侵入】220：昭和以前【侵入の影響】312,420,シバ地【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,14,24,42,47,59,63,74,88【文献県内】12,66,大野景德・竹内美亀 1995. シロイヌナズナが八千代市に生育する. 千葉県植物誌資料 3:8., 田井中信子 1995. 千葉市内のシロイヌナズナ. 千葉県植物誌資料 3:8., 大場達之 1995. シロイヌナズナ蛇足. 千葉県植物誌資料 3:8.

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.178	ミヤマハタザオ	D	C	A
<i>Arabis lyrata</i> L. var. <i>kamtschatica</i> Fischer				

【原産地】日本、北東アジア【国内分布】北海道、本州、四国、【県内分布】船橋（一時帰化？）【生育状況】極少【生活形】夏緑・草本【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】230：日本原産【県内への侵入】230：昭和【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】63【文献県内】66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.179	セイヨウワサビ	D	C	A
<i>Armoracia rusticana</i> P.Gaert., B.May. et Schreb."				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、【県内分布】柏市、富里市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：明治【県内への侵入】110：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,16,17,21,24,46,47,56,61,62,63,65,74,88,92,99【文献県内】66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.180	ハルザキヤマガラシ	C	C	B
<i>Barbarea vulgaris</i> R.Br.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総の市街地に散在【生育状況】中程度【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：明治【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】411【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,88,92,99【文献県内】33,66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.181	カラシナ	B	B	B
Brassica juncea Czern.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総に分布【生育状況】極多
 【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120,220：1976年以前【県内への侵入】120,220：昭和30年代後半以降【侵入の影響】212,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定。【備考】-【文献全般】2,4,9,17,21,24,46,47,56,61,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】12,66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.182	セイヨウアブラナ	B	B	B
Brassica napus L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、九州、【県内分布】全県に分布【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】110：明治【県内への侵入】110：昭和【侵入の影響】212,420【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】-【文献県内】12,66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.183	クロガラシ	D	C	A
Brassica nigra Koch				

【原産地】欧州～西アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】富里市【生育状況】極少
 【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1947年以前【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,16,21,24,46,47,61,62,92,99【文献県内】66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.184	アブラナ	D	C	A
Brassica rapa L.				

【原産地】日本で育種【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】北総の市街地、ワイルドフラワーの残存【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：昭和【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】ハナナを含む。【文献全般】-【文献県内】-

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.185	ハリゲナタネ	C	A	A
Brassica tournefortii Gouan				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州、四国、【県内分布】柏市、流山市【生育状況】中程度、柏市中心にふえており、一面群生し、微細なとげがある【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1978年以前【県内への侵入】210：平成【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】46,47,63【文献県内】、木村陽子・蓮見和子・小土井智行 2007. ハリゲナタネの千葉県での分布状況.千葉県植物誌資料 23:202-203.

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.186	オニハマダイコン	A	A	A
Cakile edentula (Bigel.) Hook.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、【県内分布】銚子市、いすみ市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】海散：夏【日本への侵入】230：1981年【県内への侵入】-：2007年以前【侵入の影響】212,420【侵入対策】-【備考】-【文献全般】2,21,46,47,62,63,65,74,92【文献県内】、鶴岡繁・木村陽子 2008. ハマベンケイソウ（ムラサキ科）、銚子に出現. 千葉県植物誌資料 24:226-228. (タイトルにははっていないが、この中でオニハマダイコンも新産報告)

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.187	アマナズナ	D	C	A
Camelina alyssum Thell.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、【県内分布】成田市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1956年頃【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,10,14,16,21,24,47,56,59,61,62,63,74,77,92,99【文献県内】66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.188	ヒメアマナズナ	D	C	A
Camelina microcarpa Andr. et DC.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、九州、【県内分布】袖ヶ浦市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】210：1957年【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】37,39,66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.189	ミチタネツケバナ	C	C	B
Cardamine hirsuta L.				

【原産地】欧州～東アジア【国内分布】北海道、本州、【県内分布】主として北総に分布【生育状況】極多【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏【日本への侵入】210：1988年【県内への侵入】210：平成以前【侵入の影響】420【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】9,21,24,46,47,59,61,63,65,74,92【文献県内】12,66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.190	コタネツケバナ	D	C	A
Cardamine parviflora L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、九州、【県内分布】成田市【生育状況】極多【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1952年【県内への侵入】210：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,9,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,74,75,92,99【文献県内】66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No. 191	アコウゲンバイ	D	C	A
	<i>Cardaria draba</i> (L.) Desv.			

【原産地】欧州【国内分布】本州、四国、【県内分布】市川市、富津市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1951年【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】16,24,46,47,56,59,61,62,63,74,92,99【文献県内】66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No. 192	ツノミナズナ	D	C	A
	<i>Chorispora tenella</i> (Pall.) DC.			

【原産地】地中海東部～中央アジア【国内分布】北海道、本州、四国、【県内分布】習志野市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】240：1953年【県内への侵入】240：1953年【侵入の影響】なし【侵入対策】可能な限り在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,24,46,47,56,62,63,65,74,92,99【文献県内】68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No. 193	ナタネハタザオ	D	C	A
	<i>Conringia orientalis</i> (L.) Dumort.			

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、【県内分布】船橋市、君津市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1952年以前【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,47,56,59,62,63,74,77,92,99【文献県内】66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No. 194	カラクサナズナ	C	C	B
	<i>Coronopus didymus</i> (L.) J.E.Smith			

【原産地】南米・欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州、【県内分布】主として北総と南総の海岸に分布【生育状況】中程度【生活形】冬緑・一年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1930年【県内への侵入】210：昭和50年代以前【侵入の影響】-【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No. 195	クジラグサ	D	C	A
	<i>Descurainia sophia</i> (L.) Webb ex Pran.			

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑または冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏・秋【日本への侵入】210：1899年以前【県内への侵入】210：昭和50年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,77,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.196	キバナスズシロ	D	C	A
<i>Eruca sativa</i> Miller				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州、【県内分布】袖ヶ浦市【生育状況】極少【生活形】夏緑または冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏または秋【日本への侵入】210：1987年以前【県内への侵入】210：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,47,56,59,61,63,65,74【文献県内】66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.197	オハツキガラシ	D	C	B
<i>Erucastrum gallicum</i> O. E. Schulz				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総に散在【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1970年代以前【県内への侵入】210：1970年代以前【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,10,16,17,21,24,46,47,59,62,63,65,74,92,99【文献県内】39,66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.198	エゾスズシロ	D	C	A
<i>Erysimum cheiranthoides</i> L.				

【原産地】ユーラシア、北米【国内分布】北海道（自生？）、本州、四国、【県内分布】成田市【生育状況】少ない【生活形】冬緑または夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏・秋【日本への侵入】210：不明【県内への侵入】210：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】16,17,42,46,47,56,59,63,65,88【文献県内】66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.199	ワサビ	D	C	A
<i>Eutrema japonica</i> (Miq.) Koidz.				

【原産地】日本【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】市原市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・草本【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】110：日本原産【県内への侵入】110：明治以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,14,24,42,56,70【文献県内】66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.200	ウロコナズナ	D	C	A
<i>Lepidium campestre</i> R. Br.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】東京湾岸と北総台地に散在【生育状況】少ない【生活形】冬緑または夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏・秋【日本への侵入】210：1950年【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,16,17,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.201	コシミノナズナ	D	C	A
Lepidium perfoliatum L.				

【原産地】欧州～西アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】茂原市【生育状況】少ない
 【生活形】冬緑または夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏・秋【日本への侵入】210：1920年以前【県内への侵入】210：1932年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,10,16,17,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,92,99【文献県内】66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.202	ニセマメグンバイナズナ	D	C	A
Lepidium pinnatifidum Ledeb.				

【原産地】中欧【国内分布】本州、【県内分布】千葉市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1995年以前【県内への侵入】210：1995年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】63【文献県内】66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.203	マメグンバイナズナ	C	C	C
Lepidium virginicum L.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】極多【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏・秋【日本への侵入】210：1892年前後【県内への侵入】210：明治～昭和30年代【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,61,62,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,39,66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.204	ニワナズナ	D	C	A
Lobularia maritima Desv.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】全国で栽培【県内分布】北総に散在、ワイルドフラワーの残存【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草、多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：明治以降【県内への侵入】120：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,56,61,63,65,69,74,88【文献県内】66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.205	ゴウダソウ	D	C	A
Lunaria annua L.				

【原産地】欧州【国内分布】全国で栽培【県内分布】富里市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：1901年【県内への侵入】120：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,16,21,24,46,47,56,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】12,66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.206	オランダガラシ	A	A	C
<i>Nasturtium officinale</i> R.Br.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】極多【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、枝がちぎれて栄養繁殖【散布形態】重散：夏【日本への侵入】110：1870年頃【県内への侵入】110：昭和20年代以前【侵入の影響】212,322【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】要注意外来生物（情報不足）、クレソンとして栽培【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,23,24,46,47,56,58,59,61,62,63,65,77,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.207	タマガラシ	D	C	A
<i>Neslia paniculata</i> (L.) Desv. var. <i>thracica</i> (Valen.) Bornm.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、【県内分布】船橋市、松戸市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：昭和初期【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,10,16,17,47,56,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.208	ショカツサイ	C	C	B
<i>Orychophragmus violaceus</i> (L.) O.E.Schulz				

【原産地】中国【国内分布】全国で栽培【県内分布】主として北総・南総に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：1940年代【県内への侵入】120：昭和以降【侵入の影響】212,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】逸出しやすい、花ゲリラと称し、空き地にまかれることがあった。別名：オオアラセイトウ、ムラサキハナナ、ハナダイコン、シキンサイ【文献全般】4,9,10,47,56,59,63,65,73,75,88【文献県内】12,39,66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.209	セイヨウノダイコン	D	C	A
<i>Raphanus raphanistrum</i> L.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】船橋、北総に散在【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】水散：夏【日本への侵入】210：1929年以前【県内への侵入】210：1950年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.210	ミヤガラシ	D	C	B
<i>Rapistrum rugosum</i> All. var. <i>venosum</i> DC.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総西部に分布【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1941年以前【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,92,99【文献県内】66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.211	ミミイヌガラシ	D	C	A
<i>Rorippa austriaca</i> (Crantz) Besser				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、【県内分布】佐倉市、船橋市、酒々井町【生育状況】少ない
 【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1974年【県内への侵入】210：昭和40年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,17,24,47,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.212	キレハイヌガラシ	C	C	A
<i>Rorippa sylvestris</i> (L.) Besser				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、【県内分布】北総に散在【生育状況】少ない。東葛地方では、散見される【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1963年【県内への侵入】210：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.213	シロガラシ	D	C	A
<i>Sinapis alba</i> L.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】北海道、本州、【県内分布】船橋市、富里市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：明治中期【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,17,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.214	ノハラガラシ	A	A	B
<i>Sinapis arvensis</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、【県内分布】船橋市、富里市、我孫子市、銚子市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1928年【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】312,有毒【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,21,24,47,56,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.215	ハタザオガラシ	D	C	B
<i>Sisymbrium altissimum</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・草本【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1926年以前【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.216	ホソエガラシ	D	C	A
	<i>Sisymbrium irio</i> L.			

【原産地】欧州南部【国内分布】本州、【県内分布】船橋市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1955年【県内への侵入】220：昭和30年代後半以降【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】4,9,16,24,46,47,59,61,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.217	ハマカキネガラシ	C	C	B
	<i>Sisymbrium officinale</i> (L.) Scop. var. <i>leiocarpum</i> DC.			

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】野田市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1902年以前【県内への侵入】220：昭和30年代後半以降【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,9,14,16,47,56,61,74,92,99【文献県内】59,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.218	ケカキネガラシ	C	C	B
	<i>Sisymbrium officinale</i> (L.) Scop. var. <i>officinale</i>			

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総西部に分布【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1902年？【県内への侵入】220：昭和30年代後半以降【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】24,47,63【文献県内】66

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.219	イヌカキネガラシ	C	C	B
	<i>Sisymbrium orientale</i> L.			

【原産地】地中海沿岸【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総西部に分布【生育状況】中程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1912年【県内への侵入】220：昭和30年代後半以降【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】35,39,66,68

種子植物	アブラナ科	影響度	緊急度	容易性
No.220	ゲンバイナズナ	D	C	B
	<i>Thlaspi arvense</i> L.			

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総に分布【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏【日本への侵入】210：江戸【県内への侵入】210：明治～昭和30年代【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,17,21,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	スズカケノキ科	影響度	緊急度	容易性
No.221	アメリカスズカケノキ	D	C	A
	<i>Platanus occidentalis</i> L.			

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】鴨川市【生育状況】極少【生活形】落葉高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,70【文献県内】66

種子植物	スズカケノキ科	影響度	緊急度	容易性
No.222	スズカケノキ	D	C	B
	<i>Platanus orientalis</i> L.			

【原産地】中国【国内分布】全国（栽培）【県内分布】各地に栽培【生育状況】極少【生活形】落葉高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,70【文献県内】66

種子植物	スズカケノキ科	影響度	緊急度	容易性
No.223	モミジバスズカケノキ	D	C	B
	<i>Platanus x acerifolia</i> Willd.			

【原産地】雑種由来の園芸種【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に散在【生育状況】極少【生活形】落葉高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,70【文献県内】66

種子植物	マンサク科	影響度	緊急度	容易性
No.224	イスノキ	D	C	A
	<i>Distylium racemosum</i> Siebold et Zucc.			

【原産地】日本、台湾、中国【国内分布】本州西部・四国・九州【県内分布】主として東京湾側の平地に散在【生育状況】極少【生活形】常緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】自生：日本原産【県内への侵入】120,152：明治以降【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、地域個体群の遺伝的多様性を保持した種苗の植栽、方針策定。【備考】-【文献全般】8,43,70【文献県内】66

種子植物	ベンケイソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.225	オノマンネングサ	D	C	B
	<i>Sedum lineare</i> Thunb.			

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州（栽培も含む）【県内分布】各地に散在【生育状況】中程度【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：江戸？【県内への侵入】120：江戸？【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】国内帰化【文献全般】10,14,24,47,59,63,88【文献県内】66

種子植物	ベンケイソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.226	マルバマンネングサ	D	C	A
Sedum makinoi Maxim.				

【原産地】日本【国内分布】本州（西部）、四国、九州（自生）【県内分布】主として北総東部に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】自生：日本原産【県内への侵入】120：江戸？【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,24,42,56,70,73,88【文献県内】66,68

種子植物	ベンケイソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.227	メキシコマンネングサ	C	C	B
Sedum mexicanum Britton				

【原産地】中国東部？メキシコは経由地【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】各地に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：1969年【県内への侵入】120：昭和30年代後半以降【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,24,42,46,47,59,63,65,74,75,88【文献県内】12,66

種子植物	ベンケイソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.228	ツルマンネングサ	C	C	B
Sedum sarmentosum Bunge				

【原産地】朝鮮～中国北部【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に分布【生育状況】中程度【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：1941年以前【県内への侵入】120：昭和30年代後半以降【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,62,63,65,70,74,88,92,99【文献県内】12,66

種子植物	ベンケイソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.229	ヨコハママンネングサ	C	C	B
Sedum sp.				

【原産地】不明【国内分布】本州、【県内分布】各地に散在【生育状況】少ない【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】風散：夏【日本への侵入】230：平成【県内への侵入】230：平成【侵入の影響】212【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】24,59,63,74【文献県内】、岩槻秀明 2007. 千葉県野田市でヨコハママンネングサ確認. 千葉県植物誌資料 23:204.

種子植物	ベンケイソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.230	オカタイトゴメ	C	C	B
Sedum uniflorum Hook. et Arnott subsp. oryzifolium (Makino) H.Ohba var. pumilum H.Ohba				

【原産地】中国？【国内分布】本州、【県内分布】各地に分布【生育状況】多い【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：1980年代以降？【県内への侵入】120：平成以前【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,24,59,61,63,74【文献県内】12,66

種子植物	ベンケイソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.231	メノマンネングサ	D	C	A
Sedum uniflorum subsp. japonicum (Siebold) H. Ohba				

【原産地】本州、四国、九州（自生）【国内分布】本州、四国、九州（自生）【県内分布】富里市、富津市
 【生育状況】少ない【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】風散：夏【日本への侵入】自生：日本原産【県内への侵入】120：昭和以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】国内帰化【文献全般】9,14,42,73【文献県内】66

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.232	イワムシロ	D	C	A
Aphanes arvensis L.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州、九州、【県内分布】市原市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草 また 夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：夏【日本への侵入】220：1960年【県内への侵入】220：2009年【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】侵入確認：2009.7.11 小土井智行（県内2例目）【文献全般】16,47,56,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66,平田和弘 2000. イワムシロ?帰化植物の悲しいサダメ?.千葉県植物誌資料 15:110-111.

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.233	ソメイヨシノ	C	C	B
Cerasus x yedoensis (Matsum.) A.V.Vassil. (syn. Prunus x yedoensis Matsum.)				

【原産地】日本・交雑種【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】各地に栽培【生育状況】多い（逸出は極少）【生活形】落葉高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒・鳥媒【散布形態】食散：夏【日本への侵入】交雑選抜：-【県内への侵入】120,大部分は植栽：明治【侵入の影響】100,211【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,9,24,54,69,70,73【文献県内】66,68

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.234	ビワ	D	C	C
Eriobotrya japonica (Thunb.) Lindl.				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】各地に分布【生育状況】少ない【生活形】常緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：夏【日本への侵入】110：江戸以前【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,9,24,43,54,59,70,88【文献県内】66,68

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.235	カナメモチ	D	C	B
Photinia glabra (Thunb. ex Murray) Maxim.				

【原産地】中国、本州西部、四国（自生）、九州（自生）【国内分布】本州西部、四国（自生）、九州（自生）【県内分布】主として北総に散在【生育状況】少ない【生活形】常緑・中高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】自生：日本原産【県内への侵入】120,152：江戸【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、地域個体群の遺伝的多様性を保持した種苗の植栽、方針策定。【備考】-【文献全般】8,9,45,54,70,88【文献県内】66,68

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.236	オオカナメモチ	D	C	A
<i>Photinia serrulata</i> Lindl.				

【原産地】中国、フィリピン、台湾、琉球【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】富津市、市原市、富里市【生育状況】極少【生活形】常緑・中高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120,152：昭和以前【県内への侵入】120：昭和以前【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,70,75【文献県内】66

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.237	コバナキジムシロ	C	C	B
<i>Potentilla amurensis</i> Maxim.				

【原産地】中国北部～朝鮮半島【国内分布】本州、【県内分布】主として利根川沿いに散在【生育状況】多い【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1930年以前【県内への侵入】220：1960年以前【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,4,16,17,21,24,46,56,62,63,65,74,92,99【文献県内】35,66,68

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.238	ハイキジムシロ	D	C	A
<i>Potentilla anglica</i> Laichard.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、【県内分布】八千代市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1997年【県内への侵入】220：1999年【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,24,47,59,62,63,65,74【文献県内】66,大野景德 2000. 八千代市に帰化したハイキジムシロ, ナガエコミカンソウ, アメリカキカシグサ.千葉県植物誌資料 15:108-109.

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.239	ミツモトソウ	D	C	A
<i>Potentilla cryptotaeniae</i> Maxim. var. <i>insularis</i> Kitag.				

【原産地】日本【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】市原市【生育状況】少ない。在来種の国内帰化？【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】自生：日本原産【県内への侵入】220：1989年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】国内帰化【文献全般】4,24,42,56,88【文献県内】66

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.240	オキジムシロ	C	C	B
<i>Potentilla paradoxa</i> Nutt.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、【県内分布】各地に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1950年以前【県内への侵入】220：1959年【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.241	オオヘビイチゴ	D	C	A
	<i>Potentilla recta</i> L.			

【原産地】欧州【国内分布】本州【県内分布】主として北総西部に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120,220：明治中期（栽培）【県内への侵入】220：1957年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,10,16,17,21,24,46,47,56,61,62,63,65,92,99【文献県内】66,68

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.242	タチバナモドキ	B	B	B
	<i>Pyracantha angustifolia</i> Schneid.			

【原産地】中国西南部【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に散在【生育状況】少ない【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：冬【日本への侵入】120,152：1890年頃【県内への侵入】120,152：昭和初期（栽培）【侵入の影響】212,420(果実が目だつ)【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、地域個体群の遺伝的多様性を保持した種苗の植栽、方針策定。【備考】-【文献全般】4,8,10,21,24,47,59,61,63,65,69,74,88,92【文献県内】35,66

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.243	トキワサンザシ	B	B	B
	<i>Pyracantha coccinea</i> Roem.			

【原産地】西アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に散在【生育状況】少ない【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：冬【日本への侵入】120,152：明治【県内への侵入】120,152：昭和初期（栽培）【侵入の影響】212,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、地域個体群の遺伝的多様性を保持した種苗の植栽、方針策定。【備考】-【文献全般】8,24,47,59,63,69,74【文献県内】66

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.244	カザンデマリ	B	B	B
	<i>Pyracantha crenulata</i> Roem.			

【原産地】ヒマラヤ【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総西部に散在【生育状況】少ない【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：冬【日本への侵入】120,152：昭和初期【県内への侵入】120,152：平成以前【侵入の影響】212,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、地域個体群の遺伝的多様性を保持した種苗の植栽、方針策定。【備考】-【文献全般】8,24,47,59,69,74【文献県内】12,66

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.245	シャリンバイ	B	B	B
	<i>Rhaphiolepis umbellata</i> (Thunb.) Makino			

【原産地】本州西部、四国、九州（自生）【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】主として北総西部と安房の海岸【生育状況】少ない【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：冬【日本への侵入】自生：日本原産【県内への侵入】120,152：昭和【侵入の影響】100,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、地域個体群の遺伝的多様性を保持した種苗の植栽、方針策定。【備考】-【文献全般】8,9,14,24,43,54,70,75,88【文献県内】66,68

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.246	シロヤマブキ	D	C	A
Rhodotypos scandens (Thunb.) Makino				

【原産地】中国、朝鮮半島、日本（中国地方・自生）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総に散在【生育状況】極少【生活形】落葉低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120（自生もあり）：江戸、日本原産【県内への侵入】120,152：昭和以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、地域個体群の遺伝的多様性を保持した種苗の植栽、方針策定。【備考】-【文献全般】8,10【文献県内】66

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.247	オニクロイチゴ	D	C	A
Rubus argutus Link				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、【県内分布】佐倉市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】食散：夏【日本への侵入】120：1999年以前【県内への侵入】120：1999年以前【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】74【文献県内】12,66

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.248	セイヨウヤブイチゴ	B	B	A
Rubus fruticosus L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】柏市、千葉市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】食散：夏【日本への侵入】120：1950年以前【県内への侵入】120：昭和末期以前【侵入の影響】212,トゲがあり、川岸などで広範囲にひろがる【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,10,14,17,21,24,46,47,59,61,62,63,65,74,77,88,92,99【文献県内】35,66

種子植物	バラ科	影響度	緊急度	容易性
No.249	ユキヤナギ	C	C	B
Spiraea thunbergii Siebold ex Blume				

【原産地】中国、本州、四国、九州（自生？）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総、南総に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120,152：日本原産？【県内への侵入】120,152：江戸？【侵入の影響】212,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、地域個体群の遺伝的多様性を保持した種苗の植栽、方針策定。【備考】-【文献全般】2,4,8,24,73,88【文献県内】12,66

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.250	イタチハギ	B	B	B
Amorpha fruticosa L.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】151,160：大正【県内への侵入】151：昭和30年代前半以降【侵入の影響】212,420【侵入対策】公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、方針策定。【備考】要注意外来生物（緑化植物）【文献全般】2,4,8,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.251	アメリカホドイモ	D	C	A
<i>Apios americana</i> Medic.				

【原産地】北米東南部【国内分布】北海道、本州、【県内分布】富里市、柏市、大多喜町（栽培）【生育状況】少ない【生活形】夏緑・つる性草本【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：明治中期【県内への侵入】120：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,16,17,23,47,56,59,63,65,74【文献県内】35,66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.252	ゲンゲ	C	C	B
<i>Astragalus sinicus</i> L.				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】各地で栽培、一部逸出【生育状況】中程度（栽培は極多）【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏【日本への侵入】120：室町【県内への侵入】120：明治【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,14,24,46,47,56,59,63,64,65,77,88【文献県内】12,35,66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.253	オオミツバタヌキマメ	D	C	A
<i>Crotalaria pallida</i> Ait. var. <i>obovata</i> (G.Don) Polhill				

【原産地】熱帯アジア～ポリネシア【国内分布】本州、九州、【県内分布】船橋【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：秋【日本への侵入】120：江戸（栽培）【県内への侵入】120：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】10,47,56,61,62,63,64,64,65,74,92【文献県内】13,66

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.254	カワリバマキエハギ	D	C	A
<i>Desmodium heterophyllum</i> (Willd.) DC.				

【原産地】アジア南部、オーストラリア、アフリカ【国内分布】本州、【県内分布】船橋市で一時帰化【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：秋【日本への侵入】250：1970年以前【県内への侵入】250：1999年【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】75【文献県内】66

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.255	アレチヌスビトハギ	C	B	B
<i>Desmodium paniculatum</i> (L.) DC.				

【原産地】北米【国内分布】本州、【県内分布】主として北総西部に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：秋【日本への侵入】230：1940年【県内への侵入】230：昭和40年代後半以降【侵入の影響】212【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】12,66

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.256	ハイマキエハギ	D	C	A
Desmodium triflorum (L.) DC.				

【原産地】南アジア、小笠原、琉球（自生）【国内分布】本州【県内分布】船橋市で一時帰化【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：秋【日本への侵入】240：日本原産【県内への侵入】240：1999年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】63,75【文献県内】13,66

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.257	ニワフジ	D	C	A
Indigofera decora Lindl.				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】各地に散在、各地で栽培【生育状況】極少【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,42,56,69,70,73【文献県内】66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.258	キダチコマツナギ（仮称）	B	B	B
Indigofera pseudotinctoria Matsum.				

【原産地】中国【国内分布】本州、主として全国に分布【県内分布】南房総市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：秋【日本への侵入】151：平成以前【県内への侵入】151：平成10年以降【侵入の影響】100,212【侵入対策】公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、方針策定。【備考】学名に問題があり、現在の所、コマツナギの学名と同じになってしまう。形態で中国産は区別できる。【文献全般】-【文献県内】、木村陽子 2007. キダチコマツナギ（大型コマツナギ）が流山市で記録. 千葉県植物誌資料 22:194-196.

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.259	セイヨウミヤコグサ	C	C	B
Lotus corniculatus L. subsp. corniculatus				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏【日本への侵入】220：1946年以前【県内への侵入】220：昭和末期以降【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,4,9,10,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,88,92,99【文献県内】39,66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.260	ネビキミヤコグサ	D	C	A
Lotus pedunculatus Cav.				

【原産地】欧州～アフリカ【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】千葉市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏【日本への侵入】240：1974年【県内への侵入】240：1982年【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,17,21,24,46,47,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.261	ワタリミヤコグサ	D	C	A
Lotus tenuis Waldst. et Kit. ex Willd.				

【原産地】欧州～アフリカ【国内分布】本州、【県内分布】白井市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏【日本への侵入】240：1970年頃【県内への侵入】240：1973年【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,10,17,21,24,46,47,59,61,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.262	コメツブウマゴヤシ	C	C	C
Medicago lupulina L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草 また 冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】160：江戸【県内への侵入】160：1927年以前【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,24,46,47,56,61,62,63,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.263	コウマゴヤシ	C	C	B
Medicago minima (L.) Bartal.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として海岸部に散在【生育状況】中程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】160：1868年前後【県内への侵入】160：1923年以前【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】39,66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.264	ウマゴヤシ	C	C	B
Medicago polymorpha L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に散在【生育状況】中程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：夏【日本への侵入】160：江戸【県内への侵入】160：1923年以前【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,74,75,77,88,92,99【文献県内】66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.265	ムラサキウマゴヤシ	C	C	B
Medicago sativa L.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】各地に散在、牧草として栽培【生育状況】少ない。牧草として極多【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】160：1870年前後【県内への侵入】160：1931年以前【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】35,66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.266	コシナガワハギ	C	C	B
Melilotus indica (L.) All.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主に北総西部に分布
 【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1939年以前【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,75,77,92,99【文献県内】66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.267	シロバナシナガワハギ	C	C	B
Melilotus officinalis (L.) Pall. subsp. alba (Medic.) H.Obashi et Tateishi				

【原産地】中央アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主に北総西部に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】160：江戸末期【県内への侵入】160：昭和30年代後半以降【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,75,77,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.268	シナガワハギ	C	C	B
Melilotus officinalis (L.) Pall. subsp. suaveolens (Ledeb.) H.Obashi				

【原産地】アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総及び南総・安房の海岸部【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】160,江戸時代,ユーラシアから：1856年以前【県内への侵入】160：昭和30年代後半以降【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,46,47,56,59,61,62,64,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.269	ハリエンジュ	A	B	C
Robinia pseudoacacia L.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下の根から栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110,120：1877年頃【県内への侵入】110,120：昭和初期栽培？【侵入の影響】411,212,213【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり。販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。【備考】要注意外来生物（緑化植物）【文献全般】2,4,9,10,21,24,54,59,61,62,63,74,75,77,88,92【文献県内】12,35,66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.270	ミヤコグサモドキ	D	C	A
Rothia indica (L.) Thuan				

【原産地】アジア南部・東南アジア・オーストラリア【国内分布】本州、【県内分布】船橋市に一時帰化【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：秋【日本への侵入】250：1999年以前【県内への侵入】250：1999年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】-【文献県内】66

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.271	タマザキクサフジ	D	C	A
Securigera varia (L.) Lassen				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、【県内分布】四街道市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏【日本への侵入】210：1951年【県内への侵入】210：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】文献情報なし、千葉県立中央博物館収蔵標本（四街道市、2006.6.10、CBM-B S-234409）【文献全般】2,4,24,46,47,62,63,65,74,92【文献県内】-

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.272	アメリカツノクサネム	D	C	B
Sesbania exaltata (Raf.) Rydb.ex A.W.Hill				

【原産地】北米・中米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】主に北総西部に分布【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1953年【県内への侵入】240：1988年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】35,66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.273	トガリバツメクサ	D	C	A
Trifolium angustifolium L.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】北海道、本州、四国、【県内分布】市川市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】240：1953年【県内への侵入】240：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,9,16,17,21,46,47,56,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.274	シャグマハギ	D	C	A
Trifolium arvense L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、【県内分布】千葉市、富里市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1950年代【県内への侵入】220：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,9,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】66

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.275	クスタマツメクサ	C	C	B
Trifolium campestre Schreb.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主に北総西部に分布【生育状況】中程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1943年【県内への侵入】220：昭和30年代後半以降【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,9,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.276	コメツブツメクサ	C	C	C
Trifolium dubium Sibth.				

【原産地】欧州～西アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】極多【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1935年【県内への侵入】220：昭和初期後半以降【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,4,9,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.277	ツメクサダマシ	D	C	A
Trifolium fragiferum L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、【県内分布】千葉市、佐倉市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1939年以前【県内への侵入】220：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,4,9,16,17,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】68,74

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.278	タチオランダゲンゲ	D	C	B
Trifolium hybridum L.				

【原産地】欧州～西アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総・南総西部【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】160：明治【県内への侵入】160：昭和30年代後半以降【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,39,66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.279	ベニバナツメクサ	D	C	B
Trifolium incarnatum L.				

【原産地】欧州～西アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主に北総西部に分布【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】園芸植物として栽培されている（ストロベリー・トーチ）【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.280	ムラサキツメクサ	C	C	C
Trifolium pratense L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県の分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】160：1868年前後【県内への侵入】160：昭和初期以前【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,66,68,木村陽子・岩槻秀明 2007. 野田市で採集された無花弁・重萼型ムラサキツメクサと遺伝子変異. 千葉県植物誌資料 23:205.

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.281	シロツメクサ	C	C	C
Trifolium repens L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】重散：夏【日本への侵入】160：江戸【県内への侵入】160：昭和初期以前【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.282	ヒナツメクサ	D	C	A
Trifolium resupinatum L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、九州、【県内分布】富津市、市原市、流山市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1952年【県内への侵入】210：1992年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】16,24,47,56,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66,木村陽子・引田園子・関口晋太郎 2007. 流山市に出現したヒナツメクサとコメバミソハギ. 千葉県植物誌資料 22:191-194.

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.283	オオカラスノエンドウ	D	C	A
Vicia sativa L. var. sativa				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】市川市、芝山町【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏【日本への侵入】160：大正【県内への侵入】160：昭和初期【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,16,21,24,56,61,62,63,65,75,77,92,99【文献県内】66,68

種子植物	マメ科	影響度	緊急度	容易性
No.284	ナヨクサフジ	C	C	B
Vicia villosa Roth subsp. varia (Host) Corb.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総に散在【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1943年以前【県内への侵入】220：1996年以前【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】4,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66

種子植物	カタバミ科	影響度	緊急度	容易性
No.285	イモカタバミ	C	C	C
Oxalis articulata Savigny				

【原産地】南米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全県に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、塊茎で栄養繁殖【散布形態】自散：夏～秋【日本への侵入】120：1967年以前【県内への侵入】120：1965年以前【侵入の影響】212,321【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】逸出をよくみかける【文献全般】9,10,16,17,21,24,46,47,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	カタバミ科	影響度	緊急度	容易性
No.286	ハナカタバミ	D	C	B
	<i>Oxalis bowiei</i> Lindl.			

【原産地】アフリカ南部【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全県に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎で栄養繁殖【散布形態】自散：夏【日本への侵入】120：江戸末期【県内への侵入】120：昭和20年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,61,62,63,65,69,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,66

種子植物	カタバミ科	影響度	緊急度	容易性
No.287	ベニカタバミ	C	C	B
	<i>Oxalis brasiliensis</i> Lodd.			

【原産地】南米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全県に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎で栄養繁殖【散布形態】自散：夏～秋【日本への侵入】120：1954年【県内への侵入】120：1989年以前【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】16,17,24,46,47,59,62,63,65,69,70,74,92,99【文献県内】35,66,68

種子植物	カタバミ科	影響度	緊急度	容易性
No.288	ムラサキカタバミ	B	B	C
	<i>Oxalis debilis</i> Kunth subsp. <i>corymbosa</i> (DC.) Lourteig			

【原産地】南米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎で栄養繁殖【散布形態】自散：夏【日本への侵入】120：江戸末期【県内への侵入】120：昭和初期以前【侵入の影響】212,321【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	カタバミ科	影響度	緊急度	容易性
No.289	オッタチカタバミ	C	C	B
	<i>Oxalis dillenii</i> Jacq.			

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】主に北総西部に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏～秋【日本への侵入】220：1965年以前【県内への侵入】220：1991年以前【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】4,9,10,17,21,24,46,47,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】12,66

種子植物	カタバミ科	影響度	緊急度	容易性
No.290	オオキバナカタバミ	C	C	B
	<i>Oxalis pes-caprae</i> L.			

【原産地】南アフリカ【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】鴨川市、千葉市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎で栄養繁殖【散布形態】自散：夏【日本への侵入】120：1967年以前【県内への侵入】120：1991年以前【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】10,14,17,24,46,47,56,59,63,65,70,74,75【文献県内】66

種子植物	カタバミ科	影響度	緊急度	容易性
No.291	フヨウカタバミ	C	C	A
	<i>Oxalis variabilis</i> Jacq.			

【原産地】アフリカ南部【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】鴨川市、千葉市【生育状況】少ない
 【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎で栄養繁殖【散布形態】自散：夏【日本への侵入】120：1890年【県内への侵入】120：1991年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】17,46,47,56,61,62,63,65,69,70,74,92,99【文献県内】66

種子植物	フウロソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.292	ツノミオランダフウロ	D	C	A
	<i>Erodium botrys</i> (Cav.) Bertol.			

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州、【県内分布】市川市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草
 【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏【日本への侵入】240：1954年【県内への侵入】240：1954年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】9,16,24,47,56,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66,68

種子植物	フウロソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.293	オランダフウロ	D	C	B
	<i>Erodium cicutarium</i> (L.) L'Herit.			

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】本州、【県内分布】各地に散在【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草
 【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏【日本への侵入】240：江戸【県内への侵入】240：1967年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,77,88,92,99【文献県内】37,66,68

種子植物	フウロソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.294	ジャコウオランダフウロ	D	C	A
	<i>Erodium moschatum</i> (L.) L'Herit.			

【原産地】ユーラシア（広域）・アフリカ【国内分布】本州、四国、【県内分布】市川市【生育状況】極少
 【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏【日本への侵入】240：1957年【県内への侵入】240：1957年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,9,16,17,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】66

種子植物	フウロソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.295	アメリカフウロ	C	C	C
	<i>Geranium carolinianum</i> L.			

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・1年草
 【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏～秋【日本への侵入】210：1932年【県内への侵入】210：1981年以前【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	フウロソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.296	オトメフウロ	D	C	A
Geranium dissectum L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、【県内分布】南房総市【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏【日本への侵入】210：1950年以前【県内への侵入】210：2005年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,24,47,61,62,63,65,74,92【文献県内】、寺村敬子 2006. 印旛村岩戸でオトメフウロを確認.千葉県植物誌資料 21:167-169.

種子植物	フウロソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.297	チゴフウロ	D	C	A
Geranium pusillum L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、四国、【県内分布】富津市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏【日本への侵入】210：1932年【県内への侵入】210：1969年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,16,17,24,47,56,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】33,66

種子植物	フウロソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.298	ヒメフウロ	D	C	A
Geranium robertianum L.				

【原産地】ユーラシア、北米、南米【国内分布】本州、四国、【県内分布】主として北総に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：夏～秋【日本への侵入】120：日本原産【県内への侵入】120：1997年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,24,59,63【文献県内】66

種子植物	アマ科	影響度	緊急度	容易性
No.299	ヒメアマ	D	C	A
Linum bienne Miller.				

【原産地】中央アジア【国内分布】本州、【県内分布】八千代市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】220：1991年以前【県内への侵入】220：1991年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】-【文献県内】66

種子植物	アマ科	影響度	緊急度	容易性
No.300	キバナノマツバニンジン	B	B	B
Linum medium (Planch.) Britton				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】主として北総に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】220：1943年以前【県内への侵入】220：1907年以前【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,59,62,63,65,74,77,88,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	アマ科	影響度	緊急度	容易性
No.301	シュクコンアマ	D	C	A
	<i>Linum perenne</i> L.			

【原産地】欧州【国内分布】本州、【県内分布】我孫子市、印西市（旧印旛村）、市原市【生育状況】極少
 【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：明治
 【県内への侵入】120：1977年以前（1933年栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の
 広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全
 般】47,56,65,70,74,88【文献県内】37,66,68

種子植物	アマ科	影響度	緊急度	容易性
No.302	アマ	D	C	A
	<i>Linum usitatissimum</i> L.			

【原産地】中央アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】船橋市、千葉市【生育状況】極
 少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】110：江戸
 （元禄年間）【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培
 時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,21,24,47,56,59,63,65,69,70,74,92【文献県内】6
 6,68

種子植物	トウダイグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.303	ナガエコミカンソウ	C	C	B
	(syn. <i>Phyllanthus corcovadensis</i> Mull.Arg.)			

【原産地】インド洋マスカレーヌ諸島【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】主に北総西部に分布
 【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏～秋【日
 本への侵入】240：1987年【県内への侵入】240：2000年以前【侵入の影響】312【侵入対策】可能なかぎり
 在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監
 視と防止。【備考】-【文献全般】4,24,46,47,59,61,62,63,65,74【文献県内】12,66,大野景德 2000. 八千
 代市に帰化したハイキジムシロ、ナガエコミカンソウ、アメリカキカシグサ. 千葉県植物誌資料 15:108-10
 9.

種子植物	トウダイグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.304	オオバベニガシワ	D	C	B
	<i>Alchornea davidii</i> Franch.			

【原産地】中国南部【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】東京湾側都市部に散在【生育状況】極少
 【生活形】落葉低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：昭和30年
 代以前【県内への侵入】120：1985年以前植栽？【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広
 報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】
 8,10,47,63,70【文献県内】66

種子植物	トウダイグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.305	コニシキソウ	C	C	C
	<i>Chamaesyce maculata</i> (L.) Small			

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】極多【生活
 形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】210：1887年頃
 【県内への侵入】210：昭和初期以前【侵入の影響】212,321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、
 適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,5
 6,59,61,62,63,64,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,66

種子植物	トウダイグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.306	コバノニシキソウ	D	C	A
Chamaesyce makinoi (Hayata) H. Hara				

【原産地】中国・台湾・フィリピン【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】鴨川市【生育状況】極少
 【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】210：1951年以前【県内への侵入】210：1951年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,47,63,65,74【文献県内】66

種子植物	トウダイグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.307	オオニシキソウ	C	C	C
Chamaesyce nutans (Lag.) Small				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】210：1903年【県内への侵入】210：昭和10年代以前【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,77,88,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	トウダイグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.308	ハイニシキソウ	D	C	B
Chamaesyce prostrata (Aiton) Small				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】館山市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】210：1954年以前【県内への侵入】210：1959年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,88,99【文献県内】66

種子植物	トウダイグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.309	アレチニシキソウ	C	B	A
Chamaesyce sp. aff. prostrata (Aiton) Small				

【原産地】熱帯アメリカ【国内分布】関東以南？【県内分布】船橋市坪井町 八千代市高津，保品【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】220：-【県内への侵入】-：2009年【侵入の影響】212【侵入対策】-【備考】-【文献全般】-【文献県内】，木村陽子2009. 船橋市に出現したアレチニシキソウ. 千葉県植物誌資料25:246-247.

種子植物	トウダイグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.310	チャボタイゲキ	C	C	A
Euphorbia peplus L.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】東葛には散見する【生育状況】極少、
 【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1940年代【県内への侵入】210：2006年栽培？【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】16,24,46,47,56,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】，寺村敬子 2004. 佐倉市に帰化したチャボタイゲキ.千葉県植物誌資料 20:156.，木村陽子 2004. 流山市でもチャボタイゲキ出現.千葉県植物誌資料 20:156.

種子植物	トウダイグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.311	オガサワラコミカンソウ	D	C	A
Phyllanthus debilis Klein ex Willd.				

【原産地】インド? 【国内分布】本州、【県内分布】船橋市で一時帰化【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】240：1999年以前【県内への侵入】240：1999年以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】56,62,63,65,74,75,88【文献県内】66

種子植物	トウダイグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.312	トウゴマ	D	C	A
Ricinus communis L.				

【原産地】アフリカ北東部【国内分布】本州、四国、九州で栽培【県内分布】北総西部に散在【生育状況】極少【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：江戸【県内への侵入】110：昭和初期以前栽培? 【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,10,17,24,46,47,56,61,62,63,65,74,75,77,88,92【文献県内】66

種子植物	トウダイグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.313	ナンキンハゼ	B	B	B
Sapium sebiferum (L.) Roxb. (syn. Triadica sebifera (L.) Small)				

【原産地】中国【国内分布】北海道、本州、四国、九州で栽培【県内分布】北総西部に分布【生育状況】極少【生活形】夏緑・中高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：昭和初期以前栽培? 【侵入の影響】411,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,21,43,47,54,63,70,74,88,92【文献県内】12,66

種子植物	トウダイグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.314	アブラギリ	B	B	C
Vernicia cordata (Thunb.) Airy Shaw (syn. Aleurites cordata (Thunb.) R.Br. ex Stend.)				

【原産地】中国南部【国内分布】本州、四国、九州で栽培【県内分布】主に南総と安房に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：江戸【県内への侵入】110：昭和初期以前栽培? 【侵入の影響】411,212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】10,47,54,61,62,70,74,75,77,88,92【文献県内】12,35,66

種子植物	トウダイグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.315	オオアブラギリ	D	C	B
Vernicia fordii (Thunb.) Airy Shaw				

【原産地】中国南部【国内分布】本州、【県内分布】野田市【生育状況】極少【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：昭和初期【県内への侵入】110：昭和20年代栽培? 【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】アブラギリとされている場合があるかもしれない【文献全般】70,74,75【文献県内】66

種子植物	ミカン科	影響度	緊急度	容易性
No.316	ユズ	D	C	B
Citrus junos Siebold ex Tanaka				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】各地に散在【生育状況】極少【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋～冬【日本への侵入】110：江戸以前【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,70,88【文献県内】66

種子植物	ミカン科	影響度	緊急度	容易性
No.317	ナツダイダイ	D	C	B
Citrus natsudaikai Hayata				

【原産地】山口県（海岸漂着）【国内分布】本州、四国、九州、栽培【県内分布】南房総の丘陵に散在【生育状況】極少【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：冬【日本への侵入】110：江戸【県内への侵入】110：昭和（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,70【文献県内】66

種子植物	ミカン科	影響度	緊急度	容易性
No.318	ウンシュウミカン	D	C	A
Citrus unshu Marcovitch				

【原産地】鹿児島（中国から？）【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】富津市【生育状況】極少【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：冬【日本への侵入】110：江戸【県内への侵入】110：昭和【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,54,70【文献県内】66

種子植物	ミカン科	影響度	緊急度	容易性
No.319	イヌゴシュユ	D	C	A
Euodia danielli (Benn.) Hesml.				

【原産地】中国【国内分布】本州、【県内分布】船橋市【生育状況】極多【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：平成以前【県内への侵入】120：2001年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8【文献県内】66

種子植物	ミカン科	影響度	緊急度	容易性
No.320	ゴシュユ	D	C	A
Euodia ruticarpa (A.Juss.) Benth.				

【原産地】中国・ヒマラヤ【国内分布】本州【県内分布】北総に散在【生育状況】極少【生活形】落葉低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,9,24,43,54,59,62,63,74,77,88【文献県内】35,66

種子植物	ミカン科	影響度	緊急度	容易性
No.321	ナガキンカン	D	C	A
Fortunella margarita Swingle				

【原産地】中国？栽培由来【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】船橋市【生育状況】極少【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：冬【日本への侵入】110：江戸【県内への侵入】110：昭和以前、栽培【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,70【文献県内】66

種子植物	ミカン科	影響度	緊急度	容易性
No.322	オオバノキハダ	D	C	A
Phellodendron amurense Rupr. var. japonicum (Maxim.) Ohwi				

【原産地】本州(関東・中部)【国内分布】関東・中部【県内分布】船橋市【生育状況】在来種の国内帰化？極少【生活形】落葉低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】110：日本原産【県内への侵入】110：2000年以前【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54【文献県内】66

種子植物	ミカン科	影響度	緊急度	容易性
No.323	カラタチ	D	C	B
Poncirus trifoliata (L.) Rafin.				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州(栽培)【県内分布】全県に散在【生育状況】極少【生活形】落葉低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：冬【日本への侵入】120：奈良【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,70【文献県内】66

種子植物	ニガキ科	影響度	緊急度	容易性
No.324	ニワウルシ	C	B	B
Ailanthus altissima (Miller) Swingle				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州(栽培)【県内分布】北総に散在【生育状況】極少【生活形】落葉高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：昭和以前【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,24,47,56,59,63,70,73,74,75,77,88【文献県内】12,35,66

種子植物	センダン科	影響度	緊急度	容易性
No.325	チャンチン	D	C	A
Cedrela sinensis A.Juss. (syn. Toona sinensis (A.Juss.) Roem.)				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州(栽培)【県内分布】千葉市【生育状況】極少【生活形】落葉高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：1920年代以前【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,9,62,63,73,74,75,77,88【文献県内】66

種子植物	センダン科	影響度	緊急度	容易性
No.326	センダン	C	C	C
Melia azedarach L. var. subtripinnata Miq.				

【原産地】ヒマラヤ、日本【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】市川・船橋でよく逸出、有毒、少ない【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：春～秋【日本への侵入】120：日本原産？【県内への侵入】120：1930年代以前【侵入の影響】420,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,9,24,56,59,63,75,88【文献県内】12,35,66

種子植物	ヒメハギ科	影響度	緊急度	容易性
No.327	ハリヒメハギ	C	C	B
Polygala ambigua Nutt.				

【原産地】北米【国内分布】千葉県、神奈川県【県内分布】主として北総中央に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】220：1931年以前【県内への侵入】220：1931年以前【侵入の影響】420【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】16,24,47,62,63,65,74,77,92【文献県内】12,66,68

種子植物	ヒメハギ科	影響度	緊急度	容易性
No.328	クルマバヒメハギ	C	C	B
Polygala verticillata L.				

【原産地】北米【国内分布】千葉県【県内分布】主として北総中央に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】220：1976年【県内への侵入】220：1976年以前【侵入の影響】420【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】47,62,63,65【文献県内】66

種子植物	ウルシ科	影響度	緊急度	容易性
No.329	リュウキュウハゼ	C	B	C
Rhus succedanea L.				

【原産地】中国、ヒマラヤ【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】少ない【生活形】落葉高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：冬【日本への侵入】110：江戸【県内への侵入】110：1930年代以前【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,9,24,56,59,63,75,88【文献県内】12,66

種子植物	ウルシ科	影響度	緊急度	容易性
No.330	ウルシ	D	C	B
Rhus verniciflua Stokes				

【原産地】中国、日本？【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県の丘陵に分布【生育状況】少ない【生活形】落葉低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：冬【日本への侵入】110：奈良【県内への侵入】110：1920年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,9,10,54,59,63,77,88【文献県内】12,35,66

種子植物	カエデ科	影響度	緊急度	容易性
No.331	トウカエデ	D	C	B
Acer buergerianum Miq.				

【原産地】中国【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総の都市部に分布【生育状況】極少【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：1950年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,24,56,59,63,74,88,92【文献県内】12,66

種子植物	ムクロジ科	影響度	緊急度	容易性
No.332	フウセンカズラ	D	C	B
Cardiospermum halicacabum L.				

【原産地】全世界の熱帯【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：1920年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,21,24,46,56,59,62,63,64,69,74,75,88,92【文献県内】35,66

種子植物	ムクロジ科	影響度	緊急度	容易性
No.333	モクゲンジ	D	C	A
Koelreuteria paniculata Laxm.				

【原産地】中国、朝鮮半島【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】南総に散在【生育状況】極少【生活形】落葉高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：江戸以前【県内への侵入】120：1990年代以前【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,24,63,75,88【文献県内】66

種子植物	ムクロジ科	影響度	緊急度	容易性
No.334	ムクロジ	D	C	B
Sapindus mukorossi Gaertn.				

【原産地】中国、東南アジア、インド【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全県に分布【生育状況】極少【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散、食散：秋【日本への侵入】110：奈良【県内への侵入】110：1920年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,70【文献県内】66

種子植物	ツリフネソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.335	アカボシツリフネ	A	A	A
Impatiens capensis Meerb.				

【原産地】北米【国内分布】千葉県【県内分布】野田市【生育状況】多い、利根運河などで大群落【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散：秋【日本への侵入】120：1992年以前（千葉）【県内への侵入】120：1992年以前【侵入の影響】212,繁殖力強く、大型になるので、他の湿生植物を駆逐？【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】47,63,65【文献県内】66

種子植物	ニシキギ科	影響度	緊急度	容易性
No.336	マサキ	D	C	C
<i>Euonymus japonicus</i> Thunb. var. <i>japonicus</i>				

【原産地】北海道、本州、四国、九州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総西部に分布
 【生育状況】少ない【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：冬【日本への侵入】120：日本原産【県内への侵入】120：明治以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,70【文献県内】66

種子植物	ツゲ科	影響度	緊急度	容易性
No.337	フッキソウ	D	C	A
<i>Pachysandra terminalis</i> Siebold et Zucc.				

【原産地】北海道、本州、四国、九州【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】八街市
 【生育状況】極少【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】食散：秋～冬【日本への侵入】120：日本原産【県内への侵入】120：平成以前（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】逸出しているのは栽培型、分類学的に問題あり【文献全般】4,24,42,56,70,73,88【文献県内】66

種子植物	シナノキ科	影響度	緊急度	容易性
No.338	ツナソ	D	C	B
<i>Corchorus capsularis</i> L.				

【原産地】インド、中国南部【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】南房総市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：明治以前【県内への侵入】110：1940年代以前（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】63,65,88【文献県内】66

種子植物	シナノキ科	影響度	緊急度	容易性
No.339	タイワンツナソ	D	C	A
<i>Corchorus olitorius</i> L.				

【原産地】インド【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】市川市、松戸市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：明治以前【県内への侵入】110：1980年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】野菜名モロヘイヤ【文献全般】9,10,46,56,61,62,63,64,65,74,88,92【文献県内】66

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.340	イチビ	B	B	B
<i>Abutilon theophrasti</i> Medik.				

【原産地】インド【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】極多【生活形】夏緑・草本【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】240：江戸以前【県内への侵入】240：1930年代以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,10,16,17,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,73,74,75,77,88,92【文献県内】35,66,68

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.341	ニシキアオイ	D	C	A
Anoda hastata Cav.				

【原産地】メキシコ・南米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】佐倉市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：昭和以前【県内への侵入】120：1998年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】10,24,46,47,56,61,63,65,69,73,74,92【文献県内】、大野景德・竹内美亀 1999. ニシキアオイを八千代市上高野に採る.千葉県植物誌資料 14:100.

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.342	アオイツナソ	D	C	A
Hibiscus cannabinus L.				

【原産地】アフリカ【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】船橋市【生育状況】栽培植物、極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：平成以前(栽培)【県内への侵入】110：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】別名ケナフ【文献全般】63,74【文献県内】66

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.343	モミジアオイ	D	C	A
Hibiscus coccineus Walt.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州(栽培)【県内分布】船橋市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1870年代【県内への侵入】120：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】47,56,61,63,65,69,73,74,88【文献県内】35,66

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.344	フヨウ	D	C	B
Hibiscus mutabilis L.				

【原産地】中国、四国、九州に自生【国内分布】北海道、本州、四国、九州(栽培)【県内分布】全県に散在【生育状況】少ない【生活形】落葉低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：日本原産【県内への侵入】120：明治以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,9,24,59,61,63,69,74,88【文献県内】35,66

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.345	ムクゲ	D	C	B
Hibiscus syriacus L.				

【原産地】中国・インド・朝鮮半島【国内分布】北海道、本州、四国、九州(栽培)【県内分布】全県に散在【生育状況】極少【生活形】落葉低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：安土桃山【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,14,21,24,43,47,56,59,61,62,63,65,69,70,74,75,77,88,92【文献県内】35,66

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.346	ギンセンカ	D	C	B
Hibiscus trionum L.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総に散在【生育状況】少ない
 【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】鑑賞用として江戸時代に、120,240：江戸【県内への侵入】120,240：昭和30年代以前【侵入の影響】321【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.347	ゼニバアオイ	C	C	B
Malva neglecta Wallr.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1958年以前【県内への侵入】240：1980年代【侵入の影響】212【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,47,59,61,62,63,65,73,74,92,99【文献県内】66

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.348	ウサギアオイ	C	C	B
Malva parviflora L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1948年【県内への侵入】240：1970年代以降【侵入の影響】212,321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,92,99【文献県内】66,68

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.349	ハイアオイ	D	C	B
Malva rotundifolia L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：昭和以前【県内への侵入】240：1980年代以前【侵入の影響】212【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,4,14,16,17,21,46,56,59,61,62,63,70,74,88,92,99【文献県内】66

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.350	ゼニアオイ	D	C	B
Malva sylvestris L. var. mauritiana (L.) Boiss.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：1930年代以前(栽培)【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,69,70,73,74,77,88,92,99【文献県内】12,35,66

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.351	フユアオイ	D	C	B
	<i>Malva verticillata</i> L.			

【原産地】東アジア【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】中程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110,240：平安【県内への侵入】110,240：1930年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり。可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】16,21,24,46,47,56,61,62,63,65,70,73,74,77,88,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.352	キクノハアオイ	D	C	A
	<i>Modiola caroliniana</i> G.Don			

【原産地】北米～熱帯米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】勝浦市・南房総市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：秋【日本への侵入】240：1913年以前【県内への侵入】240：1996年以前【侵入の影響】420,212【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】16,24,46,47,56,59,62,63,64,65,74,75,77,92,99【文献県内】69,野口昭造 1996. 勝浦市行川アイランドに帰化したキクノハアオイ.千葉県植物誌資料 8:52-53.

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.353	ヤノネボンテンカ	D	C	A
	<i>Pavonia hastata</i> Cav.			

【原産地】南米【国内分布】本州、四国、九州(栽培)、本州(神奈川県・千葉県)逸出【県内分布】江戸川河原にも、柏市、松戸市、千葉市【生育状況】極少【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：昭和以前(栽培)【県内への侵入】120：1990年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,9,24,47,59,63,65,74,75【文献県内】66

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.354	ホソバキンゴジカ	D	C	A
	<i>Sida acuta</i> Burn. f.			

【原産地】熱帯アジア～亜熱帯【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】柏市、八街市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：戦後【県内への侵入】240：昭和以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】10,16,46,47,56,61,62,63,64,65,74,75,77,92,99【文献県内】66

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.355	キンゴジカ	D	C	A
	<i>Sida rhombifolia</i> L.			

【原産地】熱帯（全世界）【国内分布】小笠原、四国、九州【県内分布】柏市、佐倉市、山武市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：秋【日本への侵入】240：日本原産【県内への侵入】240：1980年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】9,10,16,17,24,46,56,59,62,63,64,73,74,75,77,88【文献県内】66,68

種子植物	アオイ科	影響度	緊急度	容易性
No.356	アメリカキンゴジカ	C	C	B
<i>Sida spinosa</i> L.				

【原産地】北米～熱帯米【国内分布】本州【県内分布】全県に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：夏【日本への侵入】240：1950年以前【県内への侵入】240：1950年以前【侵入の影響】420【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	アオギリ科	影響度	緊急度	容易性
No.357	アオギリ	D	C	B
<i>Firmiana simplex</i> (L.) W.F.Wight				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全県に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,24,43,54,70,88【文献県内】66,68

種子植物	スミレ科	影響度	緊急度	容易性
No.358	ヒゴスミレ	D	C	A
<i>Viola chaerophyllioides</i> (Regel) W.Becker form. <i>sieboldiana</i> (Maxim.) F.Maek. et T.Hashim.				

【原産地】本州、四国、九州【国内分布】本州、四国、九州、千葉県は逸出【県内分布】柏市、市原市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫+自媒【散布形態】自散+食散：夏～秋【日本への侵入】120：日本原産【県内への侵入】120：戦後【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】3,24,70,88【文献県内】66,68

種子植物	スミレ科	影響度	緊急度	容易性
No.359	ニオイスミレ	D	C	A
<i>Viola odorata</i> L.				

【原産地】欧州南部～西アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総に散在【生育状況】少ない【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫+自媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】自散+食散：夏～秋【日本への侵入】120：1900年頃【県内への侵入】120：1930年代以前（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,2,9,24,24,46,47,56,59,61,61,62,62,63,65,69,69,74,88,88,92,92,99【文献県内】66

種子植物	スミレ科	影響度	緊急度	容易性
No.360	アメリカスミレサイシン	C	C	B
<i>Viola sororia</i> Willd.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総西部に分布【生育状況】少ない【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫+自媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】自散+食散：夏～秋【日本への侵入】120：1989年以前【県内への侵入】120：1990年代以前【侵入の影響】212,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,2,4,4,21,21,24,59,63,65,66,74,92【文献県内】66

種子植物	スマレ科	影響度	緊急度	容易性
No.361	サンシキスマレ	D	C	B
<i>Viola tricolor</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総・南総に散在【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫+自媒【散布形態】自散+食散：夏【日本への侵入】120：1860年頃【県内への侵入】120：1920年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,2,21,21,24,24,47,59,61,61,63,65,69,69,74,88,92【文献県内】66

種子植物	スマレ科	影響度	緊急度	容易性
No.362	フィリゲジスマレ	D	C	A
<i>Viola variegata</i> Fisch. var. <i>variegata</i>				

【原産地】朝鮮半島【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】我孫子市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫+自媒【散布形態】自散+食散：夏~秋【日本への侵入】120：昭和以前【県内への侵入】120：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,24,63,74【文献県内】66

種子植物	トケイソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.363	クサトケイソウ	D	C	A
<i>Passiflora foetida</i> L. var. <i>hispida</i> (DC.) Killip.				

【原産地】南米【国内分布】本州（小笠原）、九州【県内分布】船橋市に一時帰化【生育状況】極少【生活形】夏緑・つる1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】250：1966年【県内への侵入】250：1991年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】46,62,63,64,74,75,92【文献県内】66

種子植物	シュウカイドウ科	影響度	緊急度	容易性
No.364	シュウカイドウ	D	C	B
<i>Begonia grandis</i> Dryand. (syn. <i>B. evansiana</i> Andrews)				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】各地に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、珠芽で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：江戸以前【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,24,46,47,56,59,63,65,74,88,92【文献県内】12,66,68

種子植物	ウリ科	影響度	緊急度	容易性
No.365	アレチウリ	A	A	A
<i>Sicyos angulatus</i> L.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】極多【生活形】夏緑・つる1年草本【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】水散、着散：秋【日本への侵入】240：1952年【県内への侵入】240：昭和30年代以前【侵入の影響】212,312,322,411,420【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】特定外来生物【文献全般】2,4,9,14,16,17,21,24,46,47,56,61,62,63,74,88,92,99【文献県内】35,66

種子植物	ミソハギ科	影響度	緊急度	容易性
No.366	ナンゴクヒメミソハギ	B	B	A
<i>Ammannia auriculata</i> Willd.				

【原産地】北米・アジア・アフリカの熱帯【国内分布】本州、九州【県内分布】南房総市・館山市【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1968年【県内への侵入】240：1937年以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。
【備考】-【文献全般】9,24,46,47,59,61,62,63,65,74,75,92【文献県内】66

種子植物	ミソハギ科	影響度	緊急度	容易性
No.367	シマミソハギ	C	C	A
<i>Ammannia baccifera</i> L. (syn. <i>Ammannia discolor</i> Nakai)				

【原産地】熱帯アジア【国内分布】本州【県内分布】船橋市・市原市・富里市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散、水散：秋【日本への侵入】240：戦後【県内への侵入】240：1991年以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】別名ナガトミソハギ【文献全般】14,46,56,61【文献県内】12,66

種子植物	ミソハギ科	影響度	緊急度	容易性
No.368	ホソバヒメミソハギ	B	B	B
<i>Ammannia coccinea</i> Rottb. subsp. <i>purpurea</i> Koehne				

【原産地】アメリカ大陸【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散、水散：秋【日本への侵入】240：1952年【県内への侵入】240：1980年代以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】4,9,10,16,17,21,24,46,56,59,61,62,63,64,65,74,75,92,99【文献県内】12,66

種子植物	ミソハギ科	影響度	緊急度	容易性
No.369	サルスベリ	D	C	B
<i>Lagerstroemia indica</i> L.				

【原産地】インド・中国南部・東南アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総・南総西部に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・亜高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,69,70【文献県内】66

種子植物	ミソハギ科	影響度	緊急度	容易性
No.370	コメバミソハギ	D	C	A
<i>Lythrum hyssopifolia</i> L.				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、四国【県内分布】流山市【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】240：1960年【県内への侵入】240：2006年【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】9,10,14,17,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】木村陽子・引田園子・関口晋太郎 2007. 流山市に出現したヒナツメクサとコメバミソハギ. 千葉県植物誌資料 22:191-194., 木村陽子 2007. コメバミソハギの初出文献. 千葉県植物誌資料 23:199.

種子植物	ミソハギ科	影響度	緊急度	容易性
No.371	アメリカキカシグサ	C	B	B
	<i>Rotala ramosior</i> (L.) Koehne			

【原産地】熱帯米【国内分布】神奈川県・千葉県【県内分布】北総西部【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】240：1997年【県内への侵入】240：1999年【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】24,47,59,61,63,65,74【文献県内】34,69,大野景德 2000. 八千代市に帰化したハイキジムシロ, ナガエコミカンソウ, アメリカキカシグサ.千葉県植物誌資料 15:108-109.,62,30

種子植物	ザクロ科	影響度	緊急度	容易性
No.372	ザクロ	D	C	A
	<i>Punica granatum</i> L.			

【原産地】小アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総・南総の市街地に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・亜高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：平安【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,56,70,87【文献県内】66

種子植物	アカバナ科	影響度	緊急度	容易性
No.373	ヒレタゴボウ	B	B	B
	<i>Ludwigia decurrens</i> Walt.			

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、四国【県内分布】主として北総西部に分布【生育状況】極多【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】水散：秋【日本への侵入】240：1955年【県内への侵入】240：1980年代以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】9,10,16,17,21,24,42,46,47,56,59,61,62,63,65,72,92,99【文献県内】12,66

種子植物	アカバナ科	影響度	緊急度	容易性
No.374	アメリカミズユキノシタ	B	A	A
	<i>Ludwigia repens</i> J.R.Forst.			

【原産地】北米？熱帯アジア？【国内分布】京都府～千葉県【県内分布】八千代市【生育状況】少ない【生活形】常緑・多年草（水槽内）【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】130：1970年頃【県内への侵入】130：2007年以前【侵入の影響】321【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】23,24,47,61,62,63,65,74,92【文献県内】倉俣武男 2007. アメリカミズユキノシタ,千葉県に出現.千葉県植物誌資料 23:202.

種子植物	アカバナ科	影響度	緊急度	容易性
No.375	メマツヨイグサ	B	C	C
	<i>Oenothera biennis</i> L.			

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1920年代【県内への侵入】120：1950年代以前【侵入の影響】420,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,46,47,56,59,61,62,63,65,74,77,88,92,99【文献県内】12,38,66,68

種子植物	アカバナ科	影響度	緊急度	容易性
No.376	オオマツヨイグサ	C	C	B
<i>Oenothera erythrosepala</i> Borbs				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1870年頃【県内への侵入】120：1930年代以前【侵入の影響】420,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】35,66,68

種子植物	アカバナ科	影響度	緊急度	容易性
No.377	コマツヨイグサ	B	C	C
<i>Oenothera laciniata</i> Hill				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】230：1914年以前【県内への侵入】230：1950年代以前【侵入の影響】420,212【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,10,14,16,17,21,24,42,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,66,68,96

種子植物	アカバナ科	影響度	緊急度	容易性
No.378	ユウゲシヨウ	C	C	B
<i>Oenothera rosea</i> Ait.				

【原産地】アメリカ大陸【国内分布】本州、四国【県内分布】主として北総西部に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：明治（栽培）【県内への侵入】120：1990年代以前【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,16,17,21,24,46,47,56,61,62,63,64,65,74,75,92,99【文献県内】12,35,66,68,68

種子植物	アカバナ科	影響度	緊急度	容易性
No.379	ヒルザキツキミソウ	C	C	B
<i>Oenothera speciosa</i> Nutt.				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主として北総西部に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】120：1957年以前（栽培）【県内への侵入】120：1950年代以前【侵入の影響】420,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,75,88,92,99【文献県内】12,66

種子植物	アカバナ科	影響度	緊急度	容易性
No.380	マツヨイグサ	C	C	C
<i>Oenothera striata</i> Ledeb. ex. Link				

【原産地】南米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：1920年代以前【侵入の影響】420,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,62,63,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	アカバナ科	影響度	緊急度	容易性
No.381	ツキミソウ	D	C	A
<i>Oenothera tetraptera</i> Cav.				

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】市原市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：江戸末期(栽培)【県内への侵入】120：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】16,17,24,47,56,61,62,63,65,69,74,77,88,92,99【文献県内】-

種子植物	ヒシ科	影響度	緊急度	容易性
No.382	トウビシ	D	C	A
<i>Trapa bispinosa</i> Roxb.				

【原産地】インド～中国？【国内分布】本州【県内分布】八千代市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・浮葉1年水草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】水散：秋【日本への侵入】110：昭和以前【県内への侵入】110：1994年以前【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】23【文献県内】66

種子植物	アリノトウグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.383	オオフサモ	A	A	A
<i>Myriophyllum aquaticum</i> (Vell.) Veldc.				

【原産地】ブラジル【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】多い【生活形】夏緑・水草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、枝がちぎれて栄養繁殖【散布形態】水散：秋【日本への侵入】130：大正【県内への侵入】130：1960年代以前【侵入の影響】212,322【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】特定外来生物【文献全般】2,4,9,10,14,17,21,23,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,92,99【文献県内】35,66,68

種子植物	ウコギ科	影響度	緊急度	容易性
No.384	ヒメウコギ	C	C	B
<i>Eleutherococcus sieboldianus</i> (Makino) Nakai				

【原産地】中国【国内分布】本州【県内分布】全県に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：夏～秋【日本への侵入】110：江戸以前【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,14,24,43,54,70,88【文献県内】66,68

種子植物	ウコギ科	影響度	緊急度	容易性
No.385	カナリーキツタ	D	C	A
<i>Hedera canariensis</i> Willd.				

【原産地】カナリー諸島【国内分布】北海道、本州、四国、九州（室内栽培）【県内分布】-【生育状況】極少【生活形】常緑・藤本【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：昭和（栽培導入）【県内への侵入】120：昭和（栽培導入）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】70【文献県内】-

種子植物	ウコギ科	影響度	緊急度	容易性
No.386	セイヨウキツタ	D	C	A
Hedera helix L.				

【原産地】欧州・北アフリカ【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】東京湾岸市街地に散在【生育状況】極少【生活形】常緑・藤本【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：1980年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,54,63,70【文献県内】66

種子植物	ウコギ科	影響度	緊急度	容易性
No.387	カミヤツデ	D	C	A
Tetrapanax papyrifer K.Koch				

【原産地】中国・台湾【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】南総・安房に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：1940年代以前（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,24,54,59,62,74,75,91【文献県内】66

種子植物	セリ科	影響度	緊急度	容易性
No.388	ドクゼリモドキ	D	C	A
Ammi majus L.				

【原産地】欧州南部【国内分布】本州、四国【県内分布】船橋市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1953年以前【県内への侵入】240：1970年代以前【侵入の影響】観賞用・皮膚炎をおこす【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】10,16,17,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66,68,96,97

種子植物	セリ科	影響度	緊急度	容易性
No.389	ノハラジャク	C	C	A
Anthriscus vulgaris Pers. (syn. A. caucalis M.Bieb.)				

【原産地】欧州・西アジア・北アフリカ【国内分布】本州、四国【県内分布】八千代市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】240：1969年【県内への侵入】240：1998年以前【侵入の影響】212【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】4,9,10,17,21,24,46,47,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66

種子植物	セリ科	影響度	緊急度	容易性
No.390	オランダミツバ	D	C	A
Apium graveolens L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】鴨川市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】110：江戸【県内への侵入】110：1930年代以前（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】10,24,47,56,58,61,63,65,74,88,92【文献県内】66

種子植物	セリ科	影響度	緊急度	容易性
No.391	マツバゼリ	C	C	B
Ciclospermum leptophyllum (Pers.) Sprague ex Britton et E.H.Wilson (syn. Apium leptophyllum (Pers.) F.Muell. ex Benth.)				

【原産地】エジプト・熱帯米? 【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】市川市・千葉市・市原市・鴨川市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1893年【県内への侵入】210：1950年代以前【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,75,92,99【文献県内】66

種子植物	セリ科	影響度	緊急度	容易性
No.392	ドクニンジン	A	A	A
Conium maculatum L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州【県内分布】船橋市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：1959年【県内への侵入】120：1950年代以前（栽培）【侵入の影響】有毒,311【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,9,10,16,17,46,47,56,61,62,63,65,74【文献県内】66

種子植物	セリ科	影響度	緊急度	容易性
No.393	コエンドロ	D	C	A
Coriandrum sativum L.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】富津市、柏市、市川市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】110：江戸【県内への侵入】110：1950年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,88【文献県内】6,35,66,68

種子植物	セリ科	影響度	緊急度	容易性
No.394	ノラニンジン	C	C	B
Daucus carota L.				

【原産地】欧州・アフガニスタン【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総西部に分布【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：夏【日本への侵入】240：1929年以前【県内への侵入】240：1930年代以前【侵入の影響】212【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】66,68

種子植物	セリ科	影響度	緊急度	容易性
No.395	ウイキョウ	D	C	A
Foeniculum vulgare Mill.				

【原産地】地中海沿岸・西アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総西部に分布【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：1920年代以前（剤倍）【侵入の影響】212,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,42,46,47,56,57,59,61,62,63,65,74,87,88,92【文献県内】66

種子植物	セリ科	影響度	緊急度	容易性
No.396	ウチワゼニクサ	B	B	A
Hydrocotyle verticillata Thunb. var. triradiata (A.Rich.) Fernald				

【原産地】北米西部【国内分布】本州【県内分布】佐倉市（印旛沼）【生育状況】多い【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】水散：夏【日本への侵入】130：1960年代【県内への侵入】130：1990年代以前【侵入の影響】212,322【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,47,61,63,65,74,92【文献県内】12,66

種子植物	セリ科	影響度	緊急度	容易性
No.397	オランダゼリ	D	C	B
Petroselinum hortense Hoffm. (syn.)				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】市原市【生育状況】少ない【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型・虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】110：江戸【県内への侵入】110：1930年代以前（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】別名パセリ【文献全般】24,58,59,61,63,65,74,92【文献県内】66

種子植物	ツツジ科	影響度	緊急度	容易性
No.398	オオムラサキ	C	C	B
Rhododendron pulchrum Sweet				

【原産地】日本（交雑種）【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全県に栽培【生育状況】多い【生活形】連緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：江戸（交雑）【県内への侵入】120：明治【侵入の影響】100,211【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,69,70【文献県内】66

種子植物	サクラソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.399	アカバナリハコベ	D	C	A
Anagallis arvensis L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】富津市、佐倉市、市川市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】240,120：江戸（栽培）【県内への侵入】240,120：1995年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,9,10,14,24,46,47,56,59,61,63,65,74,99【文献県内】12,66

種子植物	カキノキ科	影響度	緊急度	容易性
No.400	カキノキ	C	C	C
Diospyros kaki Thunb.				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】110：弥生【県内への侵入】110：弥生～室町【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,43,57,63,70【文献県内】66,68

種子植物	カキノキ科	影響度	緊急度	容易性
No.401	マメガキ	D	C	B
Diospyros lotus L.				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主として南総丘陵地に分布【生育状況】極少
 【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】110：弥生
 【県内への侵入】110：弥生～室町【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,70,73,88【文献県内】66

種子植物	モクセイ科	影響度	緊急度	容易性
No.402	チョウセンレンギョウ	D	C	A
Forsythia koreana Nakai				

【原産地】朝鮮半島【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】市街地に散在【生育状況】極少
 【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：明治
 （導入）【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の
 広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全
 般】8,43,54,70【文献県内】66

種子植物	モクセイ科	影響度	緊急度	容易性
No.403	トネリコ	D	C	B
Fraxinus japonica Blume				

【原産地】本州【国内分布】本州（自生）【県内分布】北総・南総に散在【生育状況】極少【生活形】夏
 緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：日本原産【県内への
 侵入】120：1930年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検
 討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,24,43,54,70【文献
 県内】66

種子植物	モクセイ科	影響度	緊急度	容易性
No.404	トウネズミモチ	B	B	C
Ligustrum lucidum Aiton				

【原産地】中国【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】主として北総・南総の市街地
 に分布【生育状況】少ない【生活形】常緑・中高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋～
 冬【日本への侵入】152：明治初期【県内への侵入】152：1970年代以前【侵入の影響】212【侵入対策】公
 共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、地域個体群の遺伝的多様性を保持した種苗の植栽、方
 針策定。【備考】要注意外来生物（緑化植物）【文献全般】4,8,9,21,59,63,74,92【文献県内】12,66

種子植物	モクセイ科	影響度	緊急度	容易性
No.405	キンモクセイ	D	C	B
Osmanthus fragrans Lour. var. aurantiacus Makino				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】北総～南総の市街地に散在【生育状況】極少
 【生活形】常緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋～冬【日本への侵入】120：江
 戸（栽培）【県内への侵入】120：1930年代以前（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種
 問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文
 献全般】8,25,54,70,88【文献県内】66

種子植物	モクセイ科	影響度	緊急度	容易性
No.406	ギンモクセイ	D	C	A
<i>Osmanthus fragrans</i> Lour. var. <i>fragrans</i>				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総に散在【生育状況】極少【生活形】常緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋～冬【日本への侵入】120：江戸（栽培）【県内への侵入】120：1930年代以前（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】花は白く鋸歯がある【文献全般】-【文献県内】-

種子植物	モクセイ科	影響度	緊急度	容易性
No.407	ヒイラギモクセイ	D	C	A
<i>Osmanthus x fortunei</i> Carr.				

【原産地】中国（雑種起源？）【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総・南総に散在【生育状況】極少【生活形】常緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋～冬【日本への侵入】120：昭和以前（栽培）【県内への侵入】120：1930年代以前（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,70,88【文献県内】66

種子植物	リンドウ科	影響度	緊急度	容易性
No.408	ベニバナセンブリ	D	C	A
<i>Centaureum erythraea</i> Raf.				

【原産地】欧州？【国内分布】本州【県内分布】山武市・八街市【生育状況】中程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】240：1918年以前【県内への侵入】240：1990年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】9,10,14,24,47,56,59,62,63,65,70,74,92【文献県内】12,66

種子植物	リンドウ科	影響度	緊急度	容易性
No.409	ハナハマセンブリ	C	C	C
<i>Centaureum tenuiflorum</i> (Hoffmanns. et Link) Fritsch				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州【県内分布】北総西部【生育状況】中程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】240：1977年【県内への侵入】240：1980年代以前【侵入の影響】212【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】21,24,46,47,63,65,74,92【文献県内】12,66

種子植物	キョウチクトウ科	影響度	緊急度	容易性
No.410	キョウチクトウ	D	C	B
<i>Nerium oleander</i> L. var. <i>indicum</i> (Mill.) O.Deg et Greenwell				

【原産地】インド・ペルシャ【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全県市街地に散在【生育状況】極少【生活形】常緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：江戸（栽培）【県内への侵入】120：明治【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】10,24,43,47,54,59,61,62,63,69,70,74,77,88【文献県内】66

種子植物	キョウチクトウ科	影響度	緊急度	容易性
No.411	ツルニチニチソウ	B	B	B
Vinca major L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】極多【生活形】連緑・藤本【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：明治（導入）【県内への侵入】120：1930年代以前【侵入の影響】212,411,412【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,21,24,46,47,56,59,61,63,65,69,74,88,92【文献県内】12,66

種子植物	ガガイモ科	影響度	緊急度	容易性
No.412	ヤナギトウワタ	D	C	A
Asclepias tuberosa L.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】市原市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】120：昭和以前【県内への侵入】120：平成以前（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】-【文献県内】66

種子植物	アカネ科	影響度	緊急度	容易性
No.413	オオフタバムグラ	B	B	B
Diodia teres Walter				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】北総・南総の低地【生育状況】多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】220：1927年【県内への侵入】220：1950年代以前【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】4,9,10,16,17,21,24,46,56,59,62,63,65,74,77,88,92,99【文献県内】66,68

種子植物	アカネ科	影響度	緊急度	容易性
No.414	メリケンムグラ	D	C	A
Diodia virginiana L.				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】野田市・香取市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】220：1953年以前【県内への侵入】220：1997年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】9,10,16,17,21,24,46,47,62,63,65,74,92,99【文献県内】66

種子植物	アカネ科	影響度	緊急度	容易性
No.415	シラホシムグラ	A	A	A
Galium aparine L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州・四国【県内分布】江戸川流域に多産し、河原の在来植物を駆逐する。【生育状況】極多【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：夏【日本への侵入】-：1995年香川県【県内への侵入】-：2007年以前【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】植村修二・水田光雄・藤平明（2004）日本に帰化したシラホシムグラ（新称）.帰化植物写真ニュース4:全ニ協（東京）【文献県内】、木村陽子・小土井智行 2008. シラホシムグラ(アカネ科)が、千葉県江戸川流域に多産. 千葉県植物誌資料 24:230-232.

種子植物	アカネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 416	ミナトムグラ	D	C	A
Galium tricornutum Dandy (syn. Galium tricornis Stokes)				

【原産地】地中海沿岸・西アジア【国内分布】本州【県内分布】富津市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・草本【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散、着散：夏【日本への侵入】240：1951年【県内への侵入】240：1992年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】46,47,56,61,63,65,74【文献県内】66

種子植物	アカネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 417	クチナシ	D	C	B
Gardenia jasminoides Ellis				

【原産地】本州、四国、九州（自生）、中国・ベトナム【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】各地に散在【生育状況】極少【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】自生：日本原産【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,70【文献県内】66

種子植物	アカネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 418	タマザキフタバムグラ	C	C	A
Hedyotis corymbosa (L.) Lam.				

【原産地】東南アジア～インド【国内分布】千葉県【県内分布】船橋市に一時帰化【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】250：1992年以前【県内への侵入】250：1992年以前【侵入の影響】212【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】24,59,61,62,63,65,74,75【文献県内】66

種子植物	アカネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 419	ハシカグサモドキ	D	C	A
Richardia scabra L.				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】銚子市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】230：1956年以前【県内への侵入】230：1956年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】10,16,46,47,56,61,62,63,65,74,75,99【文献県内】66,68

種子植物	アカネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 420	ハクチョウゲ	D	C	B
Serissa japonica (Thunb.) Thunb.				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】北総・南総西部に散在【生育状況】極少【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,9,43,56,88【文献県内】66

種子植物	アカネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 421	ハナヤエムグラ	C	C	B
<i>Sherardia arvensis</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国【県内分布】主として北総・南総西部に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】220：1957年【県内への侵入】220：1980年以前【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】12,39,66,68

種子植物	アカネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 422	アメリカハリフタバ	D	C	A
<i>Spermacoce glabra</i> Michx.				

【原産地】北米【国内分布】本州（千葉県）、九州【県内分布】南房総市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】230：1952年以前【県内への侵入】230：1952年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】16,24,47,56,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66,68

種子植物	ヒルガオ科	影響度	緊急度	容易性
No. 423	ツレザキヒルガオ	D	C	A
<i>Calystegia fraternifolia</i> (Mackenzie et Busch) Burmon.				

【原産地】北米【国内分布】千葉県【県内分布】市川市【生育状況】極少【生活形】夏緑・つる植物【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1968年以前【県内への侵入】240：1968年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】63,74【文献県内】47,68,小松崎一雄（1976）ツレザキヒルガオを千葉県市川市で採る 植物採集ニュース(49):18.

種子植物	ヒルガオ科	影響度	緊急度	容易性
No. 424	セイヨウヒルガオ	D	C	B
<i>Convolvulus arvensis</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総西部に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・つる多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】230：1945年以前【県内への侵入】230：1957年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,88,92,99【文献県内】35,66,68

種子植物	ヒルガオ科	影響度	緊急度	容易性
No. 425	アメリカネナシカズラ	B	B	B
<i>Cuscuta campestris</i> Yuncker				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総と南総海岸部に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・つる1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】240：1970年以前【県内への侵入】240：1955年以前【侵入の影響】321,411(寄生)【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,10,17,21,24,46,47,59,62,63,65,74,75,88,92,99【文献県内】12,66

種子植物	ヒルガオ科	影響度	緊急度	容易性
No. 426	カロリナアオイゴケ	C	C	B
<i>Dichondra repens</i> Forst. var. <i>carolinensis</i> Chois.				

【原産地】北米南部【国内分布】本州、四国【県内分布】北総と南総の市街地に散在【生育状況】中程度
 【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】150：1955年頃【県内への侵入】150：1991年以前【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、公共事業などにおける方針策定【備考】グランドカバーで使われているものは、アオイゴケそのものの可能性がある。【文献全般】24,47,56,59,61,63,65,74,92【文献県内】12,66

種子植物	ヒルガオ科	影響度	緊急度	容易性
No. 427	サツマイモ	D	C	A
<i>Ipomoea batatas</i> (L.) Poir.				

【原産地】中米【国内分布】北海道、本州、四国、九州(栽培)【県内分布】全県で栽培【生育状況】極少(逸出)【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、球根で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：江戸(栽培)【県内への侵入】110：江戸(栽培)【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】56【文献県内】66

種子植物	ヒルガオ科	影響度	緊急度	容易性
No. 428	マルバルコウ	D	C	B
<i>Ipomoea coccinea</i> L. (syn. <i>Quamoclit coccinea</i> (L.) Moench)				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主として北総西部に分布【生育状況】少ない
 【生活形】夏緑・つる1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：1951年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	ヒルガオ科	影響度	緊急度	容易性
No. 429	アメリカアサガオ	C	C	B
<i>Ipomoea hederacea</i> (L.) Jacq.				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主として北総西部に分布【生育状況】少ない
 【生活形】夏緑・つる1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：江戸末期【県内への侵入】120：1987年以前【侵入の影響】212,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,61,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	ヒルガオ科	影響度	緊急度	容易性
No. 430	マルバアメリカアサガオ	C	C	B
<i>Ipomoea hederacea</i> (L.) Jacq. var. <i>integriuscula</i> A. Gray				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主として北総西部に分布【生育状況】少ない
 【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1971年以前【県内への侵入】120：1985年以前【侵入の影響】212,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,59,61,62,63,64,65,74,75,92,99【文献県内】12,66

種子植物	ヒルガオ科	影響度	緊急度	容易性
No.431	ノアサガオ	C	C	A
	<i>Ipomoea indica</i> (Burm.) Merrill			

【原産地】本州、四国、九州、台湾【国内分布】本州、四国、九州（自生）【県内分布】南房総市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・つる1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】自生：日本原産【県内への侵入】300：2003年以前【侵入の影響】イリオモテアサガオ．不用意に投棄すると発根して広がる可能性もあるということで要注意。420,212【侵入対策】温室効果ガスの排出抑制。生育状況モニタリング。【備考】-【文献全般】42,56,64【文献県内】66

種子植物	ヒルガオ科	影響度	緊急度	容易性
No.432	マメアサガオ	C	C	B
	<i>Ipomoea launosa</i> L.			

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主として北総西部に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・つる1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1955年以前【県内への侵入】240：1975年以前【侵入の影響】212【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,61,62,63,65,74,75,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	ヒルガオ科	影響度	緊急度	容易性
No.433	アサガオ	D	C	A
	<i>Ipomoea nil</i> (L.) Roth (syn. <i>Pharbitis nil</i> (L.) Choisy)			

【原産地】ヒマラヤ・インド・中国南部【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】主として北総西部に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・つる1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：平安（栽培）【県内への侵入】120：江戸（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,16,17,46,47,56,59,61,62,63,65,74,77,88,92【文献県内】66

種子植物	ヒルガオ科	影響度	緊急度	容易性
No.434	マルバアサガオ	D	C	B
	<i>Ipomoea purpurea</i> (L.) Roth			

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主として北総西部に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・つる1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：1934年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	ヒルガオ科	影響度	緊急度	容易性
No.435	ホシアサガオ	C	C	B
	<i>Ipomoea triloba</i> L.			

【原産地】南米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】柏市・市川市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・つる1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：戦後【県内への侵入】240：1952年以前【侵入の影響】212【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,64,65,74,75,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	ヒルガオ科	影響度	緊急度	容易性
No.436	モミジバルコウソウ	D	C	A
<i>Ipomoea x multifida</i> (Raf.) Shinnars (syn. <i>Ipomoea coccinea</i> L. x <i>quamoclit</i> L., <i>Quamoclit multifida</i> Raf.)				

【原産地】ルコウソウとマルバルコウソウの雑種【国内分布】本州【県内分布】富里市【生育状況】少ない
 【生活形】夏緑・つる1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：江戸（栽培）【県内への侵入】120：1991年以前（逸出）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,10,16,17,24,46,47,56,63,65,74,75【文献県内】66

種子植物	ヒルガオ科	影響度	緊急度	容易性
No.437	オキナアサガオ	D	C	A
<i>Jacquemontia tannifolia</i> Griseb.				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、九州【県内分布】柏市【生育状況】極少【生活形】夏緑・つる1年草
 【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1950年頃【県内への侵入】240：1980年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】4,9,10,16,17,24,46,47,56,59,62,63,64,65,74,75,92,99【文献県内】66

種子植物	ヒルガオ科	影響度	緊急度	容易性
No.438	ツタノハヒルガオ	D	C	A
<i>Merremia hederacea</i> (Burm.f.) Hallier f.				

【原産地】熱帯アジア【国内分布】本州【県内分布】船橋市に一時帰化【生育状況】極少【生活形】夏緑・つる1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】250：1945年【県内への侵入】250：1992年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】10,16,24,56,59,61,62,63,64,65,70,74,75,92,99【文献県内】66

種子植物	ムラサキ科	影響度	緊急度	容易性
No.439	アラゲムラサキ	D	C	A
<i>Amsinckia barbata</i> Greene				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国【県内分布】芝山町【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1948年以前【県内への侵入】220：1996年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,9,10,16,24,47,62,63,74,90,92,99【文献県内】66

種子植物	ムラサキ科	影響度	緊急度	容易性
No.440	トゲムラサキ	D	C	A
<i>Asperugo procumbens</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州【県内分布】千葉市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草
 【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1951年以前【県内への侵入】220：2002年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,10,16,46,47,56,62,63,65,74,92,99【文献県内】66

種子植物	ムラサキ科	影響度	緊急度	容易性
No. 441	シャゼンムラサキ	D	C	A
Echium Plantagineum L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州【県内分布】千葉市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】240：1963年以前【県内への侵入】240：2006年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】10,46,47,56,61,62,63,65,74【文献県内】-

種子植物	ムラサキ科	影響度	緊急度	容易性
No. 442	シベナガムラサキ	D	C	A
Echium vulgare L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国【県内分布】船橋市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】240：1958年以前【県内への侵入】240：1958年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,10,16,47,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66

種子植物	ムラサキ科	影響度	緊急度	容易性
No. 443	アレチムラサキ	D	C	A
Heliotropium crassavicum L.				

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】袖ヶ浦市【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】220：1971年【県内への侵入】220：1971年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】17,24,47,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】37,39,66,68

種子植物	ムラサキ科	影響度	緊急度	容易性
No. 444	ノムラサキ	D	C	A
Lappula squarrosa (Retz.) Dumort.				

【原産地】アジア～地中海沿岸【国内分布】北海道、本州、四国【県内分布】船橋市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散、着散：夏【日本への侵入】220：1929年【県内への侵入】220：1975年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】66,68

種子植物	ムラサキ科	影響度	緊急度	容易性
No. 445	イヌムラサキ	D	C	A
Lithospermum arvense L.				

【原産地】寒帯～温帯（広域）【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】八千代市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1950年以前【県内への侵入】220：1932年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】自生のもとの帰化のものがある【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,42,46,47,59,61,62,63,65,74,77,88,92,99【文献県内】12,66

種子植物	ムラサキ科	影響度	緊急度	容易性
No. 446	ノハラムラサキ	D	C	A
<i>Myosotis arvensis</i> (L.) Hill.				

【原産地】欧州・ユーラシア【国内分布】北海道、本州【県内分布】鴨川市・佐倉市・いすみ市・芝山町
 【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1927年以前【県内への侵入】220：1927年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66,68

種子植物	ムラサキ科	影響度	緊急度	容易性
No. 447	ハマワスレナグサ	D	C	A
<i>Myosotis discolor</i> Pers.				

【原産地】欧州～西アジア【国内分布】本州【県内分布】いすみ市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1934年【県内への侵入】220：1995年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】10,16,17,21,24,47,56,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】69,木村陽子・大場達之 1996. ハマワスレナグサの帰化. 千葉県植物誌資料 9:64.

種子植物	ムラサキ科	影響度	緊急度	容易性
No. 448	ワスレナグサ	D	C	A
<i>Myosotis scorpioides</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国【県内分布】富里市、市原市、館山市【生育状況】極少
 【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：明治（栽培）【県内への侵入】120：1992年以前（逸出）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,10,24,46,47,56,59,63,65,69,69,73,74,88【文献県内】35,66

種子植物	ムラサキ科	影響度	緊急度	容易性
No. 449	キバナムラサキ	D	C	A
<i>Nonnea lutea</i> (Desr.) DC.				

【原産地】欧州【国内分布】本州【県内分布】船橋市（東邦大学）【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：昭和【県内への侵入】120：1985年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】10,56,63,65,74【文献県内】66

種子植物	ムラサキ科	影響度	緊急度	容易性
No. 450	ヒレハリソウ	C	C	B
<i>Symphytum officinale</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全県に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】110：明治【県内への侵入】110：1952年以前（栽培）【侵入の影響】420【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,17,21,46,47,56,59,61,62,63,65,70,74,88,92,99【文献県内】12,66

種子植物	クマツツラ科	影響度	緊急度	容易性
No.451	ボタンクサギ	D	C	B
	<i>Clerodendrum bungei</i> Steud.			

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総西部に分布【生育状況】極少【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：昭和以前【県内への侵入】120：1998年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】70【文献県内】66

種子植物	クマツツラ科	影響度	緊急度	容易性
No.452	ヤナギハナガサ	C	C	B
	<i>Verbena bonariensis</i> L.			

【原産地】南米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県の低地に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：1984年以前【侵入の影響】212,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】サンジャク パーベナの名で栽培【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,61,62,63,64,65,69,74,75,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	クマツツラ科	影響度	緊急度	容易性
No.453	アレチハナガサ	C	C	B
	<i>Verbena brasiliensis</i> Vell.			

【原産地】南米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主として東京湾岸に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】230：1957年頃【県内への侵入】230：1988年以前【侵入の影響】212,420【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,59,61,62,63,64,65,74,75,92,99【文献県内】12,66

種子植物	クマツツラ科	影響度	緊急度	容易性
No.454	ダキバアレチハナガサ	C	C	B
	<i>Verbena incompta</i> Michael			

【原産地】南米【国内分布】本州【県内分布】主として北総に散在【生育状況】多い【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】230：1933年【県内への侵入】230：1986年以前【侵入の影響】212,420【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】24,47,59,63,65,74【文献県内】66

種子植物	クマツツラ科	影響度	緊急度	容易性
No.455	ヒメクマツツラ	C	C	A
	<i>Verbena littoralis</i> Kunth			

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】佐倉市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】240：1955年以前【県内への侵入】240：2002年以前【侵入の影響】212【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】10,47,63,64,65,74,75【文献県内】寺村敬子 2003. 本埜村で「ヒメクマツツラ」を確認.千葉県植物誌資料 19:145.

種子植物	クマツヅラ科	影響度	緊急度	容易性
No.456	シュクコンバーベナ	D	C	A
<i>Verbena rigida</i> Spreng.				

【原産地】ブラジル・アルゼンチン【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】香取市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：明治（栽培）【県内への侵入】120：1972年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】 - 【文献全般】9, 17, 56, 59, 63, 65, 69, 70, 74, 75【文献県内】66, 小松崎一雄（1972）シュクコンバーベナが千葉県佐原で見つかった、植物採集ニュース(64):52.

種子植物	クマツヅラ科	影響度	緊急度	容易性
No.457	ヒメビジョザクラ	D	C	B
<i>Verbena tenera</i> Spreng.				

【原産地】南米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】120：戦後（栽培）【県内への侵入】120：1978年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】 - 【文献全般】9, 24, 56, 59, 61, 63, 65, 69, 74, 75【文献県内】66

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No.458	セイヨウジュウニヒトエ	C	C	B
<i>Ajuga reptans</i> L.				

【原産地】欧州北部【国内分布】本州【県内分布】主として北総・南総に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：1970年頃【県内への侵入】120：平成以前【侵入の影響】212, 420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】 - 【文献全般】2, 9, 10, 24, 46, 47, 59, 63, 65, 74, 75, 92【文献県内】12, 66

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No.459	チシマオドリコソウ	D	C	A
<i>Daleopsis bifida</i> Boenn.				

【原産地】ユーラシア【国内分布】本州【県内分布】富津市【生育状況】少ない【生活形】夏緑【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1948年以前【県内への侵入】220：1971年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】 - 【文献全般】10, 16, 17, 24, 46, 47, 56, 59, 63, 65, 69, 73, 74【文献県内】33, 39, 66, 68

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No.460	ヒメオドリコソウ	C	C	C
<i>Lamium purpureum</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】極多【生活形】夏緑・草本【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】220：1898年【県内への侵入】220：1951年以前【侵入の影響】212, 321【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】 - 【文献全般】2, 4, 9, 10, 14, 16, 17, 21, 24, 46, 47, 56, 59, 61, 62, 63, 65, 74, 75, 77, 88, 92, 99【文献県内】12, 35, 66, 68

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No.461	ヨウシュハッカ	D	C	A
Mentha arvensis L. var. arvensis				

【原産地】北半球広域【国内分布】本州【県内分布】北総西部に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑
 【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：1975年
 【県内への侵入】110：1992年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,16,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】39,66

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No.462	ナガバハッカ	D	C	A
Mentha longifolia (L.) Huds.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】佐倉市・富里市【生育状況】極少
 【生活形】夏緑【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：1937年以前
 【県内への侵入】110：1992年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,16,21,24,46,47,56,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】66

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No.463	メグサハッカ	D	C	A
Mentha pulegium L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、九州【県内分布】主として北総に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑
 【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：1936年以前
 【県内への侵入】110：1991年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,92,99【文献県内】66

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No.464	マルバハッカ	C	C	B
Mentha rotundifolia (L.) Huds.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】県内各地に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑
 【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：戦後以前
 【県内への侵入】110：2007年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,16,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】66

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No.465	オランダハッカ	D	C	B
Mentha spicata L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】主として北総に散在【生育状況】少ない
 【生活形】夏緑【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：夏【日本への侵入】110：1820年ごろ（栽培）
 【県内への侵入】110：1935年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,16,24,46,47,56,59,61,62,63,65,70,74,75,92【文献県内】66

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No. 466	アメリカハッカ	D	C	A
	<i>Mentha x gracilis</i> Sole			

【原産地】欧州・北米【国内分布】本州、四国【県内分布】勝浦市・八千代市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1968年以前【県内への侵入】120：1958年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2, 16, 21, 24, 47, 56, 59, 62, 63, 65, 74, 92, 99【文献県内】37, 66, 68

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No. 467	コショウハッカ	D	C	A
	<i>Mentha x piperita</i> L.			

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】野田市・富里市【生育状況】極少【生活形】夏緑【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：1933年以前【県内への侵入】120：1977年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2, 4, 16, 17, 21, 24, 46, 47, 56, 59, 61, 62, 63, 65, 74, 77, 92, 99【文献県内】66

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No. 468	ハリゲヤグルマハッカ	D	C	A
	<i>Monarda dispersa</i> Small			

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】市原市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1991年以前【県内への侵入】120：1991年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】63, 65【文献県内】城川四郎 2007. 千葉県植物誌496頁、シソ科のヤグルマハッカはハリゲヤグルマハッカ(新称)であった. 千葉県植物誌資料 23:206.

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No. 469	ヤグルマハッカ	D	C	
	<i>Monarda fistulosa</i> L.			

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州(栽培)【県内分布】富里市【生育状況】極少【生活形】夏緑【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：昭和30年代以前(栽培)【県内への侵入】120：1995年【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】61, 63, 65, 70, 75, 92【文献県内】66

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No. 470	イヌハッカ	D	C	A
	<i>Nepeta cataria</i> L.			

【原産地】ユーラシア(広域)【国内分布】本州(一部自生)【県内分布】袖ヶ浦市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1912年以前【県内への侵入】120：1961年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2, 16, 17, 21, 46, 47, 56, 61, 62, 63, 65, 74, 77, 88, 92, 99【文献県内】66

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No.471	シソ	C	C	C
<i>Perilla frutescens</i> (L.) Britton var. <i>crispa</i> (Thunb.) W.Deane				

【原産地】ヒマラヤ・中国南部【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全県に分布
 【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：弥生【県内への侵入】110：弥生～室町【侵入の影響】420【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,24,56,58,59,63,65,88【文献県内】12,66

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No.472	エゴマ	D	C	B
<i>Perilla frutescens</i> (L.) Britton var. <i>frutescens</i>				

【原産地】インド・中国南部【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】少ない
 【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】110：縄文
 【県内への侵入】110：弥生～室町【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,24,56,59,63,65,75,88【文献県内】12,66

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No.473	カクトラノオ	D	C	B
<i>Physostegia virginiana</i> (L.) Benth.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総に分布【生育状況】極少
 【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】120：大正年間【県内への侵入】120：昭和【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,24,47,56,59,63,65,69,74,75,88【文献県内】35,66

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No.474	セイヨウウツボグサ	D	C	A
<i>Prunella vulgaris</i> L. subsp. <i>vulgaris</i>				

【原産地】ユーラシア（広域）・北アフリカ【国内分布】本州【県内分布】佐倉市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：1998年以前【県内への侵入】120：2004年以前【侵入の影響】-【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,47,63,65,74【文献県内】34,北公園調査グループ（植田美千代・辻さつき・松丸清）2004. 佐倉市ユウカリが丘北公園でセイヨウウツボグサ発見. 千葉県植物誌資料 20:159., 寺村敬子 2004. セイヨウウツボグサの観察. 千葉県植物誌資料 20:159.

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No.475	アワモリハッカ	D	C	A
<i>Pycnanthemum flexuosum</i> (Walt.) B.S.P.				

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】船橋市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1959年頃【県内への侵入】240：1997年以前（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり由来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】47,56,62,63,65,74,92,99【文献県内】66

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No. 476	イヌヒメコズチ	D	C	A
Salvia reflexa Hornem.				

【原産地】北・中米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】千葉市【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】240：1955年【県内への侵入】240：2003年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,10,17,46,47,56,63,65,74【文献県内】66

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No. 477	ミナトタムラソウ	D	C	A
Salvia vervecna L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州【県内分布】野田市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1961年【県内への侵入】240：1991年以前【侵入の影響】-【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】17,24,47,56,61,62,63,65,92,99【文献県内】66

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No. 478	ヤブチョロギ	D	C	A
Stachys arvensis L.				

【原産地】欧州・西アジア・北アフリカ【国内分布】本州、九州【県内分布】富津市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：戦後【県内への侵入】240：2000年以前【侵入の影響】-【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】9,16,21,46,47,56,61,62,63,64,65,74,75,92,99【文献県内】69,69,川名 興 2000. ヤブチョロギが千葉県に帰化. 千葉県植物誌資料 18:138.

種子植物	シソ科	影響度	緊急度	容易性
No. 479	オトメイヌゴマ (仮称ギョウトクイヌゴマ)	C	C	A
Stachys palustris L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州【県内分布】市川市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：夏【日本への侵入】240：1987年以前【県内への侵入】240：2006年以前【侵入の影響】212【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】ギョウトクイヌゴマとして報告された植物は、オトメイヌゴマだったと聞いた。(大場達之未発表) 【文献全般】2,47,65,74【文献県内】大場達之 2006. 市川市行徳鳥獣保護区のギョウトクイヌゴマ(仮称). 千葉県植物誌資料 21:186-188.

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No. 480	ツノミチヨウセンアサガオ	B	C	A
Datura ferox L.				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州【県内分布】富津市【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1977年【県内への侵入】240：2001年【侵入の影響】有毒,312【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】24,46,47,61,62,63,65,74,92【文献県内】69,川名 興・天野 誠・大場達之 2000. ツノミチヨウセンアサガオとオオセンナリの帰化. 千葉県植物誌資料18:129.

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.481	シロバナチョウセンアサガオ	B	C	B
Datura stramonium L.				

【原産地】熱帯米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：明治初期【県内への侵入】120：昭和30年代後半以降【侵入の影響】有毒,312【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】35,66,68

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.482	ヨウシュチョウセンアサガオ	B	C	B
Datura stramonium L. form. tatura (L.) Dabert.				

【原産地】熱帯米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総と南総に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：1930年代以前【侵入の影響】有毒,312【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,10,16,17,24,46,47,56,63,65,77【文献県内】12,35,66,68

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.483	ケチョウセンアサガオ	B	C	B
Datura wrightii Regel				

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】主として北総に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：江戸末期【県内への侵入】120：昭和30年代後半以降【侵入の影響】有毒,312【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66,68

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.484	オオセンナリ	C	C	B
Nicandra physalodes (L.) Gaertn.				

【原産地】南米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総西部に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120,240：江戸【県内への侵入】120,240：1930年代以前【侵入の影響】有毒だが臭いよけに植栽,312【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】35,66,68,61,60,31,川名 興・天野 誠・大場達之 2000. ツノミチョウセンアサガオとオオセンナリの帰化. 千葉県植物誌資料18:129.

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.485	ホオズキ	D	C	C
Physalis alkekengi L. var. franchetii (Mast.) Makino				

【原産地】中国【国内分布】北海道、本州、四国、九州(栽培)【県内分布】主として北総に分布【生育状況】極少【生活形】夏緑・草本【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：平安【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,14,24,47,56,59,63,65,66,75,88【文献県内】12,35,66,10,60,31,木村陽子・勝山輝男 2000. 千葉県のホオズキ属(ナス科)について. 千葉県植物誌資料 15:113-116.

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.486	ヒロハフウリンホオズキ	B	B	B
<i>Physalis angulata</i> L. var. <i>angulata</i>				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】240：1928年以前【県内への侵入】240：1983年以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】24,47,63,65,74【文献県内】69,木村陽子・勝山輝男 2000. 千葉県のアオズキ属(ナス科)について.千葉県植物誌資料 15:113-116.,62

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.487	ホソバフウリンホオズキ	B	B	A
<i>Physalis angulata</i> L. var. <i>lanceifolia</i> (Nees) Waterfall (syn.)				

【原産地】北米西南部【国内分布】本州【県内分布】南房総市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】240：1999年以前【県内への侵入】240：2000年以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】24,59,63,65,74【文献県内】69,木村陽子・川名 興 2000. ホソバフウリンホオズキが千葉県に帰化.千葉県植物誌資料 18:139.,62

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.488	アイフウリンホオズキ	B	B	A
<i>Physalis angulata</i> L. var. <i>pendula</i> (Rydb.) Waterfall (syn.)				

【原産地】北米東南部【国内分布】本州【県内分布】佐倉市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】240：1991年以前【県内への侵入】240：1991年以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】24,59,63,65,74【文献県内】69,木村陽子・勝山輝男 2000. 千葉県のアオズキ属(ナス科)について.千葉県植物誌資料 15:113-116.

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.489	ヒロードホオズキ	D	C	A
<i>Physalis heterophylla</i> Nees				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州(千葉県)【県内分布】富里市、成田市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】240：1933年【県内への侵入】240：1935年以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,24,46,61,62,63,65,74,92【文献県内】69,木村陽子・勝山輝男 2000. 千葉県のアオズキ属(ナス科)について.千葉県植物誌資料 15:113-116.

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.490	ウスゲホオズキ	D	C	A
<i>Physalis longifolia</i> Nutt. var. <i>subglabrata</i> (Mackenz. et Bush) Cronq.				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国【県内分布】市川市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】240：1968年以前【県内への侵入】240：1968年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】24,47,63,65,74【文献県内】69,木村陽子・勝山輝男 2000. 千葉県のアオズキ属(ナス科)について.千葉県植物誌資料 15:113-116.

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No. 491	ブドウホオズキ	D	C	A
Physalis peruviana L.				

【原産地】南米【国内分布】本州【県内分布】柏市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】110：明治初期【県内への侵入】110：1956年【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】17,21,24,42,46,47,56,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】69,木村陽子・勝山輝男 2000. 千葉県の本オズキ属（ナス科）について.千葉県植物誌資料 15:113-116.

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No. 492	シヨクヨウホオズキ	D	C	A
Physalis pubescens L. var. grisea Waterfall (syn.)				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】芝山町【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】110：昭和30年代以前【県内への侵入】110：1995年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】別名ケセンナリ 【文献全般】21,24,46,47,56,58,61,65,92,99【文献県内】35,66,68,木村陽子・勝山輝男 2000. 千葉県の本オズキ属（ナス科）について.千葉県植物誌資料 15:113-116.

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No. 493	センナリホオズキ	C	C	B
Physalis pubescens L. var. pubescens				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】240：1856年以前【県内への侵入】240：1930年代以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】4,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,77,88,92,99【文献県内】34,69,木村陽子・勝山輝男 2000. 千葉県の本オズキ属（ナス科）について.千葉県植物誌資料 15:113-116.

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No. 494	ハコベホオズキ	C	C	B
Salpichroa origanifolia (Lam.) Baill. (syn.)				

【原産地】南米【国内分布】本州【県内分布】北総と南総の西部に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】240：明治中期？【県内への侵入】240：1976年以前【侵入の影響】212【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】4,10,16,17,24,46,47,56,59,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】66,大野影徳(1976) ハコベホオズキ習志野市谷津町に繁殖する.植物採集ニュース(88)48-49.

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No. 495	テリミノイヌホオズキ（垂れ実型）	C	C	C
Solanum americanum Miller				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】240：1951年以前【県内への侵入】240：1960年以前【侵入の影響】212,321,312【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】24【文献県内】66

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.496	カンザシヌホオズキ	C	C	B
Solanum americanum Miller var.				

【原産地】南米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主として北総と南総の西部に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】240：1965年頃【県内への侵入】240：1983年以前【侵入の影響】212,321,312【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】4,16,24,62,92【文献県内】66

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.497	シロミノカンザシヌホオズキ	D	C	A
Solanum americanum Miller var.				

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】柏市【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】240：1996年以前【県内への侵入】240：1996年以前【侵入の影響】212,321,312【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】カンザシヌホオズキの品種【文献全般】-【文献県内】、斉藤吉永 1996. シロミノカンザシヌホオズキ柏に現る. 千葉県植物誌資料 6:35.

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.498	キンギンナスビ	D	C	A
Solanum capsicoides All. (syn. S. ciliatum Lam.)				

【原産地】熱帯南米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】鴨川市（仁右衛門島）【生育状況】多い【生活形】夏緑【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：明治初期【県内への侵入】120：1957年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】3,16,17,46,47,56,61,62,64,65,74,77,88,92,99【文献県内】66,68

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.499	ワルナスビ	B	B	C
Solanum carolinense L.				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】240：1907年以前【県内への侵入】240：明治【侵入の影響】212,321,312,313【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,14,16,17,21,24,42,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.500	オオイヌホオズキ	C	C	B
Solanum nigrescens Mart. et Gal.				

【原産地】南米【国内分布】本州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】240：1910年以前【県内への侵入】240：1930年以前【侵入の影響】212,321,312【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,24,47,59,63,65,74【文献県内】12,66

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.501	ヒメケイヌホオズキ	D	C	A
Solanum physalifolium Rusby var. nitidibaccatum (Bitter) Edmonds				

【原産地】南米【国内分布】本州【県内分布】柏市、富津市【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】240：1950年代【県内への侵入】240：1958年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】24,47,59,63,65,74【文献県内】66

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.502	タマサンゴ	C	C	B
Solanum pseudocapsicum L.				

【原産地】ブラジル【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】船橋市市川市暖地で増える、極少【生活形】連緑・小低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：明治中期【県内への侵入】120：1929年以前（栽培）【侵入の影響】420,312【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,10,17,21,24,46,47,59,62,63,65,69,74,75,77,88,92,99【文献県内】66

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.503	アメリカイヌホオズキ	C	C	C
Solanum ptycanthum Dunal ex DC.				

【原産地】北米～熱帯米【国内分布】本州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】240：昭和30年代以前【県内への侵入】240：1977年以前【侵入の影響】212,321,312【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,17,21,24,46,61,62,92,99【文献県内】66

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.504	ケイヌホオズキ	D	C	A
Solanum sarrachoides Sendtn.				

【原産地】南米【国内分布】本州【県内分布】柏市・富津市・館山市【生育状況】極少【生活形】夏緑【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】240：1950年【県内への侵入】240：1992年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】4,9,10,16,17,21,24,47,56,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】35,39,66,68

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.505	ハリナスビ	C	C	A
Solanum sisymbriifolium Lam.				

【原産地】南米【国内分布】本州【県内分布】主として南総西部に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：江戸末期【県内への侵入】120：1973年以前【侵入の影響】トゲ有り,212,321,312,313【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】66,68,97

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.506	トゲハリナスビ	C	C	A
Solanum undatum Lam. (syn. S. coagulans auct. non. Forsc.)				

【原産地】中国南部・東南アジア・インド【国内分布】千葉県【県内分布】船橋市に一時帰化【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】240：1999年以前【県内への侵入】240：1999年以前【侵入の影響】トゲ有り,212,321,312,313【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】-【文献県内】66

種子植物	ナス科	影響度	緊急度	容易性
No.507	アカミノイヌホオズキ	D	C	A
Solanum villosum Mill. subsp. miniatum (Bernh. ex Willd.) Edmonds (syn.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】山武市【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】230：1931年以前【県内への侵入】230：1931年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】-【文献県内】66

種子植物	フジウツギ科	影響度	緊急度	容易性
No.508	フサフジウツギ	C	C	A
Buddleja davidii Franch.				

【原産地】中国西部【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：1952年以前【県内への侵入】120：1950年代以前（栽培）【侵入の影響】212,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,8,17,21,43,54,59,62,63,69,70,74,88,92,99【文献県内】66

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.509	ヒサウチソウ	D	C	A
Bellardia trixago (L.) All.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州【県内分布】千葉市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】240：1993年以前【県内への侵入】240：1998年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】10,47,63,65,74【文献県内】大野啓一 2007. 千葉市にヒサウチソウが帰化. 千葉県植物誌資料 23:198-199.

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.510	ヒナウンラン	D	C	A
Chaenorrhinum minus (L.) Lange				

【原産地】欧州【国内分布】千葉県【県内分布】千葉市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】220：1993年【県内への侵入】220：1993年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】47,61,62,63,65,74,92【文献県内】66

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.511	ツタバウンラン	C	C	B
<i>Cymbalaria muralis</i> Gaertn. Mey. et Scherb.				

【原産地】地中海沿岸～欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】主として北総西部に分布
 【生育状況】少ない【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】120：大正初年【県内への侵入】120：1986年以前【侵入の影響】420
 【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,16,17,21,24,46,47,56,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】12,66

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.512	イワカラクサ	D	C	A
<i>Erinus alpinus</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州・北海道（栽培）【県内分布】芝山町【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：1995年以前【県内への侵入】120：1995年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】-【文献県内】66

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.513	ヒメツルウンラン	D	C	A
<i>Kickxia elatine</i> (L.) Dumort.				

【原産地】欧州【国内分布】千葉県【県内分布】成田市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】220：1992年【県内への侵入】220：1992年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】47,63,65,74【文献県内】66

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.514	マツバウンラン	C	C	B
<i>Linaria canadensis</i> (L.) Dum.				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】240：1941年【県内への侵入】240：1988年以前【侵入の影響】321,420【侵入対策】可能な限り在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,74,88,99【文献県内】12,66

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.515	ムラサキウンラン	D	C	A
<i>Linaria incarnata</i> (Vent.) Sprengel				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全県に散在【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：1870年頃【県内への侵入】120：1988年以前（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,47,56,59,61,63,65,69,70,74【文献県内】12,66

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.516	ホソバウンラン	D	C	A
Linaria vulgaris Miller				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】茂原市・佐倉市・千葉市・富津市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120,220：大正【県内への侵入】120,220：1990年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定。【備考】-【文献全般】2,9,10,16,21,24,46,47,61,62,63,65,74【文献県内】12,66

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.517	ヒメアメリカアゼナ	D	C	A
Lindernia anagallidea (Michx.) Pennell				

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】柏市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1933年【県内への侵入】240：1997年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】9,21,24,46,47,59,61,62,63,65,74,92【文献県内】66

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.518	タケトアゼナ	B	B	B
Lindernia dubia (L.) Pennell var. dubia				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1936年？【県内への侵入】240：1986年以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,24,46,47,59,61,62,63,65,74,92【文献県内】66

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.519	アメリカアゼナ	B	B	C
Lindernia dubia (L.) Pennell var. major Pennell				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】240：1934年以前【県内への侵入】240：1934年以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,88,92,99【文献県内】12,66,68,小松崎一雄(1967)千葉県白井にアメリカアゼナが現れた。植物採集ニュース(30)：43.、浅野貞夫(1968)上総丘陵にもアメリカアゼナ帰化す。植物採集ニュース(38)：20.

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.520	セイヨウヒキヨモギ	C	C	A
Parentucella viscosa Caruel				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】北総・南総の都市部に散在【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】220：1973年【県内への侵入】220：1992年以前【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】10,17,21,24,46,47,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】66,68

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.521	キリ	D	C	B
Paulownia tomentosa (Thunb. ex Murray) Steud.				

【原産地】中国南部【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】極少【生活形】落葉高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】110：奈良【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,24,43,54,59,70,88【文献県内】12,66

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.522	トウテイラン	D	C	A
Pseudolysimachion ornatum (Monjus.) Holb.				

【原産地】本州（自生）【国内分布】北海道、本州、四国、九州(栽培)【県内分布】鋸南町【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：日本原産【県内への侵入】120：1962年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】42,56,70【文献県内】66

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.523	モウズイカ	D	C	A
Verbascum blattaria L.				

【原産地】欧州～北アフリカ【国内分布】北海道、本州【県内分布】富津市、船橋市、袖ヶ浦市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】220：1879年(栽培)【県内への侵入】220：1985年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,9,14,16,17,21,46,47,56,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】66,68

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.524	ヒロードモウズイカ	C	B	B
Verbascum thapsus L.				

【原産地】欧州・ユーラシア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総・南総の西部に分布【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120,220：明治初年(導入)【県内への侵入】120,220：1988年以前【侵入の影響】321,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.525	ホザキモウズイカ	D	C	A
Verbascum virgatum Stokes				

【原産地】欧州【国内分布】本州【県内分布】市川市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】220：1956年以前【県内への侵入】220：1986年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】10,16,17,24,46,47,56,59,65,74【文献県内】66,68

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No. 526	オオカワヂシャ	A	A	B
Veronica anagallis-aquatica L.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】本州【県内分布】北総・南総西部に散在【生育状況】中程度
 【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】水散：夏【日本への侵入】130：1867年【県内への侵入】130：1989年以前【侵入の影響】322,211,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】特定外来生物【文献全般】4,21,24,46,47,56,61,62,63,65,74,88,92【文献県内】12,66

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No. 527	タチヌノフグリ	C	C	C
Veronica arvensis L.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】極多【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1870年頃【県内への侵入】210：1928年以前【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No. 528	コゴメヌノフグリ	C	C	A
Veronica cymbalaria Bodard				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州【県内分布】柏市の利根運河土手，千葉市都市緑化植物園へ移入【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：1961年(栽培)【県内への侵入】120：2007年以前【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】柏市の利根運河土手に出現，また千葉市都市緑化植物園へ移入されており，そこから，逸出の可能性あり。【文献全般】2,47,61,62,63,65,74【文献県内】，木村陽子 2008. 柏市利根運河のコゴメヌノフグリ. 千葉県植物誌資料 24:220-221.

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No. 529	フラサバソウ	C	B	B
Veronica hederifolia L.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】中程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：明治【県内への侵入】210：1966年以前【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,77,88,92,99【文献県内】12,66,68,小松崎一雄(1962)10年前に千葉県松戸市で採集されたフラサバソウ. 植物採集ニュース(4):14.

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No. 530	オオイヌノフグリ	C	C	C
Veronica persica Poiret				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】極多【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1870年頃【県内への侵入】210：1927年以前【侵入の影響】321,212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.531	コテングクワガタ	C	C	A
Veronica serpyllifolia L. subsp. serpyllifolia				

【原産地】欧州【国内分布】本州【県内分布】野田市【生育状況】芝地由来で増えている，北方系。少ない
 【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】220：1947年【県内への侵入】220：2004年以前【侵入の影響】321【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,10,24,46,47,56,59,61,63,65,74,92【文献県内】，引田園子 2006. コテングクワガタ ...現状と経過...千葉県植物誌資料 21:184.

種子植物	ゴマノハグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.532	ホナガカワヂシャ	B	B	A
Veronica x myriantha Tos. Tanaka				

【原産地】日本(雑種)オオカワヂシャ×カワヂシャ(在来)【国内分布】本州【県内分布】野田市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】130：1999年以前【県内への侵入】130：1999年以前【侵入の影響】在来種との雑種で，遺伝子かく乱,100,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】カワヂシャ(在来品)とオオカワヂシャ(帰化品)との雑種【文献全般】-【文献県内】，木村陽子 2004. ホナガカワヂシャ千葉県に出現.千葉県植物誌資料 20:160.

種子植物	ノウゼンカズラ科	影響度	緊急度	容易性
No.533	ノウゼンカズラ	D	C	A
Campsis grandiflora (Thunb. ex Murray) Loisel.				

【原産地】中国南部【国内分布】本州、四国、九州(栽培)【県内分布】北総・南総に散在【生育状況】極少
 【生活形】夏緑・藤本【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：平安
 【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,63,65,70,88【文献県内】66

種子植物	ノウゼンカズラ科	影響度	緊急度	容易性
No.534	アメリカキササゲ	D	C	A
Catalpa bignonioides Walt.				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州(栽培)【県内分布】北総に散在【生育状況】極少【生活形】落葉高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散+風散：秋【日本への侵入】120：明治末期【県内への侵入】120：1928年以前(栽培)【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,24,54,70,74,88,92【文献県内】66

種子植物	ノウゼンカズラ科	影響度	緊急度	容易性
No.535	キササゲ	D	C	A
Catalpa ovata G. Don				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州(栽培)【県内分布】北総・南総に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】自散+風散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：1929年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,21,24,43,54,62,63,70,74,77,88,92【文献県内】66

種子植物	ハマウツボ科	影響度	緊急度	容易性
No.536	ヤセウツボ	B	B	C
Orobanche minor Sm.				

【原産地】欧州～北アフリカ【国内分布】本州、四国【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】無葉緑・草本【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】240：1937年以前【県内への侵入】240：1937年以前【侵入の影響】321,420【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】12,39,66,68

種子植物	タヌキモ科	影響度	緊急度	容易性
No.537	オオバナイトタヌキモ	C	B	A
Utricularia gibba L.				

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】千葉市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、枝がちぎれて栄養繁殖【散布形態】水散：秋【日本への侵入】120,210：1952年以前【県内への侵入】210,ホームセンターなどで売っているホテイアオイなどに株子がついてくる。：1970年以前【侵入の影響】321,312,冬でも越冬して、強い植物。野外に逸出すると他の植物にからみつき除去が困難。【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】63,65,74【文献県内】66

種子植物	オオバコ科	影響度	緊急度	容易性
No.538	ヘラオオバコ	C	C	C
Plantago lanceolata L.				

【原産地】欧州、ユーラシア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重+着散：夏【日本への侵入】240：江戸末期【県内への侵入】240：1927年以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	オオバコ科	影響度	緊急度	容易性
No.539	セイヨウオオバコ	D	C	B
Plantago major L. var. major				

【原産地】欧州・西アジア・北アフリカ【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】多い【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重+着散：夏～秋【日本への侵入】240：1957年以前【県内への侵入】240：1991年以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,92,99【文献県内】12,66

種子植物	オオバコ科	影響度	緊急度	容易性
No.540	ハイオオバコ	D	C	A
Plantago squarrosa Murray				

【原産地】欧州南部【国内分布】神奈川県、千葉県【県内分布】習志野市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重+着散：夏【日本への侵入】240：1961年以前【県内への侵入】240：1961年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】24,47,59,63,65,74【文献県内】66

種子植物	オオバコ科	影響度	緊急度	容易性
No.541	ツボミオオバコ	C	C	C
	<i>Plantago virginica</i> L.			

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重+着散：夏【日本への侵入】240：1913年【県内への侵入】240：1952年以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,64,65,74,75,77,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	スイカズラ科	影響度	緊急度	容易性
No.542	ハナツクバネウツギ	D	C	B
	<i>Abelia x grandiflora</i> Rehd.			

【原産地】欧州(交配種)【国内分布】北海道、本州、四国、九州(栽培)【県内分布】北総と南総に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：1929年以前【県内への侵入】120：1929年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,70【文献県内】66

種子植物	スイカズラ科	影響度	緊急度	容易性
No.543	キンギンボク	D	C	A
	<i>Lonicera morrowii</i> A.Gray			

【原産地】北海道、本州、四国(自生)【国内分布】北海道、本州、四国(自生)【県内分布】市田市【生育状況】極少【生活形】落葉低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：日本原産【県内への侵入】120：1990年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,43,54,73,88【文献県内】66

種子植物	スイカズラ科	影響度	緊急度	容易性
No.544	サンゴジュ	D	C	B
	<i>Viburnum odoratissimum</i> Ker.Gaul. var. <i>awabuki</i> (K.Koch) Zabel			

【原産地】本州南部・四国・九州・東南アジア【国内分布】本州、四国、九州(自生・栽培)【県内分布】全県に分布【生育状況】極少【生活形】常緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：日本原産【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,54,70【文献県内】66

種子植物	オミナエシ科	影響度	緊急度	容易性
No.545	ノヂシャ	C	C	B
	<i>Valerianella locusta</i> (L.) Latter			

【原産地】欧州【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主として北総に分布【生育状況】多い【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】210：明治初年【県内への侵入】210：1971年以前【侵入の影響】321,212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,10,14,17,24,46,47,56,59,63,65,73,74,75,77,88【文献県内】12,35,66,68

種子植物	マツムシソウ科	影響度	緊急度	容易性
No.546	オニナベナ	D	C	A
<i>Dipsacus fullonum</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州【県内分布】印西市（旧印旛村）【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：秋【日本への侵入】210：江戸【県内への侵入】210：2003年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】54,70【文献県内】66

種子植物	キキョウ科	影響度	緊急度	容易性
No.547	ハタザオギキョウ	D	C	A
<i>Campanula rapunculoides</i> L.				

【原産地】コーカサス・小アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州(栽培)【県内分布】富里市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：1890年頃【県内への侵入】120：1992年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】56,63,65,69,74,92【文献県内】66

種子植物	キキョウ科	影響度	緊急度	容易性
No.548	ロベリアソウ	D	C	A
<i>Lobelia inflata</i> L.				

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】成田市・富里市・千葉市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】210：明治(栽培)【県内への侵入】210：1965年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,16,17,47,56,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66,68

種子植物	キキョウ科	影響度	緊急度	容易性
No.549	ヒナキキョウソウ	D	C	A
<i>Triodanis biflora</i> (Ruiiz et Pav.) Greene				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】千葉市・芝山町【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】210：1931年【県内への侵入】210：1990年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】10,16,21,24,46,47,56,59,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】66

種子植物	キキョウ科	影響度	緊急度	容易性
No.550	キキョウソウ	C	C	B
<i>Triodanis perfoliata</i> (L.) Nieuwl.				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】北総と南総に分布【生育状況】中程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】210：1911年以前【県内への侵入】210：1975年以前【侵入の影響】420【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,62,63,64,65,74,77,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.551	キバナノコギリソウ	D	C	A
<i>Achillea filipendulina</i> Lam.				

【原産地】西アジア【国内分布】北海道、本州(東北)でときに逸出【県内分布】市原市菊間【生育状況】極少～少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2, 15, 17, 46, 47, 61, 62, 63, 66, 69, 74, 77, 92, 99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.552	セイヨウノコギリソウ	C	C	B
<i>Achillea millefolium</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総～東葛に多い【生育状況】極少～少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】110, 120：1887年【県内への侵入】110, 120：1951年年以前【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり。販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2, 4, 10, 15, 16, 17, 21, 24, 46, 47, 50, 56, 59, 61, 62, 64, 66, 68, 69, 73, 75, 76, 77, 88, 92, 99【文献県内】35, 38, 40, 66, 68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.553	アカバナセイヨウノコギリソウ	D	C	A
<i>Achillea millefolium</i> L. var. <i>pumiceus</i> Sugawara				

【原産地】欧州【国内分布】千葉県【県内分布】市原市、館山市【生育状況】極少、逸出帰化【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】110, 120：昭和以前(栽培)【県内への侵入】110, 120：1992年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり。販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】63, 65【文献県内】-

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.554	ノコギリソウモドキ	D	C	A
<i>Achillea stricta</i> (W.D.J.Koch) Schleich. ex Gremli				

【原産地】欧州【国内分布】千葉県・神奈川県【県内分布】富里市【生育状況】極少、栽培の逸出【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】120：1988年以前【県内への侵入】120：1993年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】59, 63, 65, 66, 74【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.555	ヌマツルギク	B	B	A
<i>Acnella oppositifolia</i> (Lam.) R.K.Jensen (syn. <i>Spilanthes oppositifolia</i> (Lam.) D.Arcy; <i>Spilanthes americana</i> (L.) Hieron.)				

【原産地】北米【国内分布】本州(関東以西)、九州【県内分布】富里市葉山【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、不定芽【散布形態】重散：夏～秋(不定芽は春～秋)【日本への侵入】130：1961年頃【県内への侵入】130：1997年以前【侵入の影響】212, 繁殖力が強い【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】17, 21, 24, 46, 47, 62, 63, 65, 66, 74, 92, 99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.556	マルバフジバカマ	D	C	A
<i>Ageratina altissima</i> (L.) R.M.King et H.Rob.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、関東（関東周辺）【県内分布】佐倉市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、不定芽【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：1916年【県内への侵入】120：2006年以前【侵入の影響】地下茎でさかんに繁殖する、なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,16,17,24,46,47,49,59,61,62,63,65,73,74,76,77,92,99【文献県内】寺村敬子 2007. マルバフジバカマの確認.千葉県植物誌資料 22:195.

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.557	カッコウアザミ	D	C	A
<i>Ageratum conyzoides</i> L.				

【原産地】熱帯米、メキシコ【国内分布】本州（関東周辺）、四国、九州【県内分布】富里市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散、重散：夏～秋【日本への侵入】120：1870年頃【県内への侵入】120：1930年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】12,15,16,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,74,75,88,92,99【文献県内】12,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.558	ブタクサ	B	C	C
<i>Ambrosia artemisiifolia</i> L.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に普通【生育状況】中程度～多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1880年【県内への侵入】240：1930年代以前【侵入の影響】212,繁殖力が強い,312,花粉症の原因【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,12,14,16,17,21,22,24,46,49,50,56,59,61,62,63,65,66,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.559	オオブタクサ	A	A	A
<i>Ambrosia trifida</i> L.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布、河原・造成地に極めて多い【生育状況】極多【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1953年以前【県内への侵入】240：1957年以前【侵入の影響】212,繁殖力が強い,312,花粉症の原因になる,411【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】要注意外来生物（適否検討）【文献全般】2,4,10,12,14,16,17,21,24,46,49,50,59,61,62,65,66,68,74,75,87,88,91,92,98,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.560	アレチカミツレ	D	C	A
<i>Anthemis arvensis</i> L.				

【原産地】地中海沿岸、コーカサス、イラン【国内分布】北海道、本州【県内分布】県北部に稀【生育状況】極少～少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】240：明治初年【県内への侵入】240：1977年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,24,46,47,50,56,59,63,65,66,73,74,91【文献県内】37

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.561	カミツレモドキ	D	C	B
Anthemis cotula L.				

【原産地】欧州・北アフリカ・西アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に散在
 【生育状況】極少～少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】210：1931年【県内への侵入】210：1977年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,49,50,56,61,62,64,66,68,73,74,75,77,91,92,99【文献県内】35,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.562	ゴボウ	D	C	A
Arctium lappa L.				

【原産地】ユーラシア【国内分布】秋田県・神奈川県・千葉県【県内分布】全県に散在【生育状況】極少
 【生活形】夏緑・2年～多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】110：弥生～奈良【県内への侵入】110：弥生～室町【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】47,63,65【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.563	ワタゲツルハナグルマ	C	C	A
Arctotheca prostrata (Salisb.) Britten				

【原産地】南アフリカ【国内分布】東京都・神奈川県・佐渡島【県内分布】千葉市幕張【生育状況】極少
 【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝による栄養繁殖【散布形態】重散：春～秋【日本への侵入】120,150：1995年（逸出）【県内への侵入】120,150：1995年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける方針策定【備考】-【文献全般】24,59,63,65,66【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.564	イワヨモギ	B	B	B
Artemisia gmelinii Weber ex Stechm.				

【原産地】北海道～青森（国内帰化）【国内分布】本州、四国、九州（国内帰化）【県内分布】県南部を中心に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草・亜高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】風散：秋【日本への侵入】151,220：日本原産【県内への侵入】151,220：1995年以前【侵入の影響】212,法面緑化に使われ、自然度の高いところにも侵入,312,花粉症の原因【侵入対策】公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、方針策定。【備考】-【文献全般】18,30,56,59,66,73【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.565	ハイイロヨモギ	B	B	A
Artemisia sieversiana Willd.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】長野県・京都府・埼玉県・千葉県さらに分布の可能性【県内分布】柏市東上町【生育状況】極少【生活形】夏緑・1～2年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】風散：秋【日本への侵入】151,300：1952年【県内への侵入】151：1997年以前【侵入の影響】212,法面緑化に使われ、自然度の高いところにも侵入,312,花粉症の原因【侵入対策】公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、方針策定。【備考】まだ、千葉県には少なくとも予防的に。要注意外来生物（緑化植物）【文献全般】17,24,46,56,61,62,65,73,92,98,99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.566	キダチコンギク	C	C	A
Aster pilosus Willd.				

【原産地】北米【国内分布】本州（関東以西）、四国、九州【県内分布】県北部に散在【生育状況】少ない
 【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】120：1
 950～53年頃【県内への侵入】120：1991年以前【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広
 報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】
 2, 10, 16, 17, 21, 24, 46, 47, 50, 52, 59, 61, 62, 63, 65, 66, 92, 99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.567	ミヤマヨメナ	D	C	A
Aster savatieri Makino				

【原産地】日本【国内分布】本州、四国、九州の山地に自生【県内分布】全県に散在【生育状況】極少【生
 活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】もともと自生：
 もともと日本原産【県内への侵入】120：1991年以前（逸出）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外
 来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】ミ
 ヤコワスレの名で栽培されるものが時に逸出【文献全般】66【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.568	オオホウキギク	B	C	B
Aster subulatus Michx. var. ligulatus Shinners (syn. Aster exilis Elliot)				

【原産地】北米？【国内分布】本州（関東以西）、四国、九州でとびとびに分布【県内分布】東京湾岸の工
 業地帯に多い【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風
 散：夏～秋【日本への侵入】240：1956年【県内への侵入】240：1968年以前【侵入の影響】212【侵入対
 策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理
 区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】4, 10, 12, 16, 21, 24, 47, 48, 50, 56, 59, 61, 62, 63, 66, 68, 7
 4, 92, 99【文献県内】12, 39, 66, 68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.569	ホウキギク	B	C	C
Aster subulatus Michx. var. obtusifolius Fernald				

【原産地】北米【国内分布】本州（小笠原）、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度【生
 活形】冬緑・1年～多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散、水散：秋【日本への侵入】24
 0：1910年頃【県内への侵入】240：1930年代以前【侵入の影響】212【侵入対策】可能なかぎり在来品種を
 使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。
 【備考】-【文献全般】2, 4, 10, 12, 14, 16, 17, 21, 24, 46, 49, 56, 59, 61, 62, 63, 65, 66, 68, 73, 77, 88, 92, 99【文献
 県内】12, 35, 39, 66, 68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.570	ヒロハホウキギク	B	C	C
Aster subulatus Michx. var. subulatus				

【原産地】北米【国内分布】本州（関東以西）、四国、九州【県内分布】全県に普通【生育状況】極多～多
 い【生活形】夏緑・1～多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散、水散：秋【日本への侵
 入】240：1967年以前【県内への侵入】240：1983年以前【侵入の影響】212, 繁殖力が強い【侵入対策】可能
 なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外へ
 の逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】4, 10, 12, 14, 16, 17, 21, 24, 46, 47, 59, 61, 62, 63, 65, 66, 73, 74, 92, 9
 9【文献県内】12, 39, 66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.571	キンバイタウコギ	D	C	A
Bidens aurea (Aiton) Sherff				

【原産地】中央米【国内分布】本州（関東以西）、四国、九州【県内分布】全県にあるが少ない【生育状況】極少～少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：秋～冬【日本への侵入】120：1957年【県内への侵入】120：1984年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,10,16,17,24,46,47,50,59,61,62,63,65,66,68,74,92,99【文献県内】66,68,斉藤吉永(1972)千葉県下に産するキンバイタウコギ. 植物採集ニュース(35):1-2.

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.572	コバノセンダングサ	D	C	B
Bidens bipinnata L.				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：秋～冬【日本への侵入】230：1925年以前【県内への侵入】230：1951年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】4,10,12,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,66,74,75,88,92,99【文献県内】12,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.573	センダングサ	C	C	B
Bidens biternata (Lour.) Merr. et Sherff ex Sherff				

【原産地】暖帯～熱帯に広く分布【国内分布】関東以西、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：秋～冬【日本への侵入】230：史前帰化説も【県内への侵入】230：1929年以前【侵入の影響】212【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】16,17,24,46,50,56,59,63,66,77【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.574	アメリカセンダングサ	B	B	C
Bidens frondosa L.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に普通【生育状況】多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散+水散：秋～冬【日本への侵入】230：1920年【県内への侵入】230：1930年代以前【侵入の影響】212,321【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,12,14,16,17,21,24,46,50,56,59,61,62,65,66,68,73,74,75,76,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.575	コセンダングサ	B	B	C
Bidens pilosa L. var. pilosa				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、四国、九州に帰化【県内分布】全県に普通【生育状況】極多～多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：秋～冬【日本への侵入】230：1908年以前【県内への侵入】230：1975年以前【侵入の影響】212,321,水田地帯や河原でも非常に多く、他の在来種と競合の恐れ【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】4,10,12,14,16,17,21,24,46,47,50,56,61,62,63,65,66,68,73,74,75,77,88,91,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.576	シロバナセンダングサ	B	B	B
Bidens pilosa L. var. pilosa form.				

【原産地】熱帯米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県にあり、コセンダングサと混生、最近増加傾向？【生育状況】中程度～多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：秋～冬【日本への侵入】230：江戸末期【県内への侵入】230：1960年代以前【侵入の影響】212,繁殖力が強い【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】10,12,17,24,46,47,50,56,59,63,65,66,68,73,74,77,88【文献県内】12,35,39,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.577	タハウタウコギ	D	C	A
Bidens polylepis Blake				

【原産地】北米【国内分布】新潟県・静岡県・千葉県など【県内分布】柏市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1～越年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散？：秋～冬【日本への侵入】120：1970年代以前【県内への侵入】120：1989年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】17,47,52,61,62,63,65,66,74,92【文献県内】、斎藤吉永(1970).タハウタウコギの新知見.千葉植物誌38(2):59-60.

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.578	セイヨウトゲアザミ	C	C	A
Breea arvensis (L.) Less.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国【県内分布】東葛南部に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、不定芽、地下茎による栄養繁殖【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】240：1965年頃【県内への侵入】240,151(?)：1984年以前【侵入の影響】312,313刺がある,321【侵入対策】公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、方針策定。可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,4,10,24,46,47,50,59,61,62,63,65,66,74,92,99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.579	エゾノキツネアザミ	C	C	A
Breea setosa (M.Bieb.) Kitamura				

【原産地】中国～シベリア、ロシア【国内分布】北海道、本州（青森県）自生？【県内分布】千葉市ほか【生育状況】極少～少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】240：日本原産【県内への侵入】240：1965年以前【侵入の影響】312,刺がある,321【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】50,56,59,63,66,73,88【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.580	ヒメキンセンカ	D	C	B
Calendula arvensis L.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】下総町ほか【生育状況】少ない、園芸流通と繁殖の強さから増加傾向【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：春～秋、暖かいところは冬も【日本への侵入】120：江戸末期【県内への侵入】120,151,152：2001年以前【侵入の影響】420,こぼれ種による繁殖力が強い【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、地域個体群の遺伝的多様性を保持した種苗の植栽、方針策定。【備考】-【文献全般】9,24,56,59,63,65,66,70,74,88【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.581	キンセンカ	D	C	A
Calendula officinalis L.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】稀に逸出【県内分布】稀に逸出している程度【生育状況】極少～少ない
 【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：冬～春【日本への侵入】120,151,152：江戸（栽培）【県内への侵入】120,151,152：昭和初期（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、地域個体群の遺伝的多様性を保持した種苗の植栽、方針策定。【備考】-【文献全般】66【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.582	ヒメヒレアザミ	C	C	A
Carduus pycnocephalus L.				

【原産地】欧州【国内分布】兵庫県、三重県、千葉県【県内分布】東葛南部【生育状況】極少【生活形】冬夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：春～夏【日本への侵入】240：1963年【県内への侵入】240：2003年以前【侵入の影響】313,トゲ有り,繁殖する【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】10,17,47,49,52,56,61,62,66,74,77,92,99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.583	ベニバナ	D	C	A
Carthamus tinctorius L. var. spinosus Kitamura				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】県南部【生育状況】極少【生活形】夏緑・1～2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】110,151：平安（栽培）【県内への侵入】110,151：1991年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、方針策定。【備考】-【文献全般】16,17,24,46,47,50,56,59,63,65,66,73,74,88【文献県内】35,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.584	ムラサキイガヤグルマギク	C	C	A
Centaurea caricitrappa L.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】神奈川県、三重県、岡山県など【県内分布】市川市【生育状況】極少【生活形】夏緑・2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散、風散：夏～秋【日本への侵入】240：昭和初期【県内への侵入】240：1955年以前【侵入の影響】313,トゲ有り,繁殖する【侵入対策】可能なかぎり外来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】10,16,17,24,46,47,56,61,62,63,65,66,74,92,99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.585	ヤグルマギク	D	C	A
Centaurea cyanus L.				

【原産地】地中海沿岸東部【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全県に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：春～夏【日本への侵入】120,150,(110)：江戸末期【県内への侵入】120,150,(110)：1931年（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける方針策定【備考】-【文献全般】2,10,21,24,46,47,56,59,61,63,65,66,73,74,88,92,99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.586	クロアザミ	C	C	A
Centaurea nigra Willd.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州（千葉県）【県内分布】印旛【生育状況】放牧地の害草【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】100：1933年以前【県内への侵入】100：1933年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,17,50,56,61,62,65,66,74,92,99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.587	イガヤグルマギク	C	C	A
Centaurea solstitialis L.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】船橋【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1~2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】240：1915年【県内への侵入】240：1972年以前【侵入の影響】312,トゲ有り【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,24,47,49,56,59,61,62,63,64,65,66,68,74,77,92,99【文献県内】66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.588	ヒレハリギク	C	C	A
Centaureum melitensis L.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州、四国、【県内分布】船橋市【生育状況】極少（一時帰化？）【生活形】夏冬緑1~2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】240：1915年【県内への侵入】240：1968年以前【侵入の影響】313,トゲ有り【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】10,16,17,24,47,61,62,63,65,66,68,74,77,92,99【文献県内】66,68,吉川代之助(1970)千葉県生物誌18:51.

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.589	シュンギク	D	C	A
Chrysanthemum coronarium L.				

【原産地】南ヨーロッパ~地中海沿岸【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】極少（畑、人家近く）【生活形】冬夏緑・1~2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：春~夏【日本への侵入】110：江戸中期（栽培）【県内への侵入】110：明治（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】63,65,66【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.590	キク	B	C	B
Chrysanthemum morifolium Ramat.				

【原産地】中国【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全県に散在【生育状況】極少（人里近くで時に逸出）【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋~冬【日本への侵入】120,152：奈良【県内への侵入】120,152：奈良~室町【侵入の影響】100,211,在来のキク属との交雑のおそれ【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、地域個体群の遺伝的多様性を保持した種苗の植栽、方針策定。【備考】複数種の交雑による園芸品【文献全般】42,56,69,70,88【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.591	ハナイソギク	B	B	B
<i>Chrysanthemum x marginatum</i> (Miq.) Matsum.				

【原産地】本州【国内分布】本州【県内分布】銚子、安房の海岸地帯に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】重散：秋～冬【日本への侵入】120,交雑種：江戸以前【県内への侵入】120,交雑種：江戸以前【侵入の影響】100,繁殖力強い、園芸で販売されている、イソギクなどの遺伝子汚染が心配【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】別名：サトイソギク。イソギク×キク。ハナイソギクは舌状花が白、サトイソギクは黄色。【文献全般】56【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.592	キクニガナ	D	C	A
<i>Cichorium intybus</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、九州、【県内分布】全県にまばらに分布【生育状況】少ない（チコリの名で栽培、ときに逸出）【生活形】連緑・2～多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：春～夏【日本への侵入】110,120：明治？（栽培）【県内への侵入】110,120：明治～昭和30年代【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり。販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】2,9,10,16,21,24,46,47,50,56,58,59,61,62,63,65,73,74,88,92,99【文献県内】66,68,96

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.593	フジアザミ	D	C	A
<i>Cirsium purpuratum</i> (Maxim.) Matsum.				

【原産地】日本（国内帰化）【国内分布】宮城県～愛知県、岐阜県、福井県【県内分布】松戸【生育状況】千葉県では逸出、一時帰化で現在はない？【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】自生：日本原産【県内への侵入】240：1970年代以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】24,42,56,73,88【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.594	アメリカオニアザミ	B	A	B
<i>Cirsium vulgare</i> (Savi) Ten.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、（北日本に多い）【県内分布】県北部を中心に分布【生育状況】中程度～多い【生活形】冬緑・2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】240：1960年以前【県内への侵入】240：1993年以前【侵入の影響】313,212,とげあり,繁殖力強い(岩槻メモ：Aでもいいくらい)【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】12,66,68,斉藤吉永(1996)アメリカオニアザミ佐倉市に侵入.千葉生物誌45(2):27-28.

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.595	アレチノギク	C	C	C
<i>Conyza bonariensis</i> (L.) Cronquist				

【原産地】南米【国内分布】北海道、本州、四国、九州、琉球、小笠原【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度（都市的環境）【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：通年【日本への侵入】230：1890年前後【県内への侵入】230：1958年以前【侵入の影響】321【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.596	ヒメムカシヨモギ	B	B	C
<i>Conyza canadensis</i> (L.) Cronquist				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州、琉球【県内分布】全県に普通【生育状況】極多、空き地などに【生活形】連緑・1~2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏~秋【日本への侵入】230：1870年頃【県内への侵入】230：1929年以前【侵入の影響】212,312,繁殖力が強い【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,49,56,59,61,62,64,65,73,74,75,77,88,91,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.597	オオアレチノギク	B	C	C
<i>Conyza sumatrensis</i> (Retz.) E.Walker				

【原産地】南米【国内分布】北海道、本州、四国、九州、琉球【県内分布】全県に普通【生育状況】多い~極多 ヒメムカシヨモギと共に大群生する【生活形】冬緑・1~2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏~秋【日本への侵入】230：1920年前後【県内への侵入】230：1935年以前【侵入の影響】321,212,繁殖力が強く大群生する【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,14,16,17,21,46,50,52,56,61,62,73,77,88,91,92,99【文献県内】12,35,39,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.598	キンケイギク	D	C	A
<i>Coreopsis basalis</i> (A.Dietr.) S.F.Blake				

【原産地】北米【国内分布】本州（まれで、たまに一時帰化）【県内分布】全県にまばらに分布【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏~秋【日本への侵入】120,(151)：明治【県内への侵入】120,(151)：2003年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、方針策定。【備考】-【文献全般】9,16,17,21,24,47,50,56,59,62,63,65,73,74,88,92,99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.599	オオキンケイギク	A	A	A
<i>Coreopsis lanceolata</i> L.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州、【県内分布】全県に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏~秋【日本への侵入】120,151：明治【県内への侵入】120,151：1984年以前【侵入の影響】420,212,かなり繁殖している【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、方針策定。【備考】特定外来生物【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,46,47,49,59,61,62,63,64,65,69,73,74,75,88,92,99【文献県内】35,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.600	ハルシャギク	C	C	B
<i>Coreopsis tinctoria</i> Nutt.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】中程度、利根川河川敷で時々群落あり【生活形】冬緑・1~2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120,151：明治【県内への侵入】120,151：1927年以前（栽培）【侵入の影響】212,420,河川敷にあることも多く、河川敷固有種との競合が心配【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、方針策定。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,21,24,46,47,56,59,62,63,65,69,73,74,75,88,92,99【文献県内】12,35,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.601	コスモス	D	C	B
Cosmos bipinnatus Cav.				

【原産地】メキシコ【国内分布】北海道、本州、四国、九州（時々逸出するが定着せず）【県内分布】北総～東葛南部の記録が多い【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：冬【日本への侵入】120,151,152：江戸【県内への侵入】120,151,152：（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、地域個体群の遺伝的多様性を保持した種苗の植栽、方針策定。【備考】-【文献全般】2,4,9,10,21,24,46,47,48,50,56,59,61,62,63,69,73,74,75,88,92,99【文献県内】35,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.602	キバナコスモス	D	C	B
Cosmos sulphureus Cav.				

【原産地】中央米～南米【国内分布】北海道、本州、四国、九州（時々逸出するが定着せず）【県内分布】北総で記録が多い【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：大正初期【県内への侵入】120：1943年（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,16,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,73,74,75,88,92,99【文献県内】35,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.603	マメカミツレ	C	C	B
Cotula australis (Sieber ex Spreng.) Hook.f.				

【原産地】豪州【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】東葛南部、東京湾沿い【生育状況】多い～極多（市街地）【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：都市部では通年【日本への侵入】220：1939年【県内への侵入】220：1958年以前【侵入の影響】321,繁殖力が強い【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】4,9,10,16,17,21,24,46,47,49,50,56,59,62,63,65,74,77,91,92,98,99【文献県内】12,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.604	ベニバナボロギク	B	C	C
Crassocephalum crepidioides (Benth.) S.Moore				

【原産地】アフリカ【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全県に普通【生育状況】中程度～多い（伐採地や崩壊地等）【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】230：1950年【県内への侵入】230：1984年以前【侵入の影響】212,山林にも侵入し時に群生【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,49,50,56,59,61,62,63,65,73,74,75,85,88,91,92,99【文献県内】12,66,68,浅野貞夫(1972)ベニバナボロギクが千葉県秘境で育つ。植物採集ニュース(60):19.

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.605	セイヨウニガナ	D	C	A
Crepis capillaris (L.) Wallr.				

【原産地】欧州【国内分布】本州（千葉県、神奈川県、長野県）【県内分布】千葉市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】240：1977年【県内への侵入】240：1991年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能な限り在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】24,47,50,61,62,63,65,74,92【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.606	ヤネタビラコ	D	C	B
Crepis tectorum L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国【県内分布】県北部に散在【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】240：1974年【県内への侵入】240：1974年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】2,9,17,21,24,46,47,59,61,62,63,65,73,74,92,99【文献県内】、齊藤吉永(1974)新帰化植物ヤネタビラコとヒメハルガヤ.植物採集ニュース(73):19-21.

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.607	アメリカタカサブロウ	B	B	C
Eclipta alba (L.) Hassk.				

【原産地】熱帯アメリカ(?)【国内分布】関東以西に広く分布、北日本の状況は不明【県内分布】全県に普通【生育状況】中程度～多い、水田わきや畑などに【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散、水散：夏～秋【日本への侵入】240：1989年以前【県内への侵入】240：1989年以前【侵入の影響】321,在来のタカサブロウとはわりと共存するが、他の希少な水田雑草と競合のおそれ【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】9,24,46,47,59,63,65,74【文献県内】12,30,66,大場達之 1998. アメリカタカサブロウ.千葉県植物誌資料 11:73-75.

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.608	オオハキダメギク	D	C	A
Eleutheranthera ruderalis (Sw.) Sch.-Bip.				

【原産地】熱帯アメリカ【国内分布】本州【県内分布】船橋、市川【生育状況】極小、一時帰化?【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1999年【県内への侵入】240：1999年【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】63【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.609	ナンカイウスベニニガナ	D	C	A
Emilia fosbergii Nicolson				

【原産地】アフリカ【国内分布】硫黄列島、千葉県【県内分布】習志野【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草(千葉では夏緑1年草)【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】240：昭和【県内への侵入】240：2000年頃【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】47,63,65【文献県内】、林 信子 2006. ナンカイウスベニニガナ発見記.千葉県植物誌資料 21:174. 大場達之・大野啓一・木村陽子 2006. ナンカイウスベニニガナ同定記.千葉県植物誌資料 21:174-177.

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.610	ダンドボロギク	B	C	C
Erechtites hieraciifolius (L.) Raf. ex DC.				

【原産地】北米・熱帯米【国内分布】本州、四国、九州、琉球【県内分布】全県に普通【生育状況】多い、山林や林縁などに【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】230：1933年【県内への侵入】230：1942年以前【侵入の影響】212,山林、林縁にも侵入、繁殖力強い【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,49,50,56,59,61,62,64,65,73,74,75,77,88,91,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.611	ヒメジヨオン	B	C	C
Erigeron annuus (L.) Pers.				

【原産地】欧州・北米? 【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県にごく普通【生育状況】道ばた・畑などに多い【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋
 【日本への侵入】230：江戸末期【県内への侵入】230：1929年以前【侵入の影響】312,312,繁殖力が強い
 【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.612	ペラペラヨメナ	C	C	B
Erigeron karvinskianus DC.				

【原産地】中央米【国内分布】本州（関東以西）～琉球にとびとびに分布【県内分布】館山など【生育状況】少ない、石垣のようなところ【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：1949年【県内への侵入】120：1985年以前【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり
 【備考】-【文献全般】17,24,46,47,49,52,56,59,61,62,63,65,74,75,87,88,91,92,99【文献県内】12,66,斉藤吉永(1986)ペラペラヨメナ房州館山に現れる.千葉生物誌36(1):45.

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.613	ハルジオン	B	C	C
Erigeron philadelphicus L.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に普通【生育状況】多い【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、不定芽、無配生殖【散布形態】風散：春、秋～冬【日本への侵入】120：1920年頃【県内への侵入】120：1952年以前【侵入の影響】212,312【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,49,50,56,59,61,62,63,65,73,74,77,88,91,92,99【文献県内】12,35,39,66,浅野貞夫(1966)ハルジオン房州に渡来する.植物採集ニュース(27):26.

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.614	ケナシヒメムカシヨモギ	C	C	B
Erigeron pusillus Nutt.				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州、琉球【県内分布】北総～九十九里に散在【生育状況】中程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】230：1926年以前【県内への侵入】230：1962年以前【侵入の影響】212,312,繁殖力が強い【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,10,14,16,17,21,24,46,47,49,50,56,59,62,63,65,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.615	テンニンギク	D	C	A
Gaillardia pulchella Foug.				

【原産地】北米【国内分布】本州（近畿以西）、四国、九州、【県内分布】成東【生育状況】極少、栽培？現在はない？【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】120：明治中頃（栽培）【県内への侵入】120：1927年以前（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,24,46,47,59,61,62,63,64,65,74,75,88,92【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.616	コゴメギク	D	C	A
Galinsoga parviflora Cav.				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、四国に点在【県内分布】東葛（関宿、木間ヶ瀬地区でかなり繁殖）
 【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】230：昭和初期【県内への侵入】230：1971年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】9,14,16,17,21,24,46,47,56,61,62,63,65,73,74,77,92,99【文献県内】35,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.617	ハキダメギク	C	C	C
Galinsoga quadriradiata Ruiz et Pav.				

【原産地】北米・熱帯米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に普通【生育状況】多い、畑、路傍など【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】230：1932年【県内への侵入】230：1971年以前【侵入の影響】321【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,50,52,56,59,61,62,63,65,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,39,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.618	アイセイタカハハコグサ	B	C	B
Gnaphalium affine D.Don x G. luteoalbum L.				

【原産地】日本【国内分布】本州（神奈川県、千葉県）【県内分布】北総で記録が多い【生育状況】少ない、ハハコグサとセイタカハハコグサが混生するところによく見られる【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：ほぼ通年【日本への侵入】230：2003年以前【県内への侵入】230：2003年以前【侵入の影響】100,ハハコグサとの交雑による遺伝子汚染【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】ハハコグサ×セイタカハハコグサ【文献全般】63,65【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.619	タチチコグサ	C	C	B
Gnaphalium calviceps Fernald				

【原産地】北アメリカ【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：ほぼ通年【日本への侵入】230：1918年【県内への侵入】230：1991年以前【侵入の影響】321【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,21,24,44,46,47,52,59,61,62,63,65,74,92,98,99【文献県内】12,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.620	セイタカハハコグサ	B	C	C
Gnaphalium luteoalbum L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州（関東、兵庫県など）【県内分布】全県に散在【生育状況】中程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：ほぼ通年【日本への侵入】230：戦後【県内への侵入】230：1982年以前【侵入の影響】100,ハハコグサとの交雑【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,9,21,24,46,47,59,61,62,63,65,74,75,92【文献県内】12,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.621	チチコグサモドキ	B	C	C
<i>Gnaphalium pensylvanicum</i> Willd.				

【原産地】北アメリカ【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に普通【生育状況】中程度【生活形】冬夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：ほぼ通年【日本への侵入】230：大正【県内への侵入】230：1957年以前【侵入の影響】321、繁殖力が強い【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,44,46,47,50,52,56,59,61,62,64,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.622	ウスベニチチコグサ	C	C	C
<i>Gnaphalium purpureum</i> L.				

【原産地】アメリカ大陸【国内分布】本州（関東以西）、四国、九州、とくに九州は多い【県内分布】全県に分布【生育状況】少ない【生活形】通緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】240：1968年【県内への侵入】240：1958年以前【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】4,9,10,12,17,21,24,46,47,52,56,59,61,62,63,64,65,66,68,74,77,92【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.623	ウラジロチチコグサ	B	C	C
<i>Gnaphalium spicatum</i> Lam.				

【原産地】北アメリカ【国内分布】本州（関東以西）、四国、九州【県内分布】全県にきわめて普通【生育状況】多い【生活形】通緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：ほぼ通年【日本への侵入】240：1965年頃【県内への侵入】240：1958年以前【侵入の影響】321、繁殖力が強い【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】4,9,10,12,21,24,30,46,47,59,61,62,63,65,66,74,92【文献県内】12,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.624	キバナタカサブロウ	D	C	A
<i>Guizotia abyssinica</i> (L.f.) Cass.				

【原産地】熱帯アフリカ【国内分布】本州（千葉県、静岡県、山口県）【県内分布】柏市【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：1960年【県内への侵入】110：1971年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】10,16,17,24,47,50,61,62,63,65,66,68,74,75,85,87,92,99【文献県内】35,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.625	ミスヒマワリ	A	A	A
<i>Gymnocoronis spilanthoides</i> DC.				

【原産地】南アメリカ【国内分布】本州（関東、東海、近畿）【県内分布】市川、佐原、栗山川など【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒 ちぎれた茎からも栄養繁殖【散布形態】重散、水散：秋【日本への侵入】130：戦後（栽培）【県内への侵入】130：2001年以前【侵入の影響】322,212,222,水辺で大繁殖のおそれ【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】特定外来生物【文献全般】47,51,65,66,90【文献県内】66,浅田正彦・林薫・林浩二(2009)千葉県の県管轄河川における特定外来生物緊急調査.千葉県生物多様性センター研究報告1:41-47.

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No. 626	サンシチソウ	D	C	A
<i>Gynura japonica</i> (L.f.) Juel				

【原産地】中国【国内分布】本州【県内分布】成東など【生育状況】極少、一時帰化？【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】100：江戸末期【県内への侵入】100：1929年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】10,16,24,46,47,50,52,56,61,62,63,65,66,74,75,77,88,92,99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No. 627	ダンゴギク	D	C	A
<i>Helenium autumnale</i> L.				

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】北総に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】120：大正【県内への侵入】120：1967年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,46,47,59,63,65,66,74,88【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No. 628	ヒマワリ	D	C	B
<i>Helianthus annuus</i> L.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全県に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110,120,151：江戸（栽培）【県内への侵入】110,120,151：明治（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり。販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、方針策定。【備考】-【文献全般】2,9,12,24,56,59,61,63,65,66,69,73,74,88【文献県内】12

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No. 629	シロタエヒマワリ	D	C	A
<i>Helianthus argophyllus</i> Torr. et A.Gray				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】富里市、茂原市、芝山【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：明治（栽培）【県内への侵入】120：1995年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,24,46,47,56,59,61,63,65,66,74,92,99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No. 630	ヒメヒマワリ	D	C	A
<i>Helianthus cucumerifolius</i> Torr. et A.Gray				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】大多喜町など全県で稀に見られる【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1910年前後【県内への侵入】120：1934年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,21,24,46,47,56,59,62,63,65,66,68,69,74,75,88,92,99【文献県内】66,68,吉川代之助(1973)千葉県船橋の帰化植物4種. 植物採集ニュース(68):85.

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.631	キクイモ	B	B	C
Helianthus tuberosus L.				

【原産地】アメリカ大陸【国内分布】北海道、本州、四国、九州、琉球【県内分布】全県に普通【生育状況】多い【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒 根茎、塊茎で繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110,120：江戸末期【県内への侵入】110,120：1981年以前【侵入の影響】212,繁殖力がきわめて強い【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり。販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,10,12,14,16,17,21,24,46,47,50,58,59,61,62,65,66,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.632	コウリントンポポ	D	C	A
Hieracium aurantiacum L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、【県内分布】佐倉【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：1997年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,16,17,21,24,46,50,52,56,61,62,63,65,66,73,74,92,99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.633	ヒメブタナ	D	C	A
Hypochaeris glabra L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州（関東以西）、四国【県内分布】東葛～北総にまばら【生育状況】極少【生活形】通緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：春～夏【日本への侵入】240：1966年【県内への侵入】240：1980年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】10,17,21,24,49,50,61,62,63,64,65,66,74,92,99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.634	ブタナ	B	C	C
Hypochaeris radicata L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県【生育状況】中程度【生活形】通緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】240：1933年【県内への侵入】240,120,(151?):1972年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、方針策定。可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,10,12,14,16,17,21,24,46,49,50,56,61,62,64,66,68,74,75,87,88,91,92,99【文献県内】12,39,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.635	オオグルマ	D	C	A
Inula helenium L.				

【原産地】ユーラシア西部【国内分布】本州（千葉県）【県内分布】富里市【生育状況】極少、一時的な逸出【生活形】夏緑～連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】110(ハーブとして)：2003年以前【県内への侵入】110(ハーブとして)：2003年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】66【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.636	フナバシソウ	D	C	A
<i>Iva xanthifolia</i> Nutt.				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国に稀【県内分布】船橋市【生育状況】極少、一時帰化か？【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】200：1960年【県内への侵入】200：1960年【侵入の影響】312,花粉症の原因【侵入対策】輸送時の検査・洗浄、工場・空港・港湾などのモニタリングと除去【備考】-【文献全般】16,47,56,63,65,66,68,74【文献県内】66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.637	マルバトゲチシャ	D	C	A
<i>Lactuca serriola</i> L. var. <i>integrata</i> Gren. et Godr.				

【原産地】ヨーロッパ【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】野田市【生育状況】少ない、トゲチシャと混生したり異所的に生えることも【生活形】冬緑・1～2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】210：1949年？【県内への侵入】210：1998年【侵入の影響】312,トゲ有り【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,10,24,46,47,63,65,66,73【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.638	トゲチシャ	D	C	B
<i>Lactuca serriola</i> L. var. <i>serriola</i> (syn. <i>L. scariola</i> L.)				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】東葛を中心に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1～2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】210：1939年以前【県内への侵入】210：1986年以前【侵入の影響】312,トゲ有り【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,21,24,34,46,47,50,56,59,61,62,65,66,68,73,74,75,88,92,98,99【文献県内】37,39,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.639	ナタネタビラコ	D	C	A
<i>Lapsana communis</i> L.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州（神奈川県、長野県、岐阜県、静岡県、三重県）【県内分布】船橋、佐倉、木更津など【生育状況】少ない【生活形】夏緑～冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】210：1959年【県内への侵入】210：2000年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,10,16,24,46,47,49,56,59,61,62,63,65,66,73,74,92,99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.640	ノースポールギク	D	C	B
<i>Leucanthemum paludosum</i> (Poir.) Bonnet et Barratte (syn. <i>Chrysanthemum paludosum</i> Poir.)				

【原産地】欧州【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】県北部に散在【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：春【日本への侵入】120：昭和（導入）【県内への侵入】120：1991年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,24,59,66,74【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.641	フランスギク	D	C	B
<i>Leucanthemum vulgare</i> Lam.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州【県内分布】県北部に多い【生育状況】中程度、栽培がときに逸出、利根川河川敷でも見かける【生活形】夏緑・草本【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：江戸末期【県内への侵入】120：1929年以前【侵入の影響】212,利根川河川敷にあるものが気になる【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,12,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,66,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.642	イヌカミツレ	C	C	B
<i>Matricaria inodora</i> L.				

【原産地】ユーラシア（広域）南部【国内分布】北海道、本州、九州【県内分布】県北部に散在【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：春～夏【日本への侵入】210：明治【県内への侵入】210：1951年以前【侵入の影響】212,420【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,12,16,17,21,24,46,47,50,56,59,61,62,63,65,66,74,92,99【文献県内】12,35

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.643	コシカギク	D	C	A
<i>Matricaria matricarioides</i> (Less.) Porter (syn. <i>M. discoidea</i> DC. ; <i>M. suaveolens</i> (Pursh) Buchenau non L.)				

【原産地】ユーラシア北部【国内分布】北海道、本州、四国【県内分布】千葉市など【生育状況】少ない、一時帰化？【生活形】夏冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：春～夏【日本への侵入】220：戦後と推定【県内への侵入】220：1980年以前【侵入の影響】321【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,24,47,50,56,59,63,65,66,73,74,77,88【文献県内】、斎藤吉永(1980)オロチャギクを千葉県柏市で採集。植物採集ニュース(95):5.

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.644	カミツレ	C	C	B
<i>Matricaria recutita</i> L. (syn. <i>Chamomilla recutita</i> (L.) Rausch.)				

【原産地】欧州～西アジア【国内分布】本州（中、北部など）【県内分布】県北部を中心に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：春～夏【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：1935年以前【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,12,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,66,74,77,88,92【文献県内】12,35,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.645	コバレンギク	D	C	A
<i>Ratibida columnifera</i> (Nutt.) Woot. et Standl.				

【原産地】北アメリカ～メキシコ【国内分布】本州（千葉県）、九州（宮崎県）【県内分布】千葉市【生育状況】栽培が時に逸出【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：夏～秋【日本への侵入】120：昭和以前（栽培）【県内への侵入】120：1991年【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】63,65,66【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.646	アラゲハンゴンソウ	C	B	B
Rudbeckia hirta L. var. sericea (T.V.Moore) Fernald				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】120, 151, 152：1936年以前【県内への侵入】120, 151, 152：1936年以前【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、地域個体群の遺伝的多様性を保持した種苗の植栽、方針策定。【備考】-【文献全般】2, 9, 10, 12, 16, 17, 21, 24, 46, 47, 49, 50, 56, 61, 62, 64, 66, 68, 69, 73, 74, 75, 77, 88, 92, 99【文献県内】12, 66, 68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.647	オオハンゴンソウ	A	A	A
Rudbeckia laciniata L.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：1931年以前【侵入の影響】212, 湿地や河原に侵入し、在来希少種と競合【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】特定外来生物【文献全般】2, 4, 9, 10, 16, 17, 21, 24, 46, 47, 49, 50, 56, 59, 61, 62, 63, 65, 66, 69, 73, 74, 75, 88, 92, 99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.648	ハナガサギク	D	C	A
Rudbeckia laciniata L. var. hortensis L.H.Bailey				

【原産地】北アメリカ【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総に散在【生育状況】少ない、人家周辺に逸出【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】重散、不稔：夏～秋【日本への侵入】120：昭和以前【県内への侵入】120：1971年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2, 9, 10, 24, 46, 56, 59, 63, 65, 66, 73, 74, 75【文献県内】35, 66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.649	ミツバオオハンゴンソウ	D	C	A
Rudbeckia triloba L.				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】館山市、東葛（柏市）【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年～越年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】120：昭和初期【県内への侵入】120：1989年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2, 16, 17, 24, 46, 47, 50, 56, 59, 62, 63, 65, 66, 74, 92, 99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.650	ナルトサワギク	A	A	A
Senecio madagascariensis Poir.				

【原産地】マダガスカル【国内分布】本州（中部以西）、四国、九州【県内分布】館山市【生育状況】少ない【生活形】1～多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：周年【日本への侵入】120, 220：1976年【県内への侵入】120, 220：2007年以前【侵入の影響】312, 家畜に毒性あり, 212, 213アレロパシー作用【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定。【備考】特定外来生物【文献全般】24, 30, 46, 47, 52, 62, 63, 65, 74, 92, 98【文献県内】-

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No. 651	ツタギク	D	C	A
Senecio mikanioides Otto				

【原産地】南アフリカ【国内分布】本州（千葉県・神奈川県）【県内分布】館山市【生育状況】海岸の林縁に少ない【生活形】つる多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：2003年以前【県内への侵入】120：2003年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】66【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No. 652	ネバリノボロギク	D	C	A
Senecio viscosus L.				

【原産地】欧州【国内分布】九州（散発的に見られるが稀）、本州（千葉県）【県内分布】千葉市【生育状況】極少（一時帰化？）【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：ほぼ通年【日本への侵入】220：1994年【県内への侵入】220：1994年【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】47,49,61,62,63,65,66,74,92【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No. 653	ノボロギク	B	C	C
Senecio vulgaris L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度～多い【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：ほぼ通年【日本への侵入】210：1870年前後【県内への侵入】210：1939年以前【侵入の影響】212,321,繁殖力が強い【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,12,14,17,21,24,46,47,56,59,61,62,64,65,66,68,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No. 654	ツクシメナモミ	D	C	A
Sigesbeckia orientalis L.				

【原産地】熱帯に広く分布【国内分布】本州（関東以西）、四国、九州【県内分布】鋸南町・館山市など【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散：秋【日本への侵入】230：日本原産？【県内への侵入】230：1950年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】24,66,88【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No. 655	オオアザミ	C	C	A
Silybum marianum (L.) Gaertn.				

【原産地】地中海沿岸南西部【国内分布】本州（栽培品がときに逸出）【県内分布】東葛に散在【生育状況】極少（栽培逸出）【生活形】冬緑・1～2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：1856年以前【県内への侵入】120：1977年以前【侵入の影響】313,トゲ有り【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,10,14,17,24,46,47,50,52,56,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】37,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.656	ヤーコン	D	C	A
Smallanthus sonchifolia (Poeppig et Endl.) H.Robinson				

【原産地】ペルー、ポリビア【国内分布】本州【県内分布】佐倉市【生育状況】極少（まれに逸出）【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、根茎【散布形態】風散、：秋、__【日本への侵入】110：昭和以前（導入）【県内への侵入】110：1998年【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】63【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.657	セイタカアワダチソウ	A	B	C
Solidago altissima L.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県にごく普通【生育状況】河川敷・草地などに極多【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】風散：秋～冬【日本への侵入】120：1908年頃【県内への侵入】120：1955年以前【侵入の影響】212,213,411,繁殖力は極めて強い,アレロパシー作用、秋冬季の蜜源にも【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】要注意外来生物（適否検討）【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,48,50,56,59,62,63,64,65,73,74,75,88,91,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.658	オオアワダチソウ	C	B	B
Solidago gigantea Aiton subsp. serotina (Kuntze) McNeill				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】県北部に散在【生育状況】少し湿ったところに中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：1933年以前【侵入の影響】212,なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,62,63,65,73,74,77,88,92,99【文献県内】35,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.659	メリケントキンソウ	A	A	A
Soliva sessilis Ruiz et Pav.				

【原産地】南米【国内分布】本州（関東以西）、四国、九州【県内分布】江戸川河川敷、木更津市【生育状況】多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】着散、重散：夏～秋【日本への侵入】220：1930年【県内への侵入】220：2006年以前【侵入の影響】312,313,321,瘦果により人体を傷付け、発芽率がよく、ひろがるため、早急な撤去が必要【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】10,16,17,21,24,47,56,59,62,63,65,74,92,99【文献県内】、木村陽子 2008. 千葉県メリケントキンソウ（キク科）.千葉県植物誌資料 24:229-230.

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.660	オニノゲシ	B	C	C
Sonchus asper (L.) Hill				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県にごく普通【生育状況】道ばた・畑などに中程度【生活形】夏緑・冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：ほぼ通年【日本への侵入】230：明治【県内への侵入】230：1932年以前【侵入の影響】212,313,刺あり、繁殖力が強い,321,ハルノゲシと競合の恐れ【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,49,50,56,59,61,62,64,65,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.661	ヤナギバヒメジョオン	B	C	B
<i>Stenactis pseudoannuus</i> (Makino) comb. nov. (syn. <i>Erigeron pseudoannuus</i> Makino)				

【原産地】北米? 【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】ヒメジョオンとヘラヒメジョオンが混生しているところに中程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】230(雑種と推定)：大正【県内への侵入】230(雑種と推定)：1932年以前【侵入の影響】212,321【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,9,10,16,21,24,46,47,50,56,59,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】35,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.662	ヘラバヒメジョオン	C	C	B
<i>Stenactis strigosus</i> (Muhl. ex Willd.) DC. (syn. <i>Erigeron strigosus</i> Muhl. ex Willd.)				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】ススキ草原や土手などに少ない【生活形】冬緑・1～2年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】230：1961年以前【県内への侵入】230：1931年以前【侵入の影響】212,山地のススキ草原等、自然度の高いところにも入る【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,9,14,16,17,21,24,46,47,49,50,59,61,62,63,65,73,74,75,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.663	シオザキソウ	D	C	A
<i>Tagetes minuta</i> L.				

【原産地】南米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】県西部に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】230,150(?)：1955年以前【県内への侵入】230,150(?)：1975年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、公共事業などにおける方針策定。付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及。【備考】ただし定着しない【文献全般】9,10,16,17,21,24,46,47,50,56,61,62,63,65,74,85,92,98,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.664	コウオウソウ	D	C	A
<i>Tagetes patula</i> L.				

【原産地】メキシコ【国内分布】関東(千葉県)、四国(香川県)、九州(宮崎県)【県内分布】北総に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】120：1933年以前【県内への侵入】120：2003年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】56,63,88【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.665	ナツシロギク	D	C	A
<i>Tanacetum parthenium</i> (L.) Sch.Bip. (syn. <i>Chrysanthemum parthenium</i> (L.) Bernh.)				

【原産地】欧州・西アジア【国内分布】北海道、本州(新潟県、千葉県など)【県内分布】県北部に散在【生育状況】園芸種がときに逸出、極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：1996年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,24,47,56,61,63,65,74,75,92【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.666	ヨモギギク	D	C	A
Tanacetum vulgare L.				

【原産地】欧州・シベリア【国内分布】北海道、本州【県内分布】全県に稀【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】120,151：北海道原産【県内への侵入】120,151：1954年以前（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、方針策定。【備考】-【文献全般】2,16,24,46,47,56,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.667	シロバナタンポポ	C	C	C
Taraxacum albidum Dahlst.				

【原産地】国内帰化？【国内分布】本州（関東以西）、四国、九州【県内分布】全県に点在【生育状況】西日本中心？千葉県は国内帰化？【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：春～夏【日本への侵入】西日本はもともとの自生：日本原産【県内への侵入】120(?)：1951年以前【侵入の影響】212,分布拡大すれば在来タンポポとの競合の可能性【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】国内帰化【文献全般】24,42,56,88【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.668	アカミタンポポ	B	C	B
Taraxacum laevigatum (Willd.) DC.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】都市環境に中程度～多い【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：ほぼ通年【日本への侵入】210：1918年【県内への侵入】210：1975年以前【侵入の影響】100,在来タンポポとの交雑【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,24,46,47,50,56,59,63,65,73,74,75【文献県内】12,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.669	アイノコアカミタンポポ	B	C	A
Taraxacum laevigatum DC. x T. platycarpum Dahlst.				

【原産地】アカミタンポポとカントウタンポポとの雑種【国内分布】本州（千葉県・神奈川県）【県内分布】県中部に散在【生育状況】少ない～中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：ほぼ通年【日本への侵入】230,雑種と推定：平成以前【県内への侵入】230,雑種と推定：1997年以前【侵入の影響】100,在来タンポポとの交雑・競合【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】59,63【文献県内】66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.670	セイヨウタンポポ	B	C	C
Taraxacum officinale Weber				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県にごく普通【生育状況】多い～極多だが最近では交雑が進んで純な個体は少ない【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒＋無融合【散布形態】風散：ほぼ通年【日本への侵入】110,150,200：1904年以前【県内への侵入】110,150,200：1952年以前【侵入の影響】100,312,212,在来タンポポとの交雑・競合【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける方針策定。輸送時の検査・洗浄、工場・空港・港湾などのモニタリングと除去。【備考】-【文献全般】2,9,10,16,17,24,46,47,50,56,59,63,64,65,73,74,75,77,88【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.671	アイノコセイヨウタンポポ	B	C	C
Taraxacum officinale Weber ex F.H.Wigg. x T. platycarpum Dahlst.				

【原産地】セイヨウタンポポとカントウタンポポの雑種【国内分布】本州【県内分布】全県できわめて普通【生育状況】多い～極多【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒+無融合【散布形態】風散：ほぼ通年【日本への侵入】230, 雑種と推定：昭和以前【県内への侵入】230, 雑種と推定：1997年以前【侵入の影響】100, 在来タンポポとの交雑・競合【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】63【文献県内】12,66

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.672	キバナムギナデシコ	D	C	A
Tragopogon pratense L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州【県内分布】船橋市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：1877年ころ【県内への侵入】120：1978年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,17,47,49,50,56,63,65,73,74,77,88【文献県内】66,土屋守(1978)船橋市でキバナムギナデシコを採る.植物採集ニュース(96):14.

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.673	イガオナモミ	B	B	C
Xanthium italicum Moretti				

【原産地】熱帯アメリカ【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】荒れ地・沿岸地に多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】着散：秋～冬【日本への侵入】230：1958年以前【県内への侵入】230：1975年以前【侵入の影響】313, 果実に刺あり,212, 在来のオナモミとの競合・交雑の可能性【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,50,56,59,61,62,63,65,74,75,88,92,98,99【文献県内】12,39,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.674	オオオナモミ	B	B	C
Xanthium occidentale Bertol.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に普通【生育状況】河原・路傍・鉄道周辺に多い【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】着散：秋～冬【日本への侵入】230：1929年以前【県内への侵入】230：1936年以前【侵入の影響】313, 果実に刺,花粉症の原因,212, 在来のオナモミとの競合・交雑の恐れ【侵入対策】輸送時の検査・洗浄、工場・空港・港湾などのモニタリングと除去【備考】要注意外来生物(情報不足)【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,73,74,75,77,92,99【文献県内】12,39,66,68

種子植物	キク科	影響度	緊急度	容易性
No.675	トゲオナモミ	C	C	A
Xanthium spinosum L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州【県内分布】東葛で記録あり【生育状況】極少(一時帰化で定着せず)【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】着散：秋～冬【日本への侵入】230：1934年以前【県内への侵入】230：1968年以前【侵入の影響】313, 刺あり、花粉症の原因になる可能性【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】定着はせず【文献全般】2,9,10,16,17,24,46,47,56,59,63,65,74,77【文献県内】66,68

種子植物	オモダカ科	影響度	緊急度	容易性
No.676	ヒロハシャゼンオモダカ	B	B	A
<i>Echinodorus grandiflorus</i> (Cham. et Schlechtendal) Micheli subsp. aureus (Fassett) Hynes et Nielsen				

【原産地】中米～南米【国内分布】千葉県【県内分布】佐倉市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】水散：秋【日本への侵入】130：昭和（栽培）【県内への侵入】130：2002年以前【侵入の影響】212,322【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】-【文献県内】12,66

種子植物	オモダカ科	影響度	緊急度	容易性
No.677	ナガバオモダカ	B	B	A
<i>Sagittaria graminea</i> Michx.				

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】千葉市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】水散：秋【日本への侵入】130：1975年頃【県内への侵入】130：1991年以前【侵入の影響】322,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】24,46,47,61,62,63,65,74,92【文献県内】66,大場達之 1996. ナガバオモダカが松戸市に生えた.千葉県植物誌資料 8:54. 大場達之 1996. ナガバオモダカ追記.千葉県植物誌資料 9:64.

種子植物	トチカガミ科	影響度	緊急度	容易性
No.678	オオカナダモ	A	A	B
<i>Egeria densa</i> Planch.				

【原産地】南米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主として北総西部に分布【生育状況】極多【生活形】夏緑・沈水多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、枝がちぎれて栄養繁殖【散布形態】水散：秋【日本への侵入】130：大正【県内への侵入】130：1975年以前【侵入の影響】322,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】要注意外来生物（適否検討）日本では種子繁殖しない【文献全般】4,9,14,16,21,23,24,46,47,56,59,61,62,63,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,66,68,大滝末男(1973)千葉県印旛沼北部にもオオカナダモが生ずる.植物採集ニュース(68):85.

種子植物	トチカガミ科	影響度	緊急度	容易性
No.679	コカナダモ	A	A	B
<i>Elodea nuttallii</i> (Planch.) St.John				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主として北総に分布【生育状況】極多【生活形】夏緑・沈水多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、枝がちぎれて栄養繁殖【散布形態】水散：秋【日本への侵入】130：1961年以前【県内への侵入】130：1976年以前【侵入の影響】322,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】要注意外来生物（適否検討）日本では種子繁殖しない【文献全般】4,9,10,17,21,23,24,46,47,55,56,59,61,62,63,65,74,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	トチカガミ科	影響度	緊急度	容易性
No.680	アマゾントチカガミ	B	A	A
<i>Limnium laevigatum</i> (Humb. et Bonpl. ex Willd.) Heine				

【原産地】熱帯アメリカ（アルゼンチン、メキシコ、西インド諸島、パラグアイ、ブラジル）【国内分布】本州（大阪府、千葉県）、九州【県内分布】印西市（旧印旛村山田）、野田市瀬戸【生育状況】中程度【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝による栄養繁殖【散布形態】水散：初夏【日本への侵入】130：1973年以前（導入）【県内への侵入】130：2009年以前【侵入の影響】211【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】千葉県立中央博物館収蔵標本（野田市三ヶ尾、2009.12.21、CBM-BS-277881）佐倉市畔戸では、除去した(2008年)。【文献全般】55,63,64,74【文献県内】大野啓一 2009. 北総にアマゾントチカガミが帰化.千葉県植物誌資料25:238-241.

種子植物	カンナ科	影響度	緊急度	容易性
No.681	ハナカンナ	D	C	A
<i>Canna generalis</i> Bailey				

【原産地】インド【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】芝山町【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1910年頃【県内への侵入】120：1995年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】交雑に由来する園芸種【文献全般】55,63,65,69,70,74,88【文献県内】63,66

種子植物	カンナ科	影響度	緊急度	容易性
No.682	ダンドク	D	C	A
<i>Canna indica</i> L.				

【原産地】インド・マラッカ・マレー諸島【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】安房に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1850年頃【県内への侵入】120：1992年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,47,55,62,63,64,64,65,69,69,74,75,88,92【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No.683	ラッキョウ	D	C	A
<i>Allium chinense</i> G. Don				

【原産地】中国【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：江戸【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,24,55,59,65,70,74,88【文献県内】12,66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No.684	アサツキ	D	C	A
<i>Allium schoenoprasum</i> L. var. <i>foliosum</i> Regel				

【原産地】極東ロシア・東ロシア【国内分布】北海道、本州（北部）（自生）【県内分布】市原市・鋸南町【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：日本原産【県内への侵入】110：1991年以前（逸出）【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】42,70【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No.685	ニラ	D	C	B
<i>Allium tuberosum</i> Rottl.				

【原産地】中国【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全県に分布【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】110：平安【県内への侵入】110：江戸以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,24,55,58,59,63,65,70,88【文献県内】12,66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No.686	キダチアロエ	D	C	A
Aloe arborescens Mill.				

【原産地】南アフリカ【国内分布】本州、四国、九州（屋外栽培）【県内分布】主として南総・安房に分布
 【生育状況】少ない【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】110：江戸【県内への侵入】110：昭和【侵入の影響】420【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】70【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No.687	タチテンモンドウ	D	C	A
Asparagus cochinchinensis (Lour.) Merr. var. pygmaeus Makino				

【原産地】南アフリカ【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】富津市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：明治以前【県内への侵入】120：1956年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】69,70,88【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No.688	オランダキジカクシ	D	C	A
Asparagus officinalis L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国（栽培）【県内分布】主として北総に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：1781年（江戸）【県内への侵入】120：明治（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,58,59,61,63,74,88【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No.689	ネズミボウキ	D	C	A
Asparagus virgatus Baker				

【原産地】南アフリカ【国内分布】本州、四国【県内分布】主として安房に散在【生育状況】中程度【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：昭和【県内への侵入】120：1997年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】63,65【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No.690	ハラン	C	C	B
Aspidistra elatior Blume				

【原産地】中国南部【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：江戸以前【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】212,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,14,24,42,55,59,63,75【文献県内】12,66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No. 691	オリヅルラン	D	C	A
<i>Chlorophytum comosum</i> Bak.				

【原産地】南アフリカ【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】佐倉市・市川市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝による栄養繁殖【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：明治初期【県内への侵入】120：昭和以前（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】 - 【文献全般】55,61,70,74,88【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No. 692	スズラン	D	C	A
<i>Convallaria keiskei</i> Miq.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】市原市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：日本原産【県内への侵入】120：1929年以前（栽培）【侵入の影響】312,有毒【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】 - 【文献全般】42,56,70,88【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No. 693	バイモ	D	C	A
<i>Fritillaria verticillata</i> Willd. var. <i>thunbergii</i> (Miq.) Baker				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎による栄養繁殖【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】 - 【文献全般】2,63,69,74,88【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No. 694	スズランスイセン	D	C	A
<i>Leucojum aestivum</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】酒々井市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎による栄養繁殖【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：1936年（栽培）【県内への侵入】120：昭和以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】 - 【文献全般】2,55,63,65,69【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No. 695	オニユリ	D	C	B
<i>Lilium lancifolium</i> Thunb.				

【原産地】中国【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、珠芽による栄養繁殖【散布形態】風散+重散：秋【日本への侵入】110,120：日本原産？【県内への侵入】110,120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり。販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。【備考】 - 【文献全般】2,9,24,42,55,59,63,88【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No. 696	シンテッポウユリ	B	C	B
<i>Lilium x formolongo Hort.</i>				

【原産地】日本（タカサゴユリ×テッポウユリ 交配種）【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：1924年（導入）【県内への侵入】120：1998年以前【侵入の影響】212,繁殖力つよい,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】タカサゴユリとテッポウユリの交雑種の園芸種【文献全般】24,55,59,63【文献県内】12,66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No. 697	ルリムスカリ	D	C	A
<i>Muscari botryoides Mill.</i>				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】富里市、八街市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎による栄養繁殖【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：昭和以前【県内への侵入】120：1992年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,55,61,63,69,70,74【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No. 698	ハタケニラ	C	C	A
<i>Nothoscordum fragrans Kunth.</i>				

【原産地】アメリカ大陸【国内分布】本州（神奈川県・千葉県）【県内分布】柏市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：明治中期（導入）【県内への侵入】120：1952年以前（栽培）【侵入の影響】321【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,17,21,24,46,47,55,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No. 699	ホソバオオアマナ	C	C	A
<i>Ornithogalum gussoneri Ten.</i>				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】富里市【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎による栄養繁殖【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：1972年以前（栽培）【県内への侵入】120：1991年以前【侵入の影響】321【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】16,24,46,55,59,62,63,65,74,92,99【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No. 700	オオアマナ	C	C	B
<i>Ornithogalum umbellatum L.</i>				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎による栄養繁殖【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：-【県内への侵入】120：1987年以前【侵入の影響】312,炎症をおこす．食用、薬用にも,321【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,24,55,59,61,63,65,69,74【文献県内】12,35,66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No. 701	ナギイカダ	D	C	A
<i>Ruscus aculeatus</i> L.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総に散在【生育状況】極少
 【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：1860年代（江戸）【県内への侵入】120：1985年以前【侵入の影響】313【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,24,59,63,74,88【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No. 702	タイワンホトトギス	D	C	A
<i>Tricyrtis formosana</i> Baker				

【原産地】台湾【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総に分布【生育状況】極少
 【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：1950年代【県内への侵入】120：1995年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,55,59,62,63,64,64,74,92【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No. 703	ハナニラ	C	C	B
<i>Tristagma uniflorum</i> (Lindley) Traub.				

【原産地】南米【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総と南総に分布【生育状況】多い【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】120：1964年以前【侵入の影響】321,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,10,16,17,21,24,46,55,58,62,63,65,74,74,77,88,92,99【文献県内】12,66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No. 704	アツバキミガヨラン	A	A	A
<i>Yucca gloriosa</i> L.				

【原産地】北米南部【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】主として全県の水辺（海岸）に分布【生育状況】少ない【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：明治中期【県内への侵入】120：平成以前【侵入の影響】420,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,54,70【文献県内】66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No. 705	キミガヨラン	B	B	A
<i>Yucca recurvifolia</i> Salisb.				

【原産地】北米南部【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全県に散在【生育状況】少ない【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：1995年以前【侵入の影響】420,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】55,63,70,88【文献県内】35,66

種子植物	ユリ科	影響度	緊急度	容易性
No.706	イトラン	B	B	A
Yucca smalliana Fern.				

【原産地】北米南部【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】八街市【生育状況】少ない【生活形】常緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：1931年以前（栽培）【侵入の影響】420,212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】70【文献県内】66

種子植物	ヒガンバナ科	影響度	緊急度	容易性
No.707	インドハマユウ	B	B	A
Crinum latifolium L.				

【原産地】インド【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】富里市【生育状況】極少【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】海散：秋【日本への侵入】120：昭和初期（導入）【県内への侵入】120：2003年以前【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】69,70【文献県内】66

種子植物	ヒガンバナ科	影響度	緊急度	容易性
No.708	ヒガンバナ	C	C	C
Lycoris radiata (L'Herit.) Herb.				

【原産地】中国南部【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】極多【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎による栄養繁殖【散布形態】重散：冬【日本への侵入】110：弥生【県内への侵入】110：弥生～室町【侵入の影響】312,212,213【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】日本で種子繁殖しない【文献全般】4,9,14,24,42,56,70,73【文献県内】68,70

種子植物	ヒガンバナ科	影響度	緊急度	容易性
No.709	ナツズイセン	D	C	A
Lycoris squamigera Maxim.				

【原産地】中国【国内分布】本州【県内分布】北総に散在【生育状況】少ない【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎による栄養繁殖【散布形態】重散：冬【日本への侵入】120：日本原産？【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,21,24,55,59,63,65,69,74,88,92,99【文献県内】66

種子植物	ヒガンバナ科	影響度	緊急度	容易性
No.710	ラッパズイセン	D	C	A
Narcissus pseudonarcissus L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】芝山町【生育状況】少ない【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎による栄養繁殖【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：1996年以前（逸出）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,55,74【文献県内】66

種子植物	ヒガンバナ科	影響度	緊急度	容易性
No. 711	スイセン	C	C	C
Narcissus tazetta L. var. chinensis Roemer				

【原産地】中国南部【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】主として北総・南総・安房の西部に分布
 【生育状況】多い【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎による栄養繁殖【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：室町【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】212,312【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり
 【備考】-【文献全般】2,9,24,42,55,59,63,69,74,88【文献県内】12,66

種子植物	ヒガンバナ科	影響度	緊急度	容易性
No. 712	タマスダレ	D	C	B
Zephyranthes candida Herb.				

【原産地】ブラジル【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全県に散在【生育状況】少ない
 【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎による栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1870年頃【県内への侵入】120：1930年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-
 【文献全般】2,10,21,24,46,55,59,63,69,74,88,92【文献県内】35,66

種子植物	ヒガンバナ科	影響度	緊急度	容易性
No. 713	サフランモドキ	D	C	A
Zephyranthes grandiflora Lindl.				

【原産地】中央米【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】千葉市・館山市・南房総市【生育状況】少ない
 【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎による栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1845年【県内への侵入】120：1951年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり
 【備考】-【文献全般】9,10,16,17,21,24,46,55,59,62,63,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】66

種子植物	アルストロメリア科	影響度	緊急度	容易性
No. 714	ユリズイセン	D	C	A
Alstroemeria pulchella L.				

【原産地】南米高地【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全県に散在【生育状況】少ない
 【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、塊茎による栄養繁殖【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：1935年（導入）【県内への侵入】120：1954年以前（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】70【文献県内】66

種子植物	ヤマノイモ科	影響度	緊急度	容易性
No. 715	ナガイモ	C	C	B
Dioscorea batatas Decne.				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・つる多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、珠芽による栄養繁殖【散布形態】風散：秋【日本への侵入】110：室町【県内への侵入】110：江戸【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,24,55,58,59,70,88【文献県内】66

種子植物	ミズアオイ科	影響度	緊急度	容易性
No. 716	ホテイアオイ	A	A	A
Eichhornia crassipes (Mart.) Solms-Laub.				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝による栄養繁殖【散布形態】水散：秋【日本への侵入】120, 140：明治中期【県内への侵入】120, 140：1975年以前【侵入の影響】212, 322, 411, 420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止、公共事業などにおける方針策定。【備考】要注意外来生物（適否検討）【文献全般】4, 9, 10, 14, 17, 21, 23, 24, 46, 47, 55, 59, 61, 62, 63, 64, 65, 74, 75, 77, 88, 92, 99【文献県内】12, 35, 66, 68

種子植物	アヤメ科	影響度	緊急度	容易性
No. 717	ヒメヒオウギズイセン	B	B	C
Crococsmia x crocosmifolia (Burb. et Dean) N.E.Br. (syn. Tritonia x crocosmaeflora N. E. Br.)				

【原産地】南アフリカ【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、球茎による栄養繁殖【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：1890年頃【県内への侵入】120：1927年以前【侵入の影響】212, 420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2, 9, 10, 14, 16, 17, 24, 46, 47, 55, 59, 63, 65, 69, 74, 75, 77, 88【文献県内】12, 35, 66, 68

種子植物	アヤメ科	影響度	緊急度	容易性
No. 718	オランダアヤメ	D	C	A
Gladiolus hybridus Hort.				

【原産地】南アフリカ【国内分布】本州【県内分布】北総の平野に散在【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：江戸（栽培）【県内への侵入】120：昭和以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】69, 70, 74【文献県内】66

種子植物	アヤメ科	影響度	緊急度	容易性
No. 719	グラディオルス・トリスティス	D	C	A
Gladiolus tristis L.				

【原産地】南アフリカ【国内分布】本州【県内分布】安房地方に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、球茎による栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：昭和（栽培）【県内への侵入】120：2001年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】70【文献県内】66

種子植物	アヤメ科	影響度	緊急度	容易性
No. 720	シャガ	C	C	C
Iris japonica Thunb.				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】重散（日本では不稔）：秋【日本への侵入】120：江戸以前【県内への侵入】120：江戸以前【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4, 9, 14, 24, 70, 73, 88【文献県内】12, 66, 68

種子植物	アヤメ科	影響度	緊急度	容易性
No. 721	キショウブ	B	B	C
	<i>Iris pseudacorus</i> L.			

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】水散：秋【日本への侵入】120：1896年頃（栽培）【県内への侵入】120：1932年以前【侵入の影響】212,322,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】2,4,9,10,14,17,21,23,42,46,47,55,59,61,62,63,65,69,74,88,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	アヤメ科	影響度	緊急度	容易性
No. 722	イクシア	D	C	A
	<i>Ixia polystachya</i> L. var. <i>polystachya</i>			

【原産地】南アフリカ【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総に散在【生育状況】極少【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、鱗茎による栄養繁殖【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：明治（導入）【県内への侵入】120：1995年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】繁茂することはない【文献全般】69,70【文献県内】66

種子植物	アヤメ科	影響度	緊急度	容易性
No. 723	オオニワゼキショウ	C	C	C
	<i>Sisyrinchium</i> aff. <i>iridifolium</i> H.B.K.			

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】全県に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1930年以前【県内への侵入】210：1975年以前【侵入の影響】321,420【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】学名を*S. aff. Iridifolium* H.B.K. としておく【文献全般】9,10,14,21,24,46,59,61,62,63,65,74,77,92【文献県内】66,68,大場達之 2007. アキマルニワゼキショウが千葉県にも現れた. 千葉県植物誌資料 23:211-212.

種子植物	アヤメ科	影響度	緊急度	容易性
No. 724	ルリニワゼキショウ	C	C	C
	<i>Sisyrinchium angustifolium</i> Bickn.			

【原産地】北米東部【国内分布】本州【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1970年代以前【県内への侵入】210：1975年以前【侵入の影響】321,420【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】オオニワゼキショウと混同されていることがある。【文献全般】46,47,55,59,63,65,74【文献県内】12,35,66,68,大場達之 2004. 千葉県のルリニワゼキショウ. 千葉県植物誌資料 20:151-153. 野口昭造・木村陽子・大場達之 2007. ヒトフサニワゼキショウとルリニワゼキショウの観察と学名. 千葉県植物誌資料 23:210-212.

種子植物	アヤメ科	影響度	緊急度	容易性
No. 725	ヒトフサニワゼキショウ	D	C	A
	<i>Sisyrinchium montanum</i> Greene			

【原産地】北アメリカ東部【国内分布】本州【県内分布】船橋市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1981年【県内への侵入】210：2007年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】学名を*Sisyrinchium montanum* Greeneに変更。【文献全般】9,10,46,59,63,65,74【文献県内】12,66,野口昭造・木村陽子・大場達之 2007. ヒトフサニワゼキショウとルリニワゼキショウの観察と学名. 千葉県植物誌資料 23:210-212.

種子植物	アヤメ科	影響度	緊急度	容易性
No. 726	ニワゼキショウ	C	C	C
<i>Sisyrinchium rossulatum</i> Bickn.				

【原産地】北米南東部【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い
 【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】120：1887
 年頃【県内への侵入】120：1940年以前【侵入の影響】212,321【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販
 売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,1
 0,14,16,17,21,24,42,46,47,55,59,61,62,63,64,65,74,75,77,88,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	アヤメ科	影響度	緊急度	容易性
No. 727	キバナニワゼキショウ	C	C	A
<i>Sisyrinchium rossulatum</i> E.P.Bicknell (syn. <i>Sisyrinchium exile</i> E.P.Bicknell)				

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】千葉市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形
 態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1986年以前【県内への侵入】210：2004
 年以前【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイ
 ドラインづくり【備考】-【文献全般】10,62,63,64,65,74,92【文献県内】、木村陽子 2004. 千葉県のキバ
 ナニワゼキショウ. 千葉県植物誌資料 20:151.

種子植物	アヤメ科	影響度	緊急度	容易性
No. 728	アキマルニワゼキショウ	C	C	A
<i>Sisyrinchium rossulatum</i> E.P.Bicknell x <i>Sisyrinchium</i> aff. <i>iridifolium</i> H.B.K.				

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】酒々井市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形
 態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：2007年以前【県内への侵入】210：2007
 年以前【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイ
 ドラインづくり【備考】ニワゼキショウとオオニワゼキショウとの雑種。【文献全般】-【文献県内】、大場
 達之 2007. アキマルニワゼキショウが千葉県にも現れた. 千葉県植物誌資料 23:211-212.

種子植物	イグサ科	影響度	緊急度	容易性
No. 729	カラフトハナビゼキショウ	D	C	A
<i>Juncus articulatus</i> L.				

【原産地】ユーラシア北部、北米【国内分布】千葉県、神奈川県【県内分布】成田市【生育状況】少ない
 【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：1987
 年以前【県内への侵入】240：1987年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。
 異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備
 考】-【文献全般】24,47,59,63,65,74【文献県内】66

種子植物	イグサ科	影響度	緊急度	容易性
No. 730	セイタカクサイ	D	C	A
<i>Juncus interior</i> Wieg.				

【原産地】北米【国内分布】本州（千葉県）【県内分布】富里市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年
 草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】240：1992年以前【県内への侵
 入】240：1992年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除
 された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】別名トミサトクサ
 イ【文献全般】63,65【文献県内】66,内野秀重 2003. イグサ科. In 千葉県植物誌（県史シリーズ51.千
 葉県の自然誌別編，4），pp.1181 千葉県.

種子植物	イグサ科	影響度	緊急度	容易性
No. 731	ニセコウガイゼキショウ	D	C	A
Juncus marginatus Rostk.				

【原産地】北米【国内分布】本州（千葉県）【県内分布】印西市（旧印旛村）、船橋市坪井町【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】240：1990年以前【県内への侵入】240：1990年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】（別名，タカナベイ，マツカサコウガイゼキショウ）船橋市 坪井町 2535 2009.8.26 木村陽子 田島敏子 標本【文献全般】63,65【文献県内】66,内野秀重 2004. 和名があった Juncus marginatus Rostk. 千葉県植物誌資料20:158.

種子植物	イグサ科	影響度	緊急度	容易性
No. 732	コゴメイ	B	B	B
Juncus sp.				

【原産地】ユーラシア？【国内分布】本州【県内分布】北総に散在【生育状況】中程度、河川敷、池、湿地などはびこる【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】重散：夏【日本への侵入】240：1980年代【県内への侵入】240：1989年以前【侵入の影響】212【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】24,47,59,63,65,74【文献県内】12,66

種子植物	イグサ科	影響度	緊急度	容易性
No. 733	クサイ	C	C	C
Juncus tenuis Willd.				

【原産地】ユーラシア、アメリカ、北アフリカ、オーストラリア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】230：日本原産？【県内への侵入】230：1929年以前【侵入の影響】212【侵入対策】付着種子を安易に野外に遺棄しないようにさせる外来種問題の普及【備考】-【文献全般】2,4,9,14,24,55,56,88【文献県内】12,39,66

種子植物	ツククサ科	影響度	緊急度	容易性
No. 734	ブライダルベール	C	C	A
Gibasis pellucida (M.Martens et Galeotti) R.R.Hunt				

【原産地】メキシコ【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】北総西部に散在【生育状況】少ない【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝による栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：昭和（栽培）【県内への侵入】120：1992年以前【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】63,65,70【文献県内】66

種子植物	ツククサ科	影響度	緊急度	容易性
No. 735	トキワツククサ	A	A	A
Tradescantia fluminensis Vell.				

【原産地】南米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全県に分布【生育状況】極多【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝による栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：昭和以前【県内への侵入】120：1937年以前【侵入の影響】212,411,412【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】別名：ノハカタカラクサ【文献全般】4,9,10,24,42,47,55,59,63,65,70,74【文献県内】12,66,68

種子植物	ツクサ科	影響度	緊急度	容易性
No. 736	ムラサキツクサ	D	C	B
<i>Tradescantia reflexa</i> Rafin.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総西部に分布【生育状況】少ない【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1870年頃【県内への侵入】120：1938年（栽培）【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,21,24,55,59,63,65,74,74,88,92【文献県内】66

種子植物	ツクサ科	影響度	緊急度	容易性
No. 737	オオトキワツクサ	B	B	B
<i>Tradescantia</i> sp.				

【原産地】南米【国内分布】本州（静岡県、千葉県）【県内分布】主として安房に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝による栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1972年以前【県内への侵入】120：1972年以前【侵入の影響】212,412【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】47,63,65,70【文献県内】66

種子植物	ツクサ科	影響度	緊急度	容易性
No. 738	オオムラサキツクサ	D	C	A
<i>Tradescantia virginiana</i> L.				

【原産地】北米南部【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】野田市【生育状況】極少【生活形】夏緑【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：昭和初期【県内への侵入】120：2002年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,24,55,59,61,63,65,70,74【文献県内】35,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 739	ヤギムギ	D	C	A
<i>Aegilops cylindrica</i> Host				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州【県内分布】千葉市のみ【生育状況】少ない 現在の生存不明【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】着散：初夏【日本への侵入】210：1973年【県内への侵入】-：1990年【侵入の影響】なし【侵入対策】-【備考】-【文献全般】9,17,18,46,47,55,61,62,63,65,74,88,92,99【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 740	ニセコムギダマシ	D	C	A
<i>Agropyron desertorum</i> (Fisch. ex Link) Schult.				

【原産地】ヨーロッパ南部，ウラル山脈，モンゴル【国内分布】本州（千葉県）【県内分布】千葉市浜田のみ【生育状況】少ない 現在の生存不明【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】210：1991年【県内への侵入】-：1991年【侵入の影響】不明【侵入対策】-【備考】千葉県が日本新産地、侵入確認：1991.07.05，1993.06.18千葉市浜田【文献全般】63,65【文献県内】66,木村陽子・酒井俊英・大場達之 1994 ニセコムギダマシ（新称）? *Agropyron desertorum* (Fisch. ex Link) Schult. の帰化 千葉生物誌43:18-21.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.741	ナンカイヌカボ	D	C	A
Agrostis avenacea J.F.Gmel.				

【原産地】豪州【国内分布】本州（千葉県）【県内分布】千葉市青葉町 浦安市明海【生育状況】極少 青葉町のは、絶滅 2005.06.12に浦安市で採集されるが、その後絶滅【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】220：-【県内への侵入】-：1996年【侵入の影響】不明【侵入対策】-【備考】-【文献全般】9,21,24,47,59,65,92【文献県内】66,木村陽子 1996. 千葉市青葉町でナンカイヌカボを採る.千葉県植物誌資料 9:62-63.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.742	コヌカグサ	C	C	C
Agrostis gigantea Roth. (syn. Agrostis alba L.)				

【原産地】北半球温帯（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】県内全域普通【生育状況】中程度【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】160：江戸末期【県内への侵入】160：明治【侵入の影響】411,420【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,18,21,24,42,46,47,55,59,61,62,63,65,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.743	クロコヌカグサ	D	C	A
Agrostis nigra With.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北日本に多い【県内分布】全域【生育状況】少ない【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】160：-【県内への侵入】160：明治～昭和30年代【侵入の影響】411【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】コヌカグサと分けない見解もある【文献全般】2,4,9,18,21,46,55,61,63,73,74,92,99【文献県内】12,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.744	エゾヌカボ	D	C	A
Agrostis scabra Willd.				

【原産地】本州中部以北 東アジア北部 サハリン?北米【国内分布】北海道、本州北部では在来種【県内分布】千葉市 袖ヶ浦市【生育状況】極少 おそらく絶滅【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】230：-【県内への侵入】-：1985年【侵入の影響】なし【侵入対策】-【備考】本来の分布は、本州中部以北なので、県内のものは持ちこまれたものである【文献全般】42,55,73,88【文献県内】66,68,浅野貞夫 1986. ムラサキナギナタガヤとエゾヌカボを採る 千葉生物誌36:38.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.745	ハイコヌカグサ	C	C	C
Agrostis stolonifera L.				

【原産地】北半球温帯（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域散発【生育状況】少ない【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】風散：夏【日本への侵入】160：明治【県内への侵入】-：明治～昭和30年代【侵入の影響】411,420【侵入対策】-【備考】-【文献全般】2,4,16,18,21,24,46,55,59,61,62,63,65,73,74,92,99【文献県内】12,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.746	バケヌカボ	D	C	A
<i>Agrostis x dimorpholemma</i> Ohwi				

【原産地】地中海【国内分布】本州、四国、九州（宮城県）【県内分布】船橋市 など数カ所【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】210：-【県内への侵入】-：1991年【侵入の影響】100【侵入対策】-【備考】イトコヌカグサ *A. tenuis* Sibthorp とイベリアヌカボ *A. castellana* Boisser et Reuter の交雑により生じた【文献全般】-【文献県内】66, 木村陽子 1996. 船橋市でバケヌカボを採る. 千葉県植物誌資料 8:51.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.747	ヌカススキ	C	C	A
<i>Aira caryophyllaea</i> L.				

【原産地】欧州・西アジア・北アフリカ【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】少ない【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】-：明治～昭和30年代【侵入の影響】411【侵入対策】-【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,18,21,24,46,55,59,62,63,65,74,77,88,92,99【文献県内】-

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.748	ハナヌカススキ	C	C	B
<i>Aira elegans</i> Willd. ex Gaudin				

【原産地】欧州【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全域【生育状況】中程度【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：-【県内への侵入】-：昭和30年代後半以降【侵入の影響】411【侵入対策】-【備考】-【文献全般】16,18,21,24,46,47,59,62,63,65,74,92,99【文献県内】66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.749	ヒメヌカススキ	C	C	A
<i>Aira elegans</i> Willd. ex Gaudin subsp. <i>ambigua</i> (Aecang.) Holub.				

【原産地】欧州【国内分布】本州【県内分布】鴨川市のみ【生育状況】少ない【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：-【県内への侵入】-：1948年【侵入の影響】411【侵入対策】-【備考】-【文献全般】-【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.750	ノスズメノテッポウ	D	C	A
<i>Alopecurus myosuroides</i> Huds.				

【原産地】欧州・温帯アジア【国内分布】本州、四国、【県内分布】船橋市日ノ出町【生育状況】少ない牧草地や市街地 おそらく絶滅【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】210：1973年【県内への侵入】210：1973年【侵入の影響】不明【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：1973.6.21【文献全般】10,18,55,58,61,62,63,65,74,99【文献県内】66,68,吉川代之助 1974. 千葉県の新帰化植物アツミゲシとノスズメノテッポウ. 植物採集ニュース(74):27.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 751	オオスズメノテppウ	D	C	B
Alopecurus pratensis L.				

【原産地】欧州・西アジア・北アフリカ【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】中程度 牧草として入れられる【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】160：明治【県内への侵入】-：明治～昭和30年代【侵入の影響】411,420【侵入対策】-【備考】-【文献全般】2,4,16,18,21,24,46,47,55,59,61,62,63,65,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】-

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 752	オオハマガヤ (アメリカハマニンニク)	A	A	A
Ammophila breviligulata Fernald.				

【原産地】北米・カナダ大西洋岸【国内分布】青森県、秋田県、山形県、石川県 静岡県、【県内分布】館山市 横芝光町 【生育状況】極多【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】重散：夏【日本への侵入】153：1950年代静岡県【県内への侵入】-：1990年代？【侵入の影響】411 420 砂防いで導入され地下茎でふえる，海岸植生をこわす問題植物【侵入対策】-【備考】-【文献全般】47,63,65,72,88【文献県内】66,由良 浩 2006. オオハマガヤ Ammophila breviligulata Fernald. 千葉県植物誌資料 21:178-179.,木村陽子 2006. オオハマガヤ追記.千葉県植物誌資料 21:179.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 753	メリケンカルカヤ	B	B	C
Andropogon virginicus L.				

【原産地】北米～中央米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全域 【生育状況】極多?多い【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】220：1940年頃【県内への侵入】-：昭和30年代後半以降【侵入の影響】321 420 芝地・ゴルフ場などの強害草【侵入対策】-【備考】要注意外来生物（情報不足）【文献全般】4,9,10,16,18,21,24,42,46,47,55,59,61,62,65,74,75,88,88,92,99【文献県内】39,66,小松崎一雄 1976. 千葉県北部でも見つかったメリケンカルカヤ. 植物採集ニュース(85):28.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 754	ヒメハルガヤ	D	C	A
Anthoxanthum aristatum Boiss.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、【県内分布】船橋市小室【生育状況】少ない おそらく絶滅【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】210：1973年船橋市が日本初上陸【県内への侵入】-：1973年【侵入の影響】なし【侵入対策】-【備考】-【文献全般】2,17,18,24,46,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66,68,斉藤吉永 1974. 新帰化植物 ヤネタピラコとヒメハルガヤ.植物採集ニュース(73):19-21.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 755	ハルガヤ	C	C	C
Anthoxanthum odoratum L.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】極多 牧草【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】160：明治【県内への侵入】-：明治【侵入の影響】312,花粉症（参天製薬ホームページより）【侵入対策】-【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,18,21,42,46,47,55,59,61,62,63,65,73,74,88,88,92,99【文献県内】39,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 756	オオカニツリ	D	C	A
Arrhenatherum elatius (L.) Presl.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】成田市 木更津市
 【生育状況】多い 牧草 【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】160：明治初期【県内への侵入】160：昭和30年代後半以降【侵入の影響】不明【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,17,18,21,24,46,47,55,59,61,62,63,65,73,74,77,88,88,92,99【文献県内】66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 757	チョロギガヤ	D	C	A
Arrhenatherum elatius (L.) Presl. var. bulbosum (Willd.) Spenner				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】市原市の数カ所【生育状況】少ない
 おそらく絶滅【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】160：-【県内への侵入】160：明治～昭和30年代【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,16,17,24,47,55,59,61,62,63,65,74,77,88,92,99【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 758	オートムギ	D	C	B
Avena sativa L.				

【原産地】欧州 カラスムギから改良された【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】数カ所
 【生育状況】少ない【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】110：江戸末期【県内への侵入】110：-【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,10,47,55,59,63,65,74,75,88【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 759	セイヨウチャヒキ	D	C	A
Avena strigosa Schreb.				

【原産地】欧州 栽培種【国内分布】本州【県内分布】富里市のみだが、調べればさらに産地は増える【生育状況】少ない【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】110：-【県内への侵入】-：1992年【侵入の影響】不明【侵入対策】-【備考】侵入確認：富里市、1992.05.08【文献全般】61,63,74【文献県内】、木村陽子 2006. セイヨウチャヒキ(イネ科)千葉県に産す.千葉県植物誌資料 21:181-183.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 760	ハウライチク	D	C	A
Baumbusa multiplex (Lour.) Raeusch				

【原産地】南中国【国内分布】九州、四国、関東地方以西で栽培【県内分布】船橋市など【生育状況】中程度【生活形】常緑・中高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：春【日本への侵入】120：-【県内への侵入】120：-【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,9,24,45,61,63,64,74,75,88,92【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 761	ダイサンチク	D	C	A
Baumbusa vulgaris Schrad. ex Wendl.				

【原産地】南中国あるいはマダガスカルといわれるが不明【国内分布】九州、四国、東海地方以西に希に栽培【県内分布】館山市【生育状況】中程度【生活形】常緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：不明【日本への侵入】120：-【県内への侵入】120：-【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】-【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 762	オオモンツキガヤ	D	C	A
Bothriochloa pertusa (Linn.) A. Camus				

【原産地】中国広東，雲南の標高1500mあたりの山中やインド【国内分布】千葉県のみか【県内分布】船橋市【生育状況】極少 おそらく絶滅【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】210：1960年【県内への侵入】210：1960年【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】63【文献県内】29,66, 桑原義晴 1977. 日本イネ科植物生態図譜(北陸の植物の会) 3:71.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 763	コニクキビ	D	C	A
Brachiaria distachya (L.) Stapf				

【原産地】熱帯アジア，東アフリカ【国内分布】千葉県のみか【県内分布】船橋市旭町【生育状況】少ない 現地では絶滅【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】250：1999/10/22【県内への侵入】250，園芸用土のヤシマットから：1999年【侵入の影響】なし【侵入対策】可能な限り在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】63【文献県内】29,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 764	ケニクキビ	D	C	A
Brachiaria ramosa (L.) Stapf				

【原産地】旧世界の熱帯【国内分布】千葉県のみか【県内分布】船橋市旭町【生育状況】少ない 現地では絶滅【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】250：1999年【県内への侵入】250，園芸用土のヤシマットから：1999年【侵入の影響】なし【侵入対策】可能な限り在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】63【文献県内】29,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 765	ニクキビ	D	C	A
Brachiaria subquadriflora (Trin.) Hitchc.				

【原産地】奄美，琉球；台湾，インド，マレーシア，ミクロネシア【国内分布】本州、九州、【県内分布】船橋市旭町 千葉市中央港【生育状況】少ない 船橋市では絶滅【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】220,250：-【県内への侵入】250，園芸用土のヤシマットから：1999年【侵入の影響】321【侵入対策】可能な限り在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】-【文献県内】29,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.766	コバンソウ	C	C	B
Briza maxima L.				

【原産地】欧州・地中海沿岸【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全域【生育状況】中程度 草地 道端など 【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】120：明治【県内への侵入】-：昭和30年代後半以降【侵入の影響】411【侵入対策】-【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,18,21,24,42,46,47,55,59,61,62,63,65,73,74,77,88,88,92,99【文献県内】39,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.767	ヒメコバンソウ	C	C	C
Briza minor L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全域【生育状況】多い 草地 道端など 群落になることもある【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】120：1867年【県内への侵入】120：昭和30年代後半以降【侵入の影響】411【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,18,21,24,42,46,47,55,59,61,62,63,65,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】39,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.768	ムクゲチャヒキ	D	C	A
Bromus commutatus Schrad.				

【原産地】アジア西部～北アフリカ【国内分布】北海道、本州、九州、【県内分布】芝山町 旭市【生育状況】少ない おそらく絶滅【生活形】1～2年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】210：1950年代【県内への侵入】-：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】-【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,21,47,55,59,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.769	コスズメノチャヒキ	D	C	A
Bromus inermis Leyss.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】木更津市貝淵埋め立て地 野田市 千葉市【生育状況】少ない 牧草として栽培もある【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】160：1962年以前【県内への侵入】160：1969年【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：木更津市、1969.6.12【文献全般】2,9,16,18,24,46,55,59,61,62,65,73,74,92,99【文献県内】31,32,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.770	ハトノチャヒキ	D	C	A
Bromus molliformis J.Lloyd				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州、【県内分布】分布は散発的、船橋市、浦安市【生育状況】極少 おそらく絶滅【生活形】1～2年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】210：1952年【県内への侵入】-：昭和30年代後半以降【侵入の影響】なし【侵入対策】-【備考】ハマチャヒキと分けられない見解あり【文献全般】2,9,10,16,24,46,47,55,59,62,63,65,73,74,92,99【文献県内】66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.771	ハマチャヒキ	D	C	A
Bromus mollis L.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、【県内分布】木更津市貝淵埋め立て地
 【生育状況】極少 おそらく絶滅【生活形】1~2年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏
 【日本への侵入】210：1950年代【県内への侵入】210：1969年【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,16,18,21,24,46,48,55,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】31,32,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.772	ヒゲナガスズメノチャヒキ	C	C	B
Bromus rigidus Roth.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】東京湾沿い【生育状況】多い 空き地など
 【生活形】1~2年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】210：1912年
 【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,18,21,24,46,47,55,59,61,62,63,65,73,74,92,99【文献県内】66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.773	アレチノチャヒキ	D	C	A
Bromus sterilis L.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】野田市のみ【生育状況】少ない
 【生活形】1~2年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】210：1912年
 【県内への侵入】210：1997年【侵入の影響】不明【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,10,14,16,24,47,55,59,61,62,63,65,73,74,92,99【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.774	ウマノチャヒキ	D	C	B
Bromus tectorum L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】船橋市 北総【生育状況】少ない 空き地に
 船橋市では2000年代でも見られる【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏
 【日本への侵入】210：1941年以前【県内への侵入】-：1968年【侵入の影響】なし【侵入対策】-【備考】侵入確認：1968.06.19【文献全般】2,9,10,16,17,18,21,24,46,47,55,59,61,62,63,65,73,74,92,99【文献県内】66,94

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.775	イヌムギ	B	C	C
Bromus unioloides H. B. K. (syn. Bromus catharticus Vahl)				

【原産地】南米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】多い 空き地，草地，道端に普通にみられる 牧草【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：春？夏
 【日本への侵入】210：明治初期【県内への侵入】-：明治～昭和30年代【侵入の影響】321【侵入対策】-【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,18,21,24,46,47,55,59,61,62,64,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】18,35,39,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 776	シンクリノイガ	D	C	A
Cenchrus echinatus L.				

【原産地】熱帯アメリカ【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】船橋市日の出町のみ【生育状況】少ない おそらく絶滅【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】着散：秋【日本への侵入】210：-【県内への侵入】-：1975年【侵入の影響】313【侵入対策】-【備考】-【文献全般】10,24,46,47,56,59,63,65,74,77【文献県内】66,吉川代之助 1976. 千葉県船橋市にシンクリノイガ現る. 植物採集ニュース(86):30.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 777	カンチク	D	C	A
Chimonobambusa marmorea (Mitf.) Makino				

【原産地】日本産であるがはっきりとした自生地は不明（鈴木貞夫）【国内分布】四国、九州、本州中部以南に栽培【県内分布】県南部【生育状況】中程度【生活形】連緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】重散：不明【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】411,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】タケノコは晩秋から【文献全般】8,24,59【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 778	アフリカヒゲシバ	D	C	A
Chloris gayana Kunth				

【原産地】南アフリカ【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】鴨川市 野田市下三ヶ尾利根運河【生育状況】極少 牧草【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散、着散：秋【日本への侵入】160：1962年頃【県内への侵入】-：1990年【侵入の影響】なし【侵入対策】-【備考】-【文献全般】4,10,10,17,18,21,24,46,47,55,59,61,62,63,64,65,73,74,75,88,92,99【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 779	クシヒゲシバ	D	C	A
Chloris pectinata Benth.				

【原産地】オーストラリア【国内分布】本州（愛知、千葉）【県内分布】市川市鬼高の元日本毛織【生育状況】極少 絶滅【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散、着散：秋【日本への侵入】240：-【県内への侵入】240,毛織り工場の羊毛から：1950年代【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】55,58,63,74【文献県内】6,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 780	チャボヒゲシバ	D	C	A
Chloris truncata R.Br.Prod.				

【原産地】太平洋諸島【国内分布】本州、【県内分布】船橋市船橋高校校庭 市川市市川毛織【生育状況】極少 絶滅【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、匍匐枝による栄養繁殖【散布形態】風散、着散：秋【日本への侵入】240：-【県内への侵入】240,毛織り工場の羊毛から：1960年【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】侵入確認：船橋市、1960.10.04 桑原義晴が船橋市の船橋高校で採集したものの図がある【文献全般】10,47,55,61,65,74,92【文献県内】66,桑原義晴 1977. 日本イネ科植物生態図譜(北陸の植物の会)3:70.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 781	オヒゲシバ	D	C	A
Chloris virgata Swartz.				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】我孫子市 千葉市 市川市 市原市【生育状況】少ない【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散、着散：秋【日本への侵入】210：1922年【県内への侵入】210：1968年【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：1968.10.29 【文献全般】4,9,10,16,18,24,46,47,55,59,61,62,63,65,74,77,92,99【文献県内】66,68,齊藤吉永 1969 帰化品だより(2) 千葉県手賀沼畔のオヒゲシバ .植物採集ニュース(43):53-54.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 782	ジュズダマ	C	C	C
Coix lacryma-jobi L.				

【原産地】東南アジア【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】中程度【生活形】1~多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】水散：秋【日本への侵入】120：古いに栽培のため移入【県内への侵入】-：江戸【侵入の影響】411【侵入対策】-【備考】-【文献全般】4,9,10,16,17,18,24,42,46,47,55,59,63,64,65,74,77【文献県内】66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 783	ハトムギ	D	C	A
Coix lacryma-jobi L. var. mayuen (Roman.) Stapf				

【原産地】東南アジア【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全域に希【生育状況】少ない栽培畑から逸出【生活形】1~多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】水散：秋【日本への侵入】110：古いに栽培のため移入【県内への侵入】-：江戸【侵入の影響】不明【侵入対策】-【備考】-【文献全般】9,55,59,64,88【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 784	パンパスグラス	D	C	A
Cortaderia selloana (Schult.) Aschers. et Graebn.				

【原産地】南米【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全域 時折【生育状況】少ない 植栽放置的【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】120：-【県内への侵入】120：1990年代？【侵入の影響】420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】10,46,47,55,63,65,69,70,74,75,88【文献県内】20,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 785	ヒゲガヤ	D	C	A
Cynosurus echinatus L.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】北海道、本州（千葉県，神奈川県，岡山県）、九州【県内分布】木更津市貝淵埋め立て地 柏市【生育状況】極少 おそらく絶滅【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】210：1960年【県内への侵入】-：1970年【侵入の影響】なし【侵入対策】-【備考】侵入確認：木更津市、1970.6.12【文献全般】2,9,10,16,17,18,21,24,47,55,61,62,63,65,73,74,88,92,99【文献県内】32,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 786	カモガヤ	B	C	C
Dactylis glomerata L.				

【原産地】欧州～西アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】多い【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】160：江戸末期【県内への侵入】160：明治～昭和30年代【侵入の影響】312【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】要注意外来生物（緑化植物）【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,18,21,24,42,46,47,55,59,61,62,63,65,73,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,66,72

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 787	タツノツメガヤ	C	C	A
Dactyloctenium aegyptium (L.) P.Beauv.				

【原産地】琉球・奄美・小笠原諸島, 旧世界熱帯地方【国内分布】本州、四国、九州（琉球では在来種）【県内分布】千葉市 市原市 八千代市 船橋市 市川市【生育状況】少ない【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】着散：秋【日本への侵入】240：-【県内への侵入】240,毛織り工場の羊毛から：1955年【侵入の影響】321【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】侵入確認：市川市日本毛織、1955.09.10【文献全般】4,9,10,24,46,47,55,59,64,65,75,77,88【文献県内】66,K.O 1956 第20回さく葉展 千葉生物誌 6 (1)：20

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 788	チャボメヒシバ	D	C	A
Digitaria longiflora (Retz.) Pers.				

【原産地】旧世界の熱帯【国内分布】琉球、本州（千葉県）【県内分布】船橋市旭町【生育状況】少ない 絶滅【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】250：-【県内への侵入】250,園芸用土のヤシマットから：1999年【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】63【文献県内】29,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 789	イヌメヒシバ	D	C	A
Digitaria microbachne (Presl) Henr. (syn. D. setigera Roth apud Roem. et Schult.)				

【原産地】熱帯アジア【国内分布】琉球 千葉県【県内分布】船橋市旭町【生育状況】少ない 絶滅【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】250：-【県内への侵入】250,園芸用土のヤシマットから：1999年【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】55,61,62,74,75,77,92【文献県内】29,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 790	ザラツキコメヒシバ（仮称）	D	C	A
Digitaria sp.				

【原産地】不明【国内分布】千葉県【県内分布】船橋市旭町【生育状況】少ない 絶滅【生活形】多年草？【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】250：-【県内への侵入】250,園芸用土のヤシマットから：1999年【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】63【文献県内】29,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 791	ハキダメガヤ	D	C	A
<i>Dinebra retroflexa</i> (Vahl) Panz. (syn. <i>Dinebra arabica</i> Jacq.)				

【原産地】インド西部～アフリカ東部・南アフリカ？【国内分布】北海道、本州、四国、【県内分布】市原市【生育状況】極少 絶滅か？【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：1931年【県内への侵入】-：1992年【侵入の影響】不明【侵入対策】-【備考】侵入確認：千葉県立中央博物館収蔵標本（市原市ちはら台、1992.11.06、CBM-BS-47417）【文献全般】2,16,18,24,46,47,55,59,62,63,65,74,77,88,92,99【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 792	コヒメビエ	D	C	A
<i>Echinochloa colonum</i> (L.) Link				

【原産地】アジア・アフリカ熱帯【国内分布】九州（奄美，琉球），小笠原では，在来種、本州（千葉）【県内分布】船橋市旭町【生育状況】少ない 絶滅【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】250：-【県内への侵入】250，園芸用土のヤシマットから：1999年【侵入の影響】321【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】24,46,47,56,61,62,63,65,74,88【文献県内】29

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 793	ノゲシバムギ	D	C	A
<i>Elymus repens</i> (L.) Gould. var. <i>aristatum</i> Baumg.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、【県内分布】船橋市2カ所【生育状況】少ない【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】220：1953年【県内への侵入】220：平成以前【侵入の影響】321【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】-【文献全般】2,18,24,47,55,63,65,73,74【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 794	シバムギ	D	C	A
<i>Elytrigia repens</i> (L.) Desv. ex Nevski				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】北海道、本州、【県内分布】船橋市 八千代市 富浦町【生育状況】少ない【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】210,220：明治【県内への侵入】210,220：明治～昭和30年代【侵入の影響】321,213 トウモロコシへのアレロパシー【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】要注意外来生物（緑化植物）【文献全般】2,9,10,16,18,21,24,46,47,56,59,61,62,63,65,77,92,99【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 795	シナダレスズメガヤ	B	B	C
<i>Eragrostis curvula</i> (Schrad.) Nees				

【原産地】南アフリカ【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】多い【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏?秋【日本への侵入】151：昭和初期【県内への侵入】151：昭和30年代後半以降【侵入の影響】411,420【侵入対策】公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、方針策定。【備考】要注意外来生物（緑化植物）【文献全般】2,4,14,16,17,18,21,24,42,46,59,61,62,63,64,65,73,74,75,88,88,92,99【文献県内】12,39,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.796	ノハラカゼクサ	D	C	A
Eragrostis intermedia Hitch.				

【原産地】北米南部【国内分布】本州（神奈川県、千葉県）【県内分布】市原市【生育状況】少ない 絶滅か？
 【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏?秋【日本への侵入】210：1986年以前
 【県内への侵入】210：1992年【侵入の影響】不明【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,24,47,65,74,92【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.797	スズメガヤ	D	C	B
Eragrostis minor Host. (syn. Eragrostis cilianensis (All.) F.T.Hubb.)				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】少ない 現在はほとんどみられない【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋
 【日本への侵入】210：-【県内への侵入】210：1928年【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,16,18,24,46,47,55,59,63,65,73,74,77【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.798	コスズメガヤ	C	C	C
Eragrostis poaeoides P.Beauv.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】中程度【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】210：明治以降
 【県内への侵入】210：明治～昭和30年代【侵入の影響】321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,18,21,24,42,46,47,55,59,61,62,63,64,65,73,74,75,77,88,99【文献県内】66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.799	シナダレスズメガヤモドキ(仮称)	D	B	B
Eragrostis sp.				

【原産地】不明【国内分布】本州（千葉県）【県内分布】各地に散在【生育状況】多い 河原 空き地に砂防用に植栽される【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】151：1990年代
 【県内への侵入】151：1990年代【侵入の影響】411,420【侵入対策】-【備考】-【文献全般】-【文献県内】12,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.800	コバンソウモドキ	D	C	A
Eragrostis superba Peyr.				

【原産地】アフリカ【国内分布】本州（山梨県 千葉県）【県内分布】船橋市旭町【生育状況】極少 絶滅
 【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】250：1953年【県内への侵入】250,園芸用土のヤシマットから 1999年【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。
 【備考】-【文献全般】55,61,62,63,65,74,92【文献県内】29,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.801	ヌカカゼクサ	D	C	A
Eragrostis tenella (L.) P.Beauv. ex Roem. et Schult.				

【原産地】アジア熱帯，亜熱帯【国内分布】本州、九州（宮崎）【県内分布】千葉市川崎鉄工所内 船橋市旭町【生育状況】極少 絶滅か？【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏？秋【日本への侵入】250：-【県内への侵入】250，園芸用土のヤシマットから：1950年代【侵入の影響】不明【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】16,18,42,46,47,55,61,62,63,64,65,74,77,92,99【文献県内】29,K,0 1956. 第20回さく葉展 千葉生物誌6 (1)：20.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.802	ベニスズメガヤ	D	C	A
Eragrostis unioides (Retz.) Nees ex Steud.				

【原産地】熱帯アジア【国内分布】本州（千葉）【県内分布】船橋市旭町【生育状況】極少 絶滅【生活形】1～多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】250：1999年【県内への侵入】250，園芸用土のヤシマットから：1999年【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】63【文献県内】29,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.803	チャボウシノシッペイ	C	C	A
Eremochloa ophiuroides (Munro) Hach.				

【原産地】東南アジア・中国南部・台湾【国内分布】本州、九州、【県内分布】各地に散在【生育状況】極多 芝生につかわれる 有るところには群落になる【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】151：-【県内への侵入】151：2000年頃【侵入の影響】411【侵入対策】公共事業などにおける管理区域外への逸出監視と防止、方針策定。【備考】-【文献全般】9,24,47,59,61,62,64,65,74,75,92【文献県内】66,長谷川義人 2003. 千葉県植物誌資料 19:148.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.804	ムラサキノキビ	D	C	A
Eriochloa procerca (Retz.) C.E.Hubb.				

【原産地】熱帯アジア，アフリカ，オーストラリア【国内分布】本州（小笠原，名古屋）、九州（琉球）【県内分布】市川市 日本毛織 船橋市旭町【生育状況】少ない 絶滅【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240,250：1955年以前【県内への侵入】240,250園芸用土のヤシマットから 毛織り工場から：1955年【侵入の影響】不明【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】侵入確認：市川市、1955.9.10【文献全般】47,55,63,65,88【文献県内】29,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.805	オニウシノケグサ	B	B	C
Festuca arundinacea Schreb.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】多い【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】160：昭和【県内への侵入】160：明治～昭和30年代【侵入の影響】312,411,420【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】要注意外来生物（緑化植物）【文献全般】2,4,14,16,18,21,24,42,46,47,55,59,61,62,63,65,73,74,77,92,99【文献県内】12,39,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.806	ウシノケグサ	D	C	B
Festuca ovina L.				

【原産地】ユーラシア、北米【国内分布】北海道，本州，四国，九州（在来）【県内分布】千葉県のはおそらく帰化品 全域【生育状況】少ない【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】210：日本原産【県内への侵入】-：明治（国内帰化）【侵入の影響】411【侵入対策】-【備考】千葉県のは逸出【文献全般】4,18,24,42,55,70,88【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.807	ヒロハウシノケグサ	B	B	C
Festuca pratensis Huds.				

【原産地】ユーラシア北部【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】多い【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】160：明治【県内への侵入】160：明治～昭和30年代【侵入の影響】411,420【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】オニウシノケグサとの交雑品が良くつかわれるようになっている【文献全般】2,4,14,16,18,21,24,42,46,47,55,59,61,62,63,65,73,74,75,88,92,99【文献県内】35,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.808	オオウシノケグサ	C	C	C
Festuca rubra L.				

【原産地】北半球の温帯?亜寒帯【国内分布】北海道，本州（在来），四国，九州【県内分布】千葉県のはおそらく帰化品 全域【生育状況】少ない【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎による栄養繁殖【散布形態】風散：夏【日本への侵入】160：-【県内への侵入】160：明治～昭和30年代【侵入の影響】411【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,18,24,42,46,47,55,59,63,65,75,88【文献県内】13,39,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.809	ムカゴオオウシノケグサ	C	C	B
Festuca rubra L. form. vivipara L. Kawano -Festuca vivipara (L.) Sm.				

【原産地】北半球の亜寒帯【国内分布】北海道，本州，四国，九州【県内分布】千葉県のはおそらく帰化品【生育状況】少ない【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎・珠芽による栄養繁殖【散布形態】風散：夏【日本への侵入】160,210：-【県内への侵入】160,210：明治～昭和30年代【侵入の影響】411,420【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】24,47,55,63,74【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.810	ハリノホ	D	C	A
Hainardia cylindrica (Willd.) Greuter				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】安房郡 富津市【生育状況】少ない【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】水散：初夏【日本への侵入】210：1959年【県内への侵入】210：1950年代【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,16,18,24,47,55,62,63,65,75,92,99【文献県内】66,田村正道 1959. 安房郡各駅における帰化植物の研究.千葉生物誌 8 (3) : 59-63

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.811	シラゲガヤ	D	C	B
Holcus lanatus L.				

【原産地】欧州・西アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】少ない
 【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】-：1905年以前
 【県内への侵入】-：1974年【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：平塚市博収蔵標本（船橋市小室、1974.6.2、平塚市博標本46213）【文献全般】2,4,9,14,16,17,18,21,24,42,46,48,55,59,61,62,63,65,73,74,75,77,88,88,92,99【文献県内】39,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.812	ニセシラゲガヤ	D	C	A
Holcus mollis L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、四国、【県内分布】富里市、野田市【生育状況】極少【生活形】多年草
 【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：1984年【県内への侵入】210：1991年
 【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：千葉県立中央博物館収蔵標本（印旛郡富里町中沢、1991.07.03、CBM-BS-60838）【文献全般】2,9,10,24,46,59,61,62,65,92【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.813	ヤバネムギ	D	C	A
Hordeum distichon L.				

【原産地】ユーラシア（広域）オオムギの改良種【国内分布】北海道、本州、四国、【県内分布】船橋市八街市【生育状況】少ない【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏
 【日本への侵入】110：明治以降？ビールの原料【県内への侵入】110：明治～昭和30年代【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,24,47,55,63,65,74,88【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.814	ホソノゲムギ	D	C	A
Hordeum jubatum L.				

【原産地】東アジア～北米（広域）【国内分布】北海道、本州（群馬 千葉）【県内分布】船橋市日の出町【生育状況】少ない【生活形】1年草（原産地では多年草）【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】210：明治以降【県内への侵入】210：1968年【侵入の影響】不明【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：1968.7.17【文献全般】2,16,18,21,24,46,47,55,59,61,62,74,92,99【文献県内】66,68,吉川代之助 1969.千葉県船橋港に上陸したホソノゲムギ.植物採集ニュース(42):44.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.815	ムギクサ	C	C	B
Hordeum murinum L.				

【原産地】欧州・西アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】中程度
 【生活形】1～2年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】210：1868年
 【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】411,420【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,16,18,21,24,46,47,55,59,61,62,63,65,74,75,75,77,88,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.816	オオムギクサ	D	C	A
Hordeum murinum L. subsp. leporinum (Link) Arcang.				

【原産地】欧州【国内分布】本州（福島）【県内分布】富里市、八街市【生育状況】少ない？【生活形】1～2年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】210：明治以降【県内への侵入】210：2000年【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：八街市、2000.5.9、今井正臣【文献全般】47,61,63,65,74,92【文献県内】20,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.817	タイワンアイアシ	D	C	A
Ischaemum rugosum Salisb.				

【原産地】熱帯アジア【国内分布】琉球在来【県内分布】船橋市旭町【生育状況】少ない 絶滅【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】250：日本原産【県内への侵入】250，園芸用土のヤシマットから：1999年【侵入の影響】なし【侵入対策】-【備考】侵入確認：船橋市、1999.10.22【文献全般】18,75【文献県内】29,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.818	ウサギノオ	D	C	A
Lagurus ovatus L.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州、【県内分布】館山市 八千代市【生育状況】中程度【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】120：1975年【県内への侵入】120：1988年【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：観察記録（館山市船形、1988.5.29、山井廣氏資料目録）【文献全般】9,24,46,47,55,59,61,62,63,65,69,70,74,88,92【文献県内】66,68,伊藤至 1975. 安房白浜でウサギガヤ採集. 植物採集ニュース(82):86.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.819	ハマガヤ	D	C	B
Leptochloa fusca (L.) Kunth (syn. Diplachne fusca (L.) P.Beauv.)				

【原産地】アジア～アフリカ【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全域海岸部【生育状況】中程度【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】水散：秋【日本への侵入】240：1903年【県内への侵入】240：1934年【侵入の影響】411 420【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】侵入確認：千葉県立中央博物館収蔵標本（長生郡一松村鷺海岸、1934.07.15、CBM-BS-1690）【文献全般】9,10,16,18,21,24,46,47,55,59,61,62,65,74,88,92,99【文献県内】66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.820	ニセアゼガヤ	D	C	A
Leptochloa uninervia (C. Presl) Hitchc. et Chase.				

【原産地】北米、南米【国内分布】本州（愛知、神奈川）【県内分布】船橋市【生育状況】少ない【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】水散：秋【日本への侵入】240：1962年【県内への侵入】240：1989年【侵入の影響】212【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】侵入確認：船橋市、1989.11.5、別名ニブイロアゼガヤ【文献全般】24,46,47,55,59,61,63,65,74,92【文献県内】66,木村陽子 1989. 船橋市・海浜公園の帰化植物3種. 千葉生物誌39(1):32-33.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.821	ハマニンニク	C	C	B
<i>Leymus mollis</i> (Trin.) Pilger				

【原産地】千島，サハリン，北米 日本【国内分布】北海道，本州，九州（在来）【県内分布】全域海岸部
 【生育状況】多い【生活形】多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏【日本への侵入】
 153：-【県内への侵入】153，千葉県では砂防用の植栽からの逸出：1950年代【侵入の影響】212,100（在来
 系統あり）【侵入対策】公共事業などにおける地域個体群の遺伝的多様性を保持した種苗の植栽、方針策定
 【備考】九十九里浜に砂防用に植えられたものから逸出している． 海上郡銚子町犬吠 1929.5.1の標本は
 自生品か？【文献全般】18,42,55,63,65,88【文献県内】66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.822	ネズミムギ	B	B	C
<i>Lolium multiflorum</i> Lam.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】中
 程度?多い【生活形】冬緑・1~2年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵
 入】160：明治【県内への侵入】160：明治～昭和30年代【侵入の影響】312【侵入対策】管理区域外への逸
 出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,18,18,21,24,46,47,55,59,6
 1,62,65,74,75,88,92,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.823	ホソムギ	B	B	C
<i>Lolium perenne</i> L.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】中
 程度【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】16
 0：明治【県内への侵入】160：明治～昭和30年代【侵入の影響】312,411,412【侵入対策】管理区域外への
 逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】花粉症（参天製薬ホームページより）【文献全般】2,4,1
 4,16,18,21,24,46,47,55,59,61,62,63,64,65,74,75,77,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.824	ボウムギ	C	C	B
<i>Lolium rigidum</i> Gaudin subsp. <i>lepturoides</i> (Boiss.) Sennen et Mauricio				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全域の沿海地【生育状況】中
 程度【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：夏【日本への侵入】210：
 1931年【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出監視
 と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,14,16,18,21,24,46,4
 7,55,59,61,62,65,74,75,77,92,99【文献県内】66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.825	ドクムギ	C	C	B
<i>Lolium temulentum</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】湾岸部に散在【生育状況】中程度【生
 活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】210：明治【県
 内への侵入】210：明治～昭和30年代【侵入の影響】311 果実に毒性のある菌がつく【侵入対策】管理区域
 外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,9,10,1
 4,16,18,21,46,47,55,61,62,63,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.826	ネズミホソムギ	B	B	C
Lolium x hybridum Hausskn				

【原産地】ユーラシア（広域）ホソムギとネズミムギの交配種【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】中程度?多い【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】160：明治【県内への侵入】160：昭和30年代後半以降【侵入の影響】411, 412【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,10,16,24,47,55,59,63,65,73,74【文献県内】12,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.827	コネズミガヤ	D	C	A
Muhlenbergia schreberi J.F.Gmel.				

【原産地】北米【国内分布】本州、【県内分布】佐倉市 鴨川市【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】220：1929年【県内への侵入】220：1997年【侵入の影響】212【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】侵入確認：千葉県立中央博物館収蔵標本（鴨川市平塚愛宕山、1997.10.31、CBM-BS-153793）【文献全般】16,17,18,24,47,55,59,61,62,63,65,74,77,88,92,99【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.828	ハナクサキビ	D	C	A
Panicum capillare L.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】銚子市ヤマサ醤油工場 浦安市【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】210,220：1955年【県内への侵入】211,220 輸入大豆から：1954年【侵入の影響】不明【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】侵入確認：銚子市ヤマサ醤油工場、1954.8.25【文献全般】2,9,10,14,16,18,21,24,46,47,55,59,61,62,63,64,65,92,99【文献県内】5,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.829	オオクサキビ	C	C	C
Panicum dichotomiflorum Michx.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】220：1927年【県内への侵入】-：明治～昭和30年代【侵入の影響】212【侵入対策】-【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,18,21,24,46,47,55,59,61,62,63,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,35,39,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.830	ニコゲヌカキビ	D	C	A
Panicum lanuginosum Ell.				

【原産地】北米【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総 君津市【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】210：1940年【県内への侵入】210：1991年【侵入の影響】212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：千葉県立中央博物館収蔵標本（印旛郡富里町金堀、1991.07.09、CBM-BS-60878）【文献全般】2,16,18,24,47,55,59,62,63,64,65,74,77,92,99【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.831	キビ	D	C	A
Panicum miliaceum L.				

【原産地】インド【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】佐倉市 我孫子市 成東町【生育状況】極少【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】110：奈良以前【県内への侵入】110：明治～昭和30年代【侵入の影響】不明【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,18,24,42,55,59,64,70,88【文献県内】12,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.832	ヒゲギネアキビ（仮称）	D	C	A
Panicum sp.				

【原産地】学名未詳につき不明【国内分布】本州（千葉）【県内分布】八千代市【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：秋【日本への侵入】210：1999年【県内への侵入】210：1999年【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：八千代市、1999.08.20【文献全般】63【文献県内】29,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.833	スズメノナギナタ	C	C	A
Parapholis incurva (L.) C. E. Hubb.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、【県内分布】千葉市 船橋市など東京湾海岸部 鴨川市 館山市【生育状況】多い【生活形】1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】240：1988年【県内への侵入】240：1988年【侵入の影響】212【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】侵入確認：千葉中央港、1988年【文献全般】24,47,55,61,62,63,65,74,92【文献県内】66,木村陽子 1989 船橋市・海浜公園の帰化植物3種. 千葉生物誌39(1)：32-33., 斉藤吉永 1990 スズメノナギナタの帰化. 千葉生物誌39(2)：60-61., 斉藤吉永 1991 生物観察記：スズメノナギナタの帰化. 千葉生物誌 40(2)：41.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.834	オガサワラスズメノヒエ	D	C	A
Paspalum conjugatum Bergius				

【原産地】新世界の熱帯【国内分布】本州（千葉県）、九州（琉球）【県内分布】船橋市旭町【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】250：-【県内への侵入】250，園芸用土のヤシマットから：1999年【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】侵入確認：船橋市、1999.09.30【文献全般】18,46,47,59,64,75,88【文献県内】29,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.835	シマスズメノヒエ	B	C	C
Paspalum dilatatum Poir.				

【原産地】南米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全域【生育状況】少ない?中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：1915年【県内への侵入】210：明治～昭和30年代【侵入の影響】411【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】熱帯では牧草として栽培される【文献全般】4,9,10,14,16,18,21,24,46,47,55,59,61,62,63,64,65,74,75,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.836	キシウスズメノヒエ	B	B	C
Paspalum distichum L.				

【原産地】熱帯（広域）【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全域【生育状況】極多【生活形】夏緑・抽水多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：1924年【県内への侵入】210：昭和30年代後半以降【侵入の影響】411 420【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】要注意外来生物（緑化植物）【文献全般】4,9,10,14,16,18,21,23,24,42,46,47,55,59,61,62,63,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.837	チクゴスズメノヒエ	B	B	B
Paspalum distichum L. var. indutum Shinners				

【原産地】北米南部【国内分布】本州、本州、九州、【県内分布】北総、九十九里平野【生育状況】多い【生活形】夏緑・抽水多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：戦後【県内への侵入】210：1986年【侵入の影響】411 420【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：千葉県立中央博物館収蔵標本（栄町北、1986.10.10、CBM-BS-057898）【文献全般】4,18,21,23,24,46,47,59,61,62,63,74,75,92,99【文献県内】12,66,土屋守 1990 埼玉県と千葉のチクゴスズメノヒエ 水草研究会会報(35):13.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.838	アメリカスズメノヒエ	C	C	B
Paspalum notatum Flgge				

【原産地】熱帯米・南米【国内分布】本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：1969年【県内への侵入】-：昭和30年代後半以降【侵入の影響】411【侵入対策】-【備考】牧草として【文献全般】4,9,10,17,18,21,24,46,47,55,61,62,63,64,65,74,75,92,99【文献県内】12,39,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.839	スズメノコヒエ	D	C	A
Paspalum scrobiculatum L.				

【原産地】旧世界の熱帯【国内分布】本州（東海地方以西 千葉県）、四国、九州在来【県内分布】船橋市旭町【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】-：日本原産【県内への侵入】250,園芸用土のヤシマットから 1999年【侵入の影響】不明【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】侵入確認：船橋市、1999.9.30【文献全般】18,42,55,88【文献県内】29,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.840	タチスズメノヒエ	C	C	B
Paspalum urvillei Steud.				

【原産地】南米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】主として南総、安房に分布 分布拡大傾向【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：1958年【県内への侵入】210：1985年【侵入の影響】411【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：千葉県立中央博物館収蔵標本（鴨川市前原、1985.09.07、CBM-BS-058384）【文献全般】4,9,10,14,16,18,21,24,46,47,55,59,61,62,63,64,65,74,75,88,92,99【文献県内】12,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.841	シロガネチカラシバ	D	C	A
Pennisetum villosum Fresen.				

【原産地】アフリカ?アラビア半島【国内分布】本州(千葉県が日本新産)【県内分布】市川市妙典【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草 原産地では多年草【繁殖形態】花粉媒介型:風媒【散布形態】風散:秋【日本への侵入】220:2001年【県内への侵入】220 植え込み花壇から:2001年【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】「ギンギツネ」観賞用としても栽培される。侵入確認:市川市、2001.10.11【文献全般】-【文献県内】29,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.842	コササガヤ	D	C	A
Perotis indica (L.) Kuntze				

【原産地】熱帯?亜熱帯アジア【国内分布】本州(千葉)【県内分布】船橋市旭町【生育状況】少ない【生活形】夏緑・1年草-多年草【繁殖形態】花粉媒介型:風媒【散布形態】着散:秋【日本への侵入】250:1999年【県内への侵入】250,園芸用土のヤシマットから:1999年【侵入の影響】不明【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】侵入確認:船橋市、1999.9.30【文献全般】-【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.843	オニクサヨシ	D	C	A
Phalaris aquatica L.				

【原産地】北アフリカ ヨーロッパ 西アジア【国内分布】本州(神奈川 千葉)【県内分布】千葉市青葉町造成地【生育状況】少ない 造成地に出現したが絶滅【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型:風媒【散布形態】重散:初夏【日本への侵入】220:1986年神奈川県横浜市【県内への侵入】220:1998年【侵入の影響】なし【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】侵入確認:千葉市、1998.6.2【文献全般】24,47,59,65,74【文献県内】66,木村陽子・大場達之 2003. ミノボロモドキとオニクサヨシの帰化. 千葉県植物誌資料 19:144.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.844	カナリークサヨシ	D	C	B
Phalaris canariensis L.				

【原産地】欧州・西アジア・シベリア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型:風媒【散布形態】風散:初夏【日本への侵入】110:江戸末期【県内への侵入】-:-【侵入の影響】不明【侵入対策】-【備考】小鳥のえさ【文献全般】2,4,9,10,16,18,21,24,46,59,61,62,63,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】35,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.845	アレチクサヨシ(ヒメセトガヤモドキ)	D	C	A
Phalaris paradoxa L. var. praemorsa (Lam.) Coss. et Dur.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州(千葉)【県内分布】八街市大街道【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型:風媒【散布形態】重散:初夏【日本への侵入】210:2003年【県内への侵入】210:2003年【侵入の影響】不明【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認:八街市、2003.5.26【文献全般】-【文献県内】、木村陽子 2004. アレチクサヨシ(イネ科)千葉県に産す. 千葉県植物誌資料 20:154-155.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.846	ヒメカナリークサヨシ	D	C	A
Pharalis minor Retz.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】船橋市日の出町
八千代市 市川市【生育状況】極少【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】
風散：初夏【日本への侵入】210：昭和初期【県内への侵入】210：1969年【侵入の影響】なし【侵入対策】
管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：船橋
市、1969.6.1 吉川代之助 HCM52787【文献全般】2,9,10,16,18,21,24,46,47,55,59,61,62,65,74,77,92,99
【文献県内】66,68,95

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.847	オオアワガエリ	C	C	B
Phleum pratense L.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】中
程度 牧草地【生活形】冬緑：多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏【日本への侵
入】-：明治【県内への侵入】-：戦前？【侵入の影響】312花粉症（参天製薬ホームページより）【侵入対
策】-【備考】侵入確認：千葉県立中央博物館収蔵標本（千葉市、1944.05.30、CBM-BS-183271） 要注意外
来生物（緑化植物） 【文献全般】2,4,9,10,14,16,17,18,21,24,42,46,47,55,59,61,62,63,65,74,77,88,9
2,99【文献県内】12,35,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.848	ホテイチク	D	C	B
Phyllostachys aurea Carr. ex A.Riv. et C.Riv.				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全域に希【生育状況】少ない【生活
形】連緑・中高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：春（栄養繁殖）
【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】410,412【侵入対策】販売時の外来
種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】タケ
亜科は春に開花するが、開花周期が67～120年と長く、栄養繁殖が主。【文献全般】8,24,43,55,59,63,70,8
8【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.849	タイワンマダケ	C	C	A
Phyllostachys makinoi Hayata				

【原産地】台湾固有種【国内分布】希に栽培・逸出【県内分布】八日市場市吉崎浜【生育状況】中程度【生
活形】連緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵
入】120：-【県内への侵入】-：-【侵入の影響】410,412【侵入対策】-【備考】-【文献全般】8,43,55,59,
63【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.850	クロチク	D	C	A
Phyllostachys nigra (Lodd.) Munro				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】散在【生育状況】少ない【生活形】連緑・中
高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：江戸
以前【県内への侵入】-：江戸【侵入の影響】410,412【侵入対策】-【備考】-【文献全般】8,9,43,55,59,6
3,70,88【文献県内】18,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.851	ハチク	D	C	B
Phyllostachys nigra (Lodd.) Munro var. henonis (Bean) Stapf ex Rendle				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】県南部の方が多い【生育状況】中程度【生活形】連緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：平安以前【県内への侵入】-：弥生～室町【侵入の影響】410,412【侵入対策】-【備考】日本在来と中国から持ち込み両方あり【文献全般】8,9,43,55,59,63,70,88【文献県内】12,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.852	モウソウチク	C	B	C
Phyllostachys pubescens Mazel ex Houz. de Leh.				

【原産地】中国【国内分布】北海道（函館市以南）、本州、四国、九州、【県内分布】全域【生育状況】多い?極多【生活形】連緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】-：江戸【侵入の影響】410,412【侵入対策】-【備考】-【文献全般】4,8,14,24,43,55,58,63,70,88【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.853	タイミンチク	D	C	A
Pleioblastus gramineus (Been) Nakai				

【原産地】琉球諸島【国内分布】本州（関東以西）、四国、九州、【県内分布】山武郡、安房郡、長生郡【生育状況】中程度【生活形】連緑・亜高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：-【県内への侵入】120：-【侵入の影響】410,412【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,55,70【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.854	カンザンチク	D	C	A
Pleioblastus hindsii (Munro) Nakai				

【原産地】中国【国内分布】本州（関東地方南部以西）、四国、九州、【県内分布】一宮町、富津市、佐倉市【生育状況】少ない【生活形】連緑・亜高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：-【県内への侵入】120：-【侵入の影響】410,412【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,55,70【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.855	リュウキュウチク	D	C	A
Pleioblastus linearis (Hackel) Nakai				

【原産地】琉球諸島【国内分布】本州中部以西、四国、九州、【県内分布】佐倉市 睦岡村【生育状況】少ない【生活形】連緑・亜高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：-【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】410,412【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,55【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 856	ホソバナガハグサ	D	C	A
Poa angustifolia L.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】船橋市小室町【生育状況】少ない【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】160：-【県内への侵入】160：1998年【侵入の影響】411【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：千葉県立中央博物館収蔵標本（野田市岩名、1998.05.17、CBM-BS-238899）【文献全般】24,47,55,59,63,65,74【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 857	アオスズメノカタビラ	C	C	C
Poa annua L. subsp. annua				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】少ない?中程度【生活形】冬?連緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：春【日本への侵入】210：明治以降【県内への侵入】210：明治以降【侵入の影響】411,420【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】-【文献県内】13,29,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 858	コイチゴツナギ	D	C	B
Poa compressa L.				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、【県内分布】各地に散在【生育状況】少ない【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】210,220：戦後【県内への侵入】210,220：昭和30年代後半以降【侵入の影響】411【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定。【備考】-【文献全般】2,4,16,18,21,24,47,55,59,61,62,65,74,77,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 859	ミスジナガハグサ	D	C	A
Poa humilis Ehrh.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】本州、【県内分布】富津市小久保【生育状況】中程度【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】160：-【県内への侵入】160：1991年【侵入の影響】411【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：千葉県立中央博物館収蔵標本（富津市小久保、1991.05.16、CBM-BS-150783）【文献全般】4,24,47,63,65,74,92,99【文献県内】-

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No. 860	ナガハグサ	C	C	C
Poa pratensis L.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】多い【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】160：明治初期【県内への侵入】-：1928年【侵入の影響】411,420【侵入対策】-【備考】侵入確認：千葉県立中央博物館収蔵標本（山武郡成東町、1928.06.05、CBM-BS-26437）【文献全般】2,4,9,10,14,16,18,21,42,46,47,55,59,61,62,63,65,73,74,75,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.861	ケナガハグサ	D	C	A
<i>Poa pratensis</i> L. var. <i>hirsata</i> Asch. et Graebn.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、【県内分布】船橋市古和釜町【生育状況】少ない【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】160：-【県内への侵入】160：2000年【侵入の影響】411【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：千葉県立中央博物館収蔵標本（船橋市古和釜町、2000.05.22、CBM-BS-180263）【文献全般】4,24,63,74,88,92【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.862	オオスズメノカタビラ	C	C	C
<i>Poa trivialis</i> L.				

【原産地】欧州～西アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】中程度【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】210：明治以降【県内への侵入】210：明治～昭和30年代【侵入の影響】411【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,16,18,21,24,46,47,61,62,63,65,74,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.863	タマオオスズメノカタビラ	D	C	A
<i>Poa trivialis</i> L. form. <i>bulbifera</i> prov.				

【原産地】欧州～西アジア【国内分布】本州、【県内分布】船橋市【生育状況】中程度【生活形】冬緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】210：-【県内への侵入】210：2001年【侵入の影響】411【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：船橋市、2001.05.18【文献全般】47,65【文献県内】13,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.864	ヤダケ	C	C	C
<i>Psuedosasa japonica</i> (Siebold et Zucc. ex Steud.) Makino				

【原産地】日本、朝鮮南部【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全域【生育状況】多い?極多【生活形】連緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：夏【日本への侵入】-：-【県内への侵入】100：弥生～室町【侵入の影響】411,420【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】本州，四国，九州に在来【文献全般】8,43,55,70【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.865	ミノボロモドキ	D	C	A
<i>Rostraria cristata</i> (L.) Tsvet.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】君津市を中心とした内房沿岸部【生育状況】中程度?多い【生活形】-【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】220：1932年【県内への侵入】220：1997年【侵入の影響】411【侵入対策】公共事業などにおける緑化植物の品質チェック強化、方針策定【備考】侵入確認：袖ヶ浦市、1997.05.17【文献全般】10,16,18,21,24,46,47,59,61,62,63,65,74,77,88,92,99【文献県内】66,木村陽子・大場達之 2003. ミノボロモドキとオニクサヨシの帰化. 千葉県植物誌資料 19:144.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.866	オクヤマザサ	D	C	A
Sasa cernua Makino				

【原産地】樺太，北朝鮮，北海道，本州北部【国内分布】北海道，本州北部は在来【県内分布】鴨川市，佐倉市，山武町【生育状況】中程度【生活形】連緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：春【日本への侵入】-：-【県内への侵入】120：-【侵入の影響】411,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,55【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.867	チマキザサ	D	C	A
Sasa palmata (Marl.) Nakai				

【原産地】北海道，本州（日本海側）；樺太，千島【国内分布】北海道、本州（在来）【県内分布】佐倉市【生育状況】中程度【生活形】連緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：春?夏【日本への侵入】-：-【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】411,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,55,70【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.868	クマザサ	C	C	C
Sasa veitchii (Carr.) Rehder				

【原産地】京都府の山地【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】全域【生育状況】多い【生活形】連緑・低木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：春【日本への侵入】-：-【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】411,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,55,70【文献県内】66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.869	ナリヒラダケ	D	C	A
Semiarundinaria fastuosa (Mitf.) Makino				

【原産地】本州西南部原産【国内分布】関東地方以西で栽培【県内分布】南部【生育状況】中程度【生活形】連緑・小高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：秋?春【日本への侵入】120：江戸以前【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】411,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,43,55,70【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.870	ビゼンナリヒラ	D	C	A
Semiarundinaria okudoi Makino				

【原産地】岡山県？【国内分布】関東地方以西で栽培、四国、九州、【県内分布】清澄山【生育状況】中程度【生活形】連緑・小高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：不明【日本への侵入】-：-【県内への侵入】120：-【侵入の影響】411,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,55【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.871	ヤシャダケ	D	C	A
Semiarundinaria yashadake (Makino) Makino				

【原産地】日本原産だがはっきりとした産地は不明【国内分布】本州以南、四国、九州で栽培【県内分布】清澄山【生育状況】中程度【生活形】連緑・小高木【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：不明【日本への侵入】-：-【県内への侵入】120：-【侵入の影響】411,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,55【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.872	フシネキンエノコロ	C	B	A
Setaria gracilis Kunth				

【原産地】熱帯【国内分布】本州（関東以南？）【県内分布】大多喜町中野ほか【生育状況】中程度【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：-【県内への侵入】-：2009年【侵入の影響】212【侵入対策】-【備考】侵入確認：千葉県立中央博物館収蔵標本（大多喜町中野、2009.8.18、CBM-BS-282541）。学名は検討の余地がある。【文献全般】18,24,47,59,63,65,74,75【文献県内】天野誠.2009. ついにフシネキンエノコロが千葉県で見つかった. いすみ大多喜植物調査通信5:1.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.873	コツブキンエノコロ	C	C	C
Setaria pallide-fusca (Schumach.) Stapf et Hubb.				

【原産地】旧世界の熱帯と暖地，琉球では在来か？【国内分布】本州，四国，九州，琉球【県内分布】全域【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】-：琉球原産【県内への侵入】300?：明治～昭和30年代【侵入の影響】212【侵入対策】温室効果ガスの排出抑制。生育状況モニタリング。【備考】平凡社帰化植物，神植誌2001では，在来種扱い【文献全般】18,55,65【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.874	イヌエノコロ	D	C	A
Setaria x decipiens Schimp.				

【原産地】欧州【国内分布】本州（千葉県）、九州【県内分布】富里市【生育状況】極少【生活形】夏緑・一年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】-：戦後【県内への侵入】-：-【侵入の影響】不明【侵入対策】-【備考】エノコログサとザラツキエノコログサとの雑種。【文献全般】14,61,62,92【文献県内】20,木村陽子 2007. イヌエノコロ（イネ科）が千葉県で記録.千葉県植物誌資料 22:190-191.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.875	ムラサキオオエノコロ	C	C	A
Setaria x pycnocomma (Steud.) Henrard ex Nakai form.				

【原産地】-【国内分布】-【県内分布】全域（時折）【生育状況】極少【生活形】夏緑・一年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】210：明治～昭和30年代【県内への侵入】210：-【侵入の影響】411,420【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】-【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.876	オオエノコ	C	C	C
Setaria x pycnocomma (Steud.) Henrard ex Nakai				

【原産地】 - 【国内分布】 - 【県内分布】 全県に分布【生育状況】 中程度【生活形】 夏緑・中一年草【繁殖形態】 花粉媒介型：風媒【散布形態】 重散：秋【日本への侵入】 210：明治【県内への侵入】 210：明治～昭和30年代【侵入の影響】 411,420【侵入対策】 管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】 - 【文献全般】 24,55【文献県内】 66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.877	オカメザサ	C	C	B
Shibataea kumasasa (Zoll.) Makino				

【原産地】 日本西南【国内分布】 北海道、本州、四国、九州【県内分布】 全域【生育状況】 中程度【生活形】 連緑・低木【繁殖形態】 花粉媒介型：風媒【散布形態】 重散：希に初夏【日本への侵入】 - - 【県内への侵入】 120：江戸【侵入の影響】 411.420【侵入対策】 販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】 - 【文献全般】 43,55,70【文献県内】 66,68

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.878	セイバンモロコシ (ヒメモロコシ含む)	B	B	C
Sorghum halepense (L.) Pers.				

【原産地】 旧世界の熱帯?亜熱帯【国内分布】 本州、四国、九州、【県内分布】 全域【生育状況】 中程度牧草【生活形】 夏緑・多年草【繁殖形態】 花粉媒介型：風媒【散布形態】 重散：秋【日本への侵入】 110：1943年【県内への侵入】 110：1943年【侵入の影響】 420 ススキ草地の破壊【侵入対策】 管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】 1943年千葉県三里塚が日本新産【文献全般】 4,9,24,46,47,59,63,64,65,74,75,77,88【文献県内】 12,35,39,66,久内清孝 1947.セイバンモロコシの帰化. 植物研究雑誌 21：142.

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.879	イヌシバ	D	C	A
Stenotaphrum secundatum Kuntze				

【原産地】 北米南部～南米【国内分布】 本州（千葉）、九州、【県内分布】 和田町【生育状況】 中程度【生活形】 常緑・多年草【繁殖形態】 花粉媒介型：風媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】 重散：秋【日本への侵入】 151：1956年【県内への侵入】 -：1998年【侵入の影響】 212【侵入対策】 - 【備考】 アメリカでは芝生として栽培。侵入確認：千葉県立中央博物館収蔵標本（和田町花園、1998.10.14、CBM-BS-161268）【文献全般】 16,18,21,47,57,61,62,63,65,74,88,92,99【文献県内】 66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.880	シホウチク	D	C	A
Tetragonalamus angulatus (Munro) Nakai				

【原産地】 中国四川省峨眉山，台湾は持ち込まれた【国内分布】 本州（関東地方以西）、四国、九州、【県内分布】 県南部に散在【生育状況】 少ない【生活形】 連緑・低木【繁殖形態】 花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】 重散：不明【日本への侵入】 -：120【県内への侵入】 120：江戸【侵入の影響】 411,412【侵入対策】 販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】 タケノコは10月【文献全般】 8,43,55,59,63,70,88【文献県内】 66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.881	ナギナタガヤ	B	C	C
<i>Vulpia myuros</i> (L.) K.C.Gmel.				

【原産地】欧州～西アジア【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全域【生育状況】極多【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】160：明治【県内への侵入】160：明治～昭和30年代【侵入の影響】411,420【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】2,4,9,10,14,16,18,21,24,46,47,59,61,62,63,63,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】-

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.882	オオナギナタガヤ	C	C	A
<i>Vulpia myuros</i> (L.) K.C.Gmel. var. <i>megalura</i> (Nutt.) Rydb.				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】富里町、袖ヶ浦市 など【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】160：明治【県内への侵入】160：昭和30年代後半以降【侵入の影響】411,420【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,16,18,21,24,46,47,59,61,62,65,74,77,88,92,99【文献県内】12,66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.883	ムラサキナギナタガヤ	C	C	A
<i>Vulpia octoflora</i> (Walt.) RydIb.				

【原産地】北米【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】佐倉市 袖ヶ浦市【生育状況】少ない【生活形】冬緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：初夏【日本への侵入】160：1937年以降【県内への侵入】-：明治～昭和30年代【侵入の影響】411,420【侵入対策】-【備考】-【文献全般】9,10,16,18,21,46,47,61,62,63,65,74,88,92,99【文献県内】66

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.884	コウシュンシバ	D	C	B
<i>Zoysia matrella</i> (L.) Merr.				

【原産地】九州，琉球，小笠原；東南アジア【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全域【生育状況】極多（芝地）【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】120：-【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】18,42,63,65,70【文献県内】-

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.885	コウライシバ	D	C	B
<i>Zoysia pacifica</i> (Goudwaard) M.Hotta et S.Kuroki				

【原産地】九州南部，琉球；台湾，中国南部，東南アジア【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】全域【生育状況】極多（芝地）【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】120：日本原産【県内への侵入】120：明治【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】18,63【文献県内】-

種子植物	イネ科	影響度	緊急度	容易性
No.886	ネズミウシノケグサ(仮称)	D	C	A
x <i>Festulolium braunii</i> (K.Richter) A.Camus				

【原産地】ユーラシア【国内分布】本州（千葉県のほか）【県内分布】千葉市青葉町生態園【生育状況】少ない 絶滅【生活形】1-2年草と多年草との雑種なので、多年草？【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：初夏【日本への侵入】210：-【県内への侵入】210：1989年【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】侵入確認：1989. 5、千葉市青葉町。ヒロハウシノケグサかオオウシノケグサとネズミムギの属間雑種。【文献全般】-【文献県内】、大場達之 1989. 生態園今のみどころ-ムギの秋-No.13.

種子植物	ヤシ科	影響度	緊急度	容易性
No.887	シュロ	B	B	C
<i>Trachycarpus fortunei</i> (Hook.) H.Wendl.				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全県に分布【生育状況】中程度【生活形】常緑・高木【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：江戸以前【県内への侵入】120：1937年以前【侵入の影響】212,420【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,8,9,14,24,43,54,56,64【文献県内】12,66,68

種子植物	サトイモ科	影響度	緊急度	容易性
No.888	ムサシアブミ	D	C	A
<i>Arisaema ringens</i> (Thunb.) Schott				

【原産地】関東以南の暖地、千葉県のは逸出？【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】富里市【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、塊茎で栄養繁殖【散布形態】食散：秋【日本への侵入】自生：日本原産【県内への侵入】120：1995年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】24,42,63,70【文献県内】66

種子植物	サトイモ科	影響度	緊急度	容易性
No.889	サトイモ	D	C	B
<i>Colocasia esculenta</i> (L.) Schott				

【原産地】熱帯アジア【国内分布】北海道、本州、四国、九州（栽培）【県内分布】各地に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、塊茎で栄養繁殖【散布形態】食散：秋【日本への侵入】110：縄文（栽培）【県内への侵入】110：弥生～室町【侵入の影響】なし【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】47,58,63,70【文献県内】66

種子植物	サトイモ科	影響度	緊急度	容易性
No.890	ボタンウキクサ	A	A	A
<i>Pistia stratiotes</i> L.				

【原産地】熱帯アフリカ【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】各地に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・浮遊多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、匍匐枝で栄養繁殖【散布形態】水散：秋【日本への侵入】130：1887年以前【県内への侵入】130：1995年以前【侵入の影響】212,411,322【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】特定外来生物【文献全般】9,21,24,46,47,55,59,61,62,63,64,65,74,75,92【文献県内】66

種子植物	サトイモ科	影響度	緊急度	容易性
No.891	オランダカイウ	C	C	A
<i>Zantedeschia aethiopica</i> Spreng.				

【原産地】南アフリカ【国内分布】本州、四国、九州（栽培）【県内分布】北総に散在【生育状況】極少
 【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、塊茎で栄養繁殖【散布形態】水散：秋【日本への侵入】120：江戸【県内への侵入】120：2003年以前【侵入の影響】420,322【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】47,63,70【文献県内】66

種子植物	ウキクサ科	影響度	緊急度	容易性
No.892	イボウキクサ	D	C	A
<i>Lemna gibba</i> L.				

【原産地】欧州【国内分布】本州、四国、【県内分布】袖ヶ浦市【生育状況】多い【生活形】夏緑・多年草
 【繁殖形態】花粉媒介型：水媒、茎葉体の分裂で栄養繁殖【散布形態】水散：秋【日本への侵入】210：1974年以前【県内への侵入】210：2000年以前【侵入の影響】321,212【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】17,21,23,24,46,47,55,61,62,63,65,74,92,99【文献県内】66

種子植物	ウキクサ科	影響度	緊急度	容易性
No.893	ヒナウキクサ	B	B	A
<i>Lemna miniscula</i> Herter				

【原産地】北米【国内分布】本州【県内分布】富里市、佐倉市【生育状況】多い【生活形】夏緑・多年草
 【繁殖形態】花粉媒介型：水媒、茎葉体の分裂で栄養繁殖【散布形態】水散：秋【日本への侵入】210：1965年以前【県内への侵入】210：1982年以前【侵入の影響】212,321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】17,21,23,24,47,55,61,62,63,64,65,74,92,99【文献県内】66,大滝末男（1981）印旛沼にヒメウキクサの大繁殖を見る.水草研究会会報(6):10-11.

種子植物	ウキクサ科	影響度	緊急度	容易性
No.894	コウキクサ	C	C	B
<i>Lemna minor</i> L.(s.l.)				

【原産地】南米を除く全世界【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】北総に散在【生育状況】極多【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：水媒、茎葉体の分裂で栄養繁殖【散布形態】水散：秋【日本への侵入】210：日本原産？【県内への侵入】210：1975年以前【侵入の影響】212,321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】23,42,88【文献県内】66,68

種子植物	ウキクサ科	影響度	緊急度	容易性
No.895	ヒメウキクサ	A	B	A
<i>Spirodela punctata</i> (G.F.W.) Thomson				

【原産地】オーストラリア、アフリカ南部、東アジア【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】君津市亀山湖【生育状況】極多【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：水媒、茎葉体の分裂で栄養繁殖【散布形態】水散：秋【日本への侵入】110：日本原産？【県内への侵入】110：2009年以前【侵入の影響】212,321【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,17,23,42,46,47,56,63,65,74【文献県内】-

種子植物	ウキクサ科	影響度	緊急度	容易性
No.896	ミジンコウキクサ	C	C	A
<i>Wolffia globosa</i> (Roxb.) Hartog et Plas				

【原産地】欧州南部【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】各地に散在【生育状況】極多【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：水媒、茎葉体の分裂で栄養繁殖【散布形態】水散：秋【日本への侵入】210：1938年【県内への侵入】210：1975年以前【侵入の影響】212,321【侵入対策】管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】4,9,17,21,23,42,46,47,55,61,62,63,64,65,74,75,77,88,92,99【文献県内】12,66,68

種子植物	ガマ科	影響度	緊急度	容易性
No.897	モウコガマ	B	B	A
<i>Typha laxmannii</i> Lepech.				

【原産地】ユーラシア（広域）【国内分布】本州、【県内分布】芝山町【生育状況】少ない【生活形】夏緑・挺水多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】120：1990年代？【県内への侵入】120：1995年以前【侵入の影響】212【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】23,24,47,61,63,65,74【文献県内】19,66,折目庸雄・大場達之 1996. モウコガマが芝山町に現れた. 千葉県植物誌資料 9:55-56.

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.898	オオハタガヤ	D	C	A
<i>Bulbostylis puberula</i> (Poir.) Clarke				

【原産地】熱帯アジア、アフリカ【国内分布】本州（千葉県のみ）【県内分布】船橋市旭町【生育状況】一時的、極少（消滅）【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】240：-【県内への侵入】240：1999年【侵入の影響】なし【侵入対策】可能な限り在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】-【文献県内】13

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.899	アメリカヤガミスゲ	C	C	A
<i>Carex scoparia</i> Schkuhr				

【原産地】北アメリカ【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】非常にまれ【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：春【日本への侵入】200：1980年代【県内への侵入】200：2002年【侵入の影響】なし【侵入対策】輸送時の検査・洗浄、工場・空港・港湾などのモニタリングと除去【備考】-【文献全般】47,63,65【文献県内】12

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.900	シュロガヤツリ	D	C	A
<i>Cyperus alternifolius</i> L.				

【原産地】マダガスカル島【国内分布】本州、四国、九州、琉球、小笠原【県内分布】各地に散在【生育状況】少ない【生活形】常緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】水散：夏～秋【日本への侵入】120,300：-【県内への侵入】120：明治～昭和30年代【侵入の影響】-【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,10,21,24,42,46,47,59,61,62,63,64,65,65,75,88,92【文献県内】66

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.901	ナガミイッスンガヤツリ	D	C	A
Cyperus castaneus Willd.				

【原産地】東南アジア、インド、北オーストラリア【国内分布】千葉県のみ【県内分布】船橋市旭町【生育状況】極少（一時的、消滅）【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：春～秋【日本への侵入】240(園芸用のヤシマットから)：-【県内への侵入】240：1999年のみ【侵入の影響】-【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】-【文献県内】、木村陽子・大場達之・須賀はる子 2007. 船橋市に一時帰化したクルマバヒメグク、ヒメナンヨウガヤツリ、ナガミイッスンガヤツリ(新称). 千葉県植物誌資料 23:207-209.

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.902	ユメノシマガヤツリ	B	B	B
Cyperus congestus (Vahl) C.B.Clarke				

【原産地】アフリカ南部・オーストラリア【国内分布】本州、【県内分布】各地に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】200：1980年頃【県内への侵入】200：昭和30年代後半以降【侵入の影響】212【侵入対策】輸送時の検査・洗浄、工場・空港・港湾などのモニタリングと除去【備考】-【文献全般】21,24,46,47,62,63,65,74,92,99【文献県内】12,66,大野景徳・木村陽子 1996. 千葉県内に広がるユメノシマガヤツリ. 千葉県植物誌資料 7:42-43.,大野景徳・木村陽子・倉俣武男 1996. 千葉県内に広がるユメノシマガヤツリ続報. 千葉県植物誌資料 8:54.

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.903	ハウキガヤツリ	D	C	A
Cyperus distans L.f.				

【原産地】熱帯【国内分布】四国、本州(千葉)、琉球【県内分布】船橋市旭町【生育状況】極少(一時的、消滅)【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】200,300：-【県内への侵入】250, 園芸用土のヤシマットから：1999～2000年【侵入の影響】なし【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】-【文献県内】、木村陽子 2006. ハウキガヤツリの一時的帰化. 千葉県植物誌資料 21:184-185.

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.904	ホソミキンガヤツリ	B	B	B
Cyperus engelmannii Steud.				

【原産地】北米【国内分布】本州、小笠原【県内分布】北部に散在【生育状況】中程度【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散、水散：秋【日本への侵入】200：1980年代【県内への侵入】200：1980年代?【侵入の影響】321【侵入対策】輸送時の検査・洗浄、工場・空港・港湾などのモニタリングと除去【備考】-【文献全般】24,47,63,65,74【文献県内】12

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.905	メリケンガヤツリ	B	B	B
Cyperus eragrostis Lam.				

【原産地】熱帯米【国内分布】本州、小笠原、四国、九州、琉球【県内分布】北部に散在【生育状況】少ない【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】200：1959年【県内への侵入】200：-【侵入の影響】212【侵入対策】輸送時の検査・洗浄、工場・空港・港湾などのモニタリングと除去【備考】要注意外来生物(情報不足)【文献全般】17,21,24,46,47,59,61,62,63,64,65,65,75,88,92,99【文献県内】66

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.906	キハマスゲ	B	B	B
	<i>Cyperus esculentus</i> L.			

【原産地】ヨーロッパ～アフリカ【国内分布】本州【県内分布】北部に散在【生育状況】少ない。水田の畦、穀類、豆類の畑に多い【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、塊茎で栄養繁殖【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】200：1980年代【県内への侵入】200：1990年代【侵入の影響】212【侵入対策】輸送時の検査・洗浄、工場・空港・港湾などのモニタリングと除去【備考】別名シヨクヨウガヤツリ。要注意外来生物（情報不足）【文献全般】24,46,47,59,63,65,65,88【文献県内】66

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.907	セイタカハマスゲ	D	C	A
	<i>Cyperus longus</i> L.			

【原産地】地中海沿岸、西南アジア、アフリカ【国内分布】本州（関東）【県内分布】佐倉市【生育状況】極少（一時的、消滅）【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】200：1984年【県内への侵入】200：1990年代【侵入の影響】-【侵入対策】輸送時の検査・洗浄、工場・空港・港湾などのモニタリングと除去【備考】-【文献全般】46,47,61,63,65,74【文献県内】66

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.908	シチトウイ	D	C	A
	<i>Cyperus monophyllus</i> Vahl			

【原産地】熱帯アジア【国内分布】本州以南【県内分布】かつて散在したが、現在は確認されない【生育状況】極少（消滅か？）【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】重散、水散：秋【日本への侵入】200：-【県内への侵入】200：-【侵入の影響】-【侵入対策】輸送時の検査・洗浄、工場・空港・港湾などのモニタリングと除去【備考】-【文献全般】9,46,61,62,63,64,65,75,88,92【文献県内】66

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.909	タイトウクグ	D	C	A
	<i>Cyperus sesquiflorus</i> (Torr.) Mattf. et Kuk. var. <i>subtriceps</i> (Nees) T.Koyama			

【原産地】アジア～アフリカの熱帯【国内分布】琉球【県内分布】袖ヶ浦市の港湾【生育状況】極少（消滅か？）【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】200,300：-【県内への侵入】200（荷揚げ物資や埋め立て用土に混入か）：1985年【侵入の影響】-【侵入対策】輸送時の検査・洗浄、工場・空港・港湾などのモニタリングと除去【備考】-【文献全般】47,63,75【文献県内】66,堀内洋 1996. 千葉県に未記録のタイトウクグ（カヤツリグサ科）の標本を確認する. 千葉県植物誌資料 8:47-48.

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.910	ゴマフガヤツリ	D	C	A
	<i>Cyperus sphacelatus</i> Rottb.			

【原産地】熱帯米【国内分布】千葉県、東京都、神奈川県【県内分布】船橋市旭町【生育状況】消滅（一時的、消滅）【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】240：-【県内への侵入】240：1999年【侵入の影響】-【侵入対策】可能な限り在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】24,47,63,65,74【文献県内】13,66

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.911	シバヤマハリイ	D	C	A
Eleocharis engelmanni Steud. var. detonsa A.Gray				

【原産地】北アメリカ【国内分布】千葉県のみ【県内分布】芝山町【生育状況】極小（消滅）【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】水散：秋【日本への侵入】200,300：1990年代【県内への侵入】200：1995年【侵入の影響】-【侵入対策】輸送時の検査・洗浄、工場・空港・港湾などのモニタリングと除去【備考】-【文献全般】47,63,65,74【文献県内】19,66,折目庸雄・大場達之・木村陽子・勝山輝男・小崎昭則・遠藤泰彦 1996. ハリイ属の新しい帰化種. 千葉県植物誌資料 6:29-33.

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.912	ヒメナンヨウガヤツリ	D	C	A
Kyllinga polyphylla Willd. ex Kunth				

【原産地】インド、東南アジア、オーストラリア【国内分布】本州（千葉県のみ）【県内分布】船橋市旭町【生育状況】極小（一時的、消滅）【生活形】夏緑・1年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】200,300：1999年【県内への侵入】250,園芸用土のヤシマットから：1999年のみ【侵入の影響】-【侵入対策】可能なかぎり在来品種を使う。異物混入として排除された種子の廃棄方法のガイドラインづくり。管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】-【文献県内】木村陽子・大場達之・須賀はる子 2007. 船橋市に一時帰化したクルマバヒメクグ,ヒメナンヨウガヤツリ,ナガミイッスンガヤツリ(新称). 千葉県植物誌資料 23:207-209.

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.913	クルマバヒメクグ	D	C	A
Kyllinga polyphylla Willd. ex Kunth				

【原産地】熱帯アフリカ, マダガスカル【国内分布】本州（現在の所, 千葉県のみか?）【県内分布】船橋市旭町【生育状況】極少 絶滅【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】250：-【県内への侵入】250,園芸用土のヤシマットから：1999年【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】-【文献全般】-【文献県内】木村陽子・大場達之・須賀はる子 2007. 船橋市に一時帰化したクルマバヒメクグ,ヒメナンヨウガヤツリ,ナガミイッスンガヤツリ(新称). 千葉県植物誌資料 23:207-209.

種子植物	カヤツリグサ科	影響度	緊急度	容易性
No.914	セフリアブラガヤ	D	C	A
Scirpus georgianus R.M.Harper				

【原産地】北米【国内分布】本州、九州、【県内分布】印西市【生育状況】極小（一時的、消滅）【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：風媒【散布形態】重散：夏～秋【日本への侵入】200,300：1980年代【県内への侵入】200：1989年【侵入の影響】-【侵入対策】輸送時の検査・洗浄、工場・空港・港湾などのモニタリングと除去【備考】-【文献全般】24,47,59,63,65,65【文献県内】木村陽子 1998. セフリアブラガヤ、印西町に産す. 千葉県植物誌資料 11:78-79.

種子植物	バショウ科	影響度	緊急度	容易性
No.915	バショウ	D	C	A
Musa basjoo Makino				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】鋸南町【生育状況】極少【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】食散：秋【日本への侵入】120：平安【県内への侵入】120：江戸【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】8,55,63,70,74,88,92【文献県内】-

種子植物	ショウガ科	影響度	緊急度	容易性
No.916	ミョウガ	C	C	C
Zingiber mioga (Thunb.) Roscoe				

【原産地】中国【国内分布】本州、四国、九州、【県内分布】全県に分布【生育状況】多い【生活形】夏緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒、地下茎で栄養繁殖【散布形態】食散：秋【日本への侵入】110：奈良以前【県内への侵入】110：江戸以前【侵入の影響】212,411【侵入対策】管理区域外への逸出防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】-【文献全般】9,24,55,59,63,65,70,73,75,88【文献県内】66

種子植物	クズウコン科	影響度	緊急度	容易性
No.917	ミズカンナ	D	C	A
Thalia dealbata				

【原産地】北アメリカ、南アメリカ【国内分布】本州、四国、【県内分布】木更津市十日市場（小櫃川河岸）【生育状況】極少【生活形】連緑・多年草【繁殖形態】花粉媒介型：虫媒【散布形態】重散：秋【日本への侵入】120：1979年以前【県内への侵入】120：平成以前【侵入の影響】なし【侵入対策】販売時の外来種問題の広報、販売規制などの検討、管理区域外への遺棄防止、栽培時のガイドラインづくり【備考】標本、2009.8.9小櫃川河岸（木更津市十日市場）小田島氏発見【文献全般】-【文献県内】-

蘚苔類	センボンゴケ科	影響度	緊急度	容易性
No.918	チュウゴクネジクチゴケ	D	C	C
Didymodon constrictus (Mitt.) Saito				

【原産地】日本在来種【国内分布】本州以南【県内分布】道路脇のコンクリート壁【生育状況】多い【生活形】多年生【繁殖形態】孢子、無性芽【散布形態】孢子は風散。無性芽は不明。：通年【日本への侵入】240：日本原産【県内への侵入】240：不明【侵入の影響】特になし【侵入対策】風散のため対策は困難【備考】好石灰性だが、石灰質の凝灰岩にはみられないため、国内外来種だと思われる【文献全般】7,41【文献県内】26,41,53,80,81

蘚苔類	ギボウシゴケ科	影響度	緊急度	容易性
No.919	ケギボウシゴケ	D	C	B
Grimmia pilifera P. Beauv.				

【原産地】日本在来種【国内分布】全国【県内分布】詳細は不明、社寺や人家【生育状況】多い【生活形】多年生【繁殖形態】孢子【散布形態】風散：秋から春【日本への侵入】250：日本原産【県内への侵入】250：不明【侵入の影響】特になし【侵入対策】付着している火成岩を移動させる際には、植物体を可能な限り除去する。【備考】生育状況から推測して国内外来種だと思われる【文献全般】7【文献県内】71,67,81,84

蘚苔類	ギボウシゴケ科	影響度	緊急度	容易性
No.920	チヂレゴケ	D	C	B
Ptychomitrium sinense (Mitt.) A. Jaeger				

【原産地】日本在来種【国内分布】全国【県内分布】道路脇のコンクリート壁【生育状況】中程度【生活形】多年生【繁殖形態】孢子【散布形態】風散：春【日本への侵入】240：日本原産【県内への侵入】240：不明【侵入の影響】特になし【侵入対策】風散のため対策は困難【備考】好石灰性だが、石灰質の凝灰岩にはみられないため、国内外来種だと思われる【文献全般】7【文献県内】1,26,81,83,84

藓苔類	ギボウシゴケ科	影響度	緊急度	容易性
No.921	ナガバチヂレゴケ	D	C	B
Ptychomitrium linearifolium Reim.				

【原産地】日本在来種【国内分布】全国【県内分布】詳細は不明、社寺や人家【生育状況】中程度【生活形】多年生【繁殖形態】孢子【散布形態】風散：春【日本への侵入】250：日本原産【県内への侵入】250：不明【侵入の影響】特になし【侵入対策】風散のため対策は困難【備考】人為的影響が大きい基物にのみ生育している状況から推測して国内外来種だと思われる【文献全般】7【文献県内】26,53,81,83

藓苔類	ギボウシゴケ科	影響度	緊急度	容易性
No.922	コバノスナゴケ	D	C	B
Racomitrium barbuloides Cardot				

【原産地】日本在来種【国内分布】全国【県内分布】市原市、白井市、佐倉市ほか【生育状況】中程度【生活形】多年生【繁殖形態】孢子【散布形態】風散：秋から春【日本への侵入】250：日本原産【県内への侵入】250：不明【侵入の影響】特になし【侵入対策】付着している火成岩を移動させる際には、植物体を可能な限り除去する【備考】県内には産しない火成岩上のみ生育している状況から推測して国内外来種だと思われる【文献全般】7【文献県内】26,80,81,83

藓苔類	ギボウシゴケ科	影響度	緊急度	容易性
No.923	チョウセンスナゴケ	D	C	A
Racomitrium carinatum Cardot				

【原産地】日本在来種【国内分布】本州以南【県内分布】東金市【生育状況】中程度【生活形】多年生【繁殖形態】孢子【散布形態】風散：秋から春【日本への侵入】250：日本原産【県内への侵入】250：不明【侵入の影響】特になし【侵入対策】付着している火成岩を移動させる際には、植物体を可能な限り除去する【備考】県内には産しない火成岩上のみ生育している状況から推測して国内外来種だと思われる【文献全般】7【文献県内】84

藓苔類	ギボウシゴケ科	影響度	緊急度	容易性
No.924	シモフリゴケ	D	C	B
Racomitrium lanuginosum (Hedw.) Brid.				

【原産地】日本在来種【国内分布】全国の高山【県内分布】市原市、白井市【生育状況】少ない【生活形】多年生【繁殖形態】孢子【散布形態】風散：夏【日本への侵入】250：日本原産【県内への侵入】250：不明【侵入の影響】特になし【侵入対策】付着している火成岩を移動させる際には、植物体を可能な限り除去する【備考】県内には産しない火成岩上のみ生育している状況から推測して国内外来種だと思われる【文献全般】7【文献県内】83

藓苔類	ギボウシゴケ科	影響度	緊急度	容易性
No.925	コメバギボウシゴケ	D	C	B
Schistidium liliputarum (Muell.Hal.) Deguchi				

【原産地】日本在来種【国内分布】全国【県内分布】詳細は不明、社寺【生育状況】中程度【生活形】多年生【繁殖形態】孢子【散布形態】風散：秋から春【日本への侵入】250：日本原産【県内への侵入】250：不明【侵入の影響】特になし【侵入対策】風散のため対策は困難【備考】社寺の灯籠などに生育し、千葉県には史前移入とも考えられる【文献全般】7,71【文献県内】71,83

藓苔類	ギボウシゴケ科	影響度	緊急度	容易性
No.926	ホソバギボウシゴケ	D	C	B
Schistidium strictum (Turn.) O.Maert.				

【原産地】日本在来種【国内分布】全国【県内分布】詳細は不明、社寺【生育状況】中程度【生活形】多年生【繁殖形態】孢子【散布形態】風散：秋から春【日本への侵入】250：日本原産【県内への侵入】250：不明【侵入の影響】特になし【侵入対策】風散のため対策は困難【備考】社寺の灯籠などに生育し、千葉県には史前移入とも考えられる【文献全般】7,71【文献県内】53,71,81

藓苔類	ヒジキゴケ科	影響度	緊急度	容易性
No.927	ヒジキゴケ	D	C	A
Hedwigia ciliata (Hedw.) P.Beauv.				

【原産地】日本在来種【国内分布】全国【県内分布】詳細は不明、社寺や人家【生育状況】多い【生活形】多年生【繁殖形態】孢子【散布形態】風散：秋から春【日本への侵入】250：日本原産【県内への侵入】250：不明【侵入の影響】特になし【侵入対策】付着している火成岩を移動させる際には、植物体を可能な限り除去する。【備考】県内には産しない火成岩上にのみ生育している状況から推測して国内外来種だと思われる【文献全般】7【文献県内】67,81

藓苔類	ミカツキゼニゴケ科	影響度	緊急度	容易性
No.928	ミカツキゼニゴケ	B	C	C
Lunularia cruciata Dumort.				

【原産地】地中海沿岸【国内分布】全国【県内分布】全県の裸地【生育状況】極多【生活形】多年生【繁殖形態】孢子、無性芽【散布形態】孢子は風散。無性芽は雨滴によるはね散り。：通年【日本への侵入】230：昭和4年【県内への侵入】230：不明【侵入の影響】裸地の表面を覆ってしまうため、道端に生育するコケ植物や維管束植物への影響が懸念される【侵入対策】生育地を歩いた靴に付着した土壌が拡散しないように注意する。【備考】-【文献全般】7【文献県内】67

藓苔類	ジンガサゴケ科	影響度	緊急度	容易性
No.929	ミヤコゼニゴケ	C	C	B
Mannia fragrans (Barbis) Frye et Clark				

【原産地】日本在来種【国内分布】関東地方【県内分布】詳細は不明、公園や人家、畑【生育状況】多い【生活形】多年生【繁殖形態】孢子【散布形態】風散：初冬【日本への侵入】210：日本原産【県内への侵入】210：戦後【侵入の影響】特になし【侵入対策】生育地の土壌を移動させる際には、植物体を可能な限り除去する。また、生育地を歩いた靴に付着した土壌が拡散しないように注意する。【備考】-【文献全般】7【文献県内】67

藓苔類	ウキゴケ科	影響度	緊急度	容易性
No.930	ウロコハタケゴケ	B	B	B
Riccia lamellosa Raddi				

【原産地】欧米【国内分布】関東地方【県内分布】下総台地の社寺、公園、畑【生育状況】極多【生活形】一年草【繁殖形態】孢子【散布形態】植物体の枯死による：秋から冬【日本への侵入】230：2000年頃以降【県内への侵入】230：2000年頃以降【侵入の影響】大量に生育するため、在来のウキゴケ属への影響が懸念される【侵入対策】生育地の土壌を移動させる際には、植物体を可能な限り除去する。また生育地を歩いた靴に付着した土壌が拡散しないように注意する。【備考】-【文献全般】79【文献県内】26,82

藓苔類	ウキゴケ科	影響度	緊急度	容易性
No.931	サビイロハタケゴケ	C	B	B
Riccia nigrella DC.				

【原産地】欧米【国内分布】関東地方【県内分布】都市部の社寺、公園【生育状況】多い【生活形】多年生【繁殖形態】孢子【散布形態】植物体の枯死による：秋から春【日本への侵入】230：2000年頃以降【県内への侵入】230：2000年頃以降【侵入の影響】大量に生育するため、在来ウキゴケ属への影響が懸念される【侵入対策】生育地の土壌を移動させる際には、植物体を可能な限り除去する。また生育地を歩いた靴に付着した土壌が拡散しないように注意する。【備考】-【文献全般】27【文献県内】26,27

地衣類	イワノリ科	影響度	緊急度	容易性
No.932	ウスバイシバイイワノリ	D	C	A
Collema latzelii Zahlbr.				

【原産地】北半球【国内分布】不明（国内在来種）【県内分布】千葉市中央区【生育状況】定着しているが、逸出は確認できない【生活形】葉状【繁殖形態】子のう孢子【散布形態】風散：不明【日本への侵入】-：-【県内への侵入】250,当該地衣が付着する庭石（石灰岩）の搬入に伴う。明らかに県外から。：2001年以前【侵入の影響】なし【侵入対策】輸入時に熱をかける、消毒する等の生きた種子の混入防止。県内土壌で育苗する。輸送時の洗浄、管理区域外への逸出監視と防止。【備考】文献情報なし、未発表。生育確認（原田浩,2001.10.12）【文献全般】-【文献県内】-

大型菌類	ショウロ科	影響度	緊急度	容易性
No.933	ショウロ	D	C	C
Rhizopogon rubescens (Tul. & C. Tul.) Tul. & C. Tul.				

【原産地】北半球一帯【国内分布】-【県内分布】千葉市美浜区、中央区【生育状況】植栽クロマツ林【生活形】外生菌根共生（マツ属）【繁殖形態】孢子と植物に感染した菌糸【散布形態】孢子と植物に感染した菌糸：秋～冬【日本への侵入】-：-【県内への侵入】210,植栽クロマツの苗土壌と共に、おそらく県外から持ち込まれた種類：1970年代以降【侵入の影響】100【侵入対策】植栽を可能な限り県内産にする。管理区域外への逸出監視と防止、適切な除去の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】千葉県内各地に自生する種類だが、県外からの外来と思われるものが、東京湾岸の埋め立て地の植栽クロマツ林内に見られる【文献全般】-【文献県内】78,吹春俊光・服部力・腰野文男・大作晃一・野村麻結実・堀米礼子。1995.千葉県菌類誌（I）千葉県産大型担子菌類相。中博自報特別号（2）：125-155.千葉県環境部自然保護課。

大型菌類	キシメジ科	影響度	緊急度	容易性
No.934	ハマシメジ	D	C	C
Tricholoma myomyces (Pers.) J.E.Lange				

【原産地】欧州、北米、日本【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】千葉市美浜区、中央区【生育状況】植栽クロマツ林【生活形】外生菌根共生（マツ属）【繁殖形態】孢子と植物に感染した菌糸【散布形態】孢子と植物に感染した菌糸：秋【日本への侵入】-：-【県内への侵入】210,植栽クロマツの苗土壌と共に、おそらく県外から持ち込まれた種類：1970年代以降【侵入の影響】100【侵入対策】植栽を可能な限り県内産にする。管理区域外への逸出監視と防止、適切な除草の徹底、栽培時のガイドラインづくり。【備考】千葉県内各地に自生する種類だが、県外からの外来と思われるものが、東京湾岸の埋め立て地の植栽クロマツ林内に見られる【文献全般】-【文献県内】78,吹春俊光・腰野文男・服部力・大作晃一・小沼良子。2002.千葉県菌類誌（II）大型担子菌類追加目録。中博自報特別号（5）：95-110.

大型菌類	イグチ科	影響度	緊急度	容易性
No.935	シロヌメリイグチ	D	C	A
Suillus laricinus (Berk.) Kuntze				

【原産地】ユーラシア、北米、日本【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】千葉市泉自然公園・佐倉市佐倉城址公園【生育状況】植栽カラマツ【生活形】外生菌根共生（カラマツ属）【繁殖形態】孢子と植物に感染した菌糸【散布形態】孢子と植物に感染した菌糸：夏～秋【日本への侵入】-：-【県内への侵入】210,植栽カラマツの苗土壌と共に、明らかに県外から持ち込まれた種類：1996年【侵入の影響】なし【侵入対策】カラマツ植栽の制限。感染したカラマツ植栽木の除去。管理区域外への逸出監視と防止、栽培時のガイドラインづくり。【備考】-【文献全般】-【文献県内】吹春俊光・腰野文男・服部力・大作晃一・小沼良子。2002.千葉県菌類誌（II）大型担子菌類追加目録。中博自報特別号（5）：95-110.

大型菌類	タマハジキタケ科	影響度	緊急度	容易性
No.936	タマハジキタケ属種	D	C	A
Sphaerobolus sp.				

【原産地】中国【国内分布】-【県内分布】松尾町木刀【生育状況】観葉植物カラーの鉢植え土壌表面
 【生活形】腐生性【繁殖形態】孢子と菌糸【散布形態】自散：夏～秋【日本への侵入】250：-【県内への侵入】250,堆肥とともに海外から持ち込まれた可能性がある：1992年【侵入の影響】321【侵入対策】堆肥導入時の滅菌・発生土壌の滅菌（オートクレーブ121℃,2気圧,1時間）【備考】-【文献全般】-【文献県内】78,香川晴彦・柴田忠裕・吹春俊光・堀江義一. 1994. 各種薬剤によるタマハジキタケ属菌のグレバ塊飛散抑制効果. 関東東山病害虫研究会年報 No.41;161-162.

大型菌類	ウラベニガサ科	影響度	緊急度	容易性
No.937	トゲウラベニガサ	D	C	A
Pluteus magnus McClatchie				

【原産地】北米【国内分布】-【県内分布】長柄町長柄山【生育状況】マイタケ栽培の廃棄培地放棄跡【生活形】腐生性【繁殖形態】孢子と菌糸【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】250：-【県内への侵入】250,栽培きのこの培地（木材チップ?）と共に持ち込まれた可能性がある：2007年【侵入の影響】なし【侵入対策】培地廃棄時・発生基質の滅菌（オートクレーブ121℃,2気圧,1時間）【備考】-【文献全般】-【文献県内】Takehashi,S. and T.Kasuya. 2009. Pluteus magnus and Pluteus podospileus f. podospileus, two agaric species new to Japan. Mycoscience 50: 74-77.（日本新産種として報告された,分布は北米と日本の千葉県）

大型菌類	ハラタケ科	影響度	緊急度	容易性
No.938	ツブエノシメジ	D	C	B
Melanoleuca verrucipes (Fr.) Singer				

【原産地】欧州【国内分布】北海道、本州、四国、九州【県内分布】我孫子市・印旛郡・佐倉市・千葉市・市原市【生育状況】公園,植栽木,公園内の園路沿い,などの周囲に撒布された木材チップ,バーク堆肥などの場所【生活形】腐生性【繁殖形態】孢子と菌糸【散布形態】風散：夏～秋【日本への侵入】-:-【県内への侵入】250,木材チップなどとともに県外から持ち込まれた可能性が高い：1987年【侵入の影響】なし【侵入対策】県内産木材チップだけに制限。発生基質の滅菌（オートクレーブ121℃,2気圧,1時間）【備考】-【文献全般】-【文献県内】吹春俊光・服部力・腰野文男・大作晃一・野村麻結実・堀米礼子. 1995. 千葉県菌類誌（I）千葉県産大型担子菌類相. 中博自報特別号（2）: 125-155.

9 千葉県外来植物リストに追加するか検討を要する種のリスト
(要検討種リスト 2009年度版)

番号	類別	科名	和名	学名	評価備考
1	シダ植物	サンショウモ科	ニシノオオアカウキクサ	<i>Azolla filiculoides</i> Lam.	旧沼南町で採取。オオアカウキクサ大和型。兵庫県博の鈴木武氏によると「外来種の可能性が高い」
2	種子植物	イラクサ科	ツルマオ	<i>Gonostegia hirta</i> (Blume) Miq.	国内外来種の可能性あり
3	種子植物	タデ科	ツルソバ	<i>Persicaria chinensis</i> (L.) Nakai	国内外来種の可能性あり
4	種子植物	アブラナ科	ハマダイコン	<i>Raphanus sativus</i> L. var. <i>raphanistroides</i> Makino	栽培植物の逸出の可能性あり
5	種子植物	ユキノシタ科	ユキノシタ	<i>Saxifraga stolonifera</i> Meerb.	国内外来種の可能性あり
6	種子植物	バラ科	マルバシャリンバイ	<i>Rhaphiolepis umbellata</i> (Thunb.) Makino var. <i>integerrima</i> Rehd.	県外系統の可能性あり
7	種子植物	トウダイグサ科	ヤマアイ	<i>Mercurialis leiocarpa</i> Siebold et Zucc.	国内外来種の可能性あり
8	種子植物	ツリフネソウ科	オオキツリフネ	<i>Impatiens pallida</i> Nutt. aff.	学名不明確
9	種子植物	グミ科	ナワシログミ	<i>Elaeagnus pungens</i> Thunb.	国内外来種の可能性あり
10	種子植物	グミ科	オオナワシログミ	<i>Elaeagnus x submacrophylla</i> Servett. (syn. <i>Elaeagnus nikaii</i> Nakai)	国内外来種起源の雑種
11	種子植物	アカバナ科	ノダアカバナ	<i>Epilobium adenocaulon</i> Hassk. aff.	学名不明確
12	種子植物	ヒシ科	オニビシ	<i>Trapa natans</i> L. var. <i>japonica</i> Nakai	国内外来種の可能性あり
13	種子植物	キク科	カワラハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> (L.) Benth. et Hook.f. var. <i>yedoensis</i> (Franch. et Sav.) Ohwi	国内外来種の可能性あり
14	種子植物	キク科	クソニンジン	<i>Artemisia annua</i> L.	史前帰化の可能性あり
15	種子植物	キク科	カワラニンジン	<i>Artemisia apiacea</i> Hance	国内外来種の可能性あり
16	種子植物	キク科	ヨモギ	<i>Artemisia indica</i> Willd. var. <i>maximowiczii</i> (Nakai) H.Hara	法面緑化として導入されている外来系統の逸出の懸念
17	種子植物	イグサ科	ヒメコウガイゼキショウ	<i>Juncus bufonius</i> L.	在来か外来か判定不能
18	種子植物	ツユクサ科	マルバツユクサ	<i>Commelina benghalensis</i> L.	北総の分布は外来系統の可能性あり
19	種子植物	ツユクサ科	シマツユクサ	<i>Commelina diffusa</i> Burm.f.	国内外来種の可能性あり
20	種子植物	イネ科	ホッスガヤ	<i>Calamagrostis pseudophragmites</i> (Haller)	緑化植物の種子に混入した国内外来の可能性あり
21	種子植物	イネ科	トキワススキ	<i>Miscanthus floridulus</i> (Labill.) Warb.	国内外来種の可能性あり
22	種子植物	イネ科	アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i> Herrm.	在来か外来か判定不能

10 引用文献

引用文献は、本文中に記述したものの他、下記の文献については、文献番号を示した。

- 1)浅野貞夫 1975. 千葉県の蘚苔植物. *In* 千葉県生物学会(編), 新版千葉県の植物誌, pp. 245-249, 499-516. 井上書店、東京.
- 2)五十嵐博 2000. 北海道帰化植物便覧. 195pp. 北海道野生植物研究所.
- 3)いがりまさし 1996. 日本のスミレ. 247pp. 山と溪谷社.
- 4)伊藤洋 1998. 埼玉県植物誌. 833pp. 埼玉県教育委員会.
- 5)岩瀬徹 1956. 帰化植物数種. 千葉生物誌 6 (4):96.
- 6)岩瀬徹・小滝一夫 1958. 帰化植物の生態. *In* 千葉県植物誌. pp.101-119. 千葉県生物学会.
- 7)岩月善之助・出口博則・古木達郎 2001. 日本の野生植物コケ. 355pp. 平凡社.
- 8)上原敬二 1959~1961. 樹木大図説. 有明書房.
- 9)大久保一治 1999. 増補改訂岡山県植物目録.
- 10)太田久次 1997. 改訂三重県帰化植物誌.
- 11)大滝末男・石戸忠 1980. 日本水生植物図鑑. 318pp. 北隆館.
- 12)大場達之・村田威夫 2000. 佐倉市植物目録. *In* 佐倉市自然環境調査報告書, pp.23-67. 佐倉市経済環境部環境保全課.
- 13)大場達之・木村陽子 2002. 船橋市の植物. *In* 船橋市内環境調査報告書(本編), pp.212-342. 船橋市環境部環境保全課.
- 14)岡国夫 1972. 山口県植物誌. 607pp. 山口県植物誌刊行会.
- 15)岡山大学資源生物科学研究所野生植物学研究室ホームページ - 日本の帰化植物一覧表. (http://www.rib.okayama-u.ac.jp/wild/kika_table.htm)
- 16)長田武正 1972. 日本帰化植物図鑑. 294pp. 北隆館.
- 17)長田武正 1976. 原色日本帰化植物図鑑. 425pp. 保育社.
- 18)長田武正 1993. 増補日本イネ科植物図譜. 777pp. 平凡社.
- 19)折目庸雄 1997. 芝山の植物(千葉県山武郡芝山町植物誌) 千葉県植物誌資料特集 1. 60pp. 千葉県植物誌資料編集同人.
- 20)折目庸雄 2007. 増補改訂 富里の植物(千葉県富里市植物誌) 千葉県植物誌資料特集 4. 126pp. ふるさと房総の植物を記録する会.
- 21)外来種影響・対策研究会 2001. 河川における外来種対策に向けて [案]. リバーフロント整備センター.
- 22)科学朝日 31.
- 23)角野康郎 1994. 日本水草図鑑. 文一総合出版.
- 24)神奈川県立生命の星・地球博物館 2001. 神奈川県植物誌 2001. 1580pp. 神奈川県植物

誌調査会.

- 25) 神奈川自然誌資料 18,20,21.
- 26) 金子久男・金子和子・古木達郎 2009. 千葉県習志野市のコケ植物, 千葉中央博自然誌研究報告 10: 33-44.
- 27) 河濟英子・古木達郎. 2005. 日本新産の *Riccia nigrella* DC.(サビイロハタケゴケ、新称). 蘚苔類研究 9: 6-11.
- 28) 環境省野生生物保護対策検討会移入種問題分科会 (移入種検討会) (2002) 移入種 (外来種) への対応方針 pdf 文書
(<http://www.env.go.jp/nature/report/h14-01/honpen.pdf>).
- 29) 木村陽子 2003. イネ科. *In* 千葉県植物誌 (県史シリーズ 51. 千葉県の自然誌別編 , 4) , pp.711-787 & 789-791. 千葉県.
- 30) 近畿植物同好会会報 15,21,60-62,65,70,73.
- 31) 小畠裕子 1970. 木更津貝淵埋め立て地の帰化植物. 千葉生物誌 19 (1) : 1-2
- 32) 小畠裕子 1970. 木更津市およびその周辺地区の帰化植物. みちくさ創刊号(木更津みちくさ会) : 11-16.
- 33) 小畠裕子 1971. 木更津及びその近郊で採った帰化植物. 植物採集ニュース(53):57.
- 34) 採集と飼育 11,51.
- 35) 斉藤吉永 1970. 千葉県柏市帰化植物目録. 38pp. 自刊(千葉県).
- 36) 斉藤吉永 1970. 千葉県採集メモ. 千葉生物誌(52):25-27.
- 37) 斉藤吉永 1977. 千葉県下の帰化植物の近況. 植物採集ニュース(90):66-67.
- 38) 斉藤吉永 1986. 最近見た北総の帰化植物. 千葉生物誌 36(1):35.
- 39) 斉藤吉永 1987. 海岸埋立地のフロラ. *In* 都市化・工業化が湾岸生態系に及ぼす影響調査 I. (沼田真編) ,pp.75-97. 千葉県環境部環境調整課.
- 40) 斉藤吉永 1988. 海岸埋立地のフロラ. *In* 都市化・工業化が湾岸生態系に及ぼす影響調査 II. (沼田真編) ,pp.125-175. 千葉県環境部環境調整課.
- 41) Saito, K. 1975. A monograph of Japanese Pottiaceae (Musci). J. Hattori Bot. Lab. 39: 373-537.
- 42) 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫 1981~1982. 日本の野生植物 草本 1~3. 平凡社.
- 43) 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫 1989. 日本の野生植物 木本 1-2. 平凡社.
- 44) 静岡生物 3.
- 45) 自然誌研究雑誌 5.
- 46) 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 2001. 日本帰化植物写真図鑑. 554pp. 全国農村教育協会.
- 47) 清水建美 2003. 日本の帰化植物. 337pp. 平凡社.

- 48) 駿遠植物調査資料 1,3,6,8,10.
- 49) 植物研究雑誌 6,10,11,13-21,23,25,26,28-31,34-50,54-57,60-66,70,71,73-77.
- 50) 植物採集ニュース
30,38,40,42-48,50,53,56,57,59,60,64-66,68,71-75,77-80,83-86,89-91,95,96,98,99.
- 51) 植物地理分類研究 30,35,36,38,40,42,47.
- 52) 植物分類・地理 8,9,14-16,19,20,22-33,35,37,39,40,42,43,46,47,49,51.
- 53) 須賀はる子・中村俊彦・古木達郎 1996. 千葉市のコケ植物. *In* 千葉市自然環境調査団(編), 千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告書, pp. 343-364. 千葉市環境衛生局環境部, 千葉.
- 54) 杉本順一 1972. 新樹木総検索誌. 井上書店.
- 55) 杉本順一 1982. 日本草本植物総検索誌 単子葉編. 630pp. 井上書店.
- 56) 杉本順一 1983. 改訂増補日本草本植物総検索誌 双子葉編. 871pp. 井上書店.
- 57) すげの会会報 2,5,6.
- 58) 高橋四郎 1964. 原色日本野菜図鑑. 保育社.
- 59) 高橋秀男・勝山輝男・田中徳久 2003. 横浜の植物. 1325pp. 横浜植物会.
- 60) 滝田謙讓 2001. 北海道植物図譜. 1452. 自刊.
- 61) 竹松哲夫・一前宣正 1987~1997. 世界の雑草 合弁花類・離弁花類・単子葉類. 全国農村教育協会.
- 62) 太刀掛優 1998. 帰化植物便覧. 比婆科学教育振興会.
- 63) 太刀掛優・中村慎吾 2007. 改訂増補帰化植物便覧. 684pp. 比婆科学教育振興会.
- 64) 多和田真淳・石原直樹 1979 沖縄植物野外活用図鑑 帰化植物. 新星図書.
- 65) 近田文弘・清水建美・浜崎恭美 2006. 帰化植物を楽しむ. 239pp. トンボ出版.
- 66) 千葉県史料研究財団 2003. 千葉県植物誌(県史シリーズ 51. 千葉県の自然誌別編, 4). 1181pp. 千葉県.
- 67) 千葉県史料研究財団(編) 1998. 千葉県の自然誌本編 4. 千葉県の植物 I-細菌類・菌類・地衣類・藻類・コケ類. 837 pp. 千葉県, 千葉市.
- 68) 千葉県生物学会 1975. 新版千葉県植物誌. 567pp. 井上書店.
- 69) 塚本洋太郎 1977~1978. 原色日本園芸植物図鑑 ~ . 保育社.
- 70) 塚本洋太郎 1994. 園芸植物大事典 1~6 小学館.
- 71) Deguchi, H. 1979. A revision of the genera *Grimmia*, *Schistidium* and *Coscinodon* (Musci) of Japan. J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 2, 16: 121-256.
- 72) 富山市科学文化センター報告 20.
- 73) 長野県植物誌編纂委員会 1997. 長野県植物誌. 1735pp. 信濃毎日新聞社.
- 74) 日本生態学会 2002. 外来種ハンドブック. 408pp. 地人書館.
- 75) 初島住彦・天野鉄夫 1994. 増補訂正琉球植物目録. 沖縄生物学会.
- 76) 林弥栄・平野隆久 1989. 野に咲く花. 623pp. 山と溪谷社.

- 77)久内清孝 1950. 帰化植物. 272pp. 科学図書出版会.
- 78)吹春俊光 2004. 植物-菌類(きのこ). In 変わりゆく千葉県の自然(千葉県の自然誌本編,8), pp.417-425. 千葉県史料研究財団.
- 79)古木達郎 2000. 日本新産の *Riccia lamellosa* Raddi (ウロコハタケゴケ、新称). 蘚苔類研究 7: 314-316.
- 80)古木達郎 2000. 佐倉市のコケ植物相. In 佐倉市自然環境調査団(編), 佐倉市自然環境調査報告書, 113-120 pp. 佐倉市経済環境部環境保全課, 佐倉市..
- 81)古木達郎 2000. 下総台地における蘚苔類相-各環境における生育状況-. In 千葉県臨海開発地域等動植物影響調査会(編), 開発地域等における自然環境モニタリング手法に係る基礎調査 III, pp.9-14. 千葉県環境部環境調整課, 千葉,
- 82)古木達郎 2004. ウロコハタケゴケの新産地. 蘚苔類研究 8: 278-279.
- 83)古木達郎 2009. 白井市のコケ植物. 白井市生物多様性調査報告書, pp. 7-20. 白井市.
- 84)古木達郎・高宮宏 2002. 千葉県東金市のコケ植物, 千葉中央博自然誌研究報告特別号 4: 79-93..
- 85)フロライばらき 34,46,47.
- 86)分類 2.
- 87)北陸の植物 5,8,10,19,20.
- 88)牧野富太郎 1989. 改訂増補牧野新日本植物図鑑. 1453pp. 北隆館.
- 89)牧野植物同好会誌 31-33.
- 90)水草研究会会報 46,48,52,55-57,59.
- 91)野草 2,4-8,10,11,14,17,18,20,22-30,41,43
- 92)山口裕文 1997. 雑草の自然史 [たくましさの生態学]. 294pp. 北海道大学図書刊行会.
- 93)横須賀市博物館研究報告(自然科学) 18.
- 94)吉川代之助 1968. 「千葉県植物目録」に帰化植物11種を追加. 植物採集ニュース(40):32.
- 95)吉川代之助 1969. 千葉県船橋市に現れた帰化植物3種. 植物採集ニュース(45):66-67.
- 96)吉川代之助 1971. 千葉県船橋市に現れた帰化植物4種. 植物採集ニュース(53):58.
- 97)吉川代之助 1974. 千葉県の帰化植物6種. 植物採集ニュース(71):4-5.
- 98)レポート日本の植物 5-7,9-13,15,20,23,25,30-35,37,38,40.
- 99)鷲谷いづみ・森本信生 1993. 日本の帰化生物. 191pp. 保育社.

索引

アイオオアカウキクサ	15	アマ	74
アイセイタカハハコグサ	137	アマゾントチカガミ	149
アイノコアカミタンポポ	147	アマナズナ	51
アイノコセイヨウタンポポ	148	アメリカアサガオ	99
アイフウリンホオズキ	111	アメリカアゼナ	117
アオイツナソ	82	アメリカアリタソウ	35
アオギリ	85	アメリカイヌホオズキ	114
アオゲイトウ	39	アメリカオオアカウキクサ	15
アオスズメノカタビラ	185	アメリカオニアザミ	132
アオモジ	41	アメリカキカシグサ	88
アカザ	34	アメリカキササゲ	120
アカザカズラ	29	アメリカキンゴジカ	85
アカバナセイヨウノコギリソウ	124	アメリカスズカケノキ	58
アカバナルリハコベ	93	アメリカスズメノヒエ	181
アカボシツリフネ	80	アメリカスミレサイシン	85
アカミタンポポ	147	アメリカセンダングサ	128
アカミノイヌホオズキ	115	アメリカタカサブロウ	135
アキニレ	20	アメリカツノクサネム	68
アキノエノコログサ	202	アメリカネナシカズラ	98
アキマルニワゼキショウ	159	アメリカハッカ	107
アケビガキ	41	アメリカハマニンニク	164
アコウゲンバイ	52	アメリカハリフタバ	98
アサ	21	アメリカビユ	34
アサガオ	100	アメリカフウロ	72
アサツキ	150	アメリカホドイモ	64
アスナロ	16	アメリカミズユキノシタ	88
アツバキミガヨラン	154	アメリカヤガミスゲ	193
アツミゲシ	48	アライトツメクサ	31
アブラギリ	76	アラゲハンゴンソウ	143
アブラナ	50	アラゲムラサキ	101
アフリカナガバモウセンゴケ	46	アリタソウ	35
アフリカヒゲシバ	169	アレチウリ	86
アフリカフウチョウソウ	48	アレチエゾノギシギシ	26
アベマキ	19	アレチカミツレ	125

アレチギシギシ	25	イモカタバミ	70
アレチクサヨシ	182	イワカラクサ	116
アレチナガバギシギシ	26	イワムシロ	60
アレチナズナ	49	イワヨモギ	126
アレチニシキソウ	75	インドハマユウ	155
アレチヌスビトハギ	64	ウイキョウ	92
アレチノギク	132	ウサギアオイ	83
アレチノチャヒキ	168	ウサギノオ	177
アレチハナガサ	104	ウシオハナツメクサ	33
アレチムラサキ	102	ウシノケグサ	175
アワモリハッカ	108	ウスゲホオズキ	111
イガオナモミ	148	ウスバイシバイイワノリ	200
イガホビユ	39	ウスベニチチコグサ	138
イガヤグルマギク	131	ウスベニツメクサ	33
イクシア	158	ウチワサボテン	40
イスノキ	58	ウチワゼニクサ	93
イタチハギ	63	ウマゴヤシ	66
イチジク	20	ウマノチャヒキ	168
イチビ	81	ウラジロアカザ	36
イチョウ	16	ウラジロチチコグサ	138
イトラン	155	ウラジロハコヤナギ	17
イヌエノコロ	188	ウルシ	79
イヌカキネガラシ	57	ウロコナズナ	53
イヌカタヒバ	14	ウロコハタケゴケ	199
イヌカミツレ	142	ウンシュウミカン	77
イヌケホシダ	14	ウンリュウヤナギ	18
イヌゴシュユ	77	エゴマ	108
イヌコハコベ	34	エゾスズシロ	53
イヌコモチナデシコ	30	エゾヌカボ	162
イヌシバ	189	エゾノギシギシ	26
イヌハッカ	107	エゾノキツネアザミ	129
イヌヒメコズチ	109	オオアザミ	144
イヌムギ	168	オオアブラギリ	76
イヌムラサキ	102	オオアマナ	153
イヌメヒシバ	171	オオアレチノギク	133
イボウキクサ	192	オオアワガエリ	183

オオアワダチソウ	145	オオブタクサ	125
オオイヌノフグリ	119	オオフタバムグラ	96
オオイヌホオズキ	113	オオベニタデ	23
オオウシノケグサ	175	オオヘビイチゴ	62
オオエノコロ	189	オオホウキギク	127
オオオナモミ	148	オオホナガアオゲイトウ	39
オオカナダモ	149	オオマツヨイグサ	89
オオカナメモチ	61	オオミツバタヌキマメ	64
オオカニツリ	165	オオムギクサ	177
オオカラスノエンドウ	70	オオムラサキ	93
オオカワヂシャ	119	オオムラサキツユクサ	161
オオキツリフネ	202	オオモンツキガヤ	166
オオキバナカタバミ	71	オガサワラコミカンソウ	76
オオキンケイギク	133	オガサワラスズメノヒエ	180
オオクサキビ	179	オカタイトゴメ	59
オオグルマ	140	オカメザサ	189
オオケタデ	23	オキジムシロ	61
オオシラタマソウ	32	オキナアサガオ	101
オオスズメノカタビラ	186	オクヤマザサ	187
オオスズメノテッポウ	164	オシロイバナ	27
オオセンナリ	110	オッタチカタバミ	71
オオトキワツユクサ	161	オトメイヌゴマ	109
オートムギ	165	オトメフウロ	73
オオナギナタガヤ	190	オニウシノケグサ	174
オオナワシログミ	202	オニクサヨシ	182
オオニシキソウ	75	オニクロイチゴ	63
オオニワゼキショウ	158	オニゲシ	47
オオハキダメギク	135	オニナベナ	123
オオハタガヤ	193	オニノゲシ	145
オオバナイトタヌキモ	121	オニハマダイコン	51
オオバノキハダ	78	オニビシ	202
オオバベニガシワ	74	オニユリ	152
オオハマガヤ	164	オノマンネングサ	58
オオハルタデ	24	オハツキガラシ	53
オオハンゴンソウ	143	オヒゲシバ	170
オオフサモ	90	オランダアヤメ	157

オランダカイウ	192	カンチク	169
オランダガラシ	55	キキョウソウ	123
オランダキジカクシ	151	キク	131
オランダゼリ	93	クイモ	140
オランダハッカ	106	クニガナ	132
オランダフウロ	72	クノハアオイ	84
オランダミツバ	91	クバオウレン	42
オランダミミナグサ	30	キササゲ	120
オリヅルラン	152	キシウスズメノヒエ	181
カキノキ	93	キシウブ	158
カクトラノオ	108	キダチアロエ	151
カザンデマリ	62	キダチコマツナギ	65
カジノキ	20	キダチコンギク	127
カスミソウ	30	キヌヤナギ	18
カッコウアザミ	125	キバナコスモス	134
カナメモチ	60	キバナスズシロ	53
カナリーキツタ	90	キバナタカサブロウ	138
カナリークサヨシ	182	キバナニワゼキショウ	159
カベイラクサ	21	キバナノコギリソウ	124
カミツレ	142	キバナノマツバニンジン	73
カミツレモドキ	126	キバナヒメフウチョウ	48
カミヤツデ	91	キバナムギナデシコ	148
カモガヤ	171	キバナムラサキ	103
カラクサケマン	48	キハマスゲ	195
カラクサナズナ	52	キビ	180
カラシナ	50	キミガヨラン	154
カラタチ	78	キョウチクトウ	95
カラフトハナビゼキショウ	159	ギョウトクイヌゴマ	109
カラムシ	21	キリ	118
カロリナアオイゴケ	99	キレハイヌガラシ	56
カロリナボブラ	17	キンギンナスビ	113
カワラニンジン	202	キンギンボク	122
カワラハハコ	202	キンケイギク	133
カワリバマキエハギ	64	キンゴジカ	84
カンザシイヌホオズキ	113	キンシバイ	45
カンザンチク	184	キンセンカ	130

ギンセンカ	83	コウオウソウ	146
キンバイタウコギ	128	コウキクサ	192
キンモクセイ	94	ゴウシュウアリタソウ	36
ギンモクセイ	95	コウシュンシバ	190
クサイ	160	コウゾ	20
クサトケイソウ	86	ゴウダソウ	54
クシヒゲシバ	169	コウマゴヤシ	66
クジラグサ	52	コウライシバ	190
クスダマツメクサ	68	コウリントンポポ	140
クスノキ	41	コエンドロ	92
クソニンジン	202	コカナダモ	149
クチナシ	97	コガネギシギシ	25
クマザサ	187	コゴメイ	160
グラディオルス・トリスティス	157	コゴメイヌノフグリ	119
クルマバザクロソウ	28	コゴメギク	137
クルマバヒメクグ	196	コゴメバオトギリ	45
クルマバヒメハギ	79	コササガヤ	182
クロアザミ	131	コシカギク	142
クロガラシ	50	コシナガワハギ	67
クロコヌカグサ	162	コシミノナズナ	54
クロチク	183	ゴシュユ	77
クロヤナギ	18	コショウハッカ	107
グンバイナズナ	57	コスズメガヤ	173
ケイトウ	40	コスズメノチャヒキ	167
ケイヌホオズキ	114	コスモス	134
ケイノコヅチモドキ	37	コセンダングサ	128
ケカキネガラシ	57	コタネツケバナ	51
ケギボウシゴケ	197	コツブキンエノコロ	188
ケチョウセンアサガオ	110	コテングクワガタ	120
ゲッケイジュ	41	コニクキビ	166
ケナガハグサ	186	コニシキソウ	74
ケナシヒメムカシヨモギ	136	コヌカグサ	162
ケニクキビ	166	コネズミガヤ	179
ゲンゲ	64	コハコベ	34
コアカザ	35	コバナキジムシロ	61
コイチゴツナギ	185	コバノスナゴケ	198

コバノセンダングサ	128	シナダレスズメガヤモドキ	173
コバノニシキソウ	75	シバツメクサ	31
コバホウライシダ	14	シバムギ	172
コバレンギク	142	シバヤマハリイ	196
コバンソウ	167	シベナガムラサキ	102
コバンソウモドキ	173	シホウチク	189
コヒメビエ	172	シマスズメノヒエ	180
ゴボウ	126	シマツユクサ	202
コマツヨイグサ	89	シマミソハギ	87
ゴマフガヤツリ	195	シモフリゴケ	198
コメツブウマゴヤシ	66	シャガ	157
コメツブツメクサ	69	シャクチリソバ	22
コメバギボウシゴケ	198	シャグマハギ	68
コメバミソハギ	87	ジャコウオランダフウロ	72
コリヤナギ	18	シャゼンムラサキ	102
コンテリクラマゴケ	14	シャリンバイ	62
ザクロ	88	シュウカイドウ	86
サツマイモ	99	シュウメイギク	42
サトイモ	191	シュクコンアマ	74
サビイロハタケゴケ	200	シュクコンパーベナ	105
サフランモドキ	156	ジュズダマ	170
ザラツキコメヒシバ	171	シュロ	191
サルスベリ	87	シュロガヤツリ	193
サワラ	15	シュンギク	131
サンゴジュ	122	ショウロ	200
サンシキスミレ	86	ショカツサイ	55
サンシチソウ	139	ショクヨウホオズキ	112
シオザキソウ	146	シラゲガヤ	176
シグレヤナギ	19	シラタマソウ	33
シソ	108	シラホシムグラ	96
シダレヤナギ	17	シラユキゲシ	46
シチトウイ	195	シロイヌナズナ	49
シナガワハギ	67	シロガネチカラシバ	182
シナサルナシ	44	シロガラシ	56
シナサワグルミ	16	シロザ	35
シナダレスズメガヤ	172	シロタエヒマワリ	139

シロツメクサ	70	セイヨウノコギリソウ	124
シロヌメリイグチ	200	セイヨウノダイコン	55
シロバナシナガワハギ	67	セイヨウヒキヨモギ	117
シロバナセンダングサ	129	セイヨウヒルガオ	98
シロバナタンポポ	147	セイヨウフウチョウソウ	48
シロバナチョウセンアサガオ	110	セイヨウミヤコグサ	65
シロバナマンテマ	32	セイヨウヤブイチゴ	63
シロミノカンザシイヌホオズキ	113	セイヨウワサビ	49
シロヤマブキ	63	ゼニアオイ	83
シンクリノイガ	169	ゼニバアオイ	83
シンテッポウユリ	153	セフリアブラガヤ	196
スイセン	156	セリバヒエンソウ	42
スギモリゲイトウ	38	センダン	79
スズカケノキ	58	センダングサ	128
スズメガヤ	173	センナリホオズキ	112
スズメノコヒエ	181	ソテツ	16
スズメノナギナタ	180	ソバ	22
スズラン	152	ソバカズラ	22
スズランスイセン	152	ソメイヨシノ	60
セイコヤナギ	17	ダイサンチク	166
セイトカアワダチソウ	145	タイトウクグ	195
セイトカクサイ	159	タイミンチク	184
セイトカハハコグサ	137	タイワンアイアシ	177
セイトカハマスゲ	195	タイワンツナソ	81
セイバンモロコシ	189	タイワンホトトギス	154
セイヨウアブラナ	50	タイワンマダケ	183
セイヨウイラクサ	22	ダキバアレチハナガサ	104
セイヨウウツボグサ	108	タケトアゼナ	117
セイヨウオオバコ	121	タチイヌノフグリ	119
セイヨウオトギリ	45	タチオランダゲンゲ	69
セイヨウキツタ	91	タチスズメノヒエ	181
セイヨウジュウニヒトエ	105	タチスベリヒユ	28
セイヨウタンポポ	147	タチチチコグサ	137
セイヨウチャヒキ	165	タチテンモンドウ	151
セイヨウトゲアザミ	129	タチバナモドキ	62
セイヨウニガナ	134	タツノツメガヤ	171

タブノキ	42	ツノミオランダフウロ	72
タホウタウコギ	129	ツノミチョウセンアサガオ	109
タマオオスズメノカタビラ	186	ツノミナズナ	52
タマガラシ	55	ツブエノシメジ	201
タマザキクサフジ	68	ツボミオオバコ	122
タマザキフタバムグラ	97	ツメクサダマシ	69
タマサンゴ	114	ツルソバ	202
タマシダ	15	ツルタデ	22
タマスダレ	156	ツルドクダミ	23
タマハジキタケ属種	201	ツルニチニチソウ	96
ダンゴギク	139	ツルノゲイトウ	37
ダンドク	150	ツルマオ	202
ダンドボロギク	135	ツルマンネングサ	59
チクゴスズメノヒエ	181	ツルムラサキ	29
チゴフウロ	73	ツレザキヒルガオ	98
チシマオドリコソウ	105	テリミノイヌホオズキ	112
チチコグサモドキ	138	テンニンギク	136
チヂレゴケ	197	トウカエデ	80
チマキザサ	187	トウゴマ	76
チャノキ	44	トウテイラン	118
チャボウシノシッペイ	174	トウネズミモチ	94
チャボタイゲキ	75	トウビシ	90
チャボヒゲシバ	169	トガリバツメクサ	68
チャボメヒシバ	171	トキワサンザシ	62
チャンチン	78	トキワススキ	202
チュウゴクネジクチゴケ	197	トキワツユクサ	160
チョウセンスナゴケ	198	ドクゼリモドキ	91
チョウセンレンギョウ	94	ドクニンジン	92
チョロギガヤ	165	ドクムギ	178
ツキミセンノウ	32	トゲウラベニガサ	201
ツキミソウ	90	トゲオナモミ	148
ツクシメナモミ	144	トゲチシャ	141
ツタギク	144	トゲハリナスビ	115
ツタノハヒルガオ	101	トゲミゲシ	47
ツタバウンラン	116	トゲミノキツネノボタン	42
ツナソ	81	トゲムラサキ	101

トチュウ	20	ニオイタデ	23
トネリコ	94	ニクキビ	166
トミサトオトギリ	45	ニコゲヌカキビ	179
ナガイモ	156	ニシキアオイ	82
ナガエコミカンソウ	74	ニシノオオアカウキクサ	202
ナガエツルノゲイトウ	37	ニセアゼガヤ	177
ナガエモウセンゴケ	46	ニセコウガイゼキショウ	160
ナガキンカン	78	ニセコムギダマシ	161
ナガバオモダカ	149	ニセシラゲガヤ	176
ナガバギシギシ	25	ニセマメグンバイナズナ	54
ナガハグサ	185	ニッケイ	41
ナガバチヂレゴケ	198	ニラ	150
ナガバハッカ	106	ニワウルシ	78
ナガミイッスンガヤツリ	194	ニワゼキショウ	159
ナガミヒナゲシ	47	ニワナズナ	54
ナギイカダ	154	ニワフジ	65
ナギナタガヤ	190	ヌカイトナデシコ	30
ナタネタピラコ	141	ヌカカゼクサ	174
ナタネハタザオ	52	ヌカススキ	163
ナツシロギク	146	ヌマツルギク	124
ナツズイセン	155	ネコヤナギ	18
ナツダイダイ	77	ネズミウシノケグサ	191
ナツツバキ	44	ネズミボウキ	151
ナハカノコソウ	27	ネズミホソムギ	179
ナミキドロ	17	ネズミムギ	178
ナヨクサフジ	70	ネバリノボロギク	144
ナリヒラダケ	187	ネバリノミノツヅリ	29
ナルトサワギク	143	ネビキミヤコグサ	65
ナワシログミ	202	ノアサガオ	100
ナンカイウスベニニガナ	135	ノウゼンカズラ	120
ナンカイヌカボ	162	ノースポールギク	141
ナンキンハゼ	76	ノゲイトウ	40
ナンゴクヒメミソハギ	87	ノゲシバムギ	172
ナンテン	43	ノコギリソウモドキ	124
ナンバンカラムシ	21	ノスズメノテッポウ	163
ニオイスマレ	85	ノダアカバナ	202

ノヂシャ	122	ハタザオギキョウ	123
ノハラカゼクサ	173	ハチク	184
ノハラガラシ	56	ハトノチャヒキ	167
ノハラジャク	91	ハトムギ	170
ノハラダイオウ	26	ハナイソギク	132
ノハラツメクサ	33	ハナガサギク	143
ノハラナデシコ	30	ハナカタバミ	71
ノハラムラサキ	103	ハナカンナ	150
ノボロギク	144	ハナクサキビ	179
ノミノコブスマ	33	ハナツクバネウツギ	122
ノムラサキ	102	ハナヅルソウ	28
ノラニンジン	92	ハナニラ	154
ハイアオイ	83	ハナヌカススキ	163
ハイイロヨモギ	126	ハナハマセンブリ	95
ハイオオバコ	121	ハナビザクロソウ	27
ハイキジムシロ	61	ハナビシソウ	46
ハイキンボウゲ	43	ハナヤエムグラ	98
ハイコヌカグサ	162	ハマカキネガラシ	57
ハイニシキソウ	75	ハマガヤ	177
ハイビユ	38	ハマシメジ	200
ハイマキエハギ	65	ハマダイコン	202
ハイミチヤナギ	24	ハマチャヒキ	168
バイモ	152	ハマニンニク	178
ハカマオニゲシ	46	ハマヒサカキ	44
ハキダメガヤ	172	ハマワスレナグサ	103
ハキダメギク	137	ハラン	151
ハクチョウゲ	97	ハリエンジュ	67
バクヤギク	28	ハリゲナタネ	50
バケヌカボ	163	ハリゲヤグルマハッカ	107
ハコベホオズキ	112	ハリナスビ	114
ハシカグサモドキ	97	ハリノホ	175
バショウ	196	ハリヒメハギ	79
ハス	44	ハリビユ	39
ハゼラン	29	ハルガヤ	164
ハタケニラ	153	ハルザキヤマガラシ	49
ハタザオガラシ	56	ハルジオン	136

ハルシャギク	133	ヒメスイバ	25
ハルタデ	24	ヒメセトガヤモドキ	182
パンパスグラス	170	ヒメツルウンラン	116
ヒイラギナンテン	43	ヒメツルソバ	23
ヒイラギモクセイ	95	ヒメナンヨウガヤツリ	196
ヒガンバナ	155	ヒメヌカススキ	163
ヒゲガヤ	170	ヒメハマアカザ	36
ヒゲギネアキビ	180	ヒメハルガヤ	164
ヒゲナガスズメノチャヒキ	168	ヒメヒオウギズイセン	157
ヒゴスミレ	85	ヒメビジョザクラ	105
ヒサウチソウ	115	ヒメヒマワリ	139
ヒジキゴケ	199	ヒメヒレアザミ	130
ビゼンナリヒラ	187	ヒメフウロ	73
ヒトフサニワゼキショウ	158	ヒメブタナ	140
ヒナウキクサ	192	ヒメマツバボタン	29
ヒナウンラン	115	ヒメムカシヨモギ	133
ヒナキキョウソウ	123	ヒメモロコシ	189
ヒナゲシ	47	ヒメヤシャブシ	19
ヒナツメクサ	70	ヒユ	39
ヒノキ	15	ビヨウヤナギ	45
ヒマワリ	139	ヒルザキツキミソウ	89
ヒメアオゲイトウ	38	ヒレタゴボウ	88
ヒメアマ	73	ヒレハリギク	131
ヒメアマナズナ	51	ヒレハリソウ	103
ヒメアメリカアゼナ	117	ビロードホオズキ	111
ヒメウキクサ	192	ビロードモウズイカ	118
ヒメウコギ	90	ヒロハウシノケグサ	175
ヒメオドリコソウ	105	ヒロハシャゼンオモダカ	149
ヒメカナリークサヨシ	183	ヒロハフウリンホオズキ	111
ヒメキンセンカ	129	ヒロハハウキギク	127
ヒメクマツヅラ	104	ビワ	60
ヒメケイヌホオズキ	114	フィリゲンジスミレ	86
ヒメコウガイゼキショウ	202	フウセンカズラ	80
ヒメコバンソウ	167	フサジュンサイ	43
ヒメジョオン	136	フサフジウツギ	115
ヒメシロビユ	37	フジアザミ	132

フシネキンエノコロ	188	ホソエガラシ	57
ブタクサ	125	ホソノゲムギ	176
ブタナ	140	ホソバアカザ	35
フッキソウ	81	ホソバイヌビユ	38
ブドウホオズキ	112	ホソバウンラン	117
フナバシソウ	141	ホソバオオアマナ	153
フユアオイ	84	ホソバギボウシゴケ	199
フヨウ	82	ホソバキンゴジカ	84
フヨウカタバミ	72	ホソバツルノゲイトウ	37
ブライダルベール	160	ホソバナガハグサ	185
フラサバソウ	119	ホソバヒイラギナンテン	43
フランスギク	142	ホソバヒメミソハギ	87
フリソデヤナギ	19	ホソバフウリンホオズキ	111
ペカン	16	ホソバモンパミミナグサ	27
ベニカタバミ	71	ホソミキンガヤツリ	194
ベニスズメガヤ	174	ホソムギ	178
ベニバナ	130	ボタンウキクサ	191
ベニバナセンブリ	95	ボタンクサギ	104
ベニバナツメクサ	69	ホッスガヤ	202
ベニバナボロギク	134	ホテアオイ	157
ヘラオオバコ	121	ホテイチク	183
ヘラバヒメジョオン	146	ホナガイヌビユ	40
ペラペラヨメナ	136	ホナガカワヂシャ	120
ハウキガヤツリ	194	マグワ	21
ハウキギ	36	マサキ	81
ハウキギク	127	マツバウンラン	116
ボウムギ	178	マツバギク	28
ハウライシダ	14	マツバゼリ	92
ハウライチク	165	マツヨイグサ	89
ホオズキ	110	マツヨイセンノウ	31
ホコガタアカザ	34	マテバシイ	19
ホザキニワヤナギ	25	マメアサガオ	100
ホザキマンテマ	32	マメガキ	94
ホザキモウズイカ	118	マメカミツレ	134
ホシアサガオ	100	マメグンバイナズナ	54
ホソアオゲイトウ	38	マルバアサガオ	100

マルバアメリカアサガオ	99	ムシトリマンテマ	31
マルバシャリンバイ	202	ムラサキイガヤグルマギク	130
マルバツユクサ	202	ムラサキウマゴヤシ	66
マルバトゲチシャ	141	ムラサキウンラン	116
マルバハッカ	106	ムラサキオオエノコロ	188
マルバフジバカマ	125	ムラサキカタバミ	71
マルバマンネングサ	59	ムラサキツメクサ	69
マルバルコウ	99	ムラサキツユクサ	161
マンテマ	32	ムラサキナギナタガヤ	190
ミカツキゼニゴケ	199	ムラサキノキビ	174
ミジンコウキクサ	193	メキシコマンネングサ	59
ミズカンナ	197	メグサハッカ	106
ミスジナガハグサ	185	メノマンネングサ	60
ミズヒマワリ	138	メマツヨイグサ	88
ミチタネツケバナ	51	メリケンガヤツリ	194
ミチヤナギ	24	メリケンカルカヤ	164
ミツバオオハンゴンソウ	143	メリケントキンソウ	145
ミツモトソウ	61	メリケンムグラ	96
ミナトアカザ	36	モウコガマ	193
ミナトタムラソウ	109	モウズイカ	118
ミナトムグラ	97	モウソウチク	184
ミノボロモドキ	186	モクゲンジ	80
ミミイヌガラシ	56	モミジアオイ	82
ミヤガラシ	55	モミジバスズカケノキ	58
ミヤコグサモドキ	67	モミジバルコウソウ	101
ミヤコゼニゴケ	199	モンツキナガミヒナゲシ	47
ミヤマハタザオ	49	ヤーコン	145
ミヤマヨメナ	127	ヤギムギ	161
ミョウガ	197	ヤグルマギク	130
ムカゴオオウシノケグサ	175	ヤグルマハッカ	107
ムギクサ	176	ヤシャダケ	188
ムクゲ	82	ヤセウツボ	121
ムクゲチャヒキ	167	ヤダケ	186
ムクロジ	80	ヤナギトウワタ	96
ムサシアブミ	191	ヤナギハナガサ	104
ムシトリナデシコ	31	ヤナギバヒメジヨオン	146

ヤネタビラコ	135
ヤノネボンテンカ	84
ヤバネムギ	176
ヤブチョロギ	109
ヤマアイ	202
ヤマゴボウ	27
ヤンバルミチヤナギ	24
ユウゲショウ	89
ユキノシタ	202
ユキヤナギ	63
ユズ	77
ユメノシマガヤツリ	194
ユリズイセン	156
ユリノキ	40
ヨウシュチョウセンアサガオ	110
ヨウシュハッカ	106
ヨウシュヤマゴボウ	26
ヨコハママンネングサ	59
ヨモギ	202
ヨモギギク	147
ラッキョウ	150
ラッパズイセン	155
リュウキュウチク	184
リュウキュウハゼ	79
ルリニワゼキショウ	158
ルリムスカリ	153
ロベリアソウ	123
ワサビ	53
ワスレナグサ	103
ワタゲツルハナグルマ	126
ワタリミヤコグサ	66
ワルナスビ	113

千葉県外来種（植物）の現状等に関する報告書

発行日 平成22年3月26日

編集・発行 千葉県外来種対策（植物）検討委員会

（事務局）千葉県環境生活部自然保護課

生物多様性センター

千葉県中央区青葉町 955-2

千葉県立中央博物館内

電話 043-265-3601